- 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1-

東畑瀬遺跡 1 大野遺跡 1

東畑瀬遺跡1・3区 大野遺跡2・3区



平成 19 (2007) 年 3 月 佐賀県教育委員会

-嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1-

東畑瀬遺跡 1 大野遺跡 1

東畑瀬遺跡1・3区 大野遺跡2・3区

平成 19 (2007) 年 3 月 佐賀県教育委員会

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、 佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたも のです。

今回の報告は、東畑瀬遺跡 1・3 区と大野遺跡 2・3 区に関するもので、縄文時代から弥生時代の集落跡、中世から近世の集落跡・神社跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った 国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼 申し上げ、御挨拶といたします。

平成 19年3月

佐賀県教育委員会 教育長 吉野健二

- 1 本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成12~15年度に実施した佐賀市富士町所在の東畑瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊である。
- 2 発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。
- 3 発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂 防課ダム対策室(現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課)、富士町教育委員会(現・佐賀市教育委員会)、富 士町ダム対策課(現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課)、並びに地元各位の協力を得た。
- 4 本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成4年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。
- 5 東畑瀬遺跡 1・3区と大野遺跡 2・3区の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業:姉川妙子・井手稔規・内田英子・岡本君子・嬉野サツキ・江口フトセ・小田村絹代・貝野啓子嘉村一美・嘉村健一・嘉村末人・嘉村ヒトミ・杵島和代・久池井朝子・坂口久美子・坂口伸己坂口久江・佐保マリ子・庄島信子・立石次良・堤 綺代美・時松紗喜子・中島鶴美・中田政信中原榮子・中原春己・庄島信子・西 定慶・西 里枝・納富弘子・東川福代・藤瀬サツ子・豆田正秀丸山民江・無津呂明子・森 ミカノ・八段ヒフミ・吉原英輔・吉原文代・吉原松美・吉原幹夫吉原美智子・浅尾日吉・新井英雄・荒木聖剛・井手口 昇・江口敏郎・江嵜 章・柿本由美子古賀芳子・幸山 巌・末次貞亮・副島 貞・副島正義・下川利信・下村静男・竹下政征・長 清一鶴丸仁之・長倉眞美子・中山隼人・野口節子・野中賢之・野中静枝・秀島賢一・松藤孝幸・諸角敏子山口道雄・山口裕二・山口榮次・吉岡泰士・吉成哲生

遺構実測:松尾吉高・樋口秀信・廣瀬雄一・加藤吾郎・江島賢一・大坪芳典・深澤幸江・秦 広之・田中良輔 前田耕輔・嬉野さつき・時松紗喜子・藤瀬サツ子・吉原文代・嬉野みつ代・野田美恵子・藤井千枝子 柿本由美子・長倉眞美子・(株) 埋蔵文化財サポートシステム

遺構写真撮影:松尾吉高・樋口秀信・廣瀬雄一・江島賢一・大坪芳典・田中良輔・秦 広之・深澤幸江

遺跡空中写真撮影:(有)空中写真企画

遺物整理:古賀美江・佐保敦子・重田正子・柴村悦子・谷澤裕美・徳永美穂子・山口カズヨ

遺物実測:秦 広之・江島美恵子・江副朋子・大串早苗・桑原廣子・指山美江子・柴村悦子・上瀧光子

谷澤裕美・辻 静子・鶴田啓子・平山とし・村里育子・山口美佐子・(株) 埋蔵文化財サポートシステム

整図(デジタルトレース):濱田美紀・馬場里美・奈良佳子・江副朋子・鶴田啓子・皆越弘子・村里育子

(株) 埋蔵文化財サポートシステム・(株) とっぺん

遺物写真撮影:小森義尚・濱田美紀・奈良佳子

写真整理・編集:濱田美紀・馬場里美・奈良佳子・奥 知恵子・皆越弘子

調杳記録整理:

東畑瀬遺跡1区)縄文~弥生遺構・土器:秦 広之 縄文~弥生石器:深澤幸江

中世~近世遺構:前田耕輔 中世~近世遺物:徳永貞紹

東畑瀬遺跡3区)縄文~弥生土器:秦 広之 縄文~弥生石器:田中良輔 中世~近世:徳永貞紹・田中良輔 大野遺跡2・3区)縄文:秦 広之 弥生~近世:渋谷 格 6 本書の編集は濱田美紀・馬場里美・奈良佳子の協力を得て徳永貞紹が行った。執筆分担は下記のとおりである。

第1章:德永貞紹 第2章:德永貞紹 第3章1:德永貞紹

第3章2:渋谷 格(土器)・徳永貞紹(遺構・石器)・濱田美紀(遺構)

第3章3:德永貞紹

第3章4:渋谷 格(1)・徳永貞紹(2・3)

第4章1:德永貞紹

第4章2:徳永貞紹(遺構・土器・石器)・秦 広之(遺構・土器)

第4章3:渋谷 格

第4章4:德永貞紹(1)・渋谷 格(2)

第5章1:藤尾慎一郎・小林謙一

第5章2:パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

第5章3:藤根 久・長友純子

本書の記載方法

- 1 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字3文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する東畑瀬遺跡はHHT、大野遺跡はOONの略号で示される。本書で報告する東畑瀬遺跡3区内に八龍社跡(HRT)として周知されている近世の神社跡があり、本報告では東畑瀬遺跡の一部として報告するが、現地調査の記録類等にはHRTと記載・注記するものがある。
- 2 個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字 2 文字の分類記号(下記参照)と 4 桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡ごとに地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴・柱穴は遺物の出土したものに限り、Pの略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えている。 このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いてPA、PB、…の要領で示 し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字4桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

SA:柵列・塀・土塁・石塁 SB:掘立柱建物・礎石建物 SC:石棺墓・石蓋土坑墓

SD:堀·溝·流路 SE:井戸 SF:道路

SG: 園地・庭園 SH: 竪穴住居・竪穴建物 SJ: 甕棺墓・土器棺

SK: 土坑 SP: 土坑墓・木棺墓 ST: 古墳・その他の墳墓

SX:その他・不明遺構

- 3 実測した出土遺物には8桁の遺物登録番号を1点ずつ付し、挿図中には各章ごとの通し番号を付した。
- 4 表で示した出土遺物の計測値は、復元値に*を付けて表現する。表中の MF は微細剥離痕ある剥片、RF は二次加工ある剥片を意味する。
- 5 平成14年4月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土座標であるため、 混乱を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用 していない。

本書で示す方位は旧国土座標第II系の座標北で、磁北はこれより西偏約6°30′である。

- 6 出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照したものがある。また、近世陶磁に関して佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二館長より多くの御教示を賜った。
 - ・古代~中世前期の中国・朝鮮陶磁:

太宰府市教育委員会(2000)『大宰府条坊跡 X V ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集

・中世後期の中国陶磁:

森田 勉(1982)「14~16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会上田秀夫(1982)「14~16世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会小野正敏(1982)「15~16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会・中世の土器鍋:

徳永貞紹(1990)「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究VI』 日本中世土器研究会・近世の肥前陶磁:

九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』

目次

本文目次

第1章	調査の経	圣過	1
	1	調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	2	調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	3	発掘調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第2章	位置と環	景境 ·····	7
	1	地理的環境	7
	2	歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3章	東畑瀬遺	遺跡1・3区	13
	1	東畑瀬遺跡 1 ・ 3 区の概要	14
	2	縄文~弥生時代の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
		1) 1区縄文~弥生時代の遺構と遺物	17
		2) 3区縄文~弥生時代の遺構と遺物	64
	3	中世〜近世の遺構と遺物	
		1)1区中世〜近世の遺構と遺物	100
		2) 3区八龍社跡の遺構と遺物	134
	4	まとめ	150
第4章	大野遺跡	ホ2・3区	153
	1	大野遺跡 2 ・ 3 区の概要	154
	2	縄文~弥生時代の遺構と遺物	157
		1)縄文時代の遺構と遺構出土遺物	157
		2)縄文時代の遺構外出土遺物	170
	3	弥生時代〜近世の遺構と遺物	204
		1) 弥生時代~古墳時代の遺構と遺物	204
		2) 中世〜近世の遺構と遺物	204
	4	まとめ	219
第5章	自然科学	2分析	221
	1	佐賀市東畑瀬遺跡出土の縄文晩期土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定 …	223
	2	東畑瀬遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定	231
	3	大野遺跡・東畑瀬遺跡出土土器胎土の材料分析	235

挿図目次

$\boxtimes 1-1$	嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)	4
図2-1	東畑瀬遺跡・大野遺跡の位置 (1/800,000)	9
図2-2	嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000)	10
図3-1	東畑瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)	15
図3-2	東畑瀬遺跡 1・3区の位置 (1/2,000)	16
図3-3	1・3区縄文~弥生時代の遺構分布 (1/700)	18
図3-4	1 区縄文~弥生時代の遺構分布詳細 (1/400)	19
図3-5	1 区縄文~弥生時代の土器分布 (1/400)	20
図3-6	1 区縄文~弥生時代石器の分布 (1/400)	21
図3-7	1 区縄文~弥生時代遺物包含層の堆積状況 (1/80)	22
図3-8	1 区縄文~弥生時代の遺構 1 (1/40)	23
図3-9	1 区縄文~弥生時代の遺構 2 (1/40)	25
図3-10		
図3-11	1 1 区縄文~弥生時代の遺構 4 (1/40、1/20)	31
図3-12	2 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 1 (1/4、1/5)	32
図3-13	3 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 2 (1/4、1/8、1/2)	33
図3-14	4 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 3 (1/4、1/2)	34
図3-15	5 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 4 (1/4、1/2)	35
図3-16	6 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 5 (1/4)	36
図3-17	7 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 6 (1/4)	37
図3-18	8 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 7 (1/2)	38
図3-19	9 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土8 (1/4)	39
図3-20	0 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 9 (1/4、1/2)	40
図3-21	1 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 10 (1/4、1/2)	41
図3-22	2 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器1 (1/3、1/4)	45
図3-23		46
図3-24	4 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器3 (1/4)	47
図3-25	5 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 4 (1/4)	48
図3-26	6 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 5 (1/4)	49
図3-27	7 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 6 (1/4)	50
図3-28	8 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器7 (1/4)	51
図3-29	9 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 8 (1/4)	52
図3-30	つ 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器9 (1/4)	53
図3-31	1 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 10 (1/4)	54
図3-32	2 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 11 (1/4)	55
図3-33		56
図3-34	4 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 2 (1/2)	57
図3-35	5 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器3 (1/2)	58
図3-36	6 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 4 (1/2)	59

図3-37	1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 5 (1/2)	60
図3-38	1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 6 (1/2)	61
図3-39	1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 7 (1/4、1/2)	62
図3-40	1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 8 (1/4)	63
図3-41	3 区縄文時代前期土器の分布 (1/200)	65
図3-42	3区縄文時代後期〜晩期土器の分布 (1/200)	66
図3-43	3 区縄文時代石器の分布 (1/200)	67
図3-44	3区縄文時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)	68
図3-45	3区縄文時代の遺構 (1/40、1/20)	69
図3-46	3 区縄文~弥生時代の遺物 土器 1 (1/3)	70
図3-47	3 区縄文~弥生時代の遺物 土器 2 (1/3)	71
図3-48	3区縄文~弥生時代の遺物 土器3 (1/4)	72
図3-49	3区縄文~弥生時代の遺物 土器 4 (1/4)	73
図3-50	3区縄文~弥生時代の遺物 石器 1 (1/2)	74
図3-51	3 区縄文~弥生時代の遺物 石器 2 (1/2)	75
図3-52	3区縄文~弥生時代の遺物 石器3 (1/2、1/3、1/4)	76
図3-53	1・3区中世〜近世遺構の分布 (1/700)	101
図3-54	1区中世〜近世遺構の分布 (1/400)	102
図3-55	1区中世〜近世遺構の分布詳細 (1/250)	103
図3-56	1区中世の掘立柱建物 1 (1/80)	104
図3-57	1区中世の掘立柱建物 2 (1/80)	105
図3-58	1区中世の掘立柱建物 3 (1/80)	107
図3-59	1 区中世の掘立柱建物 4 (1/80)	
図3-60	1 区中世の掘立柱建物 5 (1/80)	109
図3-61	1区中世の掘立柱建物 6・柵列 1 (1/80)	111
図3-62	1区中世の柵列 2 (1/80)	112
図3-63	1区中世の柵列3 (1/80)	113
図3-64	1区中世の土坑墓・土坑 (1/40)	115
図3-65	1区中世の竪穴遺構 1 (1/40)	
図3-66	1区中世の竪穴遺構 2 (1/40)	
図3-67	1区中世の竪穴遺構 3 (1/40)	
図3-68	1区中世の不明遺構 (1/60、1/40)	
図3-69	1区中世の溝・近世の護岸状遺構 1 (1/160、1/80)	
図3-70	1 区近世の護岸状遺構 2 (1/80)	
図3-71	1区中世〜近世の遺物 遺構出土1 (1/3)	
図3-72	1区中世〜近世の遺物 遺構出土2 (1/3)	
図3-73	1区中世〜近世の遺物 遺構出土3 (1/3、1/2)	
図3-74	1区中世〜近世の遺物 遺構外出土1 (1/3)	
図3-75	1区中世〜近世の遺物 遺構外出土2 (1/3)	
図3-76	1区中世〜近世の遺物 遺構外出土3 (1/3)	
図3-77	1区中世〜近世の遺物 遺構外出土4 (1/2、1/3)	
図3-78	3区八龍社跡の整地層 (1/60)	134

$\boxtimes 3 - 79$	3 区八龍社跡の掘立柱建物 (1/80)	135
図3-80	3区八龍社跡の出土遺物 1 (1/3)	137
図3-81	3 区八龍社跡の出土遺物 2 (1/3)	138
図3-82	3区八龍社跡の出土遺物 3 (1/3、1/4)	139
図 4-1	大野遺跡周辺の地形 (1/5,000)	155
図4-2	大野遺跡 2・3 区の位置 (1/2,000)	156
図4-3	2・3 区縄文時代遺構の分布 (1/400)	158
図4-4	2・3 区縄文時代遺構の分布 (1/200)	159
図4-5	2・3 区縄文時代土器の分布 (1/200)	160
図4-6	2・3 区縄文時代石器の分布 (1/200)	161
$\boxtimes 4-7$	2・3 区縄文時代の土層 (1/60)	162
図4-8	2・3 区縄文時代の竪穴住居 (1/40)	163
図4-9	2・3 区縄文時代の土坑 (1/20)	165
図4-10	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか1 (1/20)	167
図4-11	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか2 (1/20)	169
図4-12	2・3区縄文時代の焼土遺構ほか3 (1/20)	171
図4-13	2・3区縄文時代の遺物 遺構出土1 (1/4)	174
図4-14	2・3区縄文時代の遺物 遺構出土2 (1/4、1/2)	175
図4-15	2・3区縄文時代の遺物 遺構出土3 (1/2、1/4)	176
図4-16	2・3区縄文時代の遺物 遺構出土4 (1/4、1/2)・遺構外出土土器1 (1/4)	177
図4-17	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 2 (1/4)	178
図4-18	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器3 (1/4)	179
図4-19	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 4 (1/4)	180
図4-20	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 5 (1/4)	181
図4-21	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器6 (1/4)	182
図4-22	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器7 (1/4)	183
図 4 − 23	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器8 (1/4)	184
図 4 − 24	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 9 (1/4)	
図4-25	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 10(1/4)・石器 1(1/2)	
図4-26	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 2 (1/2)	
図 4 - 27	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器3 (1/2)	
図4-28	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 4 (1/2)	
	2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 5 (1/2)	
	2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 6 (1/2、1/4、1/8)	
	2・3区古墳時代~近世遺構の分布 (1/400)	
	2・3区古墳時代~近世遺構の分布詳細 (1/200)	
	2・3区弥生~古墳時代の遺構(1/20)・遺物(1/3)	
図 4 − 34	2・3区中世の遺構 (1/40、1/80、1/150)	
図4-35	2・3区近世の掘立柱建物1 (1/80)	
図 4 − 36	2・3区近世の掘立柱建物 2 (1/80)	
図 4 − 37	2・3区近世の掘立柱建物3 (1/80)	
図4-38	2・3区近世の柵列 (1/80)	213

	果畑裸垣砂1・入野短砂1
⊠ 4 − 39	2・3区近世の遺構(その他)(1/40、1/80)214
図 4 − 40	
図 4 − 41	2・3区中世〜近世の遺物 2 (1/2、1/3)216
図 5 - 1	暦年較正の確率密度分布図 (IntCalO4 による) ·······226
図 5 - 2	曆年較正結果
図 5 - 3	遺跡周辺の地質図(地質調査所(1993)を編集)240
図 5 - 4	付:東畑瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料 (1/4)242
	表目次
表1-1	嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
表 3 - 1	1 区縄文~弥生時代の遺構出土土器
表3-2	1 区縄文~弥生時代の遺構出土石器
表3-3	1 区縄文~弥生時代の遺構外出土土器
表3-4	1 区縄文~弥生時代の遺構外出土石器91
表3-5	3 区縄文~弥生時代の遺構外出土土器95
表3-6	3 区縄文時代の遺構外出土石器98
表3-7	1 区中世〜近世の出土遺物
表3-8	3 区八龍社跡の出土遺物

表 4 - 1 2・3 区縄文時代の遺構出土土器 ………………………………………………………………………192 表 4-2 2・3 区縄文時代の遺構出土石器………………………………………193 表 4 - 3 2 • 3 区縄文時代の遺構外出土土器………………………………………………………………………………………194 表 4 - 4 2 • 3 区縄文時代の遺構外出土石器……………………………………………………………201 表 4 - 5 2 • 3 区弥生時代〜近世の遺物……………………………………………………………………218

表5-2 東畑瀬遺跡(1~3)、大野遺跡(4)出土土器に付着した

試料重量と炭素含有率………………………………………………………………224

炭化物の年代(Beta は歴博測定、PLD は佐賀県測定) ------228

表 5 - 3 測定試料及び処理 ……………………………………………………………………230 表 5 - 4 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果231 表 5 - 5 分析した土器試料とその詳細 ……………………………………………234 表 5 - 6 土器胎土中の粘土及び砂粒の特徴 ……………………………………………………………238 表 5 - 7 胎土中の岩石片の分類と組み合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・239

表 5 一 1

写真図版目次

写真図版 5 - 1	炭化物の採取箇所(囲	んだところが拡大	大箇所)縮尺不同	司	224
写真図版5-2	炭化物の顕微鏡写真()	左が前処理前、	右が前処理後)・		226
写真図版5-3	土器胎土および胎土中	の珪藻化石の顕征	微鏡写真		242
写真図版 5 - 4				料····································	
写真図版 1 - 1	嘉瀬川ダム予定地周辺	(真俯瞰合成)…			247
写真図版3-1	東畑瀬遺跡中心部遠景	(西から)			248
写真図版3-2:					249
	量文~弥生時代調査区全景(北西 量文~弥生時代調査区全景(西カ		1 区北半縄文~	~弥生時代調査区全景(南西から)	
写真図版3-3:					250
1区F12・	13 区画縄文~弥生時代の調査	状況 (西から)		E時代の調査状況(北西から)	
	区画縄文〜弥生時代の遺物出土物	犬況(北から)		開文~弥生時代の遺物出土状況(西から) 開文 - 弥生時代の遺物出土状況(おから)	
	-弥生時代の調査状況(南から) 区画縄文~弥生時代の遺物出土料	犬況 (北から)		単文~弥生時代の遺物出土状況(北から)単文~弥生時代の遺物出土状況(北から)	
写真図版 3 - 4:					251
SH1110 杉	6出状況(北から)	SH1110 完掘状剂	? (北から)	SH1110 完掘状況(西から)	
写真図版3-5:					252
	[掘状況(南から)	SK1101(南から		SK1118 と石皿(北から)	
SK1135 (SK1130 (SX1139 内の石組 SK1136(西から		SK1125(南から)	
写直図版3-6:					253
SK1113 (SK1111 · 1112		SK1122 (北から)	200
SK1114 (南から)	SK1129 (北から)	SK1121 (西から)	
SK1137 (西から)	SK1102 半掘状汤	2(西から)		
写真図版3-7:					254
SK1123 (2・SK1133 (北から		
	掘状況(西から)	SK1124 (北から		SX1134 (西から)	
SX1115 (果から)	SK3003 完掘状況	【(泉かり)		
写真図版3-8	1区縄文~弥生土器1				255
写真図版3-9	1区縄文~弥生土器2	?			256
写真図版3-10	1区縄文~弥生土器3				257
写真図版3-11	1区縄文~弥生土器4				258
写真図版3-12	1区縄文~弥生土器5				259
写真図版 3-13	1区縄文~弥生土器6				260
写真図版3-14	1区縄文~弥生土器7	,			261
写真図版3-15	1区縄文石器1				262

写真図版 3 - 16 1 区縄文石器	2		263
写真図版3-17 1区縄文石器	3		264
写真図版3-18 1区縄文石器	4		265
写真図版3-19 3区縄文~弥全	生土器 1		266
写真図版3-20 3区縄文~弥全	生土器 2		267
写真図版3-21 3区縄文石器			268
写真図版 3 - 22			269
1 区北半中世~近世調査区全景	(北西から)	1 区南半中世~近世	調査区全景(北西から)
写真図版 3 - 23			270
1 区北半中世遺構集中部(北西	から)	1 区南半中世遺構集	中部(北東から)
写真図版 3 - 24			271
1 区中世遺構の調査状況(北か	ら) SK1021 (西から)	SX1016 (西から)	SX1017 (西から)
SP1009 青磁碗出土状況(北か	ら) SX1011 (西から)	SX1019 (東から)	SX1018 (西から)
写真図版 3 - 25			272
SX1015 (南から)	SX1043 (南から)	3 区主要	部の調査状況(北西から)
八龍社跡の平坦面(西から)	SK1020 (北から)	P1288]	瓦器碗出土状況(東から)
八龍社跡 SB3001(北から)	八龍社跡の遺物出土	二状況(西から)	
写真図版3-26 1区中世~近	世の遺物 1		273
写真図版3-27 1区中世~近			274
写真図版3-28 1区中世~近	世の遺物3		275
写真図版3-29 1区中世~近	世の遺物4・3区八龍社跡	「中世~近世の遺物 1 ·····	276
			277
写真図版3-31 3区八龍社跡中	中世〜近世の遺物3		278
写真図版 4 - 1 遺跡全景…			279
写真図版 4 - 2			280
SH3020(南から)	SX3019 検出状況 (西から)	
写真図版 4 - 3			281
縄文時代の調査状況(南から)	SH3020 土層(西カ		半掘状況(東から)
SX3014 検出状況(西から)		卍 (南から) SX3019	(北から)
SX3012 土層(東から)	SX3023 半掘状況((東から)	
写真図版 4 - 4 ······			282
SX3025 半掘状況(西から)	SX3026 検出状況(西から)	SX3032 検出状況(西から)	SX3032 半掘状況(西から)
SX3028 検出状況(東から)	SX3028 半掘状況(東から)	SX3029 半掘状況(西から)	SX2043 (北から)
写真図版 4 - 5 縄文土器 1 ・			
プ スロ ス 1 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一			263

東畑瀬遺跡 1 · 大野遺跡 1

写真図版 4 - 6	縄文土器 2 …	•••••			284
写真図版 4 - 7	縄文土器3 …				285
写真図版 4 - 8	縄文土器 4 …				286
写真図版 4 - 9	縄文土器 5 …				287
写真図版 4 - 10	石器1				288
写真図版 4 - 11	石器2				289
					290
SB2034 周辺	①(南西上空から)	3	区近世全景(上空か	n5)	
写真図版 4 - 13					291
SB2034(真	(上から)	SB	3001(真上から)		
写真図版 4 - 14	••••				292
SB3002(真	(上から)	SB	3006(真上から)		
写真図版 4 - 15					293
SK3010(東	[から)	SD2022 土層 c - d (西な	いら)	SA2036 (南西から)	
SX3005 (北	(から)	SD2022(南東から)		SD2022 土層 e - f (西から)	
SX3004(南	(東から)	SX3004 遺物出土状況(i	南東から)		
写直図版 4 — 16	中近世遺物 …				294
7 / NEI/IVA = 10	1 ~ - ~ 1/3				

第1章 調査の経過

1 調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町(平成17年10月1日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神琦郡三瀬村が対等合併した)で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。堤高約97mの重力式コンクリートダムで、富士町大字小副川・焼瀬の標高約205mの河床部分に堤体が設置される。これより上流の標高約304m等高線で囲まれる範囲がダムの貯水池となり、湛水面積は約2.7k㎡である。

嘉瀬川ダム建設事業は、昭和 28 年の西日本大水害を契機として、昭和 41 年の予備調査を元に昭和 43 年の北部九州水資源開発協議会で嘉瀬川が開発候補となったのを受けて、昭和 48 年に嘉瀬川水系工事実施基本計画が策定され、同年の嘉瀬川ダム調査事務所設置によって実施計画調査が開始された。この間、昭和 44 年には水没予定の東畑瀬・西畑瀬集落から富士町長・町議会議長あてに建設絶対反対の陳情があり、昭和 48 年には関係地区住民による嘉瀬川ダム建設反対同盟が発足して佐賀県知事と当時の建設省にダム建設絶対反対の陳情がなされたが、昭和 58 年にダム建設予定地詳細調査についての協定書が締結されたことから事業が動き出し、昭和 59 年には詳細調査の現地立ち入り、昭和 60~61 年には地質調査が行われた。

昭和63年には嘉瀬川ダム事務工事事務所が設置されて建設事業が着手され、平成2年の用地調査・補償調査についての協定書締結や環境評価書公告・縦覧を経て、平成3年には建設反対等対策協議会が「建設反対等」を削除して嘉瀬川ダム対策協議会に名称変更した。平成4年1月に嘉瀬川ダム基本計画が告示されると、同年12月には工事用道路の建設が始まり、平成5年には水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画が決定され、平成6年には付替道路工事が着手された。平成7年に損失補償基準が妥結調印されたことによって事業の進捗が加速し、平成17年には嘉瀬川ダム本体工事が着工し、平成24年春に完成の予定となっている。

嘉瀬川ダム事業に伴う文化財の取り扱いについては、用地交渉の本格化に合わせて協議が進められ、埋蔵文化財以外の民俗・民話・方言・建造物・石造物・古文書等の有形・無形の文化財に関しては、当時の富士町教育委員会が「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会」を組織して平成8年度から平成11年度にかけて調査を実施し、その成果は平成12年3月に『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書―佐賀県佐賀郡富士町―』として刊行された。

埋蔵文化財の調査は、平成4年度から富士町教育委員会と佐賀県教育委員会による確認調査が随時行われてきたが、平成7年度の付替国道への進入路工事に伴う九郎遺跡1区の発掘調査を皮切りに、平成8年度には大野代替地造成に伴う大野遺跡1区、平成9年度には工事用道路建設に伴う西畑瀬遺跡1区の発掘調査が富士町教育委員会により行われた。平成11年度から平成12年度にかけて佐賀県教育委員会が嘉瀬川ダム水没地区内の確認調査を実施し、一部の地区を除いて水没地区内における埋蔵文化財の遺存状況がおおむね把握できた(図1-1)。

これを元にダム事業に伴う各種工事と埋蔵文化財発掘調査の調整が行われ、平成12年度以降、佐賀県教育委員会が嘉瀬川ダム工事事務所からの委託を受けて、水没地区内及び嘉瀬川ダム工事事務所所管事業に関わる地区について記録保存のための発掘調査を進めている。当初は現場1班の体制で発掘調査を開始したが、本体工事に伴う原石山掘削やプラント建設などにより作業量の著しい増大が予想されたことから、平成15年度からは現場3班に体制を強化して対応し、現在に至っている。現地での発掘調査と並行して調査終了地区の記録・出土品整理を行ってきたが、平成15年度から本格的な整理作業に着手し、平成17~18年度に今回報告分の報告書作成を行った。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1冊目となるもので、東畑瀬遺跡1・3区と 大野遺跡2・3区の2地区を収録した。

1

2 調査組織

調査主体 佐賀県教育委員会

調査協力 国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所

富士町教育委員会(現・佐賀市教育委員会)

佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室

(現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課)

富士町ダム対策課(現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課)

地元各位

調査組織(平成12~18年度)

総括 佐賀県教育委員会 教育長 川久保善明(平成 12 年度)

佐賀県教育委員会 教育長 松尾正廣(平成 $12 \sim 15$ 年度) 佐賀県教育委員会 教育長 吉野健二(平成 $15 \sim 18$ 年度) 佐賀県教育委員会 副教育長 溝上雅章(平成 $12 \sim 15$ 年度) 佐賀県教育委員会 副教育長 中野哲太郎(平成 $16 \sim 17$ 年度)

 佐賀県教育委員会 副教育長
 古谷 宏 (平成 18 年度)

 佐賀県教育庁文化財課長
 佛坂勝男 (平成 12 年度)

佐賀県教育庁文化課長 佛坂勝男(平成 13 ~ 14 年度)

佐賀県教育庁文化課長 香月博子(平成 15 年度) 佐賀県教育庁文化課長 初村健二(平成 16 ~ 17 年度)

佐賀県教育庁文化課長 松永光生(平成 18 年度)

佐賀県教育庁文化財課 参事 大橋康二(平成 12 年度)

佐賀県教育庁文化課 参事 東中川忠美(平成 17 ~ 18 年度)

佐賀県教育庁文化財課 副課長 東島桂子(平成 12 年度) 佐賀県教育庁文化財課 副課長 東中川忠美(平成 12 年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 天本洋一(平成 $13\sim 16$ 年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 松本誠一(平成 $17\sim 18$ 年度)

調查総括 佐賀県教育庁文化財課 企画調整主査 松尾吉高(平成12年度)

 佐賀県教育庁文化課
 専門員
 松尾吉高(平成 13 ~ 15 年度)

 佐賀県教育庁文化課
 主幹
 西田和己(平成 16 年度)

 佐賀県教育庁文化課
 主幹
 森田孝志(平成 18 年度)

 佐賀県教育庁文化課 係長
 立石泰久(平成 17 年度)

 佐賀県教育庁文化財課 主査
 樋口秀信(平成 12 年度)

佐賀県教育庁文化課 主査 樋口秀信(平成13~16年度)

 佐賀県教育庁文化課
 主査
 廣瀬雄一(平成 15 年度)

 佐賀県教育庁文化課
 主査
 徳永貞紹(平成 15 ~ 18 年度)

 佐賀県教育庁文化課
 指導主事
 加藤吾郎(平成 16 ~ 18 年度)

佐賀県教育庁文化課 主査 細川金也(平成 17 年度)

調査員

佐賀県教育庁文化課 主査 渋谷 格(平成17~18年度) 佐賀県教育庁文化財課 嘱託 江島賢一(平成12年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 大坪芳典(平成13~14年度) 深澤幸江(平成13~15年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 佐賀県教育庁文化課 嘱託 秦 広之(平成15~17年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 前田耕輔(平成15~17年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 田中良輔(平成15~17年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 市田佳奈子(平成16~18年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 内田真一郎(平成18年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 戸塚洋輔(平成18年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 森 幸一郎 (平成18年度) 佐賀県教育庁文化課 嘱託 濱田美紀(平成18年度) 佐賀県教育庁文化課長 宮地洋三(平成12年度) 佐賀県教育庁文化課 参事 堤 博文(平成13年度) 佐賀県教育庁文化課 参事 中園一次(平成14~15年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 山口康郎(平成12~14年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 川久保弘二郎(平成 15 年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 福山正廣(平成16年度) 佐賀県教育庁文化課 副課長 中村 信(平成17~18年度) 佐賀県教育庁文化課 専門員 津野建夫 (平成12年度) 佐賀県教育庁文化課 専門員 天本茂春 (平成 13~14 年度) 佐賀県教育庁文化課 主幹 佐伯勇次(平成18年度) 佐賀県教育庁文化課 総務担当係長 中原吉朗(平成 16~17年度) 佐賀県教育庁文化課 主査 相川ミエ子 (平成 12~13年度) 佐賀県教育庁文化課 主査 島田一幸 (平成 13~15 年度) 佐賀県教育庁文化課 主査 野口佐智子(平成14~16年度) 今村早人(平成15年度) 佐賀県教育庁文化課 主查 佐賀県教育庁文化課 主査 碇 一浩 (平成 16~17年度) 佐賀県教育庁文化課 主査 平尾和子(平成17~18年度) 佐賀県教育庁文化課 主査 黒木文好(平成 17~18 年度) 佐賀県教育庁文化課 副主査 山口徹也(平成18年度) 佐賀県教育庁文化課 主事 毎熊 近(平成12年度) 佐賀県教育庁文化課 主事 陶山 優 (平成 12~14 年度) 佐賀県教育庁文化課 主事 坂口豪史(平成14~16年度) 佐賀県教育庁文化課 主事 山口徹也(平成15~17年度) 佐賀県教育庁文化課 主事 吉田顕徳(平成17~18年度)

調査指導・助言

事務局

文化庁記念物課 佐賀県文化財保護審議会

大橋康二 岡田康博 片山まび 田崎博之 玉井哲雄 藤尾慎一郎 古川末由 (五十音順)

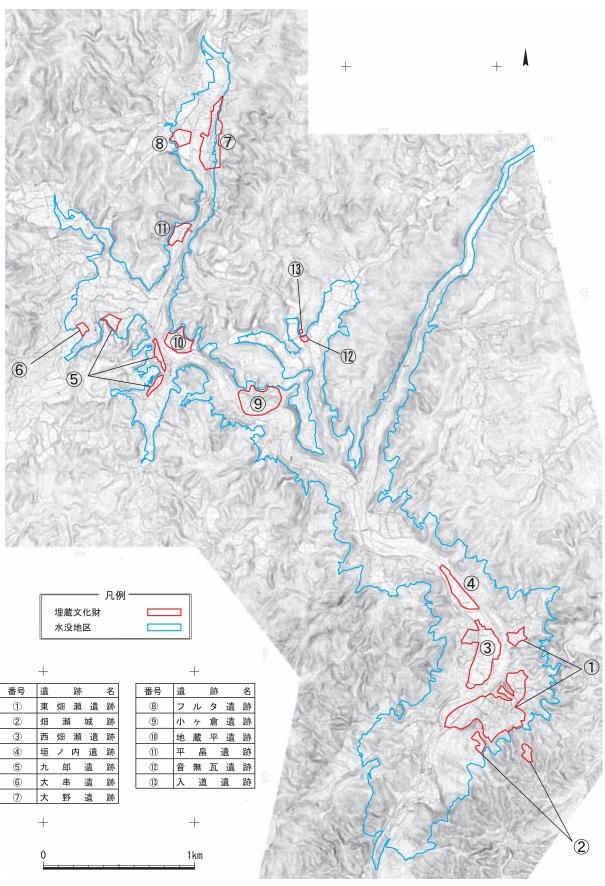


図1-1 嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区 (1/25,000)

3 発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会(当時)により平成7~9年度に断続的に行われたが、平成11~12年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成12年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴って発掘調査が必要な遺跡は、現時点で13遺跡にのぼり(図1-1、表1-1)、平成18年度までに東畑瀬遺跡1~8区、畑瀬城跡2区、西畑瀬遺跡2~7区、九郎遺跡1B~3区、大串遺跡1区、大野遺跡2~4区、小ヶ倉遺跡、地蔵平遺跡1区を調査し、対象面積の5割近くについて終了している。

東畑瀬遺跡1区の調査は平成12~14年度にかけて、東畑瀬遺跡3区の調査は平成15年度に実施した。

1区では上層の中世〜近世の遺構面の調査を行った後、下層の縄文〜弥生時代の遺構・遺物包含層を調査したが、廃土置き場の確保等の関係で2段階の手順を踏み、北東側半分の調査を先行させて下層まで終了した後、反転して南西側半分の調査を行った。そのため、上層・下層とも1区全体の遺構分布を写真撮影することができなかった。調査時には上層遺構に3桁の遺構番号を付け、下層遺構には遺構略号の前に「J」を付けて「JSK001」などと表記していたが、整理・報告にあたっては遺構番号を4桁に統一したうえで千の位で地区名を示し、百の位は上層遺構が0、下層遺構が1として、上層遺構であればS○10○○、下層遺構であればS○11○○とした。

3区は、1区を挟んで南東側にあたる山裾の3A区と、北西側にあたる川寄りの3B区からなるが、3B区では 嘉瀬川の氾濫によると思われる厚い砂層が堆積していて遺構が確認されず、遺構は3A区のみに遺存していた。3 A区南側の八龍社跡では中世〜近世の土師器杯・小皿多数を初めとする遺物が出土し、神社の社殿と考えられる掘 立柱建物が1棟検出された。八龍社跡は近世の神社跡として周知されていたが、隣接地と一体的に調査した関係で 東畑瀬遺跡3区の中に含めた。調査時や整理段階の記録の一部には八龍社跡の略号HRTを用いたものがある。3 A区の下層では縄文時代前期と後〜晩期を主とする遺物がややまとまって出土したが、1区に比べて分布も狭く、 包含層の状況はあまり良好ではなかった。この他に近世末〜近代の石組による炭窯と山裾を利用した竃も検出され たが、本報告では割愛した。

なお、3区と同年度に調査した2区は、東畑瀬集落北側の「ウランヤマ」と称される尾根を隔てた北側の水田部 一帯であり、縄文時代と近世の遺物が少量出土したが、明確な遺構は確認されなかった。

番号	遺跡名	略号	対象面積(m²)	遺跡の時代	遺跡の種類
(1)	東畑瀬遺跡	ННТ	121.300	縄文~近世	集落・城館
1	不和极起助.	11111	121,300	神文 近臣	神社・墓地
2	畑瀬城跡	HTJ	12,800	中世~近世	城郭・墓地
3	西畑瀬遺跡	NHT	58,800	縄文~近世	集落
4	垣ノ内遺跡	KNU	21,000	弥生~古墳	集落
(5)	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器~近世	集落
6	大串遺跡	OOK	3,000	中世	集落
7	大野遺跡	OON	35,200	縄文~近世	集落・官衙

表1-1 嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

[番号	遺跡名	略号	対象面積(m²)	遺跡の時代	遺跡の種類
	8	フルタ遺跡	FRT	26,600	中世	集落
	9	小ケ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器~近世	集落
	10	地蔵平遺跡	JZD	20,000	旧石器~縄文	集落
	(11)	平畠遺跡	HBT	13,000	縄文	集落
	12)	音無瓦窯跡	OTN	1,500	近世	生産遺跡
	13)	入道遺跡	NYD	400	旧石器~縄文	集落

東畑瀬遺跡1区

略号: HHT1

所在地:佐賀県佐賀市富士町大字関屋字鶴

調查対象面積:6,000㎡

調査担当:松尾吉高・江島賢一(平成 12 年度)、樋口秀信・大坪芳典・深澤幸江(平成 13 ~ 14 年度)

調査の経過

東畑瀬遺跡3区(八龍社跡を含む)

略号: HHT3 (HRTを含む)

所在地:佐賀県佐賀市富士町大字関屋字鶴

調查対象面積:12,000㎡

調查担当:樋口秀信·田中良輔(平成15年度)

大野遺跡2区の調査は平成12年度に、大野遺跡3区の調査は平成15年度に実施した。

2区では官的施設を思わせる近世初期の企画的な建物群を調査したが、調査区内で縄文時代の遺物が多数見られたため、試掘坑を設定して下層を探索したところ縄文時代の遺構・遺物包含層が確認されたため、上層の調査後に引き続き下層の調査を行った。

3区は2区の隣接地であり、着手前に2区で調査した遺構の広がりが想定できていたため、遺構・遺物の数が多かったわりに順調に調査を進めることができた。2区と3区は上層・下層とも一連の遺構群としてまとまっており、下層の遺構については3区にその中心部があることが明らかになった。

なお、平成8年度に大野代替地造成に伴って調査された1区では中世の集落跡と縄文時代の遺物包含層などが確認されているが、2・3区からは離れた位置にあり4区と連なる遺構群と考えられる。

大野遺跡2区

略号: 00N2

所在地:佐賀県佐賀市富士町大字大野字一本松

調查対象面積:2.000㎡

調査担当:松尾吉高・江島賢一(平成12年度)

大野遺跡3区

略号: 00N3

所在地:佐賀県佐賀市富十町大字下無津呂字一本松

調查対象面積:500mg

調査担当:廣瀬雄一・秦 広之(平成15年度)

調査記録や出土遺物の整理は発掘調査と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成 17 年度に着手 し、平成 18 年度に本書を作成刊行した。

第1章 参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所 (2003) 『嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み』 国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所 嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会 (2000) 『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書―佐賀県佐賀郡富士町―』 富士町教育委員会 富士町史編さん委員会 (2000) 『富士町史』上・下巻 富士町

第2章 位置と環境

1 地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす春振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、莞河川、名尾川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前国一宮河上神社のあたりで山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ、幹線流路延長 57km、流域面積 368kmの一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北道ダムが昭和 32(1957)年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設中なのが、嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には活湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町(旧佐賀郡富士町)は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市草良区と、東は佐賀市三瀬村(旧神埼郡三瀬村)・佐賀市大和町(旧佐賀郡大和町)と、西は唐津市七山・厳木町(旧東松浦郡七山村・厳木町)と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれぞれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東経 130°12′03″、北緯 33°22′58″に位置し、東西 10km、南北 17km、面積 143.25k㎡である。気候は、温暖湿潤な佐賀県内の中でも平均気温が低く、降水量は多い。山間部特有の日照時間の短さともあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・電山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に 脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開析 された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から亀岳を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、 これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ玉島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地 域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側のが神埼市脊振町(旧神埼郡脊振村)と大小の谷や峠を介して連続しており、 このような一体的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圏を育んできた。

表層地質は中世代白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壌は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壌に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壌、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壌や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壌などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム(北山湖)を中心とする一帯には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四紀更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の8割以上が森林で、更にその8割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高900m級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ(カチガラス)は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

2 歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心に概述する。

旧石器時代の遺跡は、地蔵平遺跡、小ヶ倉遺跡、九郎遺跡などでナイフ形石器などの示準石器が出土している。特に地蔵平遺跡では以前から旧石器時代〜縄文時代の遺物が多く採集されていて、この地域の拠点的な遺跡と目されていたが、平成 18 年度に着手した発掘調査でもナイフ形石器や角錐状石器などナイフ形石器文化期の資料だけでなく、旧石器時代終末から縄文時代草創期の細石刃石核・細石刃なども出土しており、今後の調査成果が期待される。周辺地域まで目を向けると、唐津市七山の馬川谷口遺跡ではナイフ形石器文化期から細石刃文化期の多数の遺物が、佐賀市三瀬町笛グ字菅(床並)遺跡(14)でもナイフ形石器・彫器が出土しており、旧石器時代の遺跡は脊振山地山間部一帯に広く分布するものと思われる。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、これまでは工事の際に偶然出土したものや採集資料がほとん どで実態がよくわかっていなかったが、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が竪穴住居や炉跡などの遺構と共 に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。早期前葉の資料としては、小ヶ倉遺跡で円筒形刺突文・押引文 土器や石槍が出土しているほか、西畑瀬遺跡の尖底条痕文土器も草創期末~早期前葉の可能性がある。早期中葉で は、貝野遺跡(15)、中原遺跡(16)、九郎遺跡などで稲荷山式~田村式期の遺物が出土している。早期後葉では、 九郎遺跡や西畑瀬遺跡で塞ノ神A式・B式・轟A式土器などが出土している。前期では九郎遺跡や西畑瀬遺跡で轟 B式・西唐津式・曽畑式土器があり、西畑瀬遺跡では鬼界アカホヤテフラ(K-Ah)と見られる橙色土を含む層が 部分的にではあるが広がっていて、下層から塞ノ神B式・轟A式期、上層から轟B式・曽畑式期の遺構・遺物が確 認されている。早期~前期の資料は、採集品も含めて山間部各地で比較的多く知られ、佐賀市三瀬村天塘遺跡(17) で集石遺構や土坑と共に早期~前期の資料が出土しているほか、同村牟田元 (狂言平) 遺跡 (18) などで押型文 土器、同村宿北方遺跡(19)では1個体分の曽畑式土器が採集されている。中期~後期前葉の資料はやや少ない が、九郎遺跡で船元式、西畑瀬遺跡で春日式・阿高式系土器が出土している。後期中葉~後葉では、西畑瀬遺跡で 鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土し、大野遺跡では三万田式期の集落で竪穴住居などの遺構を検出して いる(本書第4章)。また、三瀬村吉野山遺跡(20)でも北久根山式~太郎迫式期頃の遺物が多数採集されている。 縄文時代晩期では、東畑瀬遺跡で縄文時代後期末~弥生時代前期まで集落が断続的に営まれているほか(本書第3 章)、西畑瀬遺跡でも黒川式期の遺物群が出土している。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稲耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、弥生時代の遺跡数は極端に減少している。それでも、近年の埋蔵文化財調査の進展によって、これまで不明であった山間部の弥生時代~古代の様相が少しずつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畑瀬遺跡で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨 製石器は検出されておらず、縄文時代的な生活が続いていたようである(本書第3章)。西畑瀬遺跡では中期と後 期の小児甕棺墓が1基ずつあり、1点ではあるが磨製穂摘具(石包丁)も見つかっている。

古墳時代では、古墳はもちろん竪穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見されるので、居住密度は低いものの無人の原野だった訳ではないようである。西畑瀬では完形の土師器甕と脚部を折った土師器高杯2点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され、大野遺跡でも土坑が確認されている(本書第4章)。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われ、嘉瀬川沿いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に 肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川上流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、史料や遺跡



図 2-1 東畑瀬遺跡・大野遺跡の位置 (1/800,000) 国土地理院の数値地図 200000(地図画像) 『日本-III』を使用

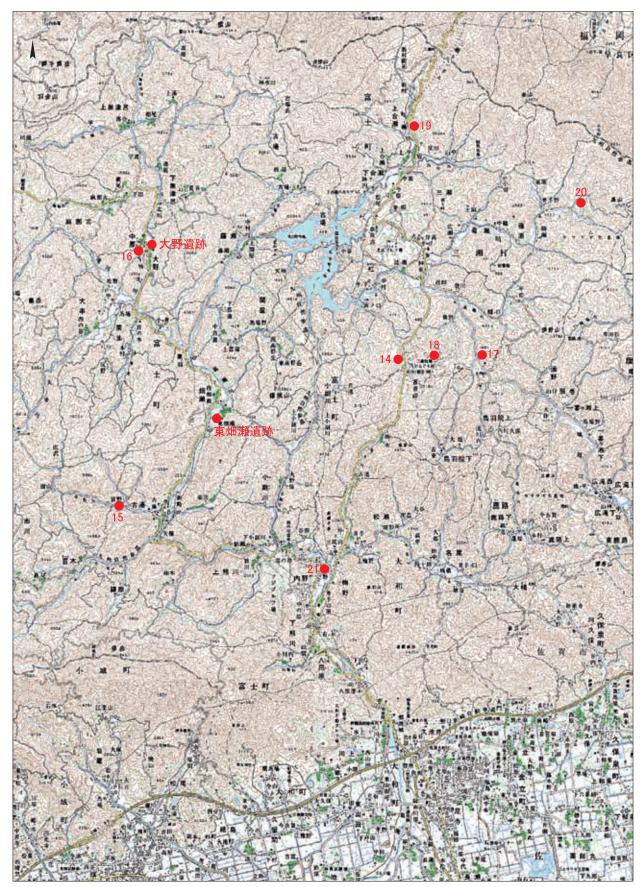


図2-2 嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡 (1/100,000) 国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)『福岡』・『熊本』を使用

で具体的な様相を知る手がかりは皆無に近い。僅かに、内野遺跡(21)で平安時代前期頃の遺物が出土している程度である。

安富畑瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録(杠家文書)の「安冨畑瀬山」や東畑瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄畑瀬山」などで確認できるが、中世後期には畑瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在地勢力の台頭によって荘園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡(6)では15世紀ごろの在地有力層の屋敷地と思われる遺構群が見つかっており、当時における山内の実情を反映したものと考えられる。

戦国期に至ると、神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、三瀬城を本城として佐賀の龍造寺隆信と覇を競った。富士町域にも畑瀬城、熊川城、谷田城などを構えたとされるが、その内容は明らかになっていない。このうち勝利が隠居所とした畑瀬城に比定される東畑瀬地区の城郭遺構について山頂部の一部が調査されているが(富士町教委 2005)、恒常的に生活を営んだ痕跡は認められなかった。東畑瀬遺跡における調査所見では、山麓部に戦国期の土塁を伴う居館とその背後に構えられた城郭遺構が見つかっており、「畑瀬城」の実態は居館を核として一帯の城郭遺構まで含めたものの総体であろう。

勝利の嫡子長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂の甥を養子に迎えた。神代氏は が城芦刈、更に佐嘉川久保へと転封されたが、川久保邑主として1万石の大身を保持した。山内は鍋島氏の所管と なったが、元和3(1617)年の小城鍋島家(小城支藩)創設にあたって嘉瀬川以西の地域が分け与えられた。これ れ以降、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続いた。佐賀山内郷では松瀬三茂 一世に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所の遺構は江戸時代後期のものであるが、その設置時期や詳しい経緯についてはよく判っていない。城郭を思わせる本格的な石垣造りの遺構であり、単に一支藩が山間部の経営のために設けた代官所としては破格の規模である。隣藩との国境に近い軍事上の重要地であることが、その背景として想定される。史料では確認できないが、本藩の意向も反映されているのではないだろうか。隣接する大野遺跡では近世初期の役所的施設と見られる建物群が検出されており(本書第4章)、これが大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの紆余曲折を経て、明治 16(1883)年に現在の佐賀県が成立した。これに先立つ明治 11(1878)年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小副川村、紫草や 10~2ヶ村、小城郡鎌原村、菅木村、市川村、杉山村、大串村、栗並村、大野村、中原村、麻那古村、上無津呂村、上海津呂村、上台瀬村、下台瀬村、下台瀬村、古場村、藤瀬村、畑瀬村、古湯村、上熊川村、内野村、下熊川村の 20ヶ村が行政単位となっていたが、明治 22(1989)年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小関村と小城郡北山村・南道村の3村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。

昭和31(1956)年には佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の3村が対等合併して富士村となり、昭和41(1966)

年10月1日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その39年後にあたる平成17(2005)年10月1日に、佐賀市・ 佐賀郡大和町・同郡諸富町・神埼郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となり、今に至っている。

第2章 参考・引用文献

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会(2000)『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会

佐賀県企画室(1979)『土地分類基本調査 浜崎』

佐賀県教育委員会(1964)『佐賀県の遺跡』佐賀県文化財調査報告書第13集

佐賀県教育委員会(1997)『佐賀県の地質鉱物』佐賀県文化財調査報告書第 134 集

佐賀県教育庁文化財課(1997)「九郎遺跡1区」『佐賀県文化財年報2』

佐賀県教育庁文化財課(1998)「大野遺跡(1区)」『佐賀県文化財年報3』

佐賀県教育庁文化財課(1999)「西畑瀬遺跡(1区)」『佐賀県文化財年報4』

佐賀県教育庁文化課(2002)「西畑瀬遺跡(2区)」『佐賀県文化財年報7』

佐賀県教育庁文化課(2003a)「西畑瀬遺跡(3区)」『佐賀県文化財年報8』

佐賀県教育庁文化課(2003b)「大串遺跡(1区)」『佐賀県文化財年報8』

佐賀県教育庁文化課(2004)「西畑瀬遺跡(4区)」『佐賀県文化財年報9』

佐賀県教育庁文化課(2005a)「東畑瀬遺跡(4区)」『佐賀県文化財年報10』

佐賀県教育庁文化課(2005b)「東畑瀬遺跡(2区)」『佐賀県文化財年報10』

佐賀県教育庁文化課(2005c)「西畑瀬遺跡(4区)」『佐賀県文化財年報 10』 佐賀県教育庁文化課(2005d)「西畑瀬遺跡(5区)」『佐賀県文化財年報 10』

佐賀県教育庁文化課(2006a)「東畑瀬遺跡(5・6・7区)」『佐賀県文化財年報11』

佐賀県教育庁文化課(2006b)「西畑瀬遺跡(5区)」『佐賀県文化財年報 11』

佐賀県立図書館編(1986)『佐賀縣史料集成古文書編』第27巻 佐賀県立図書館

七田忠志(1949)「三瀬村出土の縄文式土器」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第8輯 佐賀県教育委員会

徳永貞紹(1995)「神埼群三瀬村田ノ宇曽遺跡の旧石器時代遺物」『佐賀考古』第2号 佐賀考古談話会

七山村教育委員会(2001)『馬川谷口遺跡1区·2区』七山村文化財調査報告第2集

全国神代ゆかりの会 (1980) 「神代家伝記」 『神代家とその一族』 1号

富士町教育委員会(1999)『貝野遺跡1区』富士町文化財調査報告書第1集

富士町教育委員会(2003a)『富士町内遺跡発掘調査報告書 平成7年度~13年度』富士町文化財調査報告書第2集

富士町教育委員会(2003b)『中原遺跡1区』富士町文化財調査報告書第3集

富士町教育委員会(2005)『畑瀬城跡』富士町文化財調査報告書第4集

富士町誌編さん委員会(1968)『富士町誌』 富士町教育委員会

富士町史編さん委員会(2000)『富士町史』上巻・下巻 富士町

三瀬村誌編纂委員会(1977)『三瀬村誌』 三瀬村

宮武正登(1991)「本村遺跡をめぐる中世世界―安富荘内村落としての位置付け―」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会

第3章 東畑瀬遺跡1・3区

第3章 東畑瀬遺跡1・3区

1 東畑瀬遺跡1・3区の概要

東畑瀬地区は、嘉瀬川中流域の左岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで北西向きの山麓部斜面一帯に集落が展開していた。当地には当地域を代表する戦国武将である神代勝利が隠居所とした畑瀬城があったとされ、勝利の墓や菩提寺である宗源院がある。嘉瀬川を挟んだ対岸には西畑瀬地区があり、東西の畑瀬地区は、藩政期には東畑瀬が佐賀本藩領、西畑瀬が小城鍋島家(小城支藩)領に属し、昭和31(1956)年に旧富士村として合併するまで佐賀郡小関村と小城郡南山村に分かれていた。現在は国道323号線が古湯地区から西畑瀬を経て栗並地区に続いているが、近世以前の基幹道は小副川地区から峠を越えて東畑瀬に入り、嘉瀬川を渡って西畑瀬に向かうという経路であったことが、『正保四年肥前一国絵図』などからも読み取れる。

東畑瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴いこれまでに1~8区の発掘調査を実施し、縄文時代~弥生時代の集落跡・遺物包含層、中世の集落跡・城館跡、近世の寺院跡・集落跡などを確認している。なかでも神代勝利・長良が拠った畑瀬城そのものと考えられる戦国期の城館や、戦国期から現代に至る寺院が何面も重なって遺存していた宗源院の調査などで重要な成果があがっている。

今回報告する $1 \cdot 3$ 区は、旧東畑瀬集落があった字鶴の範囲にあり、遺跡の南西端部にあたる。嘉瀬川に面した河岸段丘から山裾にかけての標高約 $233 \sim 240$ mの区域である(図 3-2)。

1 区は、嘉瀬川の河岸段丘上に位置する畠地一帯で、南東側から南西側には山裾が迫り、北東側から北西側にかけては一段低い水田部であるため、北東-南西方向のほぼ長方形に区切られた場所であった。 3 区は 2 つの区域から成り、1 区南東の山裾から 1 区北東の平坦地を 3 A 区、1 区北西の嘉瀬川に面した低地を 3 B 区とするが、 3 B 区では表土下に嘉瀬川の氾濫による厚い砂層が堆積していて遺構が確認されなかったため、以下では 3 A 区についてのみ報告する。

1 区では縄文~弥生時代の遺構と中世~近世の遺構を上下に重なる遺構面として検出し、3 区では縄文~弥生時代の遺構・遺物包含層と中世~近世の遺構・遺物包含層をやや異なる場所で検出した。

1区下層で検出した縄文~弥生時代の遺構は、竪穴住居1棟、石囲炉1基、土坑25基、不整形落ち込み2基、焼土・炭化物集中部1箇所、土器片集中部1箇所があり、遺構内や遺物包含層から縄文時代後期末~弥生時代前期の遺物が出土した。同時期の平野部や海岸部における集落とは石器組成などで大きく異なっており、弥生時代開始期前後に山間部で営まれた集落の様相を知る上で貴重な資料である。

3 区で検出した縄文~弥生時代の遺構は、3 A 区北側の緩斜面に位置する土坑2 基と焼礫集積遺構1 基で、前者は後期~晩期の遺物集中部、後者は前期の遺物集中部に接して検出した。

1区上層では、中世前期の屋敷地と近世の護岸状遺構を調査した。中世前期の遺構は掘立柱建物 8 棟、柵列 11 条、 土坑墓 1 基、土坑 12 基、竪穴遺構 6 基などがある。遺構分布の中心は 1 区の南西部寄りにあり、北東部ではほと んど遺構が認められなかった。南端部と西辺部は段落ちとなってこれより南・西側には遺構が広がらないことから、 屋敷地の主体部は調査区の中でほぼ収まるものと見られる。 1 区西辺部の段落ちは、礫を積んだり置いたりして護 岸状に造成されており、出土遺物から畠・水田の維持に関わる近世初期の所産と考えられる。

3区では、3A区南西部にあたる山際の狭小な平坦地で、八龍社の跡と伝える中世〜近世の神社跡を調査した。 造成された平坦地とその落ち際から中世〜近世の土師器杯・小皿を主とする遺物が多数出土し、中世〜近世のある 段階における八龍社の社殿と考えられる掘立柱建物1棟を検出した。

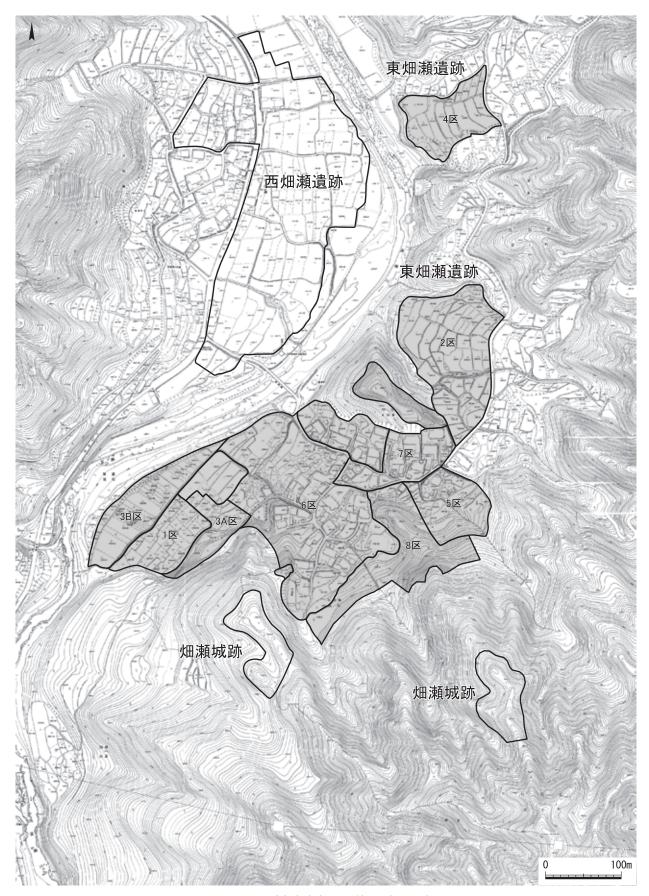


図3-1 東畑瀬遺跡周辺の地形 (1/5,000)



図3-2 東畑瀬遺跡1・3区の位置 (1/2,000)

2 縄文~弥生時代の遺構と遺物

1) 1区縄文~弥生時代の遺構と遺物

1区で縄文~弥生時代の遺構としたものは、竪穴住居 1 棟、石囲炉 1 基、土坑 25 基、不整形落ち込み 2 基、焼土・炭化物集中部 1 箇所、土器片集中部 1 箇所がある。これらの遺構は、1 区北側の SH1110 等の一群、1 区中央部の SX1131 等の一群、1 区南側の SX1139 等の一群の大きく 3 つにまとまって分布する。

SH1110 (図3-8)

1 区北側の F15 区画に位置する。包含層の掘り下げ時に北側を削平してしまったが、径 2.54 m、深さ 0.21 mで、平面は円形である。中央に浅い土坑、中央と壁際に計 5 基の主柱穴かと思われる小穴があり、床面は平坦で、壁はしっかりと立ち上がっている。竪穴住居として報告するが、径がやや小さいので、屋根は竪穴部分の外側まで含めて架かっていたものであろう。ただ、明確な硬化面や屋内炉は確認できておらず、遺構認定には不確実さを残す。埋土中から弥生時代前期の甕形土器(以下、○○形土器は○○と略す)や大型の壺が出土した。

SH1110 出土遺物 (図 3 - 12)

1 は深鉢で、内外面ナデ、 2 は甕で、内外面条痕のちナデである。 $3 \sim 4$ は壺で、赤色顔料が施される。 5 は大型壺で、外面赤色顔料塗布後ミガキ、内面頸部ナデ、胴部ハケメのち工具によるナデである。

SX1139 (3 - 8)

1区南側のH11・12区画に位置する。南東部分が確認調査の試掘坑により失われているが、径 2.32 mの円形 土坑の底面中央に石囲炉を配置した遺構である。竪穴住居の一部であった可能性もあるが、柱穴等は確認できていない。炉を構成する石は内側が強く焼けており、埋土中には炭化物を多く含む。石囲炉内には縄文時代晩期の粗製深鉢 (8)が大きな破片の状態で横たわっていた。

SX1139 出土遺物 (図 3 - 12)

 $8\sim11$ は深鉢で、8 は外面条痕、内面条痕のちナデ、9 は内外面ナデ、10 は内外面条痕、11 は外面条痕のちナデ、内面ナデである。12 は浅鉢で、内外面条痕である。13 は深鉢で、内外面ナデである。14 は浅鉢で、内外面に沈線を施し、内外面ナデである。

SK1101 (図3-8)

1 区北側の D15 区画に位置する。長軸 0.86 m、短軸 0.80 m、深さ 0.34 mで、平面は方形である。埋土中には 炭化物・焼土が認められた。底面から縄文時代晩期の土器が 2 点ほど出土した。

SK1101 出土遺物(図 3 - 14)

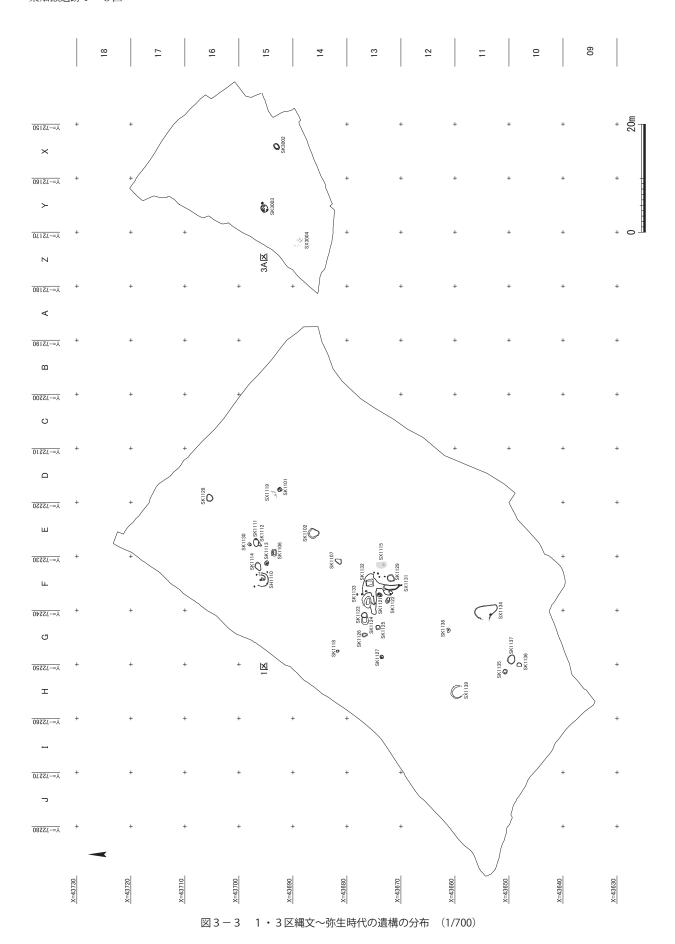
25 は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。

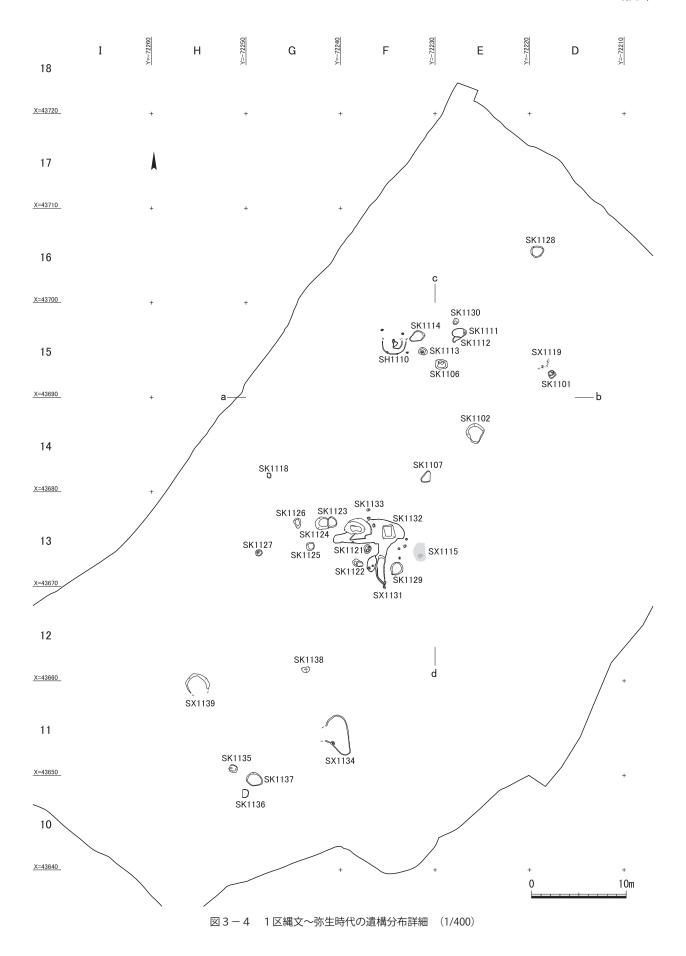
SK1102 (図3-9)

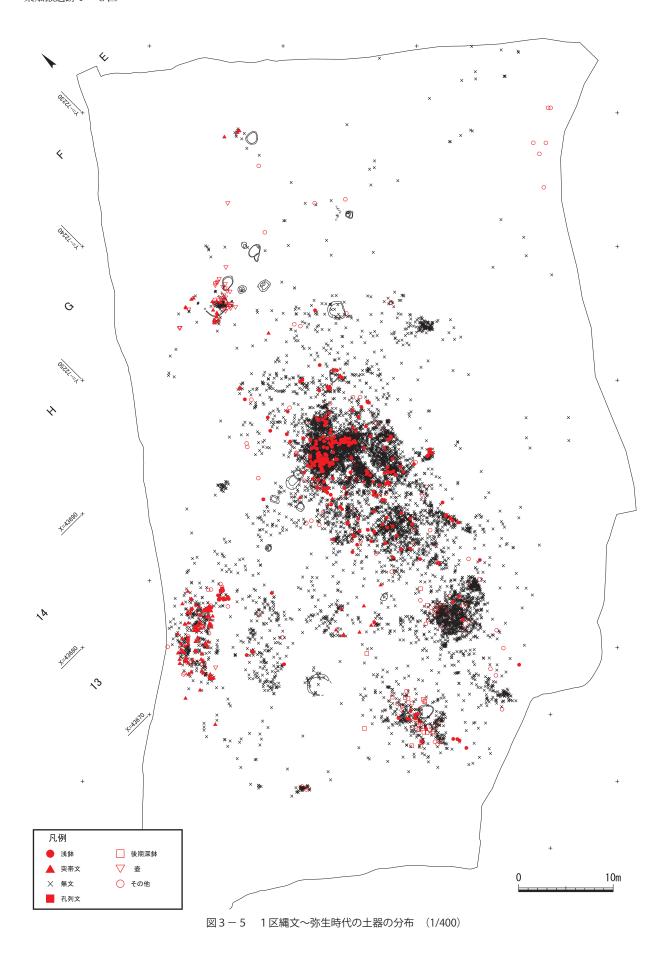
1 区北側の E14 区画に位置する。長軸 2.06 m、短軸 1.82 m、深さ 0.21 mで、平面は不整形である。埋土には 炭化物を含んでおらず、縄文時代晩期の土器が少量出土した。

SK1102 出土遺物 (図 3 - 13)

15 は浅鉢で、外面条痕、内面ミガキである。16 は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面条痕である。







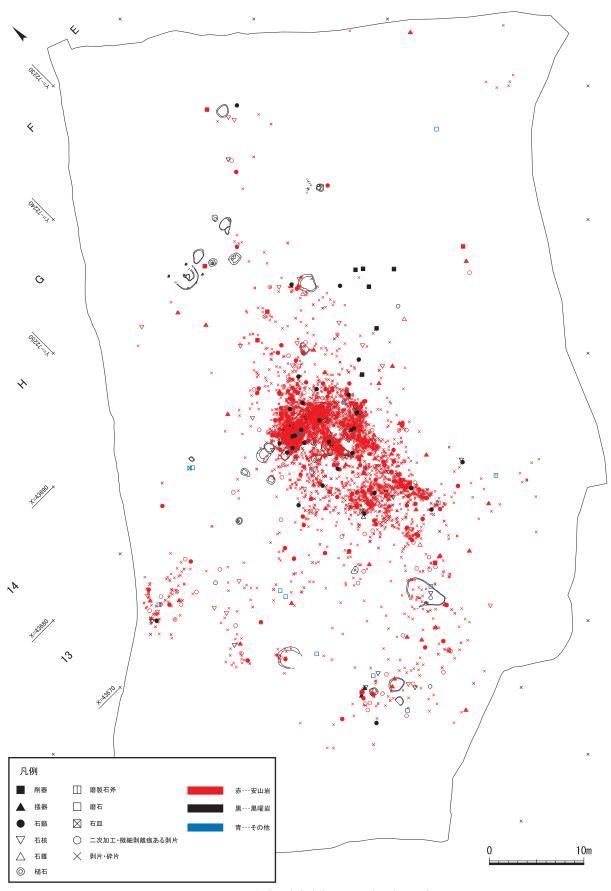


図3-6 1区縄文~弥生時代石器の分布 (1/400)

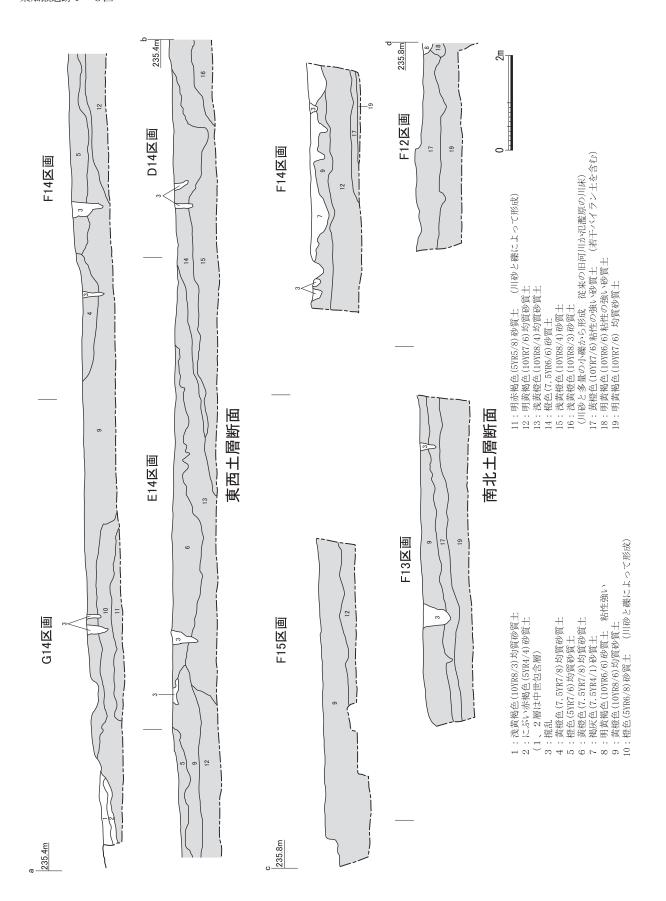


図3-7 1区縄文~弥生時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)

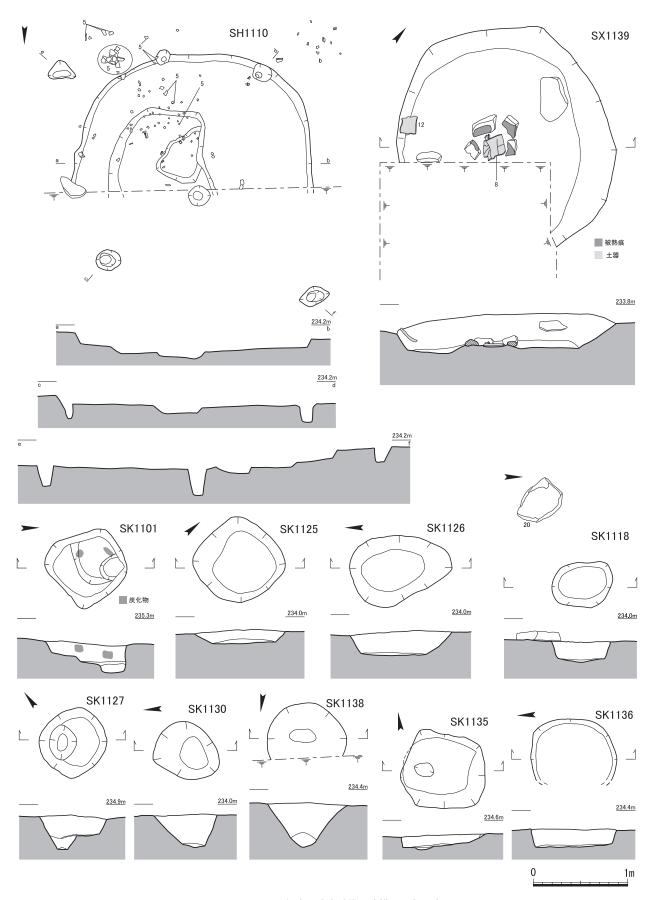


図3-8 1区縄文~弥生時代の遺構1 (1/40)

SK1106 (図3-9)

1 区北側の E15 区画に位置する。長軸 1.28 m、短軸 1.04 m、深さ 0.31 mで、平面は隅丸方形である。底面の片側が 2 段掘り状となっている。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1107 (図3-9)

1 区中央部の F14 区画に位置する。長軸 1.36 m、短軸 0.96 m以上、深さ 0.12 mで、平面は不整形である。縄 文時代晩期中葉の土器や石鏃等が若干量出土した。

SK1107 出土遺物 (図3-13)

17 は浅鉢で、リボン状突起に焼成後穿孔があり、内外面ナデである。18 は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面ナデである。19 は両側縁がやや膨らむ二等辺三角形の微凹基式石鏃である。

SK1111 (図3-9)

1 区北側の E15 区画に位置する。SK1112 と重複し、これより新である。長軸 1.52 m、短軸 0.94 m、深さ 0.42 mで、平面は楕円形である。縄文時代晩期の土器が 1 点出土した。

SK1112 (図3-9)

1 区北側の E15 区画に位置する。SK1111 と重複し、これより古である。長軸 0.66 m以上、短軸 0.46 m、深さ 0.22 mで、平面は楕円形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1113 (図3-9)

1 区北側の F15 区画に位置する。長径 0.94 m、短径 0.82 m、深さ 0.66 mの円形で、中央が柱穴状の 2 段掘りとなっている。近接して石鏃 2 点が出土したものの、埋土中からの出土遺物はない。

SK1114 (図3-9)

1 区北側の F15 区画に位置する。長軸 1.68 m、短軸 1.14 m、深さ 0.16 mで、平面は不整楕円形である。弥生時代前期の壺が出土したが、出土位置は底面からかなり浮いており、隣接する SH1110 から遊離したものかもしれない。

SK1114 出土遺物(図3-12)

6・7は壺で、ともに外面赤色顔料塗布後ミガキ、6は内面ナデ、7は内面頸部上半ミガキ、下半以下ナデである。

SK1118 (図3-8)

1 区中央部の G14 区画に位置する。長軸 0.62 m、短軸 0.48 m、深さ 0.24 mで、平面は不整楕円形である。縄 文時代晩期の粗製深鉢が出土した他、遺構内ではないが近接して石皿が出土している。

SK1118 出土遺物(図3-13)

21・22 は深鉢で、同一個体とみられる。外面条痕、内面条痕のちナデである。20 は SK1118 に近接して出土した石皿である。表裏両面に使用による摩滅痕を留める。

SK1121 (図3-9)

1 区中央部の F13 区画に位置する。長軸 1.00 m、短軸 0.74 m、深さ 0.60 mで、平面は不整楕円形である。底面に小穴があり 2 段掘りの柱穴状をなす。縄文時代晩期頃の土器が若干出土した。

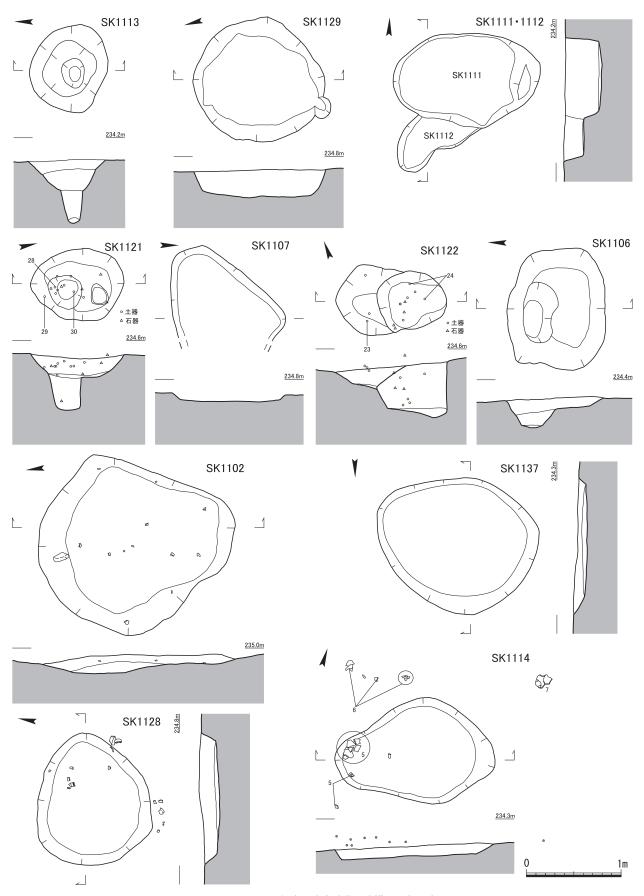


図3-9 1区縄文~弥生時代の遺構2 (1/40)

SK1121 出土遺物 (図 3 - 14)

28~30 は深鉢で、28 は外面条痕、内面ナデ、29 は内外面ナデ、30 は内外面条痕である。

SK1122 (図3-9)

1 区中央部の F13 区画に位置する。長軸 1.16 m、短軸 0.74 m、深さ 0.62 mで、平面円形の土坑の片側に段が付く形状である。縄文時代晩期中葉の土器が若干量出土した。

SK1122 出土遺物(図3-13)

23 は浅鉢で、鰭状突起が付き、内外面ミガキ、24 は深鉢で、外面ナデ、内面条痕のちナデである。

SK1123 (図3 − 10)

1 区中央部の G13 区画に位置する。長軸 1.12 m、短軸 1.02 m、深さ 0.32 mで、平面は楕円形である。 SK1124 と重複し、これより新である。遺物は石器類が 2 点出土したのみである。

SK1124 (図3-10)

1 区中央部の G13 区画に位置する。長軸 1.28 m以上、短軸 1.34 m、深さ 0.42 mで、平面は楕円形である。 SK1123 と重複し、これより古である。遺物は縄文時代の土器が数点出土したのみである。

SK1125 (図3-8)

1 区中央部の G13 区画に位置する。長軸 0.96 m、短軸 0.88 m、深さ 0.14 mで、平面は隅丸方形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1126 (図3-8)

1 区中央部の G13 区画に位置する。長軸 1.08 m、短軸 0.74 m、深さ 0.24 mで、平面は不整な卵形である。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1127 (図3-8)

1 区中央部の G13 区画に位置する。径 $0.70\sim0.72~\mathrm{m}$ 、深さ $0.36~\mathrm{m}$ で、平面は円形である。底面の片側が 2 段 掘り状となっている。遺物は出土せず、時期は不詳である。

SK1128 (図3-9)

1 区北側の D16 区画に位置する。長軸 1.40 m、短軸 1.20 m、深さ 0.20 mで、平面は楕円形である。埋土及び 遺構周辺から縄文時代晩期後葉の土器が出土した。

SK1128 出土遺物(図 3 - 14)

31 は深鉢で、図上で復元した。内外面ナデである。

SK1129 (図3-9)

1 区中央部の F13 区画に位置する。径 $1.10\sim1.40~\mathrm{m}$ 、深さ $0.30~\mathrm{m}$ で、平面円形である。縄文時代晩期頃の土器が出土した。

SK1129 出土遺物(図3-14)

26 は浅鉢で、補修孔と思われる穿孔があり、内外面ナデである。27 は深鉢で、内外面ナデである。

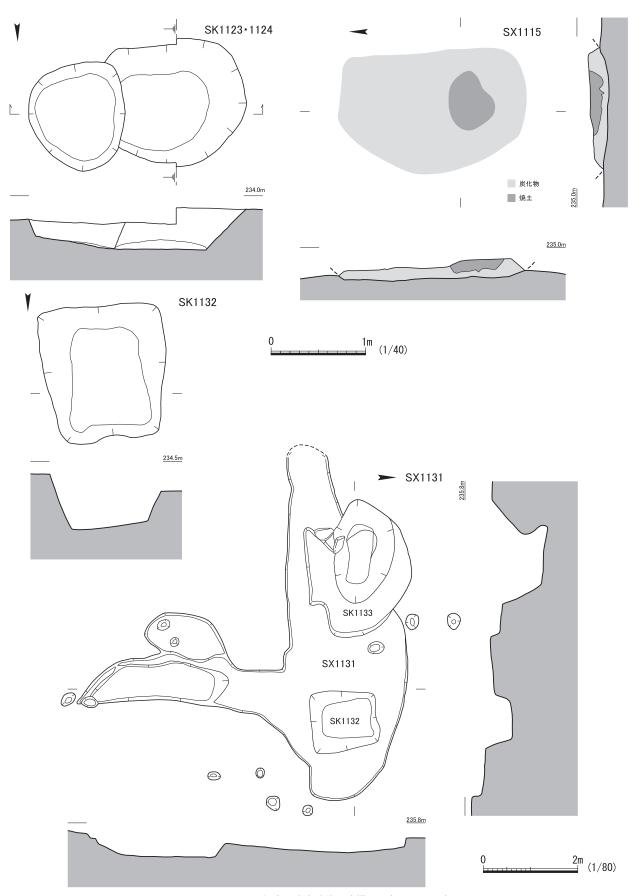


図3-10 1区縄文~弥生時代の遺構3 (1/40、1/80)

$SK1130 (\boxtimes 3 - 8)$

1 区北側の E15 区画に位置する。長軸 0.68 m、短軸 0.56 m、深さ 0.34 mで、平面は楕円形である。縄文時代後期~晩期の土器が数点出土した。

SK1132 (図3-10)

1 区中央部の F13 区画に位置する。SX1131 内で検出され、長軸 1.48 m、短軸 1.32 m、深さ 0.88 mで、平面 は長方形である。縄文時代晩期中葉の土器・石器が多数出土した。

SK1132 出土遺物 (図3-15)

42・43 は浅鉢で、42 は口縁内面に沈線が施され、内外面ナデ、43 は内外面ミガキである。44 \sim 47 は深鉢で、44 は内外面条痕、45 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、46・47 は内外面ナデである。48 は浅鉢で、外面ナデ、内面ミガキである。49 \sim 51 は深鉢底部で、49・50 は内外面ナデ、51 は外面条痕、内面条痕のちナデである。52 \sim 65 は石鏃である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含む。

SK1133 (図3 − 10)

1 区中央部の F13 区画に位置する。SX1131 と重複して検出され、長軸 2.92 m、短軸 2.24 m、深さ 1.16 mで、平面は不整な楕円形である。縄文時代晩期中葉の土器・石器が多数出土した。

SK1133 出土遺物(図 3 - 16 ~ 18)

 $66 \sim 79 \cdot 81$ は浅鉢。66 は口縁内面に沈線が施され、突起が付き、内外面ミガキである。67 は口縁内面に沈線が施され、外面ミガキ、内面ナデである。68 は口縁内面が段状になり、胴部外面に沈線が施され、ボタン状の突起が付く。内外面ミガキである。69 は内外面ナデ、70 は口縁内面に沈線が施され、山形突起が付き、内外面ナデ、71 は内外面ナデ、72 は内外面ミガキ、73 は突起が付き、外面条痕、内面ミガキ、74 は外面条痕、内面条痕のちナデ、75 は外面条痕、内面ミガキ、76 は内外面ナデ、77 は内外面ミガキである。78 は外面に細い沈線で弧状の文様を描き、内外面ナデである。79 は外面に細い沈線で何らかの文様を描き、内外面ナデである。81 は内外面ナデである。80 は浅鉢のミニチュアで、内外面ナデである。

82~86 は口縁端部に刻目がある深鉢で、82~84 は内外面ナデ、85 は外面ナデ、内面条痕、86 は外面ナデ、内面条痕のちナデである。87~91・93・94 は深鉢で、87 は外面条痕、内面ナデ、88 は外面条痕のち一部ナデ、内面条痕、89 は外面条痕、内面条痕のちナデ、90・91 は内外面ナデ、93 は外面条痕、内面条痕のちナデ、94 は内外面ナデである。92 は浅鉢で、外面条痕、内面条痕のちナデである。95・97 は浅鉢と思われ、95 は口縁内面を肥厚させ、内外面条痕、97 は内外面ミガキである。96 は浅鉢で、突起が付くものと考えられ、外面条痕、口縁部~内面ミガキである。98 は深鉢で、内外面ナデ、99 は口縁部に刻目突帯をもつ深鉢で、内外面条痕のちナデである。100~103 は底部で、100 は内外面ナデ、底面条痕のちナデ、101・102 は内外面ナデ、103 は外面条痕、内面ナデである。104 は浅鉢底部で、外面条痕、内面ナデである。105 は土製円盤で、両面条痕である。

106~133 は石鏃である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含み、五角形に近いものもある。 134 は面的な調整剥離を施した削器である。135 は片面の全体ともう片面の一部に調整剥離を施した小型の掻器 である。136 は石核の調整剥離痕を留める稜付き石刃状の小型縦長剥片を、刃部作出等の加工を施さずにそのま ま石錐として用いたもので、使用による顕著な摩滅痕を留める。

SK1135 (図3-8)

1 区南側の G11 区画に位置する。長軸 1.78 m、短軸 1.64 m、深さ 0.34 mで、平面は不整な方形である。石器 類や縄文時代の土器が出土したが、人為的な遺構かどうか判らない。

$SK1136 (\boxtimes 3 - 8)$

1 区南側の H10 区画に位置する。径 0.92 m、深さ 0.20 mで、平面は円形である。縄文時代の土器と黒曜岩剥片が出土した。

SK1137 (図3-9)

1 区南側の G10・11 区画に位置する。長軸 1.70 m、短軸 1.46 m、深さ 0.16 mで、平面は楕円形である。埋土は赤色の砂質土で、焼土の可能性がある。縄文時代の土器と石器が少量出土した。

SK1137 出土遺物 (図 3 - 14)

39・40 は深鉢で、内外面ナデである。41 はやや大きめの剥片の一辺に刃部を作出した削器である。

SK1138 (図3-8)

1 区南側に位置する。径 0.86 m、深さ 0.46 m、平面は円形で、漏斗状に底がすぼまる。埋土中には炭化物が充満していたが、人工遺物は出土していない。

SX1115 (図3-10)

1 区中央部の F13 区画に位置する。長軸 1.98 m、短軸 1.28 mの楕円形の範囲に多量の炭化物と若干の焼土を含む層が広がるもので、中央部には焼土の集中する部分がある。火を用いた場であることは判るが、炉と断定できるかどうか判らない。縄文時代晩期の土器と石器類が出土している。

SX1115 出土遺物 (図 3 - 21)

187・188 は深鉢で、187 は外面条痕、内面ナデ、188 は外面条痕のちナデ、内面ミガキである。189 は深鉢底部で、内外面ナデである。190・191 は二等辺三角形で微凹基の石鏃である。

SX1131 (図3 − 10)

1区中央部のF13区画に位置する。不整形の落ち込みで、縄文時代晩期中葉~後葉の土器・石器類が多数出土した。 SK1132・SK1133と重複するが、新旧関係は明瞭でない。

SX1131 出土遺物(図3-19~21)

186 は大型の剥片の一辺に刃部を作った削器である。

137~143 は浅鉢で、137 は口縁内面に沈線を施し、外面ミガキ、内面ナデ、138 は内外面ミガキ、139 は突起が付き、内外面ミガキ、140 は口縁内面に沈線を施し、内外面ミガキ、141 は口縁内面が段状になり、内外面ナデ、142 は口縁外面に沈線を施し、内外面ナデ、143 は低い山形突起が付き、外面上半~内面ミガキ、外面下半条痕のちミガキである。144 は深鉢で、口縁部に外面から穿孔された孔列文が施され、外面条痕、内面条痕のちナデである。145~151 は口縁端部に刻目がある深鉢で、145~147 は内外面条痕、148・149 は内外面ナデ、150 は外面ナデ、内面条痕、151 は外面条痕、内面ナデである。152 は深鉢で、外面条痕のちナデ、内面ナデである。153~156 は浅鉢で、153 は内外面条痕、154 は内外面ミガキ、155 は外面条痕のちナデ、内面ミガキ、156 は突起が付き、外面条痕のちミガキ、口縁部~内面ミガキである。157・158 は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。159 は浅鉢で、内外面ナデである。160~162 は深鉢で、160 は外面ナデ、内面条痕のちナデ、161 は外面条痕、内面ナデ、162 は内外面ナデである。163~166 は深鉢底部で、163 は内外面ナデ、164 は外面条痕、内面ナデ、165 は内外面ナデである。167~169 は浅鉢底部で、167 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、168・169 は内外面ナデである。170 は混入と考えられる深鉢で、刻目は浅く、内外面ナデである。171~185 は石鏃である。二等辺三角形で微凹基のものを主に平基のものを含み、五角形に近いものもある。

SX1134 (図3 − 11)

1 区南側の F11・G11 区画に位置する。長軸 4.38 m、短軸 2.44 m以上、深さ 0.32 mで、平面は不整な卵形である。 埋土中に炭化物を多く含み、縄文時代後期末の土器と石器が出土した。

SX1134 出十遺物 (図 3 - 14)

32 は精製深鉢で、口縁部と胴部に凹線が施され、内外面ミガキである。 $33 \sim 35$ は深鉢で、いずれも内外面ナデである。 $36 \cdot 37$ は底部で、内外面ナデである。38 は磨石で、使用による摩滅痕を留める。1/2 程に割れている。

SX1119 (図3-11)

1 区北側の D15 区画に位置する。縄文時代晩期中葉の粗製深鉢が 1.4 m四方の範囲にまとまって遺されたものである。掘りこみは確認されず垂直分布も上下にややばらつくことから、人為的に形成されたものではない可能性もあるが、土器片自体は磨耗していない。破片数は多いが、確認できたのは 1 個体である。

SX1119 出土遺物(図 3 - 21)

192 は深鉢で、山形突起が 1ヶ所に付くものと思われ、外面条痕のちナデ、内面ナデである。

遺構に伴わない出土遺物(図3-22~40)

縄文時代早期の土器 (図3-22)

 $193 \cdot 195 \sim 198$ は撚糸文土器で、同一個体の可能性がある。内面ナデである。194 は押型文土器で、内面ナデである。

縄文時代後・晩期の土器 (図 3 - 22 ~ 32)

199・200 は精製深鉢で、口縁外面に雑な沈線が施され、199 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、200 は内外面ナデである。後期後葉~末(御領式~広田式並行期)のものと考えられる。

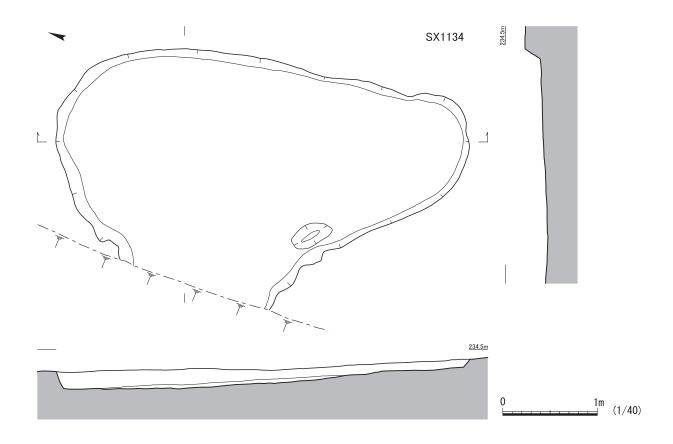
201~204 は浅鉢口縁部で、201・203・204 は内外面ナデ、202 は内外面ミガキである。

205~209 は強く屈曲する胴部に短く外反する口縁部が付く浅鉢で、205 は口縁内面に沈線が施され、鰭状突起が付き、内外面ミガキ、206 は口縁内面に沈線が施され、リボン状突起が付き、外面条痕のちミガキ、内面ミガキ、207 は口縁内面がわずかな玉縁状で、内外面ミガキ、208 は内外面ミガキ、209 は外面ミガキ、内面ナデである。210 は碗形で口縁内面を肥厚させ上面に沈線が施された浅鉢で、小さな山形突起が付き、内外面ナデである。

 $211 \sim 213$ は強く屈曲する胴部に長く外反する口縁部が付く浅鉢で、211 は口縁内面が雑な玉縁状で、外面粗いミガキ、内面ナデ、212 は内外面ミガキ、213 は突起が付き、屈折部外面に沈線が施され、内外面ミガキである。 $214 \sim 218 \cdot 221$ は皿状の胴部に長く外反する口縁部が付く浅鉢で、 $214 \cdot 215$ は屈折部外面に沈線が施され、内外面ミガキ、216 はリボン状突起が付き、内外面ミガキ、217 は内外面ナデ、218 は補修孔と思われる穿孔があり、内外面ミガキ、221 は内外面ミガキである。

 $219 \cdot 220 \cdot 222 \sim 226 \cdot 228$ は浅鉢口縁部である。219 は補修孔と思われる穿孔があり、外面ミガキ、内面ナデ、 $220 \cdot 222$ は外面ミガキ、内面ナデ、223 は口縁内面に沈線が施され、内外面ナデ、 $224 \cdot 225$ は内外面ミガキである。 $229 \sim 231$ は浅鉢胴部で、 $229 \cdot 230$ は内外面ミガキ、231 は外面ナデ、231 は外面ナディン

227・232 は皿形で口縁内面の肥厚部に沈線が施される浅鉢で、ともに内外面ナデで、227 は突起が付く。



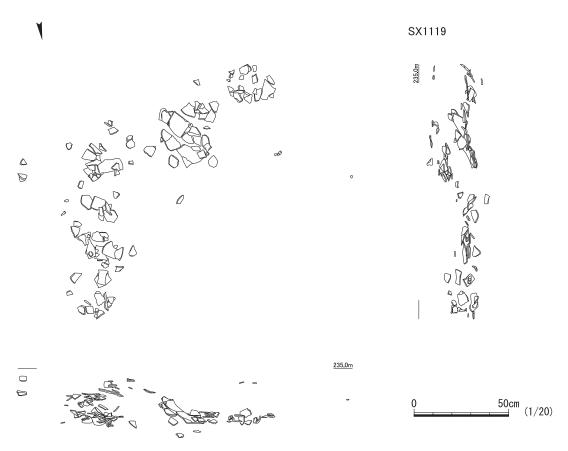


図3-11 1区縄文~弥生時代の遺構4 (1/40、1/20)

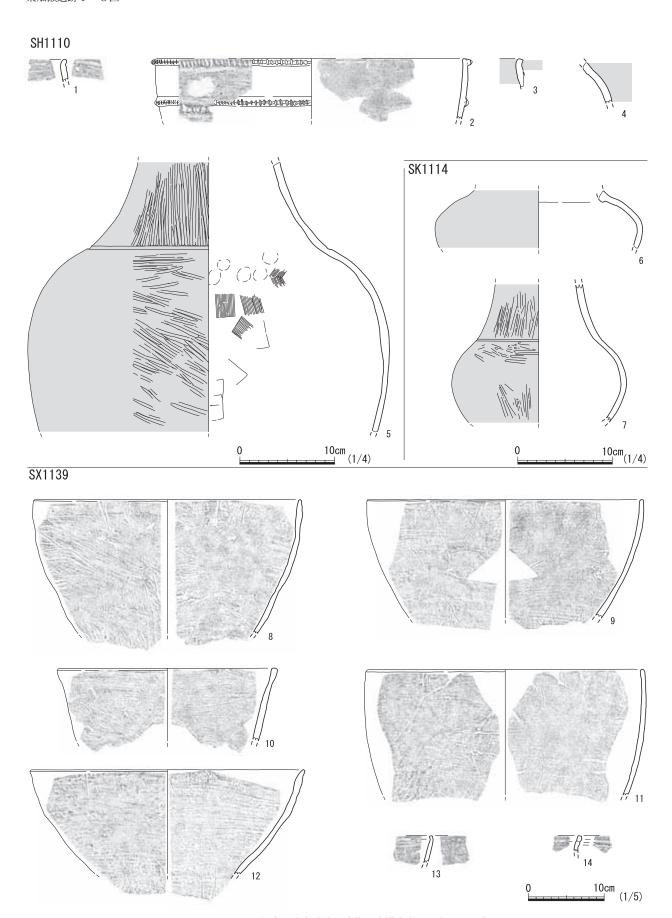


図3-12 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土1 (1/4、1/5)

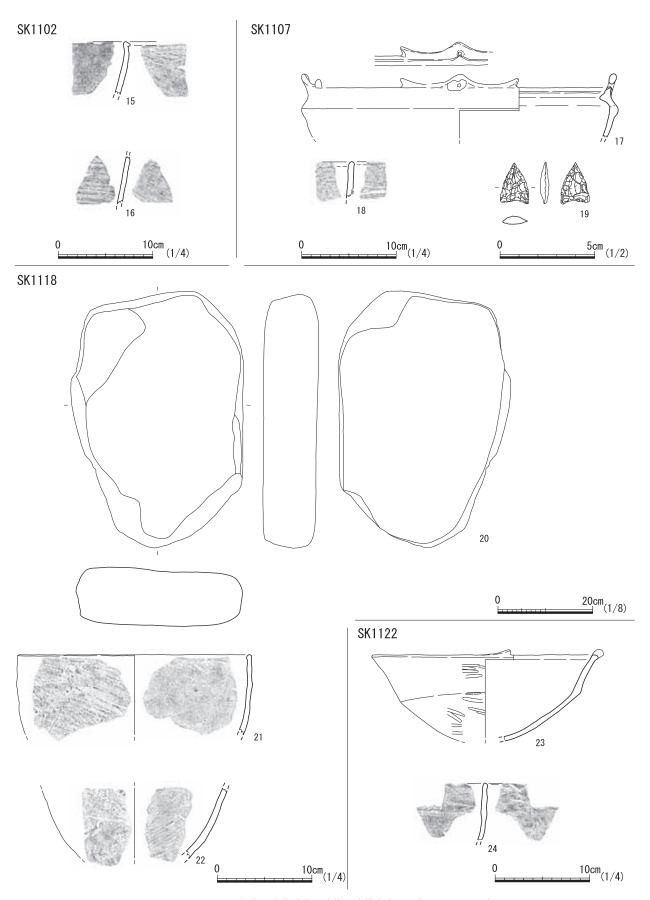


図3-13 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土2 (1/4、1/8、1/2)

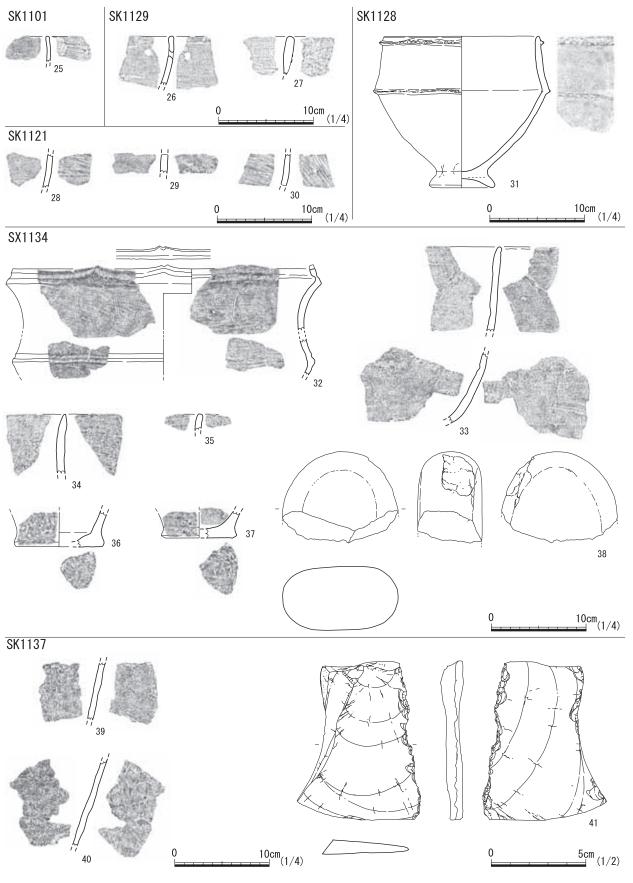


図3-14 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土3 (1/4、1/2)

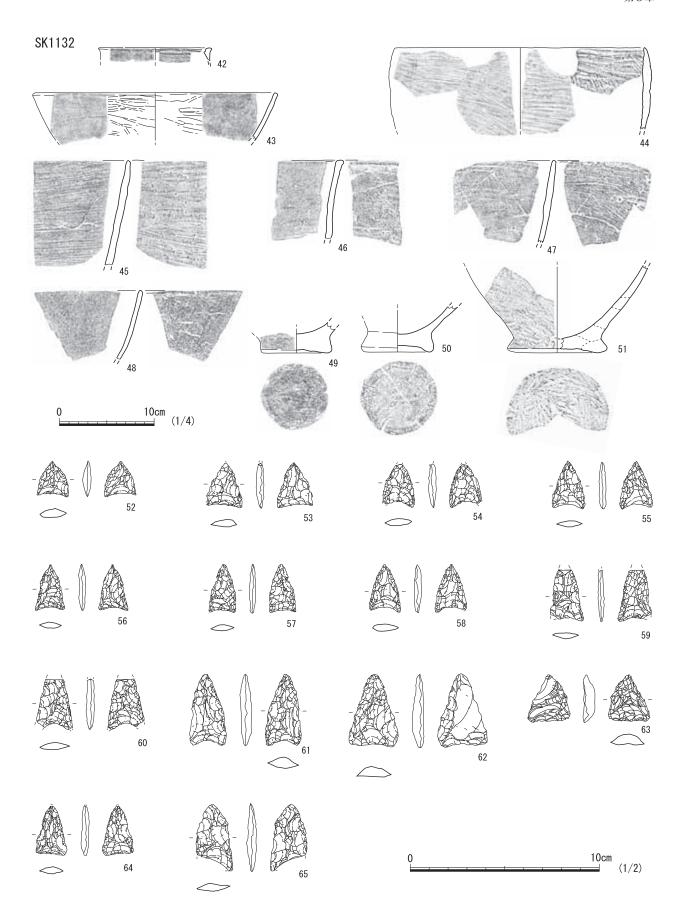


図3-15 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土4 (1/4、1/2)

SK1133

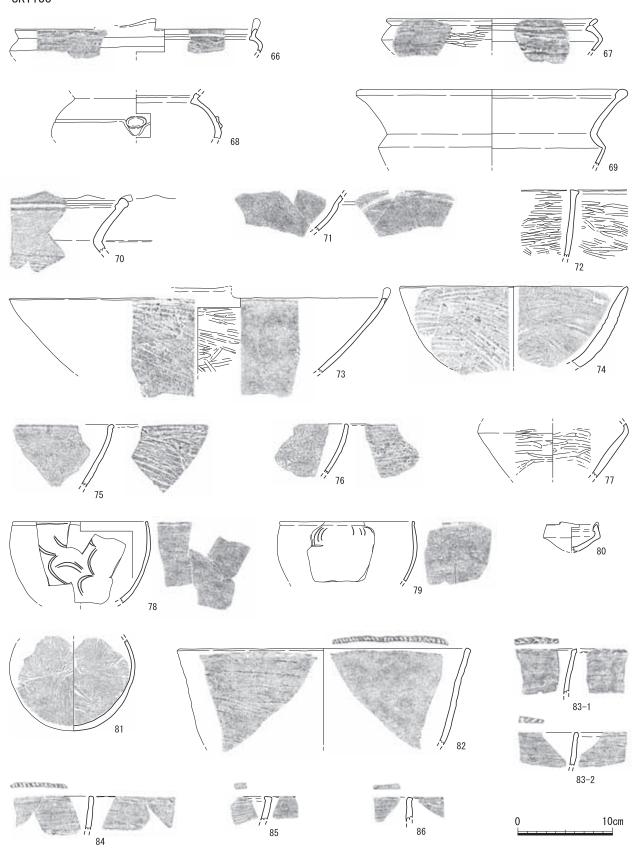


図3-16 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土5 (1/4)

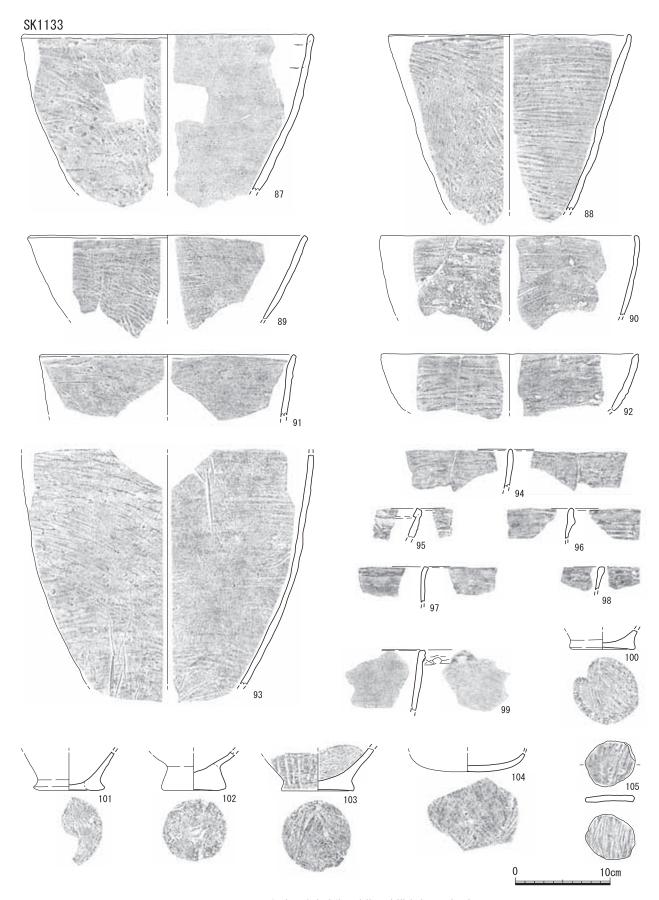


図3-17 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土6 (1/4)

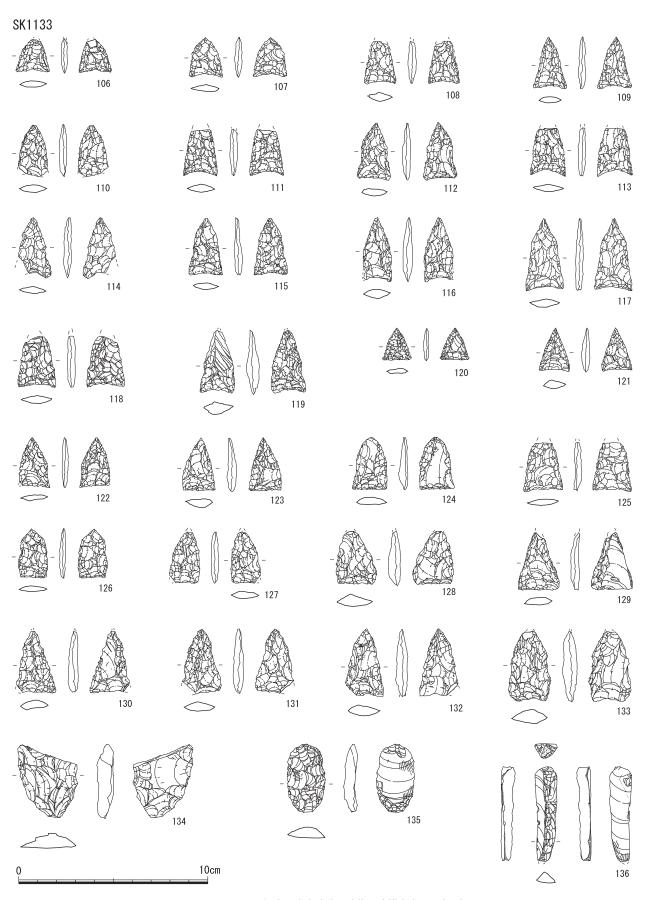


図3-18 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土7 (1/2)

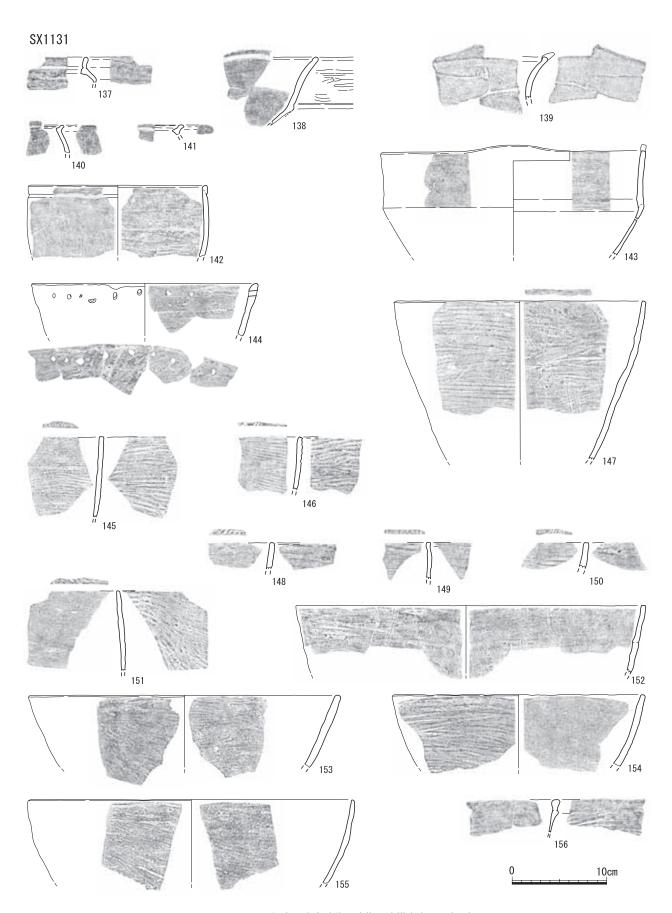


図3-19 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土8 (1/4)

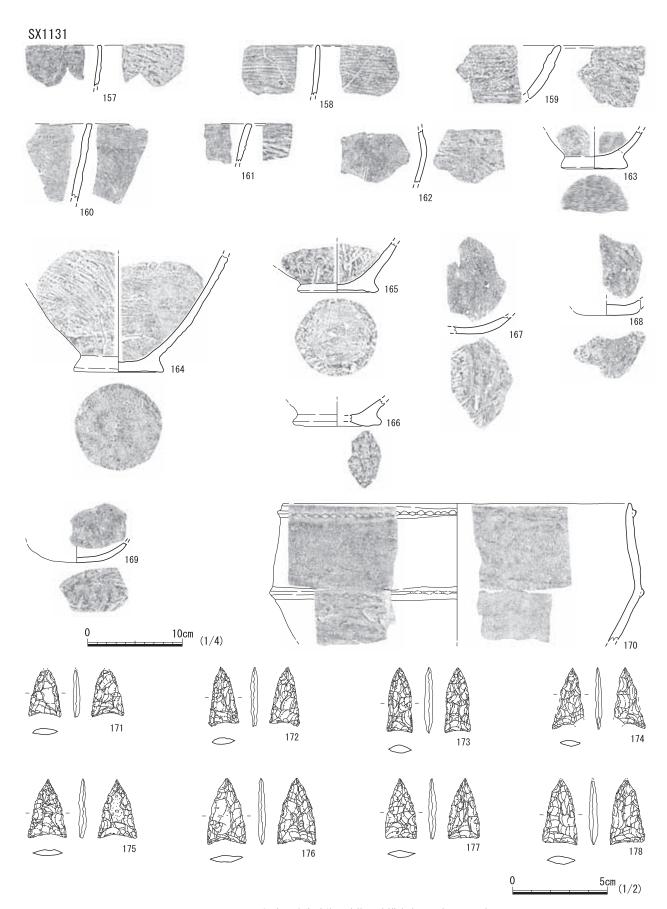


図3-20 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土9 (1/4、1/2)

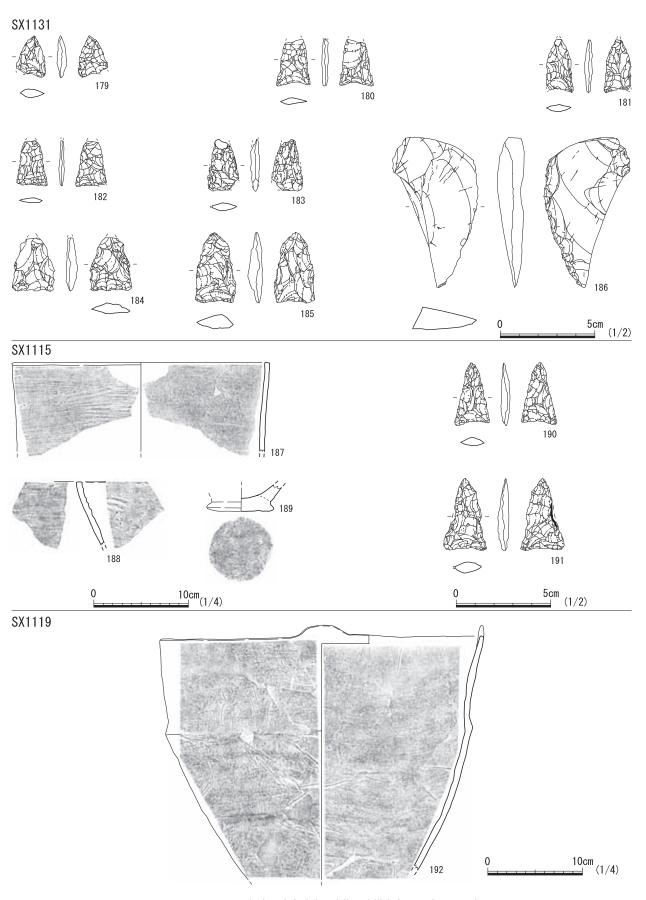


図 3 - 21 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構出土 10 (1/4、1/2)

 $233 \sim 238$ は碗形の浅鉢で、233 は口縁内外面に沈線が施され、内外面ミガキ、234 は外面条痕、内面条痕のちナデ、235 は内外面ミガキ、236 は内外面ナデ、237 は外面条痕のちミガキ、内面ミガキ、238 は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、内面ミガキである。

239・240 は浅鉢口縁部で、ともに内外面ミガキ、241 は浅鉢胴部で、外面に突起が付き、内外面ミガキ、242 は浅鉢胴部で、外面条痕、内面ミガキである。243 は屈曲する胴部に口縁部が付かない形態で、外面ミガキ、内面ナデである。244 は浅鉢胴部で外面ナデ、内面ミガキである。

 $245 \sim 251$ は口縁端部に刻目をもつ深鉢で、 $245 \cdot 246 \cdot 248 \cdot 251$ は外面条痕、内面ナデ、247 は内外面条痕、249 は外面条痕、内面条痕のちナデ、250 は外面条痕のちナデ、内面条痕である。

252~261 は胴部が屈曲する深鉢で、252 はリボン状突起が付き、外面条痕のちナデ、内面ナデ、253 は突起が付き、内外面条痕のちナデ、254 は内外面条痕、255 は外面条痕、内面条痕のちナデ、256 は鰭状突起が付き、外面条痕、屈曲部以下ナデ、内面ナデ、257 はリボン状突起が付き、内外面ナデ、258 は外面条痕のちナデ、内面ナデである。259・260・261 は同一個体と考えられ、粘土紐が明瞭に観察できる部分があり、外面条痕のちナデ、内面ナデである。胎土が他のものと異なることなどから、搬入品もしくは時期が異なる可能性がある。

262 は口縁部が大きく外反する深鉢で、外面条痕、内面ナデである。263・264 は内湾ぎみの直口縁の深鉢で、263 は外面粗いナデ、内面ナデのち条痕、264 は外面条痕、内面ナデである。265・268 は口縁部がわずかに外反する深鉢で、265 は内外面ナデ、268 は外面条痕のちナデ、内面ナデである。

 $266 \cdot 267 \cdot 269 \sim 275$ は直口縁の深鉢である。266 は内外面条痕のちナデ、267 は外面条痕、内面ナデ、269 は外面条痕、内面条痕のちナデ、270 は内外面条痕、271 は外面条痕、内面ナデ、272 は突起が付き、外面条痕、内面ナデである。273 はほぼ完形で、小さな突起が1 ケ所に付き、内外面条痕のちナデである。274 は外面条痕、内面ナデ、275 は突起が付き、外面上半・内面条痕のちナデ、外面下半条痕である。

276 は浅鉢で、外面条痕、内面丁寧なミガキである。277 ~ 279 は口縁部が内傾する深鉢で、いずれも外面条痕、内面ナデである。280 ~ 283 は屈曲をもつ深鉢胴部で、280 は外面上半条痕、下半ナデ、内面ナデ、281 は外面に鉤状の粘土紐を貼り付け、内外面条痕、282・283 は内外面ナデである。284 は浅鉢胴部と思われ、外面に沈線が施され、内外面ミガキである。285 は深鉢胴部で、外面に凹線が施され、内外面ナデである。286・287 は突起が付く深鉢で、286 は補修孔と思われる穿孔があり、外面条痕、内面ナデ、287 は内外面条痕である。288 は深鉢で、外面条痕、内面ナデである。

 のちナデ、337 は内外面ナデである。

338~345は浅鉢底部で、338は外面条痕、内面ナデ、339~345は内外面ナデである。

 $346 \sim 362$ は深鉢底部で、 $346 \cdot 347$ は外面条痕、内面・底面ナデ、348 は外面条痕、内面ナデ、 $349 \cdot 351$ ~ 353 は内外面ナデ、 $350 \cdot 355$ は外面・底面条痕、内面ナデ、 $356 \sim 358$ は内外面ナデ、359 は外面条痕のちナデ、 $360 \sim 362$ は内外面ナデである。

 $363 \sim 392$ は深鉢底部である。363 は外面ナデ、内面・底面条痕、364 は内外面ナデ、底面条痕、 $365 \cdot 367$ は内外面ナデ、366 は外面条痕のちナデ、内面・底面ナデである。368 は外面ミガキ、内面・底面ナデで、底部ではない可能性がある。369 は内外面ナデで、底面は何らかの工具により上げ底に整形する。370 は内外面ナデ、371 は内外面ナデ、底面条痕のちナデ、 $372 \sim 374 \cdot 376$ は内外面ナデ、375 は内外面ナデ、底面条痕、377 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、378 は内外面ナデで、底面を何らかの工具により上げ底状に整形する。 $379 \sim 386 \cdot 388 \sim 391$ は内外面ナデ、 $387 \cdot 392$ は外面・底面ナデである。

 $393 \sim 435$ は刻目突帯文土器である。 $393 \sim 397$ は口縁端部からやや下がった位置に貼り付けられた突帯に大きな刻目が施されるもので、 $393 \cdot 394$ は外面条痕、内面ナデ、 $395 \sim 397$ は内外面ナデである。398 は刺突状の刻目が施されており、内外面ナデである。

 $399 \sim 430$ は口縁端部からやや下がった位置に貼り付けられた突帯に浅い刻目が施されるものである。 $399 \sim 420 \cdot 422 \sim 430$ は胴部が屈曲するもので、399 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、400 は内外面ナデ、401 は内外面条痕のちナデ、 $402 \cdot 403$ は外面ナデ、内面条痕のちナデ、 $404 \sim 420 \cdot 422 \sim 428$ は内外面ナデ、 $429 \cdot 430$ は同一個体と考えられ、内外面ナデである。421 はいわゆる砲弾型で、内外面ナデである。 $431 \cdot 432$ は口縁端部に貼り付けられた突帯に浅い刻目が施されるもので、ともに内外面ナデである。 $433 \sim 435$ は深鉢胴部で、433 はやや大きい刻目が施され、内外面条痕のちナデ、434 は外面ナデ、内面条痕のちナデ、435 は内外面条痕のちナデである。

436 は壺で、内外面ミガキである。437 は粗製の台付鉢と思われ、外面条痕のちナデ、内面ナデ、脚部内面条痕である。438 は全体に歪みが著しく、サイズが小さいことなどから朝鮮系無文土器の可能性があり、内外面ナデである。445 は高杯で、外面・杯部内面ミガキ、脚部内面ナデである。446・447 は壺で、同一個体の可能性があり、内外面ミガキである。448 は黒色磨研の可能性がある壺で、外面ミガキ、内面ナデである。449 は壺で、外面赤色顔料塗布後ミガキ、内面ナデである。

土製品 (図3-32)

439~444 は土器片を再利用した土製円盤で、439~442・444 は両面条痕、443 は片面条痕、片面ナデである。

弥生土器 (図3-32)

450 は甕で、口縁部ヨコナデ、内外面ナデ、451 は甕底部で、内外面ナデである。

石器 (図3-33~40)

1区で出土した石器類は既述した遺構出土分も合わせて、総数で8,052点である。このうち剥片石器とその石核・剥片・砕片が8,034点とほとんどを占め、磨製石器・礫石器は僅か18点にすぎない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が303点(うち黒曜岩38点、無斑晶質安山岩265点)、削器・掻器が137点(うち黒曜岩11点、無斑晶質安山岩126点)、石錐が8点(うち黒曜岩2点、無斑晶質安山岩6点)、石匙が1点(無斑晶質安山岩)で定形石器の大多数を石鏃が占めている。この他、二次加工ある剥片が220点(黒曜岩14点、無斑晶質安山岩206点)、微細剥離痕ある剥片が33点(うち黒曜岩6点、無斑晶質安山岩27点)、

剥片 7,059 点(うち黒曜岩 558 点、無斑晶質安山岩 6,501 点)、砕片(ここでは便宜的に 0.1 g以下の剥片を指す) 168 点(うち黒曜岩 16 点、無斑晶質安山岩 152 点)、石核 105 点(黒曜岩 33 点、無斑晶質安山岩 72 点)があり、剥片石器類の 9割以上は石核・剥片類である。剥片石器に用いられた石材は、鬼ノ鼻山・老松山産とみられる無斑晶質安山岩が 9割以上を占め、ほとんど腰岳産とみられる黒曜岩は 1割に満たない。

磨製石器・礫石器は、蛇紋岩製の磨製石斧1点、花崗岩を主とする磨石14点、石皿1点、槌石2点があるが、 打製石器に比して量が少ない。磨製穂摘具などの大陸系磨製石器は出土しておらず、嘉瀬川に面していながら石錘 もない。

打製石器 (図3-33~38)

 $452 \sim 533$ は石鏃である。東畑瀬遺跡 1 区でもっとも多く出土した器種で、長さは $1.6 \sim 4.1$ cm の中で大小があるが、 $2.0 \sim 3.5$ cm の範囲に集中する。全体の形状は側縁がやや膨らんだ二等辺三角形のものがほとんどで、五角形に近いものも目立つ。基部は微凹基を主とし、平基のものもある。

 $534 \sim 538$ は石錐である。両面調整を施した 535 のようなものもあれば、調整加工が刃部の作出に限られる $537 \cdot 538$ のようなものもあり、大きさもまちまちである。

539は横型の石匙である。刃部の調整加工は丁寧であるが、つまみの作り出しは粗く、寸法も石匙としては小さい。 540~558は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いて刃部のみに調整を施した削器で、調整剥離の程度はさまざまである。

559~563 は形の整った石刃状の縦長剥片の縁辺に調整加工を施した削器である。やはり調整剥離の程度はさまざまである。全て黒曜岩製で、鈴桶技法によるものの可能性があるが、量的には僅かで、鈴桶技法の石核や剥片鏃は出土していない。

564~566 は石核で、564 は打面転移を頻繁に繰り返した小型の残核である。

磨製石器・礫石器 (図3-39~40)

567 は蛇紋岩製の磨製石斧である。両凸刃で、断面は厚みがある。

 $568 \sim 577$ は磨石で、表裏両面に使用によると思われる摩滅が認められる。岩石鑑定は行っていないが、花崗岩類が主体のようである。

槌石は図示していないが、長さ $4\sim5$ cm の扁平な円礫の周縁に細かな敲打痕を留めるもので、 2 点とも F13 区画で石鏃をはじめとする多量の剥片石器類と共に出土しており、打製石器の製作に用いられたものとみられる。

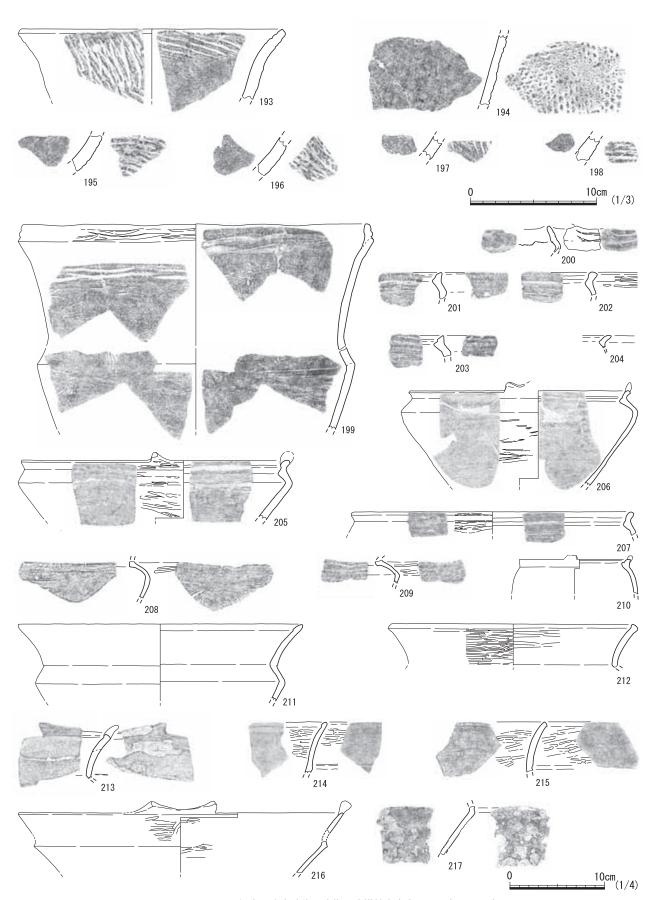


図 3 - 22 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 1 (1/3、1/4)

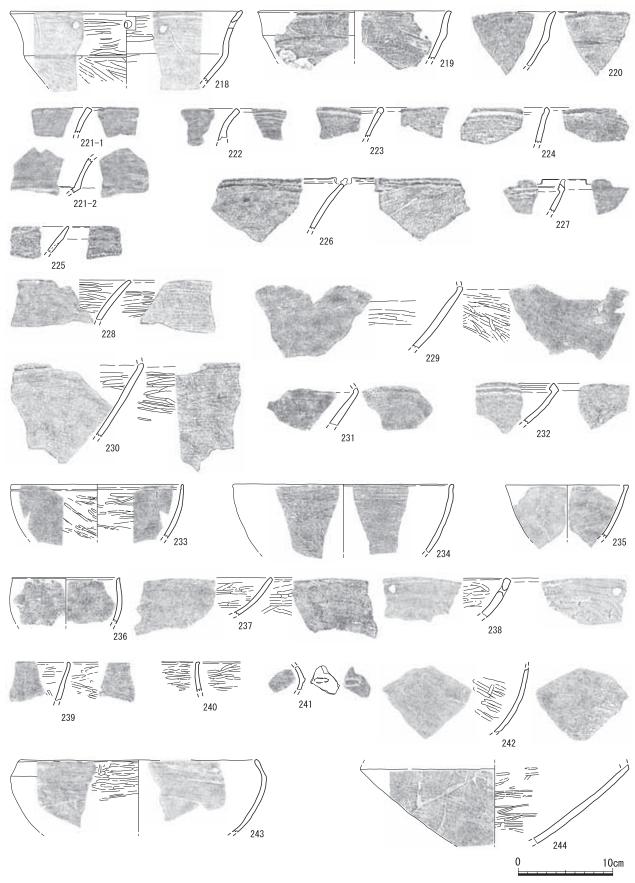


図3-23 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器2 (1/4)

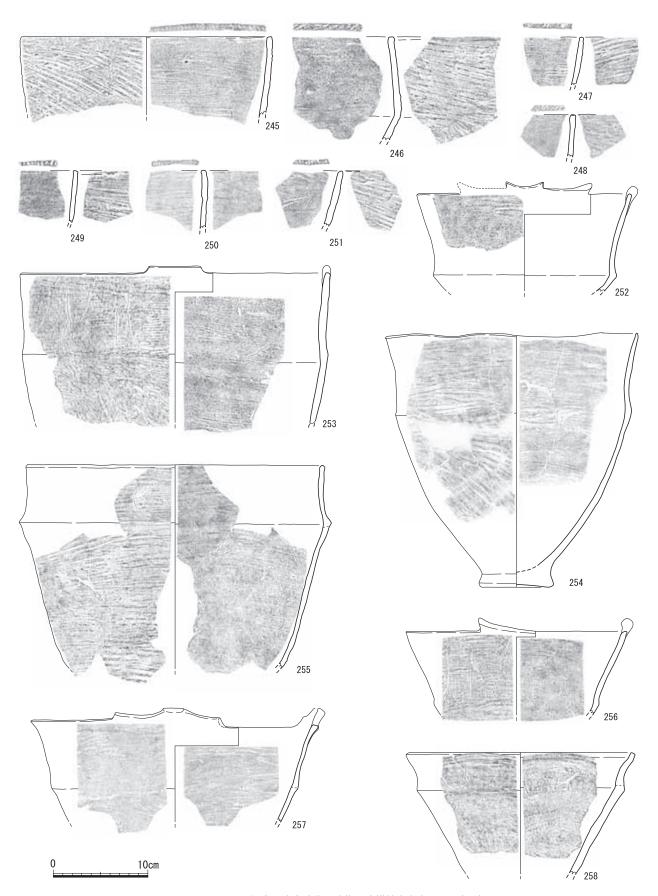


図3-24 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器3 (1/4)

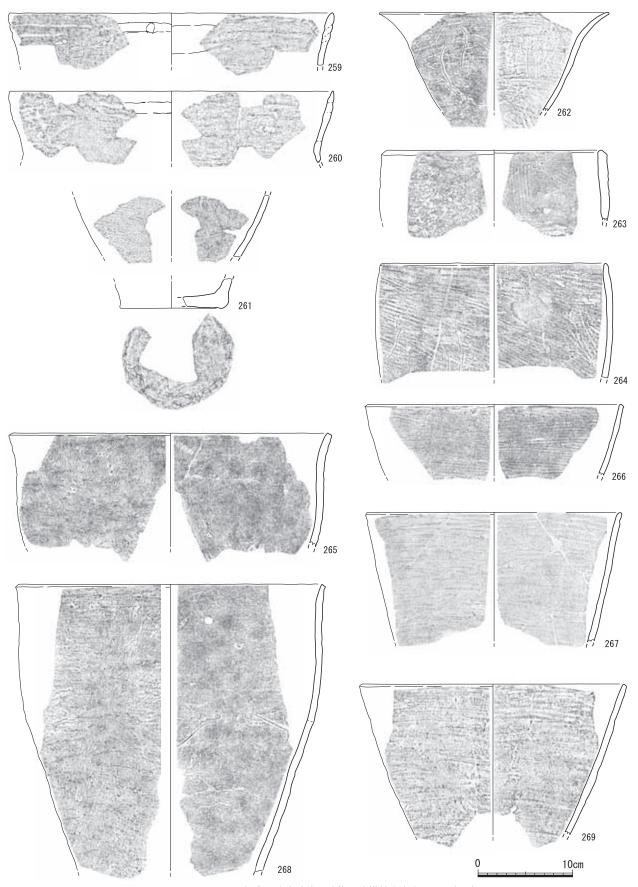


図3-25 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器4 (1/4)

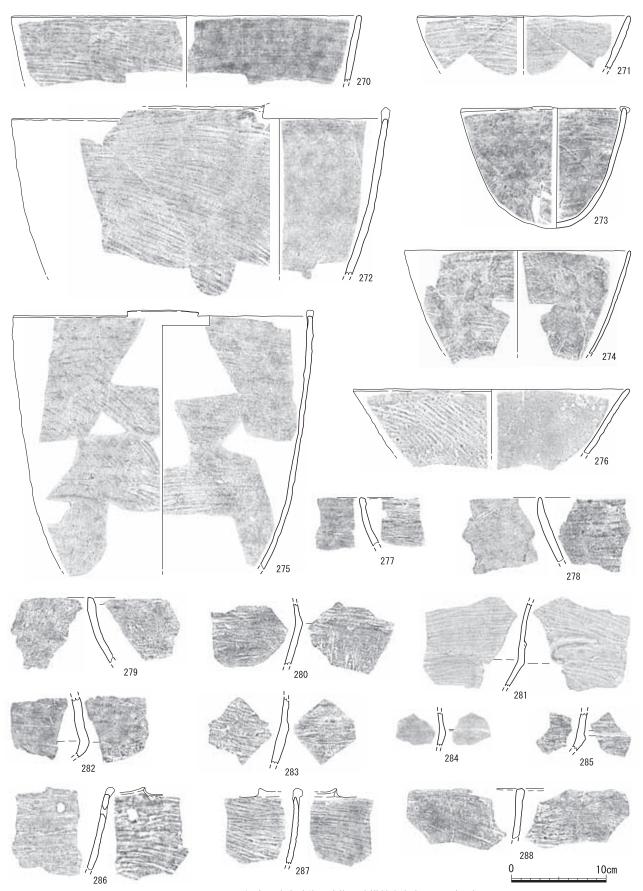


図3-26 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器5 (1/4)

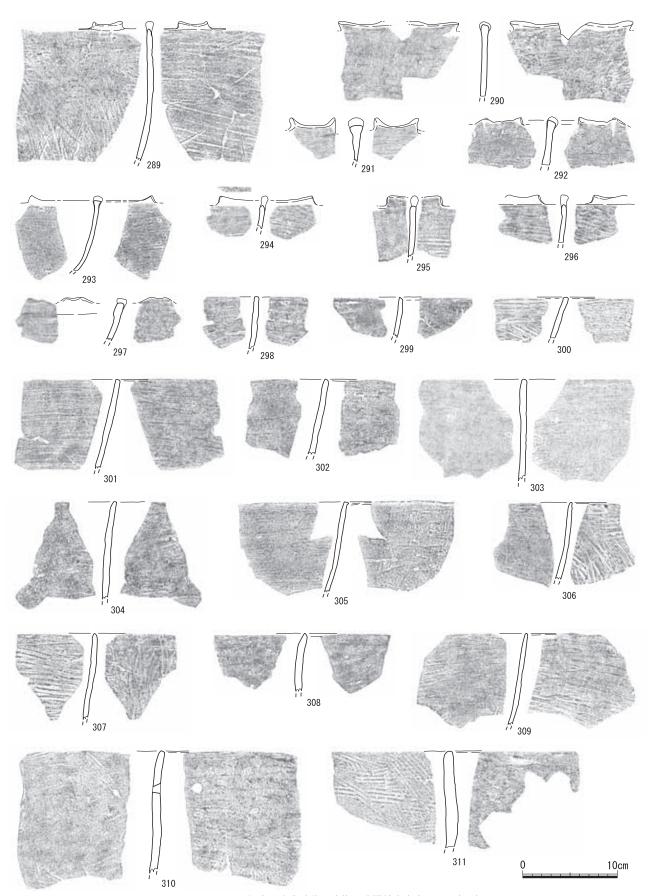


図3-27 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器6 (1/4)

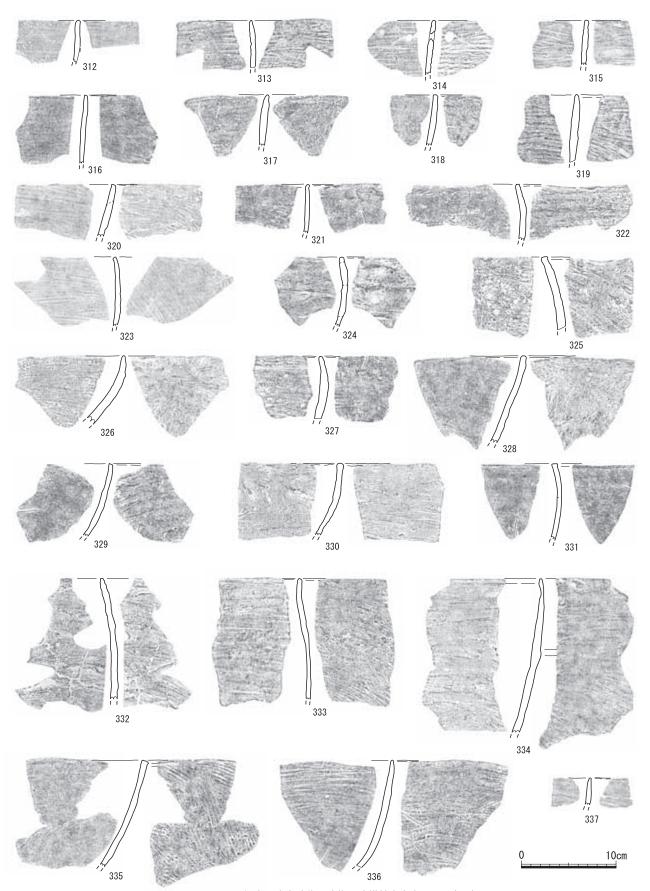


図3-28 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器7 (1/4)

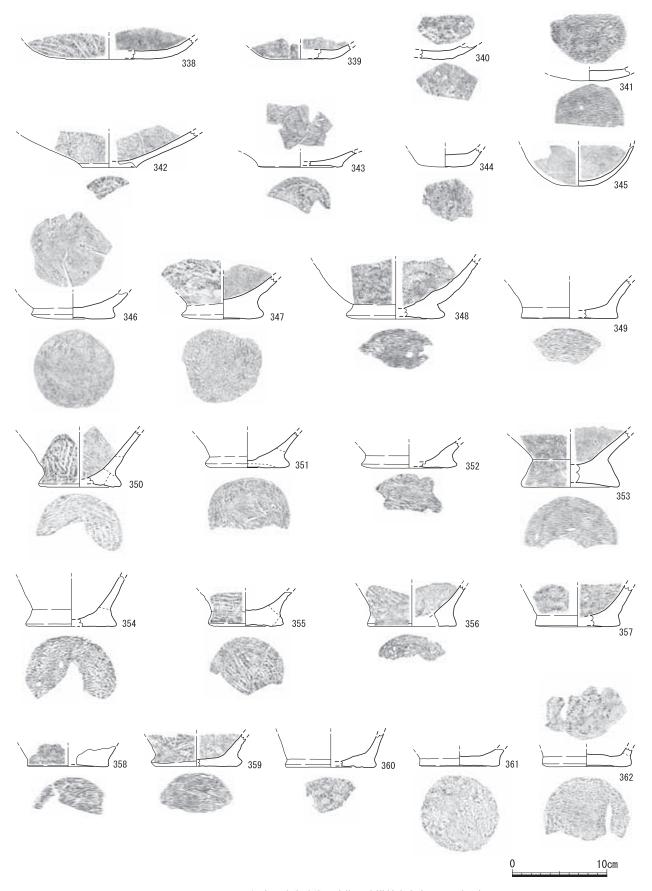


図3-29 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器8 (1/4)

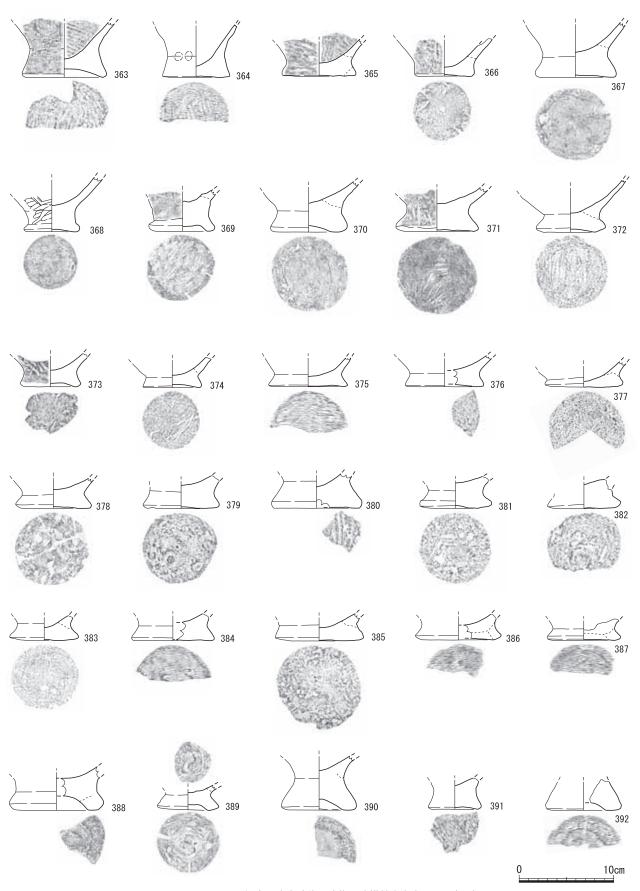


図3-30 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器9 (1/4)

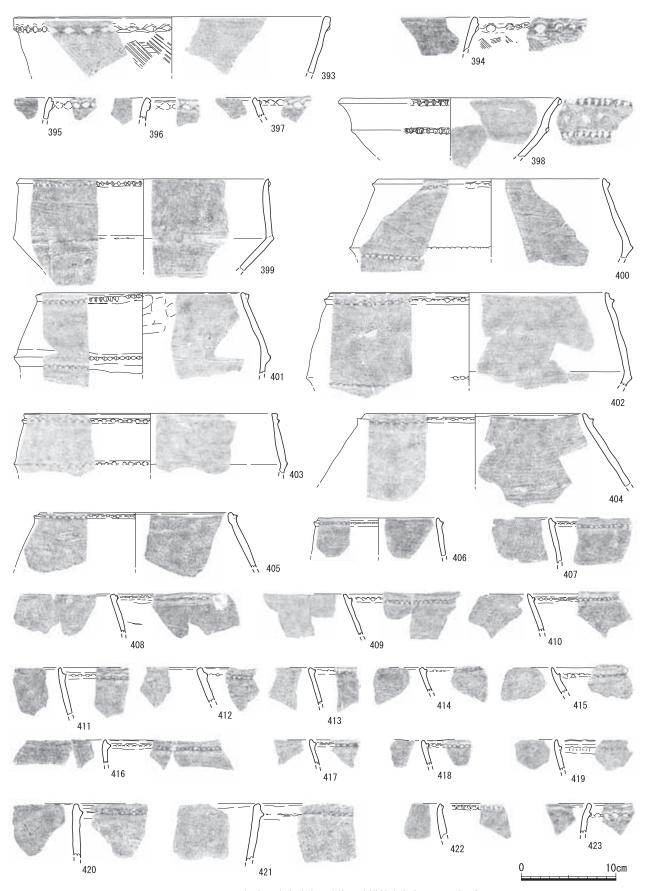


図3-31 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器10 (1/4)

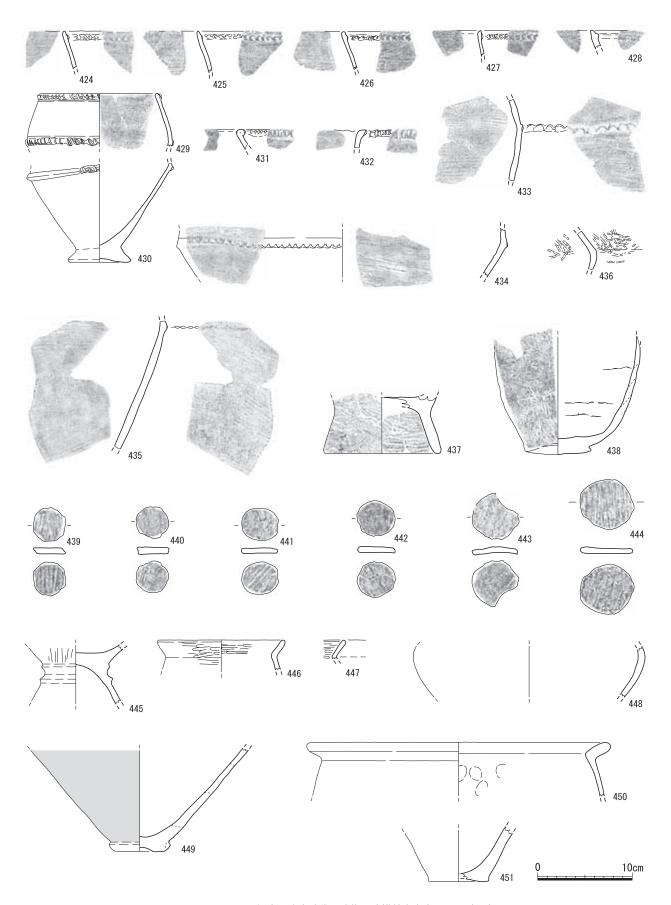


図3-32 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土土器 11 (1/4)

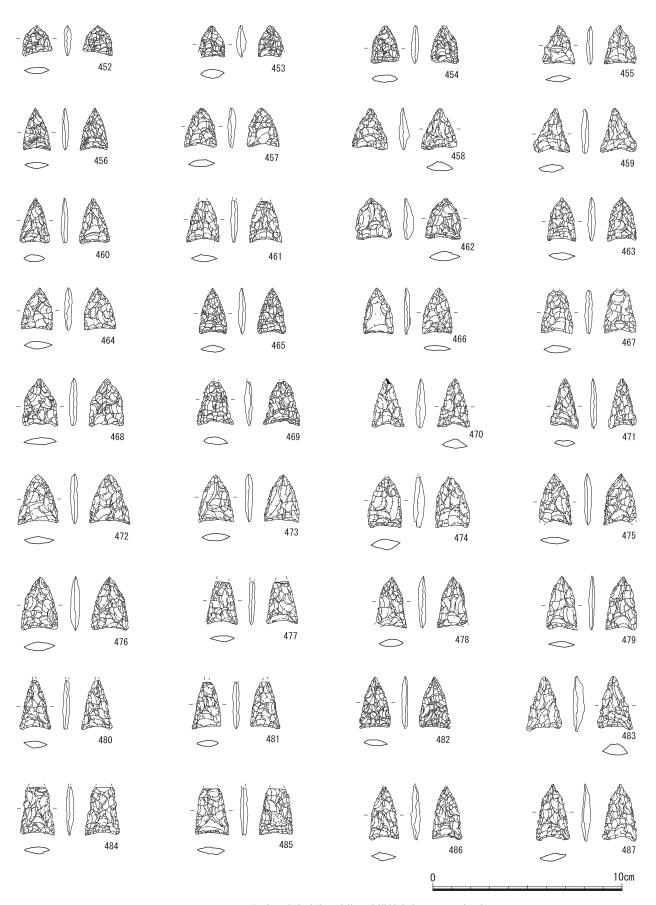


図3-33 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器1 (1/2)

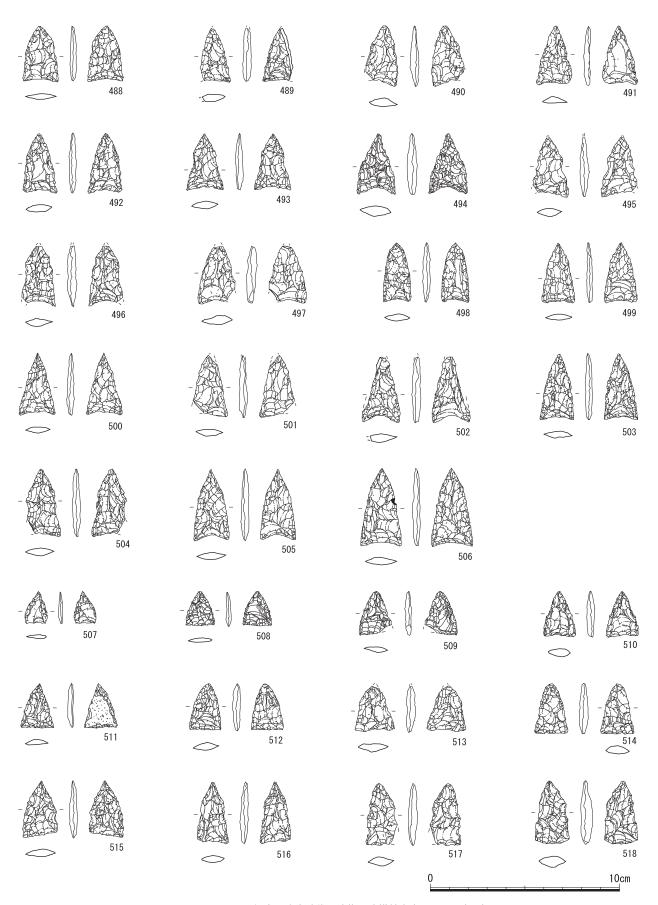


図3-34 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器2 (1/2)

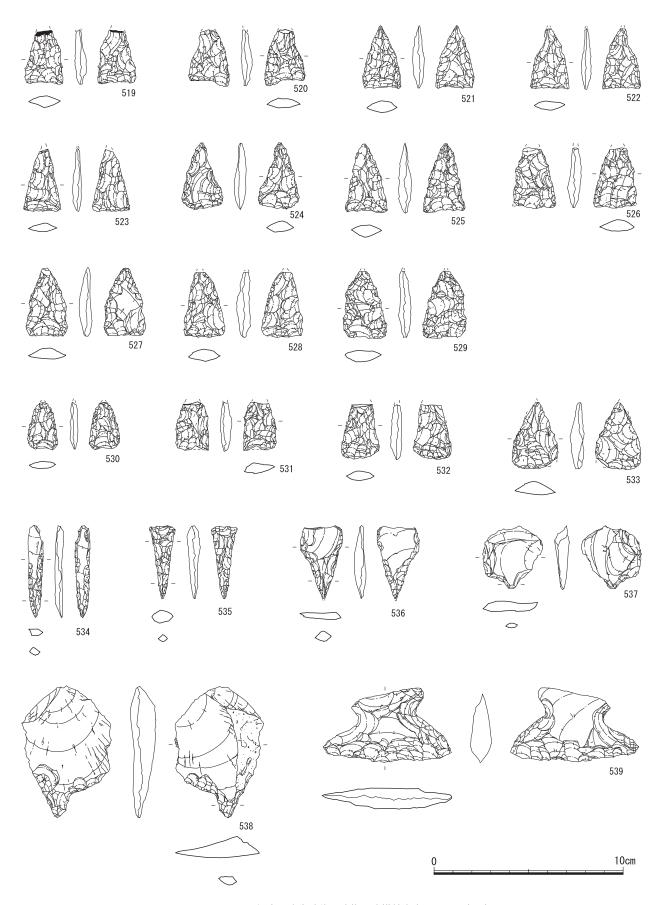


図3-35 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器3 (1/2)

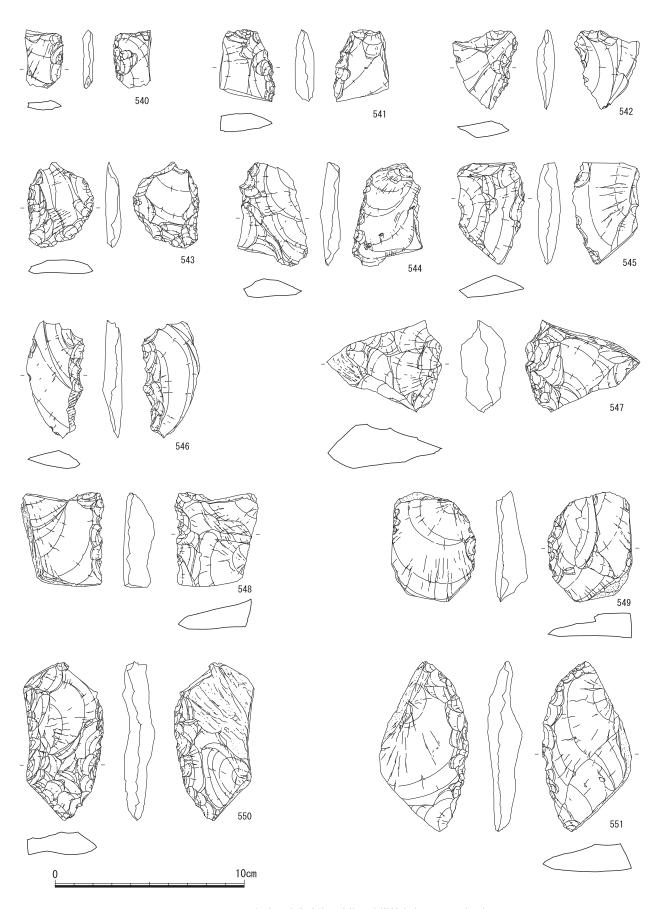


図3-36 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器4 (1/2)

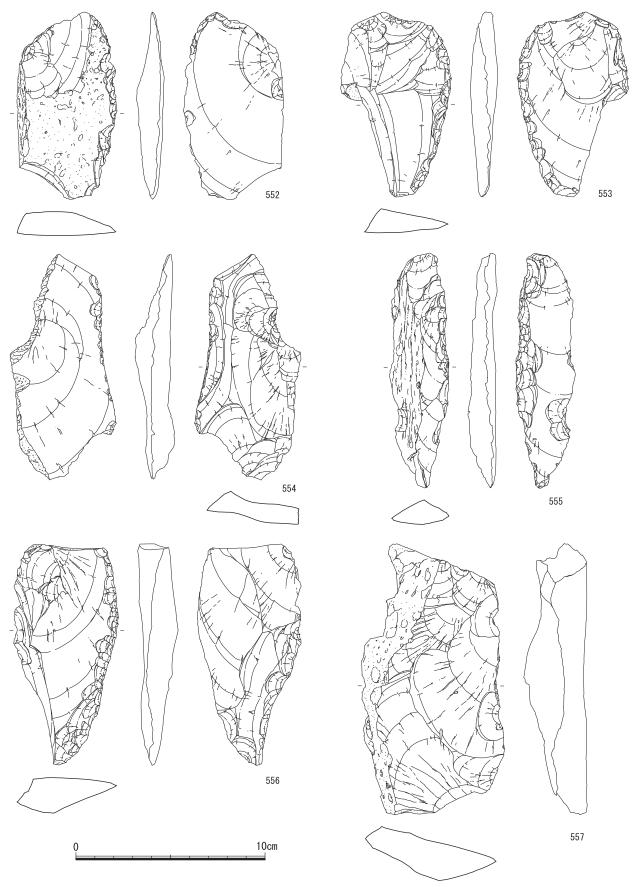


図3-37 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器5 (1/2)

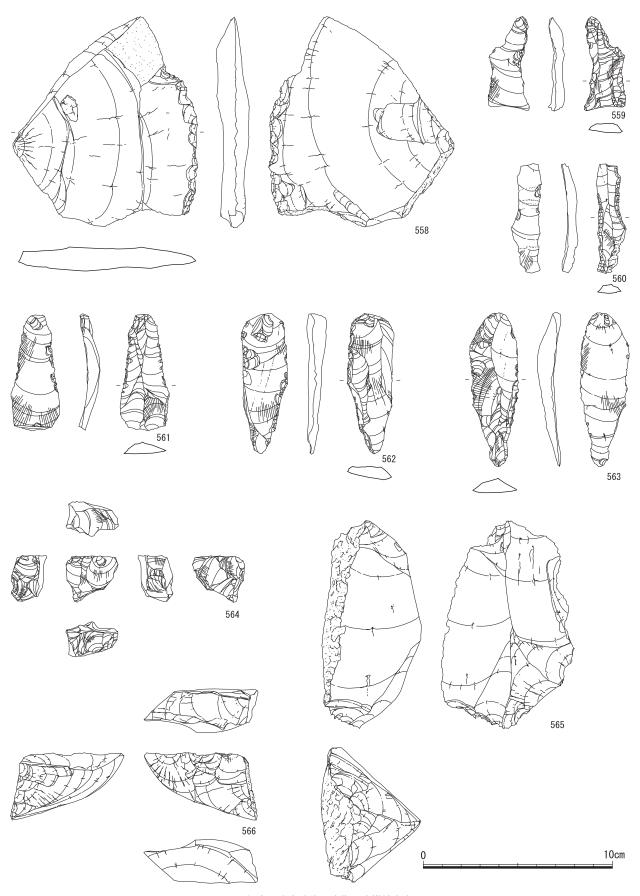


図3-38 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器6 (1/2)

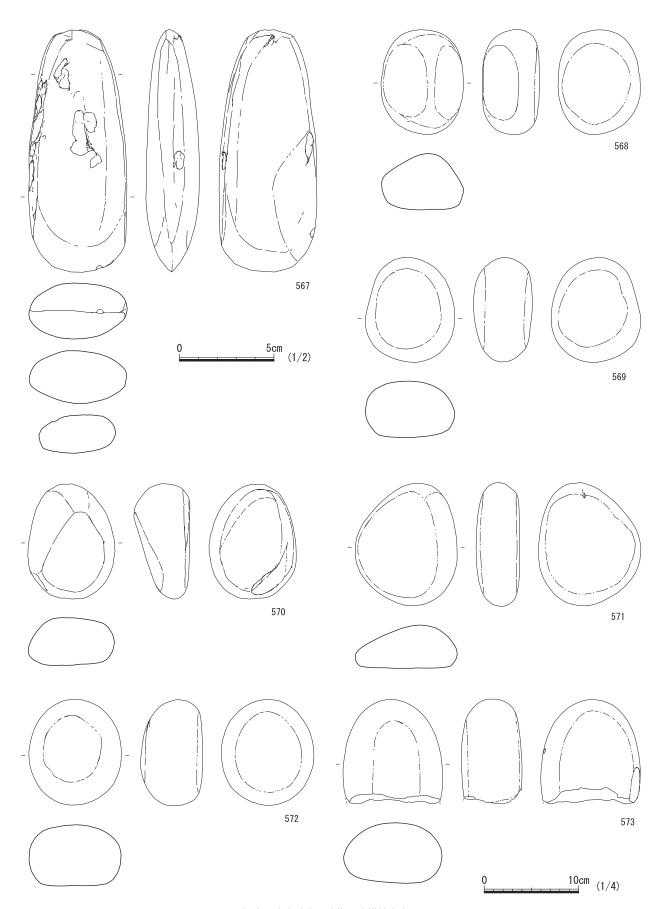


図 3 - 39 1 区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器 7 (1/2、1/4)

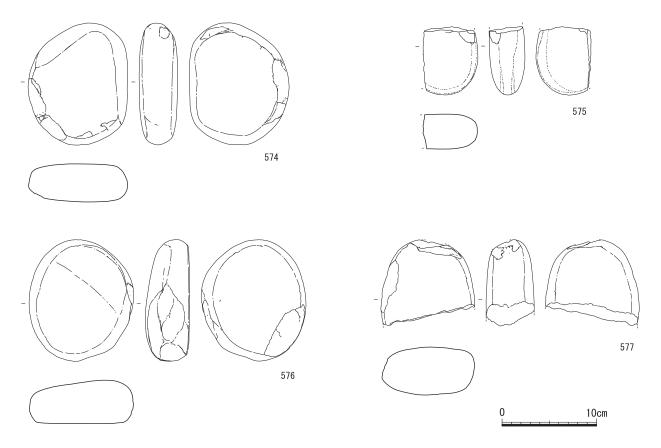


図3-40 1区縄文~弥生時代の遺物 遺構外出土石器8 (1/4)

2) 3区縄文~弥生時代の遺構と遺物

縄文~弥生時代の遺構・遺物は、3 A 区北側の緩斜面に限られ、1 区の遺構・遺物分布とは隔たっている。当該期の遺構としたものは土坑2 基と焼礫集積遺構1 基で、遺物の出土量も1 区に比して少ない。

SK3002 (図3-45)

3 A 区北側に位置する。長軸 1.28 m、短軸 0.88 m、深さ 0.40 mで、平面は楕円形である。底面は平坦で、壁はきつく立ち上がる。遺物は出土しなかったが、周囲からは縄文時代後期~晩期の土器が出土している。

SK3003 (図3-45)

3 A区北側に位置する。長軸 1.32 m、短軸 1.24 m、深さ 0.68 mで、平面は楕円形である。底面に小穴があるが、この遺構に伴うものかどうかは判らない。底面の南端に礫がややまとまっているが、これも人為的なものかどうか判断できない。遺物は出土しなかったが、周囲からは縄文時代後期~晩期の土器が出土している。

SX3004 (図3-45)

3 A 区北側に位置する焼礫集積遺構である。 2.5×1.4 mの範囲に被熱によると思われる赤化・黒化礫を含む礫 50 個以上がまとまるもので、掘り込みは確認されず、礫の集中度は低い。明確にこの遺構に伴う遺物はないが、縄文時代前期の遺物が集中する箇所に接しており、前期の遺構である可能性が高い。

3区の出土遺物 (図3-46~52)

前期の土器 (図3-46・47)

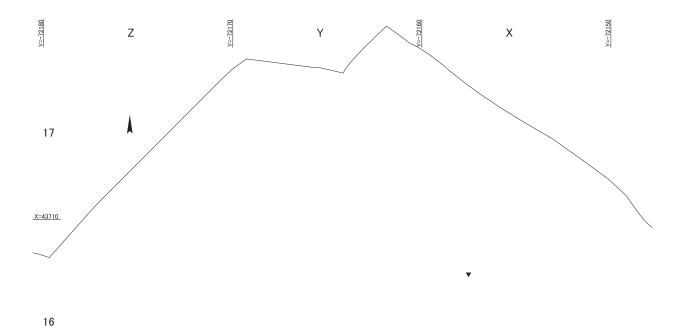
 $578 \sim 580$ は轟 B 式系で、578 は突帯に刻みが施され、内外面条痕のちナデ、579 は外面ナデ、内面条痕のちナデ、580 は内外面条痕のちナデである。 $581 \cdot 584$ は西唐津式で、581 は胎土に滑石を含み、内外面ナデ、584 は内外面ナデである。 $582 \sim 636$ は曽畑式で、胎土に滑石を含むものが大多数である。口縁内面の文様には押引、刺突、短沈線などがみられ、632 は外面ナデ、内面条痕、それ以外は内外面ナデである。

中~晩期の土器 (図3-48・49)

637 は中期末~後期初頭のものと考えられ、胎土に滑石を含み、外面ナデ、内面条痕のちナデである。638 は春日式系の可能性があり、内外面ナデである。

639 は浅鉢で、外面に沈線が施され、内外面ナデ、 $640 \cdot 641$ は精製深鉢胴部で、内外面ミガキである。 $642 \sim 645$ は浅鉢で、642 は口縁外面に沈線が施され、内外面ミガキ、644 は内外面ミガキ、645 は内外面ナデである。 $646 \sim 654$ は深鉢で、 $646 \cdot 648 \cdot 649$ は外面条痕、内面ナデ、 $647 \cdot 651$ は内外面ナデ、 $650 \cdot 653$ は外面条痕、内面条痕のちナデ、652 は内外面ミガキ、654 は突起が付くものと考えられ、外面条痕、内面ナデである。

 $655 \cdot 656 \cdot 658$ は浅鉢で、 $655 \cdot 656$ は内外面ナデ、658 は外面条痕のちナデ、内面ミガキである。 $657 \cdot 659 \sim 665$ は深鉢で、659 はリボン状突起がつき、 $657 \cdot 659 \sim 662$ は外面条痕、内面ナデ、663 は外面条痕のちナデ、内面ナデ、 $664 \cdot 665$ は内外面ナデである。 $666 \sim 671 \cdot 673$ は浅鉢と思われ、 $666 \cdot 667$ は内外面ミガキ、668 は突起が付き、 $668 \sim 670 \cdot 673$ は内外面ナデ、671 は外面ナデ、内面ミガキである。672 は深鉢胴部で、内外面上半ナデ、下半条痕である。 $674 \sim 677$ は深鉢底部で、674 は外面ナデ、内面条痕のちナデ、675 は外面条痕、内面ナデ、676 は内外面条痕、底面ナデ、677 は内外面ナデである。 $678 \cdot 679$ は浅鉢底部で、678 は外面ナデ、内面・底面ミガキ、679 は内外面ナデである。



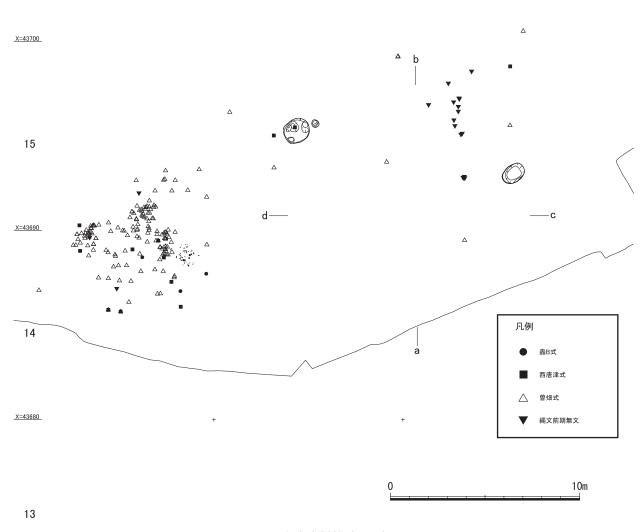


図3-41 3区縄文時代前期土器分布 (1/200)

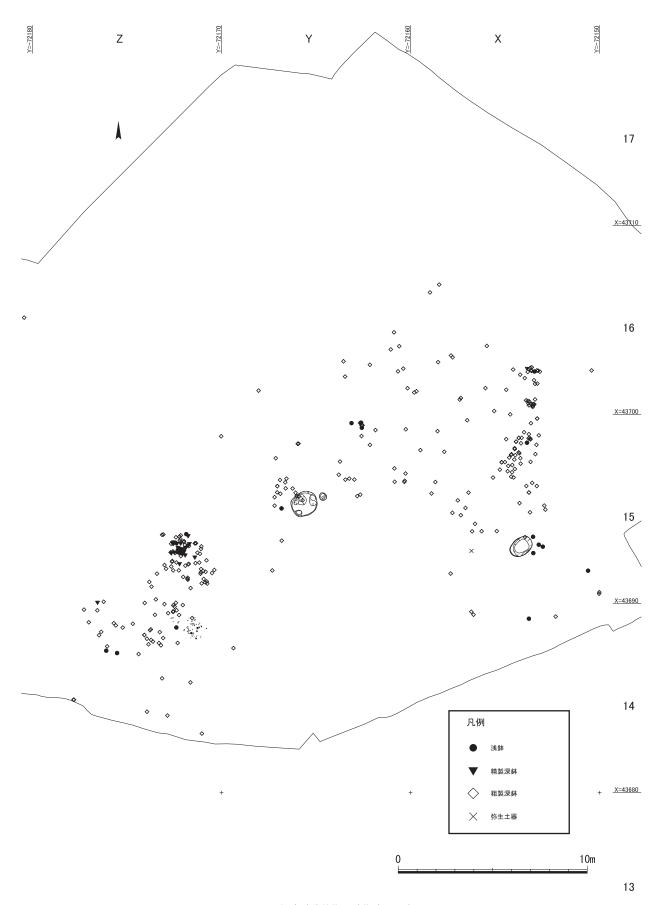


図3-42 3区縄文時代後期~晩期土器分布 (1/200)

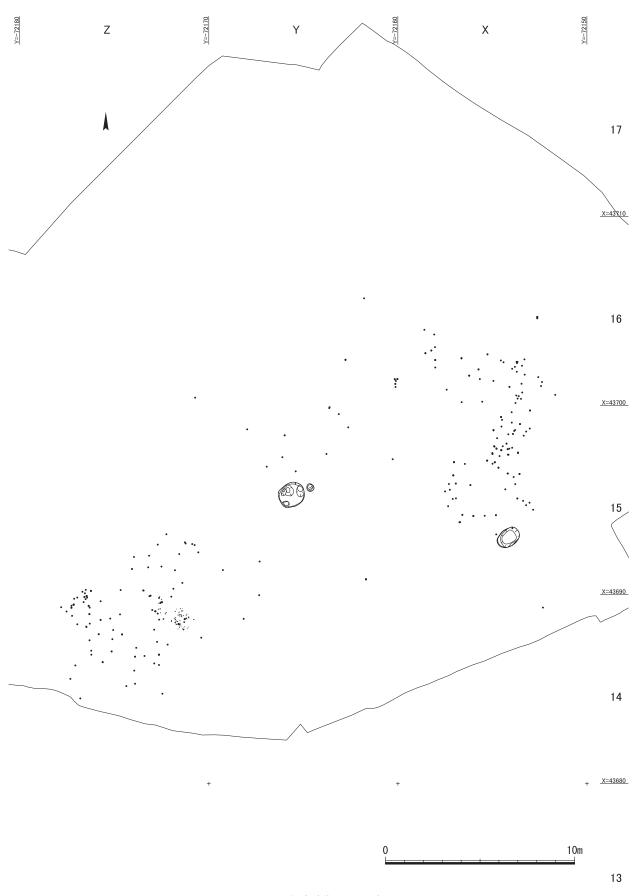


図 3 - 43 3 区縄文時代石器の分布 (1/200)

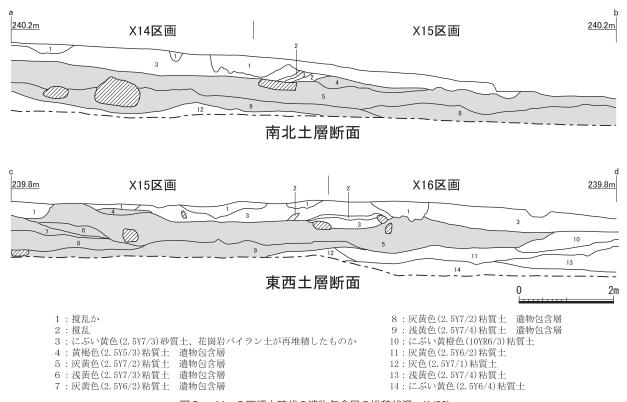


図3-44 3区縄文時代の遺物包含層の堆積状況 (1/80)

弥生土器 (図3-49)

680・681 は甕で、680 はヨコナデ、681 は口縁部ヨコナデ、内外面ナデである。

打製石器 (図3-50~52)

 $682 \sim 707$ は石鏃である。 $682 \sim 688$ は凹基式で、抉りが深い古相のものを含む。 $689 \sim 707$ は微凹基ないし平基の二等辺三角形のもので、1 区出土資料に近い。

 $708 \sim 710$ は石鏃未製品と思われるもので、いずれも主要剥離面を大きく留める。製作途中の折損等により放棄されたものと見られる。

711 ~ 723 は小型の両面調整石器で、調整剥離は比較的丁寧であるが、外形は全体に丸みを帯び、小型の削器の一種か、石鏃の未製品ないし再加工途上のものかと思われる。

724~726は剥片の一部に調整剥離を施して刃部を作出した削器である。

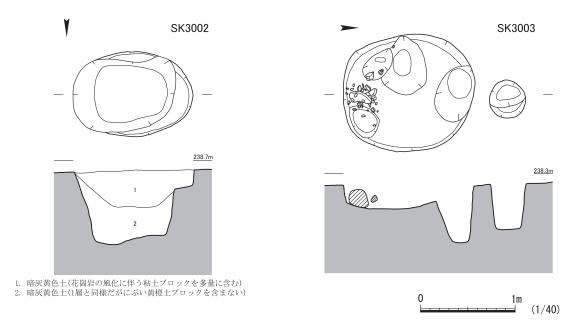
727は縦型の石匙で、調整剥離は刃部とつまみの作出に留まる。石匙としては小さなものである。

728~730・733・734 は石核、731・732 は剥片である。

磨製石器・礫石器(図3-52)

735 は蛇紋岩製の磨製石斧で、研磨による細かな稜を留め、薄い断面のものである。縄文時代前期に伴う可能性が強い。

 $736 \sim 739$ は磨石である。 $737 \sim 739$ は使用による摩滅痕を留める。736 は棒状のあまり例を見ないもので、表面は磨耗しているが使用痕かどうかはっきりしない。



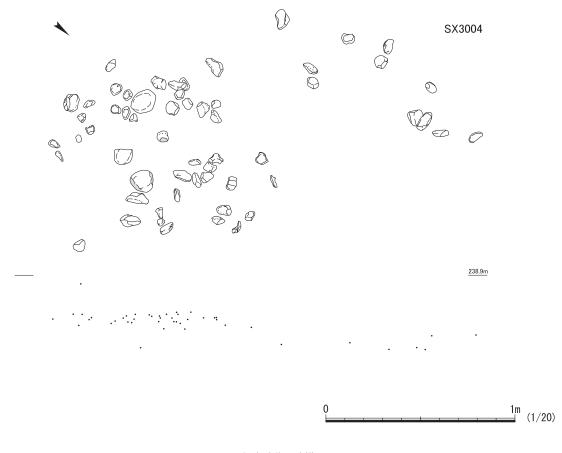
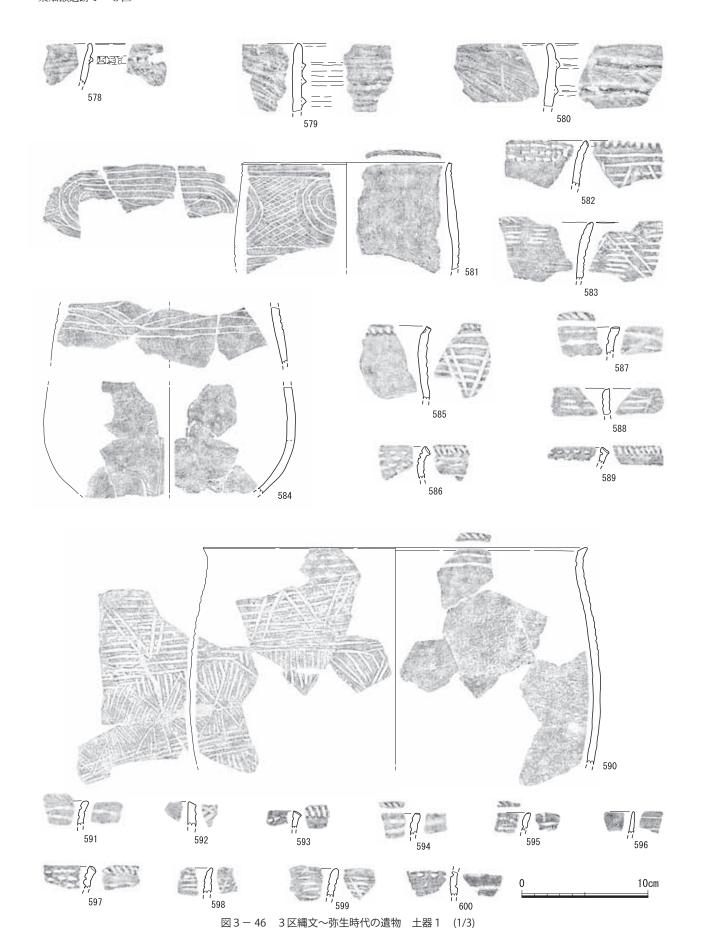


図3-45 3区縄文時代の遺構 (1/40、1/20)



70

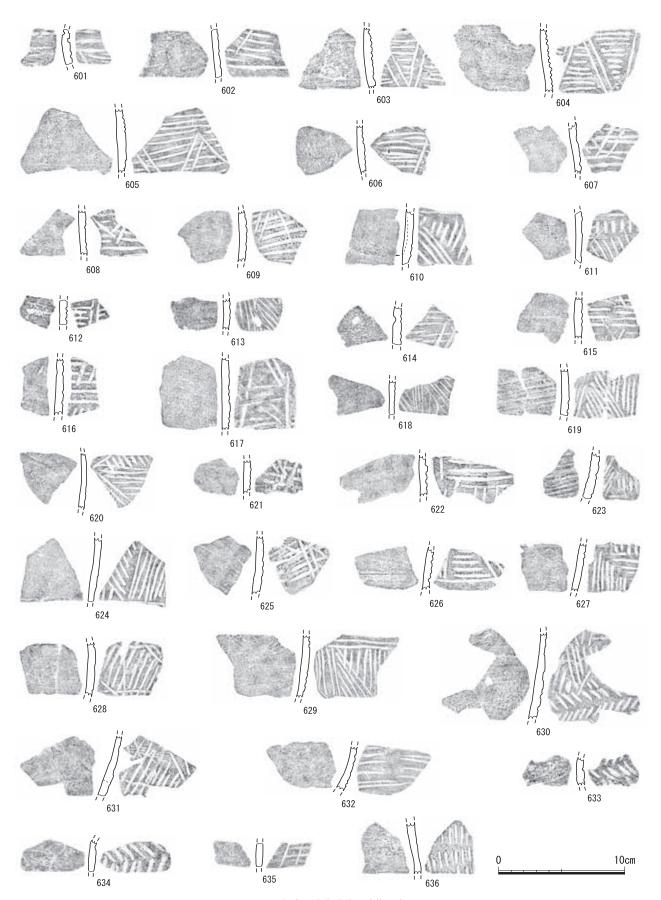


図3-47 3区縄文~弥生時代の遺物 土器2 (1/3)

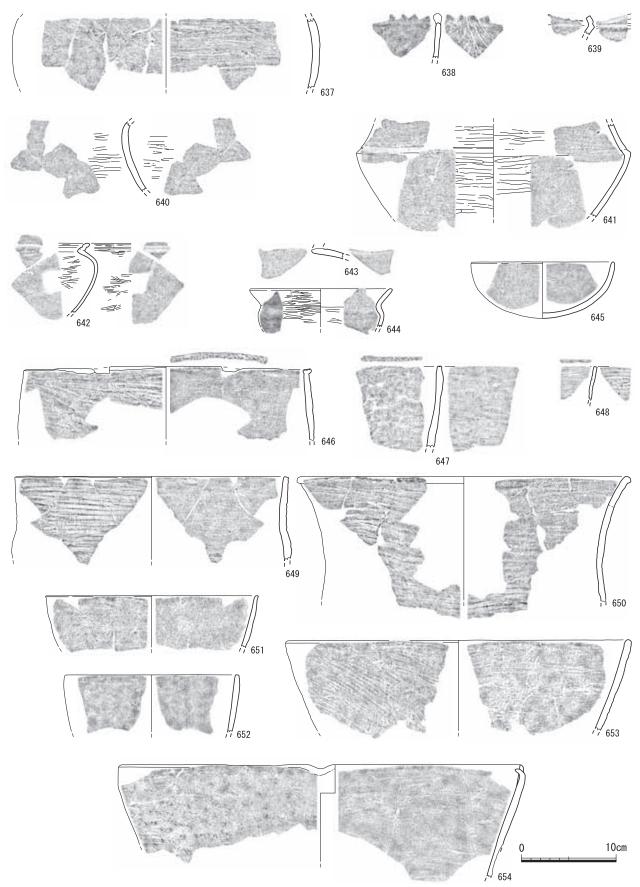


図3-48 3区縄文~弥生時代の遺物 土器3 (1/4)

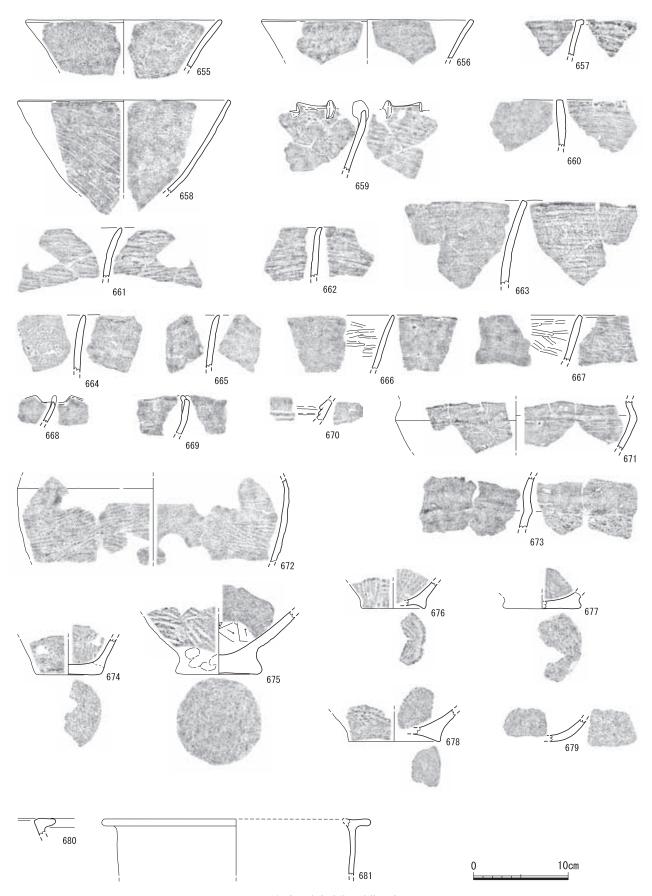


図3-49 3区縄文~弥生時代の遺物 土器4 (1/4)

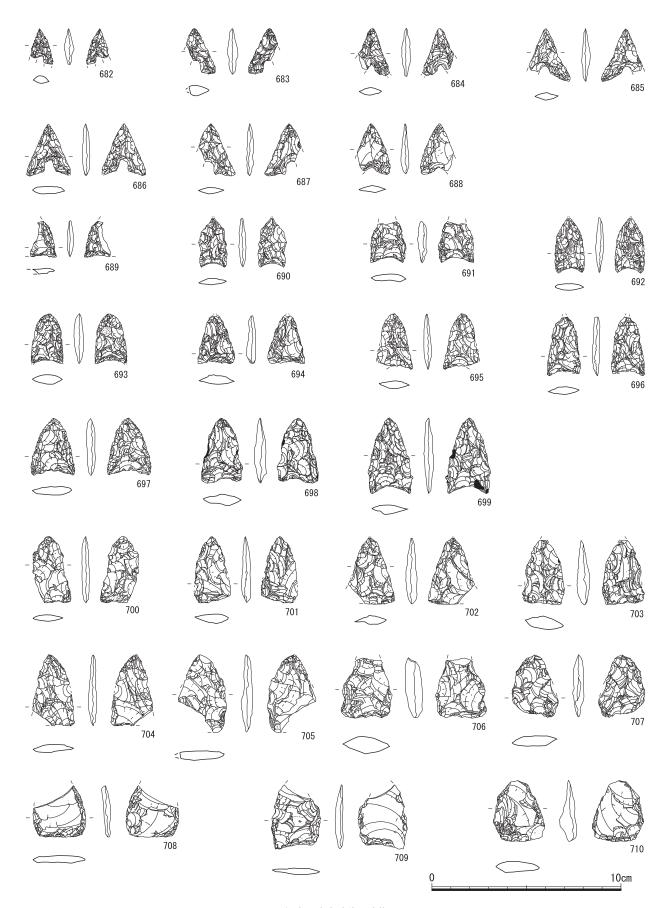


図3-50 3区縄文~弥生時代の遺物 石器1 (1/2)

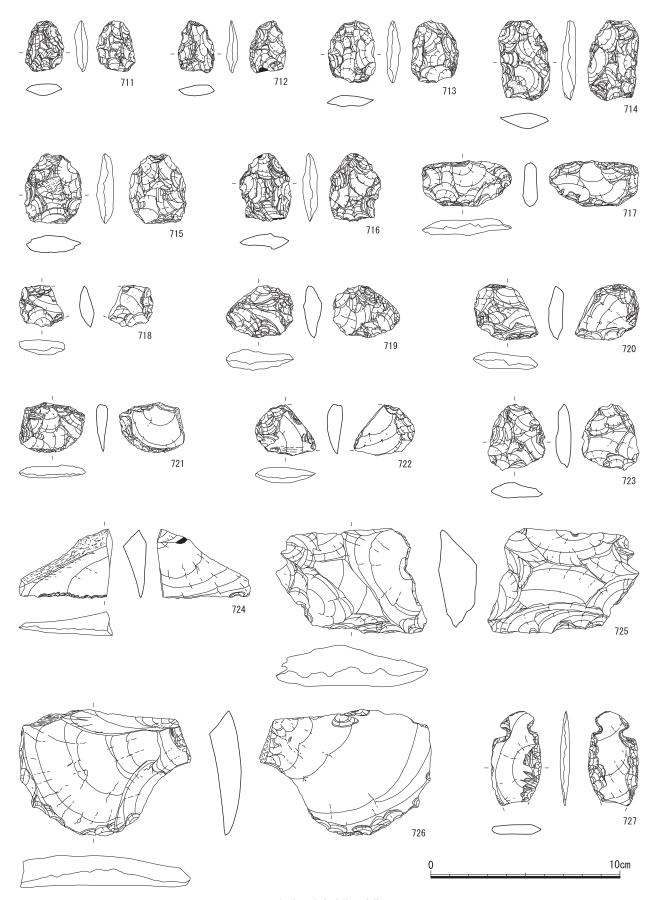


図3-51 3区縄文~弥生時代の遺物 石器2 (1/2)

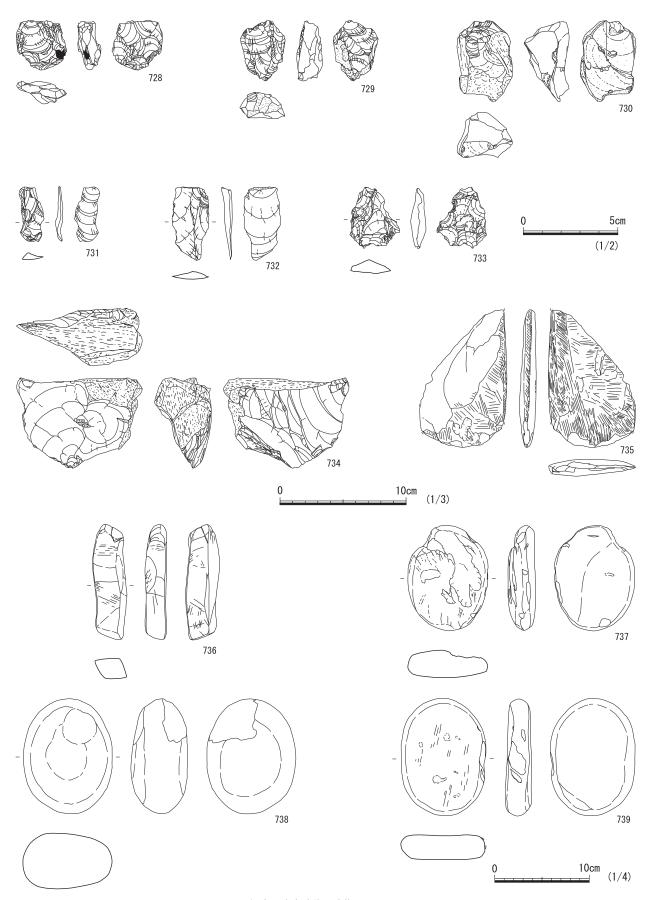


図3-52 3区縄文~弥生時代の遺物 石器3 (1/2、1/3、1/4)

表3-1 1区縄文~弥生時代の遺構出土土器

				5 — I	'	ベス・デット → 100 / 返 博正		
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-12-1	SH1110	縄文土器	- LT主		66回	外:灰黄褐	-	3-8
04002728 3-12-2		深鉢 弥生土器				内:明赤褐 外:暗褐	to the second of	20070354 3-8
04001599	SH1110	獲	32.1	-	-	内:明赤褐	傾きは不確実	20070355
3-12-3 04002730	SH1110	弥生土器 壺	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	内外面赤色顔料塗布	3-8 20070356
3-12-4 04002729	SH1110	弥生土器	-	-	-	外:明赤褐 内:橙	外面赤色顔料塗布	3-8 20070357
3-12-5	SH1110	壺 弥生土器				外:赤褐	外面赤色顔料塗布	3-8
04002586 3-12-6	SK1114	壺 弥生土器				内:橙 外:橙		20070358 3-8
04001897	SK1114	壺	-	-	-	内:橙	外面赤色顔料塗布 傾きは不確実	20070359
3-12-7 04001878	SK1114 E17 区画	弥生土器 壺	-	-	-	外:明赤褐 内:橙	外面赤色顔料塗布	3-8 20070360
3-12-8	SX1139	縄文土器	35.4*	-	-	外:明黄褐	石囲炉中央の土器敷に利用	3-8
04001890 3-12-9	07/1100	深鉢 縄文土器	00.0*			内:明黄褐 外:にぶい黄橙		20070361 3-8
04001888	SX1139	深鉢	36.6*	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070362
3-12-10 04001889	SX1139	縄文土器 深鉢	29.1*	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-8 20070363
3-12-11 04001887	SX1139	縄文土器 深鉢	36.8*	-	-	外:浅黄 内:浅黄	-	3-8 20070364
3-12-12	SX1139	縄文土器	36.3*			外:にぶい黄橙		3-8
04001886 3-12-13	3/1139	浅鉢 縄文土器	30.3	-	-	内:にぶい黄橙 外:明黄褐	-	20070365 3-8
04001891	SX1139	深鉢	-	-	-	内:明黄褐	-	20070366
3-12-14 04001892	SX1139	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:浅黄橙 内:浅黄橙	口縁内外面に沈線	3-8 20070367
3-13-15	SK1102	縄文土器	_	_		外:にぶい褐	内外面煤付着	3-8
04001816 3-13-16		浅鉢 縄文土器				内:にぶい褐 外:にぶい黄橙	1 17 [[[]]] []	20070368 3-8
04001815	SK1102	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070369
3-13-17 04001603	SK1107	縄文土器 浅鉢	32.0	-	-	外:明褐 内:明褐	突起に焼成後穿孔	3-8 20070370
3-13-18	SK1107	縄文土器	-	-	-	外:灰褐	-	3-8
04001906 3-13-21	CV1110	深鉢 縄文土器	24.7	_		内:にぶい橙 外:にぶい褐	 外面煤付着 1821 と同一個体	20070371 3-8
04001820 3-13-22	SK1118	深鉢 縄文土器	24.7	-	-	内:にぶい褐 外:明赤褐	外間深刊有 1821 と同一個体	20070372 3-8
04001821	SK1118	深鉢	-	-	-	内:褐	1820 と同一個体	20070373
3-13-23 04001865	SK1122	縄文土器 浅鉢	24.0	-	-	外:褐 内:褐	-	3-8 20070374
3-13-24	SK1122	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	3-8
04001866 3-14-25		深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい赤褐		20070375 3-8
04001817	SK1101	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	-	20070376
3-14-26 04001907	SK1129	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	焼成後穿孔	3-8 20070377
3-14-27	SK1129	縄文土器	-	-	-	外:暗灰黄	-	3-8
04001908 3-14-28	CV 1 1 2 1	深鉢 縄文土器				内:暗灰黄 外:橙		20070378 3-8
04001843 3-14-29	SK1121	深鉢 縄文土器	-	-		内:橙 外:灰黄褐	-	20070379 3-8
04001842	SK1121	深鉢	-	-	-	内:灰黄褐	-	20070380
3-14-30 04001841	SK1121	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:黄灰	-	3-8 20070381
3-14-31	SK1128	縄文土器	16.6*	6.2*	16.0	外:橙	内外面に煤付着	3-8
04001598 3-14-32		深鉢 縄文土器			- 0.0	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	/ 1 leat//21 -/ E	20070382 3-8
04001712	SX1134	深鉢	31.9*	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070383
3-14-33 04001711	SX1134	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい褐 内:にぶい褐	-	3-8 20070384
3-14-34	SX1134	縄文土器	-	-	-	外:橙	-	3-8
04001707 3-14-35	SX1134	深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄橙		20070385 3-8
04001709 3-14-36	JA1134	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	-	20070386 3-8
04001708	SX1134	深鉢	-	9.1*	-	内:にぶい黄橙	-	20070387

表3-1 1区縄文~弥生時代の遺構出土土器

		1	10.	3 – 1	1 12	闸义·□州土时1002退闸山 -		1
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-14-37	CV1104	縄文土器	口往			外:にぶい橙		3-8
04001710	SX1134	浅鉢?	-	7.1*	-	内:にぶい橙	-	20070388
3-14-39 04001704	SK1137	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	3-8 20070389
3-14-40	SK1137	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	3-8
04001703 3-15-42	OKT TO !	深鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		20070390 3-8
04001605	SK1132	浅鉢	12.0*	-	-	内:橙	-	20070391
3-15-43 04001588	SK1132	縄文土器 浅鉢	26.0*	-	-	外:黒 内:褐	-	3-8 20070392
3-15-44	CV 1 1 2 2	縄文土器	20.4			外:橙		3-8
04001647	SK1132	深鉢	26.4	-	-	内:橙	-	20070393
3-15-45 04001745	SK1132	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰黄褐 内:灰黄褐	-	3-8 20070394
3-15-46	SK1132	縄文土器	-	_	-	外:灰黄	外面煤付着	3-8
04001920 3-15-47		深鉢 縄文土器				内:灰黄 外:にぶい黄橙	7110/3017	20070395 3-8
04001753	SK1132	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070396
3-15-48 04001755	SK1132	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	3-8 20070397
3-15-49	SK1132	縄文土器		6.9		外:にぶい黄橙		3-8
04001570	3K113Z	深鉢	-	0.9	-	内:黒褐 外:にぶい黄褐	-	20070398
3-15-50 04001663	SK1132	縄文土器 深鉢	-	7.6	-	外・にふい食偈 内:にぶい黄褐	-	3-8 20070399
3-15-51	SK1132	縄文土器	-	10.5*	-	外:橙	-	3-8
04001669 3-16-66		深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄橙		20070400 3-9
04001618	SK1133	浅鉢	25.5*	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070401
3-16-67 04001615	SK1133	縄文土器 浅鉢	22.3*	-	-	外:明褐 内:明褐	-	3-9 20070402
3-16-68	SK1133	縄文土器				外:黒褐		3-9
04001600 3-16-69	3K1133	浅鉢 縄文土器				内:黒褐 外:灰黄	-	20070403
04001625	SK1133	浅鉢	28.6*	-	-	内:灰黄	-	20070404
3-16-70	SK1133	縄文土器	-	-	-	外:暗灰黄	-	3-9
04001626 3-16-71	07/1100	浅鉢 縄文土器				内:暗灰黄 外:黄灰		20070405 3-9
04001595	SK1133	浅鉢	-	-	-	内:黒褐	-	20070406
3-16-72 04001927	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:暗灰黄 内:暗灰黄	外面煤付着 傾きは不確実	3-9 20070407
3-16-73	SK1133	縄文土器	39.9	_	_	外:黒褐	外面煤付着 14C 年代測定資料	3-9
04001850 3-16-74	SK1133	浅鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい赤褐	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	20070408 3-9
04001714	G13 区画	浅鉢	24.1*	-	-	内:にぶい赤褐	-	20070409
3-16-75 04001649	SK1133	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外: 黒褐 内: 黒褐	外面煤付着	3-9 20070410
3-16-76	SK1133	縄文土器	_			外:にぶい黄橙		3-9
04001648 3-16-77	381133	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい褐	-	20070411 3-9
04001596	SK1133	浅鉢	-	-	-	内:黒褐	傾きは不確実	20070412
3-16-78	SK1133	縄文土器	14.2	-	-	外:橙	-	3-9
04001851 3-16-79	av	浅鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		20070413 3-9
04001852	SK1133	浅鉢	14.2	-	-	内:橙	-	20070414
3-16-80 04001894	SK1133	縄文土器 ミニチュア	5.4*	-	-	外:にぶい赤褐 内:にぶい赤褐	-	3-9 20070415
3-16-81	SK1133	縄文土器	_	_	_	外:橙	底部かどうかは不確実	3-9
04001698 3-16-82	G13 区画	浅鉢 縄文土器				内:橙 外:灰黄褐	EXHPN C JN IO T IIE大	20070416 3-9
04001831	SK1133	深鉢	31.0*	-	-	内:にぶい黄橙	口唇部刻目 外面煤付着	20070417
3-16-83	SK1133	縄文土器	-	-	-	外:にぶい褐	口唇部刻目	3-9
04001738 3-16-84	F12 区画	深鉢 縄文土器				内:明褐 外:にぶい黄橙	口唇如利口	20070419 3-9
04001739	SK1133	深鉢	-	-	-	内:浅黄	口唇部刻目	20070418
3-16-85 04001731	SK1133	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	口唇部刻目	3-9 20070420
3-16-86	SK1133	縄文土器	_	_	_	外:にぶい黄橙	口唇部刻目	3-9
04001727		深鉢				内:にぶい黄橙	- проде	20070421

表3-1 1区縄文~弥生時代の遺構出土土器

				5 — I	. —	闸文· □ 小土时 1 0 7 1 0 円 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種		寸法 cm		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-17-87	SK1133	縄文土器	口径 31.0*	底径	器高	外:にぶい黄褐		3-9
04001713 3-17-88	SK1133	深鉢 縄文土器	31.0	-	_	内:明黄褐 外:明赤褐・灰褐	-	20070422 3-9
04001918	P1013	深鉢	25.7*	-	-	内:明赤褐・灰褐	外面煤付着	20070423
3-17-89 04001747	SK1133	縄文土器 深鉢	29.6*	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-9 20070424
3-17-90	SK1133	縄文土器	27.3*			外:にぶい黄褐		3-9
04001751 3-17-91	3K1133	深鉢 縄文土器	21.3	-		内:にぶい黄褐 外:黄灰	-	20070425 3-9
04001922	SK1133	深鉢	27.1*	-	-	内:黄灰	外面煤付着	20070426
3-17-92 04001748	SK1133	縄文土器 浅鉢	27.2*	-	-	外:橙 内:橙	-	3-9 20070427
3-17-93	SK1133	縄文土器				外:にぶい黄褐	 外面煤付着	3-9
04001812 3-17-94		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄褐 外:橙	/『四外13年	20070428 3-9
04001650	SK1133	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070429
3-17-95 04001924	SK1133	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:赤褐 内:赤褐	外面煤付着 傾きは不確実	3-9 20070430
3-17-96	SK1133	縄文土器				外:橙	傾きは不確実	3-9
04001861 3-17-97	3K1133	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:橙 外:暗褐	関では行権大	20070431 3-9
04001643	SK1133	浅鉢	-	-	-	内:暗褐	傾きは不確実	20070432
3-17-98 04001656	SK1133 F12 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	-	3-9 20070433
3-17-99	SK1133	縄文土器				外:黒褐	やや大きめの刻目	3-9
04001533	SK1133	深鉢	-	-	-	内:黒褐	傾きは不確実	20070434
3-17-100 04001666	SK1133	縄文土器 深鉢	-	6.9	-	外:橙 内:橙	-	3-9 20070435
3-17-101	SK1133	縄文土器	_	7.5*	-	外:橙	底部網代痕	3-9
04001671 3-17-102	E14 区画	深鉢 縄文土器	_	0.0*		内:橙 外:橙		20070436 3-9
04001660	SK1133	深鉢	-	6.8*	-	内:橙	-	20070437
3-17-103 04001659	SK1133	縄文土器 深鉢	-	7.6	-	外:橙 内:褐灰	底部に植物(種子か)痕あり	3-9 20070438
3-17-104	SK1133	縄文土器	-	10.3*	-	外:橙	-	3-9
04001827 3-17-105	CV 1 1 0 0	浅鉢 土製品	5.0	4.0	0.7	内: にぶい赤褐 外: にぶい黄褐		20070439 3-9
04001903	SK1133	土製円盤	5.3	4.8	0.7	内:灰黄褐	-	20070440
3-19-137 04001616	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	3-9 20070441
3-19-138	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:褐灰	-	3-9
04001587 3-19-139	F12·14 区画 SX1131	浅鉢 縄文土器				内:にぶい黄褐 外:橙		20070442 3-9
04001627	F12 区画	浅鉢	-	-	-	内:橙	-	20070443
3-19-140 04001612	SX1131	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外: 黄灰 内: 黄灰	-	3-9 20070444
3-19-141	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:橙	-	3-9
04001620 3-19-142	07/1101	浅鉢 縄文土器	10.0*			内:橙 外:暗褐		20070445 3-9
04001590	SX1131	浅鉢	19.0*	-	-	内:にぶい黄褐	-	20070446
3-19-143 04001837	SX1131	縄文土器 浅鉢	28.0*	-	-	外:にぶい橙 内:にぶい橙	外面煤付着	3-9 20070447
3-19-144	SX1131	縄文土器	24.0*	-	-	外:明褐	孔列文(外面から穿孔)	3-9
04001741 3-19-145	0771.101	深鉢 縄文土器				内:明褐 外:にぶい赤褐		3-9
04001737	SX1131	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	口唇部刻目	20070449
3-19-146 04001723	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい橙 内:にぶい橙	口唇部刻目	3-9 20070450
3-19-147	SX1131	縄文土器	26.7*	-	_	外:橙	口唇部刻目	3-10
04001733 3-19-148		深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい黄褐		20070451 3-10
04001728	SX1131	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	口唇部刻目	20070452
3-19-149 04001740	SX1131	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明褐 内:にぶい橙	口唇部刻目	3-10 20070453
3-19-150	SX1131	縄文土器	-	-	_	外:浅黄橙	口唇部刻目	3-10
04001722 3-19-151		深鉢 縄文土器				内:褐灰 外:にぶい赤褐		20070454 3-10
04001721	SX1131	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	口唇部刻目	20070455

表3-1 1区縄文~弥生時代の遺構出土土器

挿図 - 番号		\$#DI						写真図版
伊凶 - 金亏 登録番号	出土位置	種別 器種		寸法 cm		色調	備考	与
		*****	口径	底径	器高	41 a 1 = 5% . 15%		
3-19-152	SX1131	縄文土器	37.0*	-	-	外:にぶい橙	-	3-10
04001750		深鉢	-			内:にぶい橙		20070456
3-19-153	SX1131	縄文土器	33.0*	-	-	外:にぶい黄橙	外面煤付着	3-10
04001746		浅鉢				内:にぶい黄橙		20070457
3-19-154	SX1131	縄文土器	26.7*	-	-	外:黄灰	外面煤付着	3-10
04001919		浅鉢	-			内:黄灰		20070458
3-19-155	SX1131	縄文土器	34.4*	-	-	外:にぶい黄褐	-	3-10
04001754	CV/1101	浅鉢	-			内:にぶい黄褐		20070459
3-19-156	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:灰黄褐	-	3-10
04001860	F12 区画	浅鉢	-			内:にぶい褐		20070460
3-20-157	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:橙	-	3-10
04001636		深鉢	-			内:橙		20070461
3-20-158	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:灰黄	-	3-10
04001638		深鉢	-			内:灰黄		20070462
3-20-159	SX1131	縄文土器	_	-	-	外:灰黄褐	-	3-10
04001646		浅鉢	-			内:灰黄褐		20070463
3-20-160	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:灰黄褐	外面煤付着	3-10
04001923		深鉢	-			内:暗灰黄		20070464
3-20-161	SX1131	縄文土器	-	-	-	外:にぶい赤褐	_	3-10
04001635		深鉢				内:にぶい赤褐		20070465
3-20-162	SX1131	縄文土器	_	_	-	外:橙	_	3-10
04001811		深鉢				内:橙		20070466
3-20-163	SX1131	縄文土器	_	6.0*	_	外:明赤褐 底:橙	_	3-10
04001572		深鉢				内:にぶい黄橙		20070467
3-20-164	SX1131	縄文土器	_	9.5	_	外:橙	底に作業台痕跡あり	3-10
04001658		深鉢				内:黒褐	// - 11 316 in // - 3 3	20070468
3-20-165	SX1131	縄文土器	_	8.6	_	外:橙	底部網代痕	3-10
04001661	F12 区画	深鉢				内:にぶい褐	ASSET THE TOTAL OF THE PARTY OF	20070469
3-20-166	SX1131	縄文土器	_	9.4*	_	外:明赤褐	_	3-10
04001672		深鉢	_			内:明赤褐		20070470
3-20-167	SX1131	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	3-10
04001825		浅鉢	_			内:にぶい褐		20070471
3-20-168	SX1131	縄文土器	_	6.0*	_	外:橙	_	3-10
04001828		浅鉢	-			内:にぶい橙		20070472
3-20-169	SX1131	縄文土器	_	6.0*	_	外:橙	_	3-10
04001829		浅鉢	_			内:にぶい黄橙		20070473
3-20-170	SX1131	縄文土器	37.0*	_	_	外:浅黄橙	_	3-10
04001720	F•G12 区画	深鉢	1			内:浅黄橙		20070474
3-21-187	SX1115	縄文土器	27.3*	_	_	外:にぶい褐	外面煤付着	3-10
04001749		深鉢	1			内:にぶい褐		20070475
3-21-188	SX1115	縄文土器	_	_	_	外:褐	傾きは不確実	3-10
04001819		深鉢				内:黒	12 12. 1 1925	20070476
3-21-189	SX1115	縄文土器	_	7.1	_	外・底:橙	底に作業台痕跡あり	_
04001577	5.1.1.10	深鉢	1			内:灰褐	7-41-11 /K 11/4/27 4/2 /	
3-21-192	SX1119	縄文土器	34.2	_	_	外:橙	_	3-10
04001854	0	深鉢	0 1.5			内:橙		20070477

表3-2 1区縄文~弥生時代の遺構出土石器

			10,5	_ Z I	四個人	○沙王吋1	いり返得田	——————————————————————————————————————	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	Ex	寸法 mm	厚さ	重量	石材	備考	写真図版 写真登録番号
3-13-19	SK1107	打製石器	長さ 21.4	幅 15.2	月2	g 1.1	無斑晶質		3-15
04002489 3-13-20		石鏃 石製品	21.4	13.2	4.1	1.1	安山岩	-	20070001 3-16
04002585	SK1118	石皿	543.0	365.0	117.5	35000.0	花崗岩	-	20070002
3-14-38 04002584	SX1134	礫石器 磨石	97.0	122.5	68.5	1089.6	-	破片 被熱の可能性あり	3-16 20070003
3-14-41	SK1137	打製石器	64.3	84.3	10.0	50.5	無斑晶質	-	3-16
04002553 3-15-52	CV 1 1 0 0	削器 打製石器	10.4	10.0	4.0	1.1	安山岩 無斑晶質		20070004 3-15
04001972 3-15-53	SK1132	石鏃 打製石器	18.4	16.6	4.3	1.1	安山岩 無斑晶質	-	20070005 3-15
04001992	SK1132	石鏃	22.8	19.1	3.7	1.5	安山岩	-	20070006
3-15-54 04001997	SK1132	打製石器 石鏃	21.3	16.9	4.1	1.5	無斑晶質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-15 20070007
3-15-55	SK1132	打製石器	24.7	17.4	3.1	1.2	無斑晶質	-	3-15
04001990 3-15-56	07/1100	石鏃 打製石器		45.0		1.0	安山岩 無斑晶質		20070008 3-15
04001989 3-15-57	SK1132	石鏃	23.9	15.8	3.3	1.2	安山岩 無斑晶質	-	20070009
04001996	SK1132	打製石器 石鏃	25.3	14.4	3.0	1.0	安山岩	-	3-15 20070010
3-15-58 04002484	SK1132	打製石器 石鏃	24.5	17.1	3.6	1.5	無斑晶質 安山岩	-	3-15 20070011
3-15-59	SK1132	打製石器	27.2	17.9	2.9	1.4	無斑晶質	 先端・片側基部欠損	3-15
04001983 3-15-60		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070012 3-15
04002461	SK1132	石鏃	26.2	19.2	4.1	2.2	安山岩	先端・基部欠損	20070013
3-15-61 04002454	SK1132	打製石器 石鏃	37.6	19.8	5.9	3.9	無斑晶質 安山岩	-	3-15 20070014
3-15-62 04001995	SK1132	打製石器 石鏃	38.3	26.6	5.3	5.0	無斑晶質 安山岩	片面のみ調整	3-15 20070015
3-15-63	SK1132	打製石器	25.5	22.3	5.9	2.9	黒曜岩	 左右非対称、片面のみ調整	3-15
04002527 3-15-64		石鏃 打製石器					無斑晶質		20070016 3-15
04002455	SK1132	石鏃	25.2	16.6	3.7	1.6	安山岩	先端部ごくわずか欠損	20070017
3-15-65 04002460	SK1132	打製石器 石鏃	34.5	19.9	4.5	2.6	無斑晶質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070018
3-18-106 04001998	SK1133	打製石器 石鏃	17.2	17.5	3.2	1.0	無斑晶質 安山岩	先端欠損	3-15 20070019
3-18-107	SK1133	打製石器	20.9	18.0	3.8	1.3	無斑晶質	_	3-15
04001988 3-18-108		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質	the belt 11 miles start has been	20070020 3-15
04002485	SK1133	石鏃 打製石器	22.3	16.8	4.1	1.4	安山岩 無斑晶質	先端・片側一部欠損	20070021
3-18-109 04001978	SK1133	石鏃	26.8	18.4	3.3	1.4	安山岩	-	3-15 20070022
3-18-110 04002480	SK1133	打製石器 石鏃	27.2	16.3	3.6	1.6	無斑晶質 安山岩	-	3-15 20070023
3-18-111	SK1133	打製石器	24.6	18.5	3.9	1.7	無斑晶質		3-15
04002487 3-18-112		石鏃 打製石器			4.0		安山岩 無斑晶質		20070024 3-15
04002495	SK1133	石鏃	29.5	18.3	4.3	2.0	安山岩	左側抉り	20070025
3-18-113 04002459	SK1133	打製石器 石鏃	25.6	18.7	3.8	1.7	無斑晶質 安山岩	先端欠損	3-15 20070026
3-18-114 04001987	SK1133	打製石器 石鏃	31.9	18.2	3.8	1.8	無斑晶質 安山岩	片側基部欠損	3-15 20070027
3-18-115	SK1133	打製石器	29.9	18.1	4.2	1.7	無斑晶質	-	3-15
04002471 3-18-116		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質	+++1:+4:- U-loi +n I	20070028 3-15
04002479	SK1133	石鏃	33.8	15.5	4.6	2.3	安山岩	左右非対称 片側一部欠損 	20070029
3-18-117 04001974	SK1133	打製石器 石鏃	37.6	20.1	4.1	2.6	無斑晶質 安山岩	-	3-15 20070030
3-18-118 04002523	SK1133	打製石器 石鏃	26.8	20.0	3.9	2.2	黒曜岩	先端欠損	3-15 20070031
3-18-119	SK1133	打製石器	33.1	18.3	6.4	2.8	無斑晶質		3-15
04002474 3-18-120		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070032 3-15
04002472 3-18-121	SK1133	石鏃 打製石器	16.5	15.6	2.5	0.6	安山岩無斑晶質	-	20070033 3-15
04002499	SK1133	打製石器 石鏃	22.5	16.4	4.2	1.2	無斑 面質 安山岩	-	20070034

表3-2 1区縄文~弥生時代の遺構出土石器

類図・番号 出土位置 種別 お種 長さ 幅 厚さ 8 石材 備考 「根別 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	写真図版 写真登録番号 3-15 20070035 3-15 20070036 3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040 3-15
3-18-122 04002486 SK1133 打製石器 石鏃 石鏃 26.3 16.4 3.0 1.2 無斑晶質 安山岩 片側基部欠損 3-18-123 04002497 SK1133 打製石器 石鏃 石鏃 27.9 17.3 4.5 1.8 無斑晶質 安山岩 - 3-18-124 04002483 SK1133 打製石器 石鏃 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 無斑晶質 安山岩 - 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 石鏃 26.9 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 - 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	3-15 20070035 3-15 20070036 3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
04002486 SK1133 石鏃 26.3 16.4 3.0 1.2 安山岩 厅側基部火損 3-18-123 04002497 SK1133 打製石器 石鏃 27.9 17.3 4.5 1.8 無斑晶質 安山岩 - 3-18-124 04002483 SK1133 打製石器 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 無斑晶質 安山岩 - 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 - 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070035 3-15 20070036 3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
3-18-123 04002497 SK1133 打製石器 石鏃 27.9 17.3 4.5 1.8 無斑晶質 安山岩 - 3-18-124 04002483 SK1133 打製石器 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 無斑晶質 安山岩 - 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 - 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	3-15 20070036 3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
04002497 SK1133 石鏃 27.9 17.3 4.5 1.8 安山岩 3-18-124 04002483 SK1133 打製石器 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 無斑晶質 安山岩 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 - 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070036 3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
3-18-124 04002483 SK1133 打製石器 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 無斑晶質 安山岩 - 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 安山岩 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	3-15 20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
04002483 SK1133 石鏃 27.4 18.3 4.6 2.3 安山岩 3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 安山岩 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070037 3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
3-18-125 04001980 SK1133 打製石器 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 無斑晶質 安山岩 先端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 安山岩 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	3-15 20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
04001980 SK1133 石鏃 25.5 20.7 3.1 1.8 安山岩 充端欠損 3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 一 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070038 3-15 20070039 3-15 20070040
3-18-126 04002481 SK1133 打製石器 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 無斑晶質 安山岩 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	3-15 20070039 3-15 20070040
04002481 SK1133 石鏃 26.2 15.7 2.9 1.4 安山岩 3-18-127 04002494 SK1133 打製石器 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 無斑晶質 安山岩 先端・片側基部欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070039 3-15 20070040
04002494 SK1133 石鏃 26.9 15.7 3.9 1.7 安山岩 允嘯・片側基節欠損 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	20070040
04002494 石鏃 安山岩 3-18-128 04002492 SK1133 打製石器 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 無斑晶質 安山岩 先端欠損	
04002492 Skii33 石鏃 28.9 22.5 6.2 3.6 安山岩 元端八損	2.15
04002492	
	20070041
3-18-129 SK1133 打製石器 30.2 21.9 4.7 2.6 無斑晶質 片面のみ調整 先端欠損	3-15
04001994 SK1100 石鏃 SO.2 Z1.0 4.1 Z.0 安山岩 八川 大川 大川 大川 大川 大川 大川 大川	20070042 3-15
3-18-130 1製石器 7製石器 32.7 21.4 5.2 3.2 無斑晶質 失端・片側基部欠損 大端・片側基部欠損 大端・片側基部欠損 大端・片側基部欠損 大端・片側 大線 大線 大線 大線 大線 大線 大線 大	20070043
3.18.131 打型石界 無斑島質	3-15
04002452 SK1133 万数日間 33.2 20.3 5.3 3.3 安山岩 片側基部欠損	20070044
3-18-132 打製石器 無斑品質	3-15
04002500 SK1133 石鏃 35.2 20.9 5.5 3.4 安山岩 片側基部欠損	20070045
3-18-133 SK1133 打製石器 37.0 23.2 7.4 5.9 無斑晶質 先端欠損	3-15
04002493 石鏃 安山岩	20070046
3-18-134 SK1133 打製石器 29.6 43.0 8.0 8.6 無斑晶質 一部欠損	3-15
04002555 削器 安山岩 安山岩	20070047
3-18-135 SK1133 打製石器 35.4 29.4 7.0 4.8 黒曜岩 表面全面調整	3-15
04002569 域器 域器 3-18-136 3-18-136	20070048 3-15
O4002538	20070049
3-20-171 打製石器 無斑品質	3-15
04001950 SX1131 万数日間 24.8 17.4 3.4 1.5 炭山岩 先端が丸い	20070050
3-20-172 SX1131 打製石器 30.1 16.0 3.7 1.7 無斑晶質	3-15
04001957 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	20070051
3-20-173 SX1131 打製石器 34.5 13.9 4.2 2.0 無斑晶質 -	3-15
04002478	20070052
3-20-174	3-15 20070053
3-20-175 打製石器 00.0 00.0 無斑晶質	3-15
04002473 SX1131 万数日間 30.4 20.6 3.6 1.8 安山岩 -	20070054
3-20-176 打製石器 無斑品質	3-15
04001981 SX1131 石鏃 34.7 20.8 3.5 2.4 安山岩 -	20070055
3-20-177 SX1131 打製石器 31.5 16.7 3.7 1.8 無斑晶質	3-15
04001991 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	20070056
3-20-178	3-15
04001985 石鏃 女山石	20070057
3-21-179	3-15 20070058
3.21.180 打製石界 無斑見質	3-15
04001977 SX1131 万数 24.6 17.8 3.2 1.4 安山岩 先端欠損	20070059
3-21-181 打製石製 無斑島麿	3-15
O4001986 SX1131 T3	20070060
3-21-182 SX1131 打製石器 23.5 16.1 2.6 1.1 無斑晶質 先端・片側基部欠損	3-15
04001982	20070061
3-21-183 SX1131 打製石器 27.1 16.6 4.5 1.9 無斑晶質 先端・片側基部欠損	3-15
04001999 白鏃 女川石	20070062
3-21-184	3-15
04002451 SATIST 石鏃 25.1 25.2 5.5 安山岩 大田八原 3-21-185 3-21-185 11製石器 20.0 21.5 20.0 5.1 無斑晶質	20070063 3-15
3-21-185	20070064
3-21-186 打製石器 無斑品質	3-15
04002562 SX1131	20070065
3-21-190 打製石器 無斑品質	3-15
04001959 SX1115 石鏃 32.3 18.7 4.5 2.1 安山岩	20070066
3-21-191 SX1115 打製石器 37.6 23.2 5.4 3.6 無斑晶質 左側抉り	3-15
04001949	20070067

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

基図版 主図版 主10 70478 -10 70479 -10 70480 - - - - -10 70481 -
70478 -10 70479 -10 70480 -
70478 10 70479 10 70480
70479 -10 70480 - -
70479 -10 70480 - - -
-10 70480 - - -
-
- -
-
-
-
_
-
10
-10 70482
-10482
70483
10400
-
-
-
-10
70484
-10
70485
-10
70486
-10
70487
-
-
-
-
-10
70488
-10
70489
-10
70490
_
1.6
70401
70491
70402
70492
-10
-10
-10
3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			10,0	- 3	1 22/1	电文·************************************		
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	- 14V	寸法 cm		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-23-227	F12 区画	縄文土器	口径	底径	器高	外:褐		一
04001614 3-23-228	下12 区間	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:褐 外:褐	-	3-10
04001619	E13 区画	浅鉢	-	-	-	内:褐	-	20070495
3-23-229 04001586	G12 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:黒褐 内:灰黄褐	-	3-11 20070496
3-23-230	F10 区画	縄文土器	_	_	_	外:明黄褐	_	3-11
04001601 3-23-231		浅鉢 縄文土器				内:明黄褐 外:にぶい黄褐		20070497
04001594	F12 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	-	-
3-23-232 04001613	G12 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:褐 内:褐	-	-
3-23-233 04001593	H•G10 区画 H11 区画	縄文土器 浅鉢	18.0*	-	-	外:黒褐 内:にぶい黄橙	後期後半~末の分布範囲から出土	3-11 20070498
3-23-234	F12 区画	縄文土器	23.3*	_	_	外:にぶい橙	外面煤付着	3-11
04001718 3-23-235		浅鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄褐	/ 下四州13年	20070499
04001589	E12 区画	浅鉢	13.0*	-	-	内:にぶい褐	-	-
3-23-236 04001591	G13 区画	縄文土器 浅鉢	11.4*	-	-	外:灰黄褐 内:にぶい黄褐	-	-
3-23-237	F13 区画	縄文土器	-	-	-	外:灰褐	傾きは不確実	3-11
04001855 3-23-238	G13 区画	浅鉢 縄文土器				内:灰褐 外:にぶい褐	外面煤付着 燒成後穿孔	20070500 3-11
04002734 3-23-239	G13 Z	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内: 黒褐 外: 橙	7下田床刊有	20070501
04001592	F13 区画	浅鉢	-	-	-	内:橙	-	-
3-23-240 04001936	G13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:暗灰黄	-	-
3-23-241	F13 区画	縄文土器	-	-	-	外:オリーブ黒	-	3-11
04002573 3-23-242	F13 区画	浅鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい黄橙	外面煤付着	20070502 3-11
04002722 3-23-243	P1074	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:黒褐 外:橙	外面深的有	20070503 3-11
04001584	H12 区画	浅鉢	25.0*	-	-	内:にぶい黄橙	突帯文土器の分布範囲から出土	20070504
3-23-244 04001719	H13 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:褐灰	突帯文土器の分布範囲から出土	3-11 20070505
3-24-245 04001732	F15 区画	縄文土器	26.6*	-	-	外:にぶい黄橙	口唇部刻目	3-11
3-24-246	G11 区画	深鉢 縄文土器	_			内:にぶい黄橙 外:橙	口唇部刻目	20070506 3-11
04001735 3-24-247	GIIZM	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:橙 外:浅黄		20070507 3-11
04001726	F13 区画	深鉢	-	-	-	内:浅黄	口唇部刻目	20070508
3-24-248 04002733	G12 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	口唇部刻目	3-11 20070509
3-24-249	-	縄文土器	-	-	-	外:にぶい赤褐	口唇部刻目	3-11
04001736 3-24-250	F13 区画	深鉢 縄文土器	_			内:にぶい赤褐 外:にぶい黄橙	口唇部刻目	20070510 3-11
04002711 3-24-251	P1088	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	口管印列日	20070511 3-11
04001724	F14 区画	深鉢	-	-	-	内:灰黄褐	口唇部刻目	20070512
3-24-252 04001838	F14 区画	縄文土器 深鉢	22.7*	6.3	19.4	外:にぶい橙 内:黒褐	外面煤付着	3-11 20070513
3-24-253	C14 区画	縄文土器	32.8*	-	-	外:明赤褐	-	3-11
04001766 3-24-254	E10 EZ esti	深鉢 縄文土器	20.0	7.0	26.9	内:明赤褐 外:黒褐		20070514 3-11
04002587 3-24-255	F13 区画	深鉢 縄文土器	26.8	7.9	26.9	内: 黒褐 外: 橙	-	20070515 3-11
04001859	H12 区画	深鉢	31.6*	-	-	内:橙	外面煤付着	20070516
3-24-256 04001910	-	縄文土器 深鉢	23.3*	-	-	外:橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-11 20070517
3-24-257	F11 区画	縄文土器	30.3	-	-	外:褐	-	3-11
04002731 3-24-258	P1299 F12·13 区画	深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄橙		20070518 3-11
04001634 3-25-259	G12 区画	深鉢	24.2*	-	-	内:にぶい黄橙 外:暗赤褐	-	20070519 3-11
3-25-259 04001885	E13·14 区画 D13 区画	縄文土器 深鉢	34.3*	-	-	内:暗赤褐	搬入品か	3-11 20070520
3-25-260 04001885	E13·14 区画 D13 区画	縄文土器 深鉢	34.3*	-	-	外:暗赤褐 内:暗赤褐	搬入品か	3-11 20070521
0.1001000	1010 区間	レハギヤ	1			1.3 4 (10/31/19)		20010021

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			100	- 3	1 12 1/10	BX、加土时1000度拥外山	1—— 1117	
挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm		色調	備考	写真図版
登録番号 3-25-261	E13・14 区画	器種 縄文土器	口径	底径	器高	外:暗赤褐		写真登録番号
04001885	D13 区画	深鉢	34.3*	-	11.5	内:暗赤褐	搬入品か	20070522
3-25-262	F12 区画	縄文土器	24.4*	-	_	外:にぶい橙	-	3-11
04001651 3-25-263		深鉢 縄文土器				内: にぶい橙 外: 黄褐		20070523 3-11
04001717	F12 区画	深鉢	23.9*	-	-	内:黄褐	-	20070524
3-25-264	F13 区画	縄文土器	24.2*	-	_	外:にぶい黄橙	-	3-11
04001762 3-25-265		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		20070525
04001869	G11 区画	深鉢	34.1*	-	1	内:にぶい橙	-	-
3-25-266 04001867	H11・12 区画	縄文土器 深鉢	27.3*	-	-	外:にぶい赤褐 内:灰黄褐	-	3-12 20070526
3-25-267	C11 区面	縄文土器	27.1*			外:褐	りる性仕業	3-12
04002737	G11 区画	深鉢	27.1*	-	-	内:にぶい黄褐	外面煤付着	20070527
3-25-268 04001761	H11 区画	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外:橙 内:橙	-	3-12 20070528
3-25-269	G10 区画	縄文土器	28.2*			外:にぶい赤褐	外面煤付着 14C 年代測定資料	3-12
04001848	G10 区回	深鉢	20.2	-	-	内:にぶい赤褐	外面深刊有 140 中代側足貝科	20070529
3-26-270 04001931	G13 区画	縄文土器 深鉢	37.0	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-12 20070530
3-26-271	F12 区画	縄文土器	22.5*	_		外:橙	_	3-12
04001716	112 23 20	深鉢 縄文土器	22.5			内:橙 外:褐		20070531
3-26-272 04001937	G13 区画	神又工品 深鉢	39.7*	-	-	外·陶 内:灰黄	外面煤付着	3-12 20070532
3-26-273	F12・13 区画	縄文土器	17.6	_	12.9	外:にぶい黄褐	_	3-12
04001582 3-26-274	112 10 [深鉢 縄文土器	17.0			内:橙 外:明黄褐		20070533 3-12
04001759	H12 区画	深鉢	24.0*	-	-	内:明黄褐	-	20070534
3-26-275	E14 区画	縄文土器	31.7	_	-	外:橙	_	3-12
04001858 3-26-276		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:橙		20070535 3-12
04001715	F12 区画	浅鉢	29.2*	-	-	内:橙	-	20070536
3-26-277	G11 区画	縄文土器	_	-	_	外:灰黄褐	-	3-12
04001767 3-26-278		深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄橙		20070537 3-12
04001856	H11 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	外面煤付着	20070538
3-26-279	G10 区画	縄文土器	_	-	-	外:にぶい黄橙	-	-
04001776 3-26-280		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		
04001799	F14 区画	深鉢	-	-	-	内:黒	-	-
3-26-281 04002739	G10 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰褐 内:にぶい褐	-	3-12 20070539
3-26-282	011 55	縄文土器				外:橙		20070539
04001769	G11 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	-	-
3-26-283 04001810	F13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒 内:黒	-	-
3-26-284	F13 区画	縄文土器				外:にぶい黄褐		
04002714	P1086	浅鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	-	-
3-26-285 04001813	F13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒 内:黒	傾きは不確実	3-12 20070540
3-26-286	E14 区画	縄文土器	_	_		外:灰黄褐	焼成後穿孔	3-12
04002574	LIT IZIM	深鉢				内:にぶい黄橙	WENTERSTE	20070541
3-26-287 04001760	H13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	3-12 20070982
3-26-288	F11・12 区画	縄文土器	_	-	_	外:にぶい褐	_	3-12
04001763 3-27-289		深鉢 縄文土器				内:にぶい褐 外:にぶい褐		20070542 3-12
04001795	E15 区画	深鉢	-	-	_	内:にぶい褐	-	20070543
3-27-290	H11 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄橙	外面煤付着	3-12
04001857 3-27-291	G13 区画	深鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:灰黄橙		20070544 3-12
04002724	P1103	深鉢	-	-	-	内:灰黄橙	-	20070545
3-27-292	F13 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい橙	突起部に縦方向の沈線	3-12
04001929 3-27-293	P10 F7	縄文土器				内:にぶい橙 外:黒褐	NZWLX	20070546 3-12
04001928	F13 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	外面煤付着	20070547
3-27-294 04001725	G12 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:浅黄橙 内:橙	口唇部刻目	-
04001723		(不平)	1			r 1 · TSL	1	

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			衣 3	– 3		電文~弥生時代の遺構外に	五工工益	
挿図 - 番号	出土位置	種別 器種		寸法 cm		色調	備考	写真図版
登録番号 3-27-295		縄文土器	口径	底径	器高	外:浅黄	144.4	写真登録番号
04001655	F12 区画	深鉢	-	-	-	内:浅黄	搬入か	20070548
3-27-296 04001764	C15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外: にぶい黄褐 内: にぶい黄褐	-	3-12 20070549
3-27-297	G13 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄橙	-	3-12
04001935 3-27-298		縄文土器				内: にぶい黄橙 外: にぶい赤褐		20070550 3-12
04001640	F13 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	-	20070551
3-27-299 04001785	E11 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	傾きは不確実	3-12 20070552
3-27-300	F12 区画	縄文土器	_	_	-	外:にぶい黄褐	-	3-12
04001654 3-27-301		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄褐 外:明黄褐		20070553 3-12
04001757	H12 区画	深鉢	-	-	-	内:明黄褐	-	20070554
3-27-302 04001781	G12 区画	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:橙 内:橙	傾きは不確実	3-13 20070555
3-27-303	G11 区画	縄文土器	_	-	-	外:にぶい黄橙	外面煤付着	3-13
04002710 3-27-304	P1299	深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	11 - 7 11 1 1 24	20070556 3-13
04001790	E12 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	外面煤付着	20070557
3-27-305 04001752	F13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:褐 内:にぶい黄橙	-	3-13 20070558
3-27-306	F11 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい赤褐	-	3-13
04001806 3-27-307		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:橙		20070559 3-13
04001800	F14 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070560
3-27-308 04001773	G10 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい橙 内:にぶい橙	-	3-13 20070561
3-27-309	H12 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい黄橙	_	3-13
04001758 3-27-310		深鉢 縄文土器				内: にぶい黄橙 外: にぶい黄橙		20070562 3-13
04001775	G10 区画	深鉢	-	-	-	内:浅黄橙	焼成後穿孔	20070563
3-27-311 04001909	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:浅黄	-	3-13 20070564
3-28-312	G11 区画	縄文土器	_	_	_	外:明黄褐	_	3-13
04002740 3-28-313	表採	深鉢? 縄文土器				内:明黄褐 外:黒褐		20070565 3-13
04001639	F13 区画	深鉢	-	-	-	内:黒褐	外面煤付着	20070566
3-28-314 04001550	I12 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:褐灰	-	3-13 20070567
3-28-315	H13 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい橙	_	3-13
04001551 3-28-316		深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい橙		20070568 3-13
04001792	E13 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	-	20070569
3-28-317 04001774	G10 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-13 20070570
3-28-318	F13 区画	縄文土器	_	_	_	外:明黄褐	外面煤付着	3-13
04001642 3-28-319	110 22	深鉢 縄文土器				内:明黄褐 外:褐	/	20070571 3-13
04001768	G11 区画	深鉢	-	-	-	内:褐	-	20070572
3-28-320 04002741	G10 区画 表採	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-13 20070573
3-28-321	G11 区画	縄文土器				外:明赤褐	外面煤付着	3-13
04001770 3-28-322	611 ZM	深鉢 縄文土器		-	_	内:明赤褐 外:にぶい黄橙	/ド川州194	20070574 3-13
04001756	H12 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070575
3-28-323 04002719	G13 区画 P1100	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-13 20070576
3-28-324		縄文土器				外:橙		3-13
04001786 3-28-325	E12 区画	深鉢 縄文土器	-	_	_	内:橙 外:にぶい黄橙	-	20070577 3-13
3-28-325 04001772	G14 区画	縄又工器 深鉢	-		_	外・にふい典位 内:にぶい黄橙	外面煤付着	20070578
3-28-326 04001926	F13 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐	外面煤付着	3-13 20070579
3-28-327	F14 区画	縄文土器				内:橙 外:橙		3-13
04001798	1.14 [公開	深鉢	_	_	_	内:橙 外:にぶい黄橙	-	20070580
3-28-328 04001934	G13 区画	縄文土器 深鉢	-		-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-13 20070581
							•	

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			100	- 3	1 125/14	电文·***加土时1000度伸外山		
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	/77	寸法 cm		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-28-329		縄文土器	口径	底径	器高	外:にぶい橙		与具豆球銀万 3-13
04001789	E12 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい橙 内:にぶい橙	-	20070582
3-28-330	F13 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい橙・灰黄褐	外面煤付着	3-13
04001925	113 区岡	浅鉢		_	_	内:にぶい橙		20070583
3-28-331 04001788	E12 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:明褐 内:明褐	外面煤付着 傾きは不確実	3-13 20070584
3-28-332		縄文土器				外:にぶい黄橙	傾さは小唯夫	3-13
04001771	G11 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070585
3-28-333	F13 区画	縄文土器				外:黒	内外面煤付着 14C 年代測定資料	3-13
04001849	113 [2]	深鉢				内:黒	130 中国成员有	20070586
3-28-334 04001836	F11 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰褐 内:灰褐	胴部突帯状	3-13 20070587
3-28-335	010 577	縄文土器				外:にぶい橙		3-13
04001932	G13 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐・にぶい橙	-	20070588
3-28-336	G12 区画	縄文土器	_	_	-	外:にぶい橙	 外面煤付着	3-13
04001783 3-28-337		浅鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:にぶい黄橙		20070589 3-13
04002736	G13 区画	浅鉢	-	-	-	内:灰黄褐	-	20070590
3-29-338	H13 区画	縄文土器		9.1*		外:にぶい黄橙		
04001833	1113 区凹	浅鉢	_	9.1	-	内:褐灰	-	_
3-29-339 04001832	H10 区画	縄文土器	-	6.5*	-	外:橙	-	-
3-29-340		浅鉢 縄文土器				内:灰褐 外:橙		
04001823	F12 区画	浅鉢	-	-	-	内:橙	底部かどうか不確実	-
3-29-341	E14 区画	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	_
04001580	211	浅鉢				内:赤褐		
3-29-342 04001686	H13 区画	縄文土器 浅鉢	-	5.8*	-	外:橙 内:橙	-	-
3-29-343	IIIO ETE	縄文土器		0.04		外:浅黄橙		
04001685	H13 区画	浅鉢	-	8.9*	-	内:褐灰	-	-
3-29-344	F12 区画	縄文土器	_	5.8	-	外:にぶい橙	-	_
04001822 3-29-345		浅鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:灰褐		3-13
04002745	G13 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい橙	外面煤付着	20070591
3-29-346	F13 区画	縄文土器		8.8*	_	外:明赤褐		3-13
04002725	P1072	深鉢		0.0		内:明赤褐		20070592
3-29-347 04001912	表採	縄文土器 深鉢	-	8.7	-	外:にぶい橙 内:にぶい黄橙	-	3-13 20070593
3-29-348	D	縄文土器				外・底:橙	alex a Markle Complete De	3-13
04001578	E15 区画	深鉢	-	10.4*	-	内:にぶい橙	底に作業台痕跡あり	20070594
3-29-349	G11 区画	縄文土器	-	10.3*	-	外:にぶい黄橙	-	-
04001693 3-29-350		深鉢? 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:橙		3-13
04001664	F13 区画	深鉢	-	8.8*	-	内:褐灰	-	20070595
3-29-351	表採	縄文土器		8.9		外:橙	底部に圧痕あり	3-13
04001913	12,17	深鉢		0.5		内:橙	ELINC/L/ROD 7	20070596
3-29-352 04001692	G14 区画	縄文土器 深鉢	-	10.1*	-	外:橙 内:橙	-	-
3-29-353	E10 E7==	縄文土器		10.0*		外:にぶい橙		3-13
04001571	F13 区画	深鉢	-	10.0*	-	内・底:黄灰	-	20070597
3-29-354	G13 区画	縄文土器	-	9.6*	-	外:橙	-	3-13
04001689 3-29-355		深鉢 縄文土器		-		内:橙 外:橙		20070598 3-13
04001690	G13 区画	深鉢	-	8.0*	-	外·恒 内:橙	-	20070599
3-29-356	G15 区画	縄文土器	_	9.4	_	外:にぶい橙	_	3-13
04002735	010 四四	深鉢		J.4	_	内:明赤褐	-	20070600
3-29-357 04001566	F11 区画	縄文土器 深鉢	-	8.8	-	外:橙 内:橙	-	3-13 20070601
3-29-358	D4	縄文土器				外:にぶい黄橙		20070001
04001569	F11 区画	深鉢	-	8.2*	-	内:-	-	-
3-29-359	F13 区画	縄文土器	-	8.4*	-	外・底:明赤褐	-	3-13
04001573 3-29-360		深鉢 縄文土器				内:にぶい褐 外:橙		20070602
04001697	G11 区画	神又 上	-	9.6*	-	ハ・セ 内:にぶい黄橙	底部に種子などの痕跡あり	-
3-29-361	口11 区画	縄文土器	_	0.1		外:にぶい黄橙	底部網代または種子などの植物痕あり	
04001682	H11 区画	深鉢?	_	8.4	-	内:赤灰	展印刷しまたは俚すなどの惟物展めり	-
3-29-362	G11 区画	縄文土器	-	9.4*	-	外:橙肉・にでい苦橙	-	_
04001694		深鉢?				内:にぶい黄橙		

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			10,5	_ 3	1 123/19	电义·************************************	1—— TIF	·
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種		寸法 cm		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-30-363		縄文土器	口径	底径	器高			与具登越番号 3-13
04001681	H12 区画	神又工 深鉢	-	8.9*	-	外・にふい貝位 内:にぶい黄橙	-	20070603
3-30-364	010 57.5	縄文土器		7.11		外:にぶい橙		3-13
04001691	G13 区画	深鉢	-	7.1*	-	内:褐灰	-	20070604
3-30-365	F13 区画	縄文土器	_	7.6*	_	外・底:橙	_	3-14
04001574		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙		20070605
3-30-366 04001665	F13 区画	神又工 深鉢	-	6.3*	-	外:橙 内:橙	-	3-14 20070606
3-30-367	丰松	縄文土器		0.0		外:にぶい黄橙		3-14
04001911	表採	深鉢	-	8.0	-	内:にぶい黄橙	-	20070607
3-30-368	F12 区画	縄文土器	-	5.9	-	外:にぶい黄橙	底部かどうか不確実	3-14
04001673 3-30-369		縄文土器				内:黒褐 外:橙		20070608 3-14
04001916	表採	深鉢	-	7.0	-	内:にぶい褐	-	20070609
3-30-370	F12 区画	縄文土器	_	8.1	_	外: 黄橙	_	3-14
04001674	112 [2.5]	深鉢		0.1		内:黄橙		20070610
3-30-371 04001568	F11 区画	縄文土器 深鉢	-	7.5	-	外:橙 内:オリーブ黒	-	3-14 20070611
3-30-372	F10 F7 #	縄文土器		7.0		外:橙		3-14
04001662	F13 区画	深鉢	-	7.3	-	内:橙	-	20070612
3-30-373	F12 区画	縄文土器	_	6.4*	_	外:橙	-	3-14
04001679 3-30-374		深鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		20070613 3-14
04001688	H13 区画	深鉢	-	6.2	-	外・恒 内:黒褐	-	20070614
3-30-375	H13 区画	縄文土器		8.4*		外:橙		
04001687	1113 区Щ	深鉢	-	0.4	-	内:にぶい黄褐	-	
3-30-376 04001684	H12 区画	縄文土器 深鉢	-	8.3*	-	外:橙 内:灰黄褐	-	-
3-30-377		縄文土器				外:橙		+
04001667	F13 区画	深鉢	-	8.3	-	内:にぶい赤褐	-	-
3-30-378	表採	縄文土器	_	8.0	_	外:橙	_	3-14
04001914 3-30-379	20,11	深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:橙		20070615
04001677	F12 区画	神又工品 深鉢	-	8.0	-	外・恒 内:にぶい赤褐	底部網代痕あり	-
3-30-380	G10 区画	縄文土器		9.5*		外:にぶい黄橙		
04001696	GIU 区回	深鉢	-	9.5	-	内:にぶい黄橙	-	-
3-30-381 04001676	F12 区画	縄文土器 深鉢	-	7.5	-	外:橙 内:橙	底部網代または種子の痕跡あり	3-14 20070616
3-30-382		縄文土器				外:橙		20070010
04001678	F12 区画	深鉢	-	7.8	-	内:橙	底部に種子などの植物の痕跡あり	-
3-30-383	G12 区画	縄文土器	_	7.3*	-	外:橙	底部に種子などの植物質の痕跡あり	_
04001695 3-30-384	H• I 12 区画	深鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		
04001683	カクラン	深鉢	-	8.7*	-	/ / · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	-
3-30-385	F12 区画	縄文土器	_	9.2		外:橙	底部網代または種子の痕跡あり	_
04001675	112 25	深鉢		5.2		内:褐灰	たいがら (ないとなります。) (大阪の) (の)	
3-30-386 04001575	F13 区画	縄文土器 深鉢	-	7.5*	-	外・底:橙 内:黄灰	-	-
3-30-387	D14 D2 D	縄文土器		7.7*		外・底: にぶい橙		
04001579	E14 区画	深鉢	-	7.7*	-	内:-	-	-
3-30-388	F14 区画	縄文土器	-	8.8	-	外:明褐	-	3-14
04001567 3-30-389		深鉢 縄文土器			-	内:黄褐 外:にぶい橙		20070617 3-14
04001917	-	深鉢	-	6.5	-	内:黄灰	-	20070618
3-30-390	表採	縄文土器	_	7.9*	_	外:橙	_	3-14
04001915	23/1/	深鉢		1.5		内:にぶい黄橙	-	20070619
3-30-391 04001680	F12 区画	縄文土器 深鉢	-	5.6*	-	外:橙 内:褐灰	-	-
3-30-392	P10 F7	縄文土器		7.0-		外・底:橙		3-14
04001576	F13 区画	深鉢	-	7.8*	-	内:-	底面に作業台痕跡あり	20070620
3-31-393	G13 区画	縄文土器	33.4*	_		外:褐	-	3-14
04001527 3-31-394		深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:黒褐		20070621 3-14
04001938	G13 区画	神又工品 深鉢	-	-	-	外·黑梅 内:黒褐	-	20070622
3-31-395	H13 区画	縄文土器	_			外:橙		
04001544	表採	深鉢		_		内:橙	-	
3-31-396	I12 区画	縄文土器	-	-	-	外:橙	-	-
04001556		深鉢				内:橙		

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			100	- 3	1 12 1/10	B文、小土时1000度構が山	1——1117	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種		寸法 cm		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-31-397		縄文土器	口径	底径	器高	外:赤褐		子兵豆虾田勺
004001548	I12 区画	深鉢	-	-	-	内:明赤褐	傾きは不確実	-
3-31-398	G12 区画	縄文土器	22.7*	-	-	外:明褐	外来系? 傾きは不確実	3-14
04001529 3-31-399		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:褐		20070623 3-14
04001581	I12 区画	深鉢	26.4*	-	-	内:黒	外面煤付着	20070624
3-31-400	I13 区画	縄文土器	23.8*	-	-	外:暗褐	-	3-14
04001565 3-31-401		深鉢 縄文土器				内: 黒 外: 橙		20070625 3-14
04001526	表採	深鉢	21.3*	-	-	内:灰	内面に籾?圧痕	20070626
3-31-402 04001528	G12·H13 区画	縄文土器 深鉢	28.9*	-	-	外:明褐 内:黒褐	-	3-14 20070627
3-31-403	**************************************	縄文土器				外:赤褐		3-14
04001549	I13 区画	深鉢	26.8*	-	-	内:黒褐	-	20070628
3-31-404 04001564	I13 区画 P1268	縄文土器 深鉢	23.5*	-	-	外:黒褐 内:黒褐	-	3-14 20070629
3-31-405		縄文土器				外:橙		3-14
04001536	H13 区画	深鉢	20.3*	-	-	内:黒褐	-	20070630
3-31-406 04001537	H13 区画	縄文土器 深鉢	12.7*	-	-	外:にぶい褐 内:灰	-	3-14 20070631
3-31-407	1110 57 लई	縄文土器				外:にぶい橙		20070031
04001538	H13 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	-	-
3-31-408 04001558	I13 区画 SK1115	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい赤褐 内:褐灰	-	-
3-31-409		縄文土器				外:にぶい黄褐		3-14
04001555	I13 区画	深鉢	-	-	-	内:黒褐	-	20070632
3-31-410 04001562	I13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:黒褐	-	3-14 20070633
3-31-411	H13 区画	縄文土器				外:にぶい褐		3-14
04001540	四日〇 四回	深鉢	-	-	-	内:黒褐	-	20070634
3-31-412 04001546	I13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:赤褐 内:にぶい赤褐	-	-
3-31-413	I13 区画	縄文土器				外:明赤褐		
04001557	115 区画	深鉢				内:黒褐 外:明赤褐	-	
3-31-414 04001563	I13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	内:黒褐	-	-
3-31-415	I13 区画	縄文土器	_	_	_	外:黒褐	_	_
04001561 3-31-416	110	深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:明赤褐		3-14
04001541	H13 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070635
3-31-417	I13 区画	縄文土器	-	-	_	外:明赤褐	-	3-14
04001552 3-31-418		深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい褐		20070636 3-14
04001554	I13 区画	深鉢	-	-	-	内:黒褐	-	20070637
3-31-419	I13 区画	縄文土器	-	-	-	外:黒褐	-	3-14
04002718 3-31-420	P1238	深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい赤褐		20070638 3-14
04001539	H13 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	-	20070639
3-31-421	I12 区画	縄文土器	-	-	-	外:赤褐	-	3-14 20070640
04001547 3-31-422	I11 区画	深鉢 縄文土器				内:暗褐 外:灰黄褐	ロナルルン	20070040
04002716	P1265	深鉢	-	-	-	内:灰黄褐	外面煤付着	-
3-31-423 04001553	I13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	_	外: 黒褐 内: 黒褐	-	3-14 20070641
3-32-424	H11 区画	縄文土器				外:橙	400 1/15 /15/14	3-14
04002715	P1266	深鉢	-	-	-	内:にぶい褐	426 と同一個体	20070642
3-32-425 04001560	I13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:にぶい黄褐	-	3-14 20070643
3-32-426	112 12 mi	縄文土器				外:明褐	424 と同一個仕	3-14
04001559	I13 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	424 と同一個体	20070644
3-32-427 04001545	H13 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰 内:オリーブ黒	-	-
3-32-428	H13 区画	縄文土器	_			外:橙		3-14
04001542	1113 区凹	深鉢	ļ -	_		内:橙	MANTA OV	20070645
3-32-429 04001530	F15 区画	縄文土器 深鉢	12.3*	-	-	外:暗褐 内:明赤褐	430 と同一個体か	3-14 20070646
3-32-430	F15 区画	縄文土器	_	6.7	_	外:明赤褐	429 と同一個体か	3-14
04001879	110	深鉢		5.1		内:明赤褐	-50 CF3 IMPTV	20070647

表3-3 1区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm	1	色調	備考	写真図版
登録番号	田工匠匠	器種	口径	底径	器高		C. m/	写真登録番号
3-32-431	F15 区画	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	
04001543	110 区画	深鉢				内:黒褐		
3-32-432	G13 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい橙	_	3-14
04001534	010 [2]	深鉢				内:にぶい橙		20070648
3-32-433	表採	縄文土器	_	_	_	外:にぶい褐	傾きは不確実	3-14
04001532	20/4	深鉢				内:橙		20070649
3-32-434	G12 区画	縄文土器	_	_	_	外:橙	図は天地逆	3-14
04001531	012 [2]	深鉢				内:黄灰	PATO / CELE	20070650
3-32-435	H13 区画	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	3-14
04001535	1110 [2]	深鉢				内:灰黄褐		20070651
3-32-436	F12 区画	縄文土器	_	_	_	外:オリーブ黒	_	3-14
04002570	112 2 2	壺				内:オリーブ黒		20070652
3-32-437	E14 区画	縄文土器	_	12.9	_	外:橙	_	3-14
04001893	BIIDE	台付鉢?		12.0		内:橙		20070653
3-32-438	D15 区画	無文土器?	_	6.9	_	外:にぶい黄橙	朝鮮系無文土器か	3-14
04001884	D10 [2.[6]	-		0.0		内:にぶい黄橙	7736171717177	20070654
3-32-439	F11 区画	土製品	3.6	3.5	0.7	外:にぶい褐	_	_
04001901	111	土製円盤	0.0	0.0	0.7	内:橙		
3-32-440	G12 区画	土製品	3.5	3.4	0.8	外:黄橙	_	_
04001905	012 [土製円盤	0.0	0.1	0.0	内:灰黄褐		
3-32-441	F10 区画	土製品	3.9	3.5	0.6	外:にぶい黄橙	_	3-14
04001900	110	土製円盤	0.0	0.0	0.0	内:にぶい橙		20070655
3-32-442	F12 区画	土製品	4.1	3.8	0.7	外:明黄褐	_	3-14
04001902		土製円盤				内:にぶい黄橙		20070656
3-32-443	G12 区画	土製品	5.0	_	0.6	外:橙	_	_
04001904		土製円盤				内:にぶい赤褐		
3-32-444	F12 区画	土製品	5.7	5.3	0.7	外:明黄褐	_	3-14
04001899		土製円盤				内:橙		20070657
3-32-445	-	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐・褐灰	-	3-14
04001877		高杯?				内:黒・オリーブ黑		20070658
3-32-446	F12 区画	縄文土器	13.5*	-	-	外:暗灰黄	-	3-14
04001882		壺				内:暗灰黄		20070659
3-32-447	F12 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄褐	-	_
04001883		壺				内:灰黄褐		
3-32-448	F15 区画	縄文土器	-	-	_	外:黒褐	_	3-14
04001880	-	壺				内:橙		20070660
3-32-449	F15 区画	縄文土器	-	5.1*	-	外:赤褐	外面赤色顔料塗布	3-14
04001881		壺				内:橙		20070661
3-32-450	I11 区画	弥生土器	32.2*	-	_	外:橙	_	3-14
04001895		獲				内:にぶい橙		20070662
3-32-451	I11 区画	弥生土器	-	6.4*	-	外:橙	-	3-14
04001896		甕				内:橙		20070663

表3-4 1区縄文~弥生時代の遺構外出土石器

		T	10.3	- II		小工时心	· / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	ч	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	長さ	寸法 mm 幅	厚さ	重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
3-33-452	E14 区画	打製石器	15.8	16.0	3.8	0.8	黒曜岩	破損後、再度整形か?	3-16
04002530 3-33-453		石鏃 打製石器							20070068 3-16
04002526	D16 区画	石鏃	16.7	13.4	4.8	0.9	黒曜岩	片側基部欠損	20070069
3-33-454 04002529	F12 区画	打製石器 石鏃	19.4	15.2	3.5	0.9	黒曜岩	左右非対称 先端欠損	3-16 20070070
3-33-455 04001968	G13 区画	打製石器 石鏃	20.1	17.0	3.2	1.0	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070071
3-33-456	F13 区画	打製石器	22.2	14.7	3.2	0.9	黒曜岩	_	3-16
04002522 3-33-457		石鏃 打製石器					無斑晶質		20070072 3-16
04002511	F12 区画	石鏃	20.5	17.1	3.5	1.2	安山岩	-	20070073
3-33-458 04002509	F12 区画	打製石器 石鏃	21.0	18.8	5.2	1.5	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070074
3-33-459 04001969	G12 区画	打製石器 石鏃	23.1	19.5	3.8	1.4	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070075
3-33-460	F11 区画	打製石器	23.4	15.9	3.4	1.2	無斑晶質	_	3-16
04002507 3-33-461		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質	4 25 4	20070076 3-16
04002488	F13 区画	石鏃	21.7	17.4	3.7	1.3	安山岩	先端欠損	20070077
3-33-462 04002457	F13 区画	打製石器 石鏃	21.5	18.8	5.0	2.0	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070078
3-33-463 04001970	G12 区画	打製石器 石鏃	22.8	15.7	3.7	1.2	無斑晶質	-	3-16 20070079
3-33-464	F12 区画	打製石器	22.0	16.5	3.5	1.4	安山岩 無斑晶質		3-16
04001940 3-33-465	112 区岡	石鏃 打製石器	22.0	10.5	3.3	1.4	安山岩	-	20070080 3-16
04002524	F13 区画	石鏃	24.3	14.9	3.5	1.0	黒曜岩	-	20070081
3-33-466 04002476	F13 区画	打製石器 石鏃	24.0	16.0	2.4	1.0	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070082
3-33-467	F13 区画	打製石器	22.5	17.0	3.6	1.5	無斑晶質	先端欠は剥離的、未製品の可能性あり	3-16
04001976 3-33-468	表採	石鏃 打製石器	24.9	18.5	3.6	1.6	安山岩		20070083 3-16
04002607 3-33-469	衣抹	石鏃 打製石器	24.9	18.5	3.0	1.6	羔唯石	-	20070084 3-16
04002520	E12 区画	石鏃	23.3	19.3	3.6	1.3	黒曜岩	先端欠損	20070085
3-33-470 04001939	G11 区画	打製石器 石鏃	25.7	17.4	4.9	1.6	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070086
3-33-471	G12 区画	打製石器	26.3	15.1	2.8	1.1	無斑晶質	左右非対称	3-16
04001967 3-33-472	F12 区画	石鏃 打製石器	25.6	21.6	3.4	1.9	安山岩 無斑晶質		20070087 3-16
04001945 3-33-473	F12 区間	石鏃 打製石器	23.0	21.0	3.4	1.9	安山岩 無斑晶質	-	20070088 3-16
04001971	F14 区画	石鏃	24.5	18.5	3.9	1.8	安山岩	-	20070089
3-33-474 04001965	F14 区画	打製石器 石鏃	25.9	18.0	5.6	2.7	無斑晶質 安山岩	先端が僅かに欠けている	3-16 20070090
3-33-475	F13 区画	打製石器	27.4	18.0	3.4	1.6	無斑晶質	片側基部欠損	3-16
04002466 3-33-476	F13 区画	石鏃 打製石器	27.9	19.6	4.3	2.3	安山岩 無斑晶質		20070091 3-16
04002498 3-33-477	下13 区四	石鏃 打製石器	21.9	19.0	4.3	2.3	安山岩 無斑晶質	-	20070092 3-16
04002516	F12 区画	石鏃	22.5	16.4	2.8	1.1	安山岩	先端欠損	20070093
3-33-478 04001941	H12 区画	打製石器 石鏃	26.1	16.5	3.7	1.6	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070094
3-33-479	SX1139	打製石器	27.9	16.5	3.3	1.3	無斑晶質	-	3-16
04001942 3-33-480	H14 区画	石鏃 打製石器	25.8	16.5	3.3		安山岩 無斑晶質	 	20070095 3-16
04001943 3-33-481	П14 区凹	石鏃 打製石器	23.8	10.5	3.3	1.2	安山岩 無斑晶質	/Lºm市区1月	20070096 3-16
04002510	F12 区画	石鏃	24.3	15.0	3.1	1.3	安山岩	先端欠損	20070097
3-33-482 04002528	F12 区画	打製石器 石鏃	27.8	16.7	2.8	1.2	黒曜岩	-	3-16 20070098
3-33-483	F13 区画	打製石器	27.6	18.9	5.9	2.5	無斑晶質	断面三角形	3-16
04001958 3-33-484	F12 区画	石鏃 打製石器	25.1	101	3.6	1 7	安山岩 無斑晶質		20070099 3-16
04001963 3-33-485		石鏃 打製石器		18.1	3.0	1.7	安山岩 無斑晶質	-	20070100 3-16
04002464	F13 区画	石鏃	24.2	17.6	3.4	1.6	安山岩	礫面残存 先端欠損	20070101

表3-4 1区縄文~弥生時代の遺構外出土石器

			表3-	-4 11	스神又へ	·	の遠稱外出	5工 口 奋 	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	長さ	寸法 mm 幅	厚さ	重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
3-33-486	F14 区画	打製石器	27.3	15.9	4.3	1.5	無斑晶質	 	3-16
04002462 3-33-487		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070102 3-16
04002513	D15 区画	石鏃	29.4	18.0	4.5	2.0	安山岩	-	20070103
3-34-488 04002482	F13 区画	打製石器 石鏃	29.2	18.9	3.1	1.7	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070104
3-34-489	F13 区画	打製石器	28.3	16.0	4.0	2.0	無斑晶質	左折断は先端に及ぶ 片側基部欠損	3-16
04002463 3-34-490	Pro FF	石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質	II tradulate date 1 - Let	20070105 3-16
04002496	F13 区画	石鏃	31.5	18.0	4.7	2.3	安山岩	片側基部欠損	20070106
3-34-491 04001960	F13 区画	打製石器 石鏃	30.7	18.7	3.0	1.4	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070107
3-34-492 04002505	E11 区画	打製石器 石鏃	31.1	18.2	3.3	1.8	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070108
3-34-493 04001962	F12 区画	打製石器 石鏃	29.7	19.5	3.7	1.7	無斑晶質 安山岩	両側に抉りあり	3-16 20070109
3-34-494	F15 区画	打製石器	31.9	20.4	5.0	2.6	黒曜岩		3-16
04002531 3-34-495	表採	石鏃 打製石器	31.3	20.4	3.0	2.0	無斑晶質	-	20070110 3-16
04001951	F12 区画	石鏃	30.5	19.0	4.9	2.1	安山岩	先端・片側基部欠損	20070111
3-34-496 04002467	F13 区画	打製石器 石鏃	31.8	19.1	4.5	2.3	無斑晶質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070112
3-34-497	F12 区画	打製石器	30.0	20.5	4.9	2.7	無斑晶質	先端・片側基部欠損	3-16
04002515 3-34-498	CV1100	石鏃 打製石器	20.0	15.1	0.0	1.0	安山岩 無斑晶質		20070113 3-16
04001954	SK1129	石鏃	30.8	15.1	3.6	1.8	安山岩	-	20070114
3-34-499 04001975	F13 区画	打製石器 石鏃	31.0	17.5	2.6	1.4	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070115
3-34-500 04001964	F12 区画	打製石器 石鏃	32.4	19.4	3.6	1.6	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070116
3-34-501 04001984	F13 区画	打製石器 石鏃	32.5	18.8	4.0	2.1	無斑晶質安山岩	先端・片側基部欠損	3-16 20070117
3-34-502	F13 区画	打製石器	34.4	20.3	4.6	2.5	無斑晶質	先端・片側欠損	3-16
04002458 3-34-503	113 区岡	石鏃 打製石器	34.4	20.3	4.0	2.5	安山岩 無斑晶質	儿童 一月 関入3貝	20070118 3-16
04002456	F13 区画	石鏃	34.6	17.9	3.4	1.9	安山岩	-	20070119
3-34-504 04002470	F13 区画	打製石器 石鏃	35.0	18.1	4.2	2.4	無斑晶質 安山岩	片側基部欠損	3-16 20070120
3-34-505 04001955	F13 区画	打製石器 石鏃	37.0	18.9	3.5	2.5	無斑晶質 安山岩	-	3-16 20070121
3-34-506	F12 区画	打製石器	40.9	22.3	3.7	2.9	無斑晶質	-	3-16
04001946 3-34-507	F12 区画	石鏃 打製石器	16.5	11.9	1.8	0.3	安山岩 無斑晶質	 左右非対称	20070122 3-17
04001953 3-34-508		石鏃 打製石器	10.5			0.5	安山岩	/上119F/37初	20070123 3-17
04002608	SX1115	石鏃	18.1	15.0	2.4	0.6	黒曜岩	-	20070124
3-34-509 04002525	I13 区画	打製石器 石鏃	22.9	17.1	3.1	1.0	黒曜岩	片側基部欠損	3-17 20070125
3-34-510 04002502	F12 区画	打製石器 石鏃	23.7	17.4	3.7	1.4	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070126
3-34-511 04002465	F13 区画	打製石器 石鏃	23.2	17.8	2.8	1.0	無斑晶質 安山岩	礫面残存	3-17 20070127
3-34-512	F12 区画	打製石器	24.3	17.1	3.8	1.6	無斑晶質	-	3-17
04001944 3-34-513	F13 区画	石鏃 打製石器	23.8	21.0	4.7	1.9	安山岩 無斑晶質	-	20070128 3-17
04001961 3-34-514		石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070129 3-17
04002506 3-34-515	E15 区画	石鏃 打製石器	26.4	18.0	4.6	1.9	安山岩 無斑晶質	-	20070130 3-17
04002514	F12 区画	石鏃	28.6	18.7	3.9	2.0	安山岩	左右非対称	20070131
3-34-516 04001956	F13 区画	打製石器 石鏃	31.9	16.5	3.9	1.7	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070132
3-34-517 04002512	F12 区画	打製石器 石鏃	32.4	17.4	4.5	2.3	無斑晶質 安山岩	片側基部欠損	3-17 20070133
3-34-518 04002504	F12 区画	打製石器 石鏃	33.4	18.2	5.9	3.3	無斑晶質安山岩	-	3-17 20070134
3-35-519	F12 区画	打製石器	28.8	20.2	5.8	3.1	無斑晶質		3-17
04001952		石鏃				0.1	安山岩		20070135

表3-4 1区縄文~弥生時代の遺構外出土石器

登録番号 3-35-520 04002453 3-35-521 04001948 3-35-522 04001973 3-35-523 04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-526 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	出土位置 F13 区画 F13 区画 F13 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画 F13 区画 F13 区画	種器 製石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀石銀	長さ 28.2 32.9 32.8 32.8 34.6 36.1 31.9	寸法 mm 幅 21.5 20.4 20.4 20.0 22.2 22.3	厚さ 5.4 6.0 4.5 4.4 5.4	重量 g 3.0 3.3 2.5 2.6	石材 無斑晶質 安山岩質 安山岩質 安山岩質 安山岩 無斑晶質	備考 左右非対称 先端欠損	写真図版 写真登録番号 3-17 20070136 3-17 20070137 3-17
3-35-520 04002453 3-35-521 04001948 3-35-522 04001973 3-35-523 04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-529 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画 F13 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画	打製石器 石製石鏃器 石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製石製	28.2 32.9 32.8 32.8 34.6 36.1 31.9	21.5 20.4 20.4 20.0 22.2	5.4 6.0 4.5 4.4	3.0 3.3 2.5 2.6	安山岩 無斑晶質 安山岩 無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070136 3-17 20070137 3-17
04002453 3-35-521 04001948 3-35-522 04001973 3-35-523 04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画 F13 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画	打製 石製 石製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五	32.9 32.8 32.8 34.6 36.1 31.9	20.4 20.4 20.0 22.2	6.0 4.5 4.4	3.3 2.5 2.6	無斑晶質 安山岩 無斑晶質 安山岩 無斑晶質	-	3-17 20070137 3-17
04001948 3-35-522 04001973 3-35-523 04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画	打製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五製 五	32.8 32.8 34.6 36.1 31.9	20.4 20.0 22.2	4.5	2.5	無斑晶質 安山岩 無斑晶質	先端左側に抉り	3-17
04001973 3-35-523 04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画 F12 区画 F14 区画 F12 区画 F13 区画 F13 区画	石 打製 在製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 石製 新器 五製 新器 五製 新器 五製 五数 五数 五数 五数 五数 五数 五数 五数 五数 五数	32.8 34.6 36.1 31.9	20.0	4.4	2.6	安山岩 無斑晶質	先端左側に抉り	
04002000 3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F12 区画 F14 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画	石 打製石器 石製 石製 石製 石製 石製 石製 石製 石製 石製 石製	34.6 36.1 31.9	22.2					20070138
3-35-524 04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F14 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画 F13 区画	打製石器 石鏃 打製石器 石製 器 石製 器 石製 器 石製 器 石製 器 石製 器 石製 器	36.1		5.4		安山岩	先端欠損	3-17 20070139
04002519 3-35-525 04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F14 区画 F12 区画 F12 区画 F13 区画 F13 区画	打製石器 石數 打製石器 石數 打製石器 石數 打製石器 石數	36.1	22.3		3.5	無斑晶質	-	3-17
04001966 3-35-526 04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F12 区画 F12 区画 F13 区画 F13 区画	打製石器 石鏃 打製石器 石鏃 打製石器	31.9	22.3	0.1		安山岩 無斑晶質	766	20070140 3-17
04002518 3-35-527 04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F12 区画 F13 区画 F13 区画	石鏃 打製石器 石鏃 打製石器			6.1	4.2	安山岩 無斑晶質	礫面残存	20070141 3-17
04002517 3-35-528 04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画 F13 区画	石鏃 打製石器	25.0	22.7	6.4	4.2	安山岩	先端・基部の一部欠損	20070142
04002469 3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区画		35.8	22.5	6.1	4.6	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070143
3-35-529 04002477 3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490		- H 3/J/V	34.8	21.9	6.3	4.5	無斑晶質 安山岩	先端欠損	3-17 20070144
3-35-530 04002468 3-35-531 04002491 3-35-532 04002490		打製石器	35.6	23.6	6.1	4.7	無斑晶質		3-17
3-35-531 04002491 3-35-532 04002490	F13 区凹	石鏃 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070145 3-17
04002491 3-35-532 04002490		石鏃 打製石器	24.5	16.2	3.4	1.7	安山岩 無斑晶質	先端が丸い	20070146 3-17
04002490	F13 区画	石鏃	25.4	17.8	5.5	2.9	安山岩	先端欠損	20070147
	F13 区画	打製石器 石鏃	28.9	20.4	5.5	3.3	無斑晶質 安山岩	先端欠損	3-17 20070148
3-35-533 04002501	F13 区画	打製石器 石鏃	35.0	24.4	6.9	5.0	無斑晶質 安山岩	先端・片側基部欠損	3-17 20070149
3-35-534	F11 区画	打製石器	48.4	7.8	3.5	1.8	無斑晶質		3-17
04002537 3-35-535		石錐 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070150 3-17
04002606 3-35-536	SK1122	石錐 打製石器	38.7	13.3	6.1	2.3	安山岩 無斑晶質	-	20070151 3-17
04002536	G13 区画	石錐	37.6	22.3	5.5	3.7	安山岩	先端欠損	20070152
3-35-537 04002540	E14 区画	打製石器 石錐	31.6	31.3	7.3	6.7	無斑晶質 安山岩	未製品	3-17 20070153
3-35-538 04002542	E13 区画	打製石器 石錐	68.5	46.2	13.0	30.5	無斑晶質 安山岩	未製品	3-17 20070154
3-35-539		打製石器	38.3	67.6	10.7	21.7	無斑晶質	-	3-17
04002535 3-36-540	F12 区画	石匙 打製石器	21.0	29.3	5.2	3.7	安山岩 無斑晶質		20070155 3-17
3-36-541		削器 打製石器				3.1	安山岩 無斑晶質	-	20070156 3-17
04002544	H13 区画	削器	29.9	41.7	9.1	13.3	安山岩	一部欠損	20070157
3-36-542 04002560	F11 区画	打製石器 削器	32.9	42.1	8.3	8.9	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070158
3-36-543 04002561	H11 区画	打製石器 削器	36.2	42.5	7.7	12.4	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070159
3-36-544	F15 区画	打製石器	45.5	50.0	8.9	17.0	無斑晶質	-	3-17
3-36-545	F11 区画	削器 打製石器	35.7	54.2	10.2	21.0	安山岩 無斑晶質		20070160 3-17
3-36-546		削器 打製石器					安山岩 無斑晶質	-	20070161 3-17
04002549	F11 区画	削器	56.8	42.5	9.9	13.8	安山岩	-	20070162
3-36-547 04002550	E12 区画	打製石器 削器	60.0	48.1	24.4	52.4	無斑晶質 安山岩		3-17 20070163
3-36-548 04002547	F13 区画	打製石器 削器	44.3	49.1	15.5	34.1	無斑晶質 安山岩	-	3-17 20070164
3-36-549	F12 区画	打製石器	51.2	57.3	15.9	34.4	無斑晶質	-	3-17
04002559 3-36-550	F12 区画	削器 打製石器	40.2	82.0	12.4	52.0	安山岩 無斑晶質		20070165 3-17
3-36-551	- 17 区門	削器 打製石器					安山岩 無斑晶質	-	20070166 3-17
04002546		削器	45.9	89.7	16.8	59.0	安山岩	一部欠損	20070167
04002563	F13 区画		I			1			
3-37-553 04002541	F13 区画 G11 区画	打製石器 削器 打製石器	73.6	94.3	13.8	74.8	無斑晶質 安山岩 無斑晶質	-	3-17 20070168 3-17
3-37-552 04002563	F13 区画								

表3-4 1区縄文~弥生時代の遺構外出土石器

	1	1	123	- II		23.77-43.10	リノ退件プトロ	ч 	1
挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 mm		重量	石材	備考	写真図版
登録番号	山工加區	器種	長さ	幅	厚さ	g	12/19)用与	写真登録番号
3-37-554	P	打製石器					無斑晶質		3-17
04002552	F11 区画	削器	66.5	112.5	10.9	77.0	安山岩	-	20070170
3-37-555		打製石器					無斑晶質		3-18
04002551	F12 区画	削器	123.2	30.3	14.0	48.5	安山岩	-	20070171
3-37-556		打製石器					無斑晶質		3-18
04002557	F13 区画	削器	55.1	114.8	18.1	104.3	安山岩	-	20070172
3-37-557		打製石器					無斑晶質	礫面残存 残存する最終剥離痕から見る	3-18
04002554	F15 区画	削器	81.9	142.7	30.2	287.5	安山岩	と、縦長剥片だったと思われる 石核的	20070173
3-38-558		打製石器					無斑晶質	CV MEEXANTIC STEEDING TO BIANTI	3-18
04002556	F12 区画	削器	97.7	106.8	15.4	151.0	安山岩	-	20070174
3-38-559		打製石器					久田石		3-18
04002567	E14 区画	17 製口品 削器	48.6	21.7	6.5	5.8	黒曜岩	石刃的 鋸歯状・抉り的な加工	20070175
3-38-560									3-18
04002568	D14 区画	打製石器	57.4	14.5	5.9	4.4	黒曜岩	両側に調整あり	
		削器							20070176
3-38-561	E13 区画	打製石器	61.3	25.9	6.3	8.8	黒曜岩	石刃的	3-18
04002539		削器							20070177
3-38-562	F12 区画	打製石器	73.8	23.3	8.3	13.4	黒曜岩	石刃素材	3-18
04002565		削器							20070178
3-38-563	E14 区画	打製石器	81.0	25.1	9.0	13.1	黒曜岩	 石刃素材	3-18
04002566		削器							20070179
3-38-564	G11 区画	打製石器	23.9	26.5	16.6	11.2	黒曜岩	一部欠損	3-18
04002532	011	石核	20.0	20.0	10.0	11.5		HP/ CDC	20070180
3-38-565	F14 区画	打製石器	51.6	68.3	109.8	319.2	無斑晶質	一部欠損	3-18
04002534	11122	石核	01.0	00.0	100.0	010.2	安山岩	IP/CIA	20070181
3-38-566	F12 区画	打製石器	30.5	65.2	22.9	44.5	無斑晶質	一部欠損	3-18
04002533	112 [2]	石核	30.3	00.2	22.0	11.0	安山岩	10八顶	20070182
3-39-567	E11 区画	磨製石器	127.7	51.3	27.8	300.4	蛇紋岩		3-18
04002564	111 区岡	石斧	121.1	31.3	21.0	300.4	コレルスイコ	-	20070183
3-39-568	I13 区画	礫石器	111.0	87.0	60.0	850.8	花崗岩		3-18
04002582	113 区間	磨石	111.0	87.0	00.0	630.6	16両石	-	20070184
3-39-569	F13 区画	礫石器	111.0	94.5	62.0	931.7	花崗岩		3-18
04002579	四公で11	磨石	111.0	94.5	02.0	931.7	112両石	-	20070185
3-39-570	H12 区画	礫石器	122.0	92.0	59.0	831.0	花崗岩	被熱の可能性あり	3-18
04002578	日12区間	磨石	122.0	92.0	59.0	831.0	化崗石	検禁の可能性のり	20070186
3-39-571	C10 F7=	礫石器	1000	107.5	40.0	007.0	*****		3-18
04002581	G13 区画	磨石	130.0	107.5	46.0	907.2	花崗岩	-	20070187
3-39-572	01155	礫石器	1100	07.5	000	10000	******		3-18
04002580	G14 区画	磨石	112.0	97.5	66.0	1090.6	花崗岩	-	20070188
3-39-573		礫石器	44: 0	10	0.4.0	11000			3-18
04002583	H11 区画	磨石	111.0	105.5	64.0	1166.0	-	-	20070189
3-40-574	****	礫石器					-He-Liver	Liste o The bill to be	3-18
04002577	H12 区画	磨石	129.0	105.0	40.5	868.0	花崗岩	被熱の可能性あり	20070190
3-40-575	an	礫石器			05.			der L. E.	3-18
04002604	SD1045	磨石	71.7	58.0	37.5	260.2	-	一部欠損	20070191
3-40-576		礫石器							3-18
04002575	G13 区画	磨石	129.0	110.5	47.0	974.3	花崗岩	-	20070192
3-40-577		礫石器							3-18
04002576	F12 区画	磨石	91.0	99.0	50.5	600.2	花崗岩	一部欠損	20070193
04002310		石山						I .	20010133

表3-5 3区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			100		J 122/14	[文·]小土时 [0/] 退悔 / L	4 	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-46-578 05000563	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:にぶい褐	外面煤付着	3-19
3-46-579	7115	縄文土器				外:灰黄褐		20070664 3-19
05000569	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070665
3-46-580 05000564	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-19 20070666
3-46-581	Z14 · Y15 ⊠	縄文土器	10.7*			外:にぶい橙	□ □唇部刻目 外面煤付着 滑石を含	3-19
05000574	画	深鉢	16.7*	-	-	内:にぶい橙	t	20070667
3-46-582 05000562	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい橙	口唇部刻目 滑石を含む	3-19 20070668 • 0983
3-46-583	Z14 区画	縄文土器				外:にぶい黄橙	口縁外面煤付着	3-19
05000566	214 区四	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	口称为自为未行相	20070669 • 0984
3-46-584 05000573	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-19 20070670
3-46-585	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい赤褐	口唇部刻目 滑石を含む	3-19
05000597 3-46-586		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:灰褐	HENRYLL WITELLO	20070671 • 0985 3-19
05000598	Z14 区画	稱又上品 深鉢	-	-	-	内:橙	口唇部刻目 滑石を含む	20070672 • 0986
3-46-587	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい褐	口唇部刻目 滑石を含む	3-19
05000599 3-46-588		深鉢 縄文土器				内:にぶい褐 外:明黄褐	HEHRAIT MICEO	20070673 • 0987 3-19
05000843	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:明黄褐	口唇部刻目	20070674 • 0988
3-46-589	Z14 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい赤褐	口唇部刻目 滑石を含む	3-19
05000804 3-46-590		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:明褐~黒褐		20070675 • 0989 3-19
05000560	Z14・15 区画	深鉢	30.5*	-	-	内:にぶい橙~灰褐	口唇部刻目 滑石を含む	20070676
3-46-591	Z15 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい褐	口唇部刻目 滑石を含む	3-19
05000600 3-46-592	7115	深鉢 縄文土器				内:にぶい褐 外:明赤褐	NET'R A. I.	20070677 • 0990 3-19
05000806	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:明赤褐	滑石を含む	20070678
3-46-593 05000807	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	口唇部刻目 滑石を含む	3-19 20070679
3-46-594	Z15 区画	縄文土器				外:にぶい褐	 口唇部刻目 滑石を含む	3-19
05000805	四回 612	深鉢	-	-	-	内:にぶい褐	口管部列日 有句を含む	20070680 • 0991
3-46-595 05000808	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい褐 内:にぶい褐	口唇部刻目 滑石を含む	3-19 20070681 • 0992
3-46-596	Z15 区画	縄文土器	_	_	_	外:灰褐	滑石を含む	3-19
05000809 3-46-597	210 [2]	深鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:明赤褐	THE COO	20070682 3-19
05000803	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:明赤褐	口唇部刻目 滑石を含む	20070683 • 0993
3-46-598	Z14 区画	縄文土器	-	-	_	外:にぶい赤褐	口唇部刻目	3-19
05000802 3-46-599		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:灰褐		20070684 • 0994 3-19
05000801	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:灰褐	-	20070685 • 0995
3-46-600	Z14 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄褐	滑石を含む	3-19
05000838 3-47-601	745 5	深鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:にぶい黄褐	ロブサルヤ カフィクト	20070686 • 0996 3-19
05000844	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	外面煤付着 滑石を含む	20070687 • 0997
3-47-602 05000579	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい橙	滑石を含む	3-19 20070688
3-47-603	Z15 区画	縄文土器				外:にぶい橙	 滑石を含む	3-19
05000568	213 区岡	深鉢				内:にぶい橙	1917/200	20070689
3-47-604 05000567	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	滑石を含む	3-19 20070690
3-47-605	Z15 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい褐	滑石を含む	3-19
05000577 3-47-606		深鉢 縄文土器				内: にぶい褐 外: 橙		20070691 3-19
05000588	Z15 区画	深鉢	_	-	_	内:橙	滑石を含む	20070692
3-47-607	Z14 区画	縄文土器	-	-	_	外:灰褐	滑石を含む	3-19
05000825 3-47-608		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:にぶい赤褐		20070693 3-19
05000595	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	滑石を含む	20070694
3-47-609 05000585	X16 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:明赤褐	滑石を含む	3-19 20070695
3-47-610	714 57==	縄文土器				外:灰褐	見る材け学 返てと会と	3-19
05000580	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	外面煤付着 滑石を含む	20070696
3-47-611 05000592	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい赤褐 内:橙	滑石を含む	3-19 20070697
03000332		1个平				1.1 • 122	l .	20010031

表3-5 3区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

	ı .	1	1				1	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-47-612 05000839	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄褐 内:にぶい黄褐	滑石を含む	3-19 20070698
3-47-613	715 57 ==	縄文土器				外:橙	温ナナムナ。	3-19
05000835	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	滑石を含む	20070699
3-47-614	Z15 区画	縄文土器	-	-	-	外:褐灰	滑石を含む	3-19
05000830 3-47-615		深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:灰褐		20070700 3-19
05000590	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	滑石を含む	20070701
3-47-616	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい褐	滑石を含む	3-19
05000831 3-47-617		深鉢 縄文土器				内:にぶい橙 外:稽		20070702 3-19
05000576	Z15 区画		-	-	-	外・恒 内:にぶい赤褐	滑石を含む	20070703
3-47-618	Z15 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい橙	滑石を含む	3-19
05000827	215 四回	深鉢		-	_	内:にぶい橙	領担で自る	20070704
3-47-619 05000587	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい赤褐 内:にぶい橙	滑石を含む	3-19 20070705
3-47-620	****	縄文土器				外:にぶい橙	New York	3-19
05000584	X15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	滑石を含む	20070706
3-47-621	Z14 区画	縄文土器	-	-	-	外:橙	滑石を含む	3-19
05000828 3-47-622		深鉢 縄文土器				内:明赤褐 外:褐灰		20070707 3-19
05000593	Z14 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	滑石を含む	20070708
3-47-623	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい黄橙	-	3-19
05000832 3-47-624		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:黒褐		20070709 3-19
05000578	Z14 区画	深鉢	-	-	-	ハ・黒帽 内:にぶい褐	滑石を含む	20070710
3-47-625	X14 • Z15 ⊠	縄文土器	_	_	_	外:橙	滑石を含む	3-20
05000582	画	深鉢				内:橙	HILL COO	20070711
3-47-626 05000586	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい橙 内:にぶい橙	滑石を含む	3-20 20070712
3-47-627	V1.5 57 mi	縄文土器				外:にぶい橙	N 石井八羊 海でも今to	3-20
05000591	X15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	外面煤付着 滑石を含む	20070713
3-47-628 05000581	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	滑石を含む	3-20 20070714
3-47-629	745 F	縄文土器				外:橙	リアナムム	3-20
05000575	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	滑石を含む	20070715
3-47-630 05000570	Z14 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい赤褐 内:にぶい赤褐	滑石を含む	3-20 20070716
3-47-631		縄文土器				外:灰褐		3-20
05000583	Y15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい赤褐	滑石を含む	20070717
3-47-632	Z14 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい褐	滑石を含む	3-20
05000571 3-47-633		深鉢 縄文土器				内:灰褐 外:にぶい橙		20070718 3-20
05000834	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	滑石を含む	20070719
3-47-634	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい橙	滑石を含む	3-20
05000829 3-47-635		深鉢 縄文土器				内:灰褐 外:にぶい黄橙		20070720 3-20
05000842	Z14 区画	稱又上品 深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070721
3-47-636	Z14 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい赤褐	_	3-20
05000589	214 区岡	深鉢		_	_	内:にぶい黄橙	_	20070722
3-48-637 05000572	X15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着 滑石を含む	3-20 20070723
3-48-638	V15 57 mi	縄文土器				外:にぶい黄橙		3-20
05000565	X15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070724
3-48-639 05000857	Z15 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	口縁外面に煤付着	3-20
3-48-640		縄文土器				外:黒褐		20070725
05000854	Z15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	641と同一個体か 外面煤付着	-
3-48-641	Z15 区画	縄文土器	_	_	-	外:黒褐	640と同一個体か 外面煤付着 屈	3-20
05000855 3-48-642		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄褐 外:灰褐	曲部外面は段状をなす	20070726 3-20
05000853	Y15 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい褐	口縁内面は段状をなす	20070727
3-48-643	Y15 区画	縄文土器	_	_	_	外:にぶい黄褐	_	_
05000852	110 000	浅鉢 縄文土器				内:にぶい黄褐 外:黒褐		3-20
3-48-644 05000851	X14 区画	種又工器 浅鉢	15.1*	-	-	外·黒橋 内:灰黄褐	-	3-20 20070728
3-48-645	X15 区画	縄文土器	15.2*		6.0	外:灰黄褐		3-20
05000856	717 区間	浅鉢	13.2	_	0.0	内:灰黄褐	-	20070729

表3-5 3区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

			12.5		3 E-//4	BX、小小土时100万度伸	71 4 4 4 4 4	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-48-646 05000822	X15 区画	縄文土器 深鉢	30.1*	-	-	外:にぶい褐 内:灰黄褐	口唇部貝殼腹縁文?	3-20 20070730
3-48-647	-	縄文土器	-	-	_	外:にぶい橙	□唇部刻目	3-20
05000823 3-48-648	V15 DT	深鉢 縄文土器				内:灰黄褐 外:黒褐	口层如加口	20070731 3-20
05000824	Y15 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	口唇部刻目	20070732
3-48-649 05000811	X16 · Z14区 画	縄文土器 深鉢	28.9*	-	-	外:浅黄橙 内:にぶい黄橙	外面煤付着	3-20 20070733
3-48-650 05000810	Y15 区画	縄文土器 深鉢	35.4*	-	-	外:橙 内:橙	-	3-20 20070734
3-48-651	Z15 区画	縄文土器	22.6*	_	_	外:にぶい黄橙	_	3-20
05000551 3-48-652		深鉢 縄文土器				内: にぶい黄橙 外: 褐	1.1 1.1.4.4.1.1.3.4.4.	20070735 3-20
05000552	-	深鉢	18.4*	-	-	内:にぶい黄褐	外面煤付着	20070736
3-48-653 05000549	-	縄文土器 深鉢	36.6*	-	-	外:灰黄褐 内:黄灰	外面煤付着	3-20 20070737
3-48-654 05000548	表採	縄文土器 深鉢	42.9*	-	-	外:黒褐 内:にぶい橙	口縁外面煤付着	3-20 20070738
3-49-655		縄文土器	20.7*			外:明黄褐		3-20
05000813 3-49-656		浅鉢 縄文土器		_		内:明黄褐 外:灰褐	-	20070739 3-20
05000815	表採	浅鉢	22.5*	-	-	内:灰褐	-	20070740
3-49-657 05000821	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:橙	-	3-20 20070741
3-49-658	X16 区画	縄文土器	22.6*	-	-	外:褐	外面煤付着	3-20
05000550 3-49-659		浅鉢 縄文土器				内: にぶい黄褐 外: にぶい黄褐		20070742 3-20
05000561 3-49-660	-	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:明褐 外:にぶい黄褐	-	20070743 3-20
05000555	Y15 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄褐	-	20070744
3-49-661 05000814	-	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:灰黄	-	3-20 20070745
3-49-662	Y15 区画	縄文土器	-	-	_	外:橙	-	3-20
05000818 3-49-663	1	深鉢 縄文土器				内:橙 外:にぶい黄橙		20070746 3-20
05000812	-	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070747
3-49-664 05000816	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-20 20070748
3-49-665 05000817	Z15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	3-20 20070749
3-49-666	Z15 区画	縄文土器	_	_	_	外:黒褐	外面煤付着	3-20
05000554 3-49-667		浅鉢? 縄文土器				内:黒褐 外:褐		20070750 3-20
05000553	X16 区画	浅鉢?	-	-	-	内:褐	外面煤付着	20070751
3-49-668 05000556	-	縄文土器 浅鉢?	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	3-20 20070752
3-49-669	Z15 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄褐	-	3-20
05000559 3-49-670	Z15 区画	浅鉢? 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		20070753 3-20
05000558 3-49-671		浅鉢? 縄文土器	-	_		内:にぶい黄橙 外:明黄褐	-	20070754 3-20
05000819	X15 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070755
3-49-672 05000557	X15 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外: 黒褐 内: 黒褐	-	3-20 20070756
3-49-673	-	縄文土器	-	-	-	外:灰黄褐	-	3-20
05000820 3-49-674	V145766	深鉢 縄文土器		7.0*		内: にぶい黄橙 外: にぶい橙		20070757 3-20
05000849 3-49-675	X14 区画	深鉢 縄文土器	-	7.0*	-	内:黒褐 外:にぶい橙	-	20070758 3-20
05000845	X14 区画	深鉢	-	9.1	-	内:黒褐	-	20070759
3-49-676 05000848	-	縄文土器 深鉢	-	7.0*	-	外:にぶい橙 内:にぶい橙	-	3-20 20070760
3-49-677	X15 区画	縄文土器	-	9.8*	-	外:にぶい褐	-	3-20
05000846 3-49-678		深鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		20070761
05000847 3-49-679	-	浅鉢 縄文土器	-	8.3*	-	内:にぶい橙 外:橙	-	-
3-49-679 05000850	X16 区画	種又工器 浅鉢	-	-	-	内:黒褐	-	-

表3-5 3区縄文~弥生時代の遺構外出土土器

挿図 - 番号 登録番号 出土位置		種別		寸法 cm	ı	色調	備考	写真図版
		器種	口径	底径	器高) in 3	写真登録番号
3-49-680	Y16 区画	弥生土器		-	-	外:にぶい黄褐		3-20
05000858	5000858 116 区間	甕	-			内:にぶい黄褐	-	20070762
3-49-681		弥生土器	28.4*			外:橙	外面煤付着	3-20
05000859	甕	20.4	-	-	内:橙	外面深刊有	20070763	

表3-6 3区縄文時代の遺構外出土石器

			10	3 – 6	フビル	Z-011007	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	′— пг	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	長さ	寸法 mm 幅	厚さ	重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
3-50-682 06000011	Z14 区画	打製石器 石鏃	19.0	11.8	5.1	0.6	黒曜岩	片脚欠損	3-21 20070194
3-50-683 06000017	Z14 区画	打製石器 石鏃	24.3	15.0	5.3	1.0	黒曜岩	片脚欠損	3-21 20070195
3-50-684 06000018	Z14 区画	打製石器 石鏃	25.5	16.5	4.8	1.2	黒曜岩	片脚欠損	3-21 20070196
3-50-685 06000013	Z15 区画	打製石器 石鏃	28.0	21.5	4.2	1.2	無斑晶質 安山岩	片脚欠損	3-21 20070197
3-50-686 06000012	Z14 区画	打製石器 石鏃	27.5	23.1	4.3	1.8	無斑晶質 安山岩	両脚端一部欠損	3-21 20070198
3-50-687 06000014	Z14 区画	打製石器 石鏃	27.5	19.6	3.6	1.2	無斑晶質 安山岩	片脚欠損	3-21 20070199
3-50-688 06000016	Z14 区画	打製石器 石鏃	26.5	17.5	4.9	1.6	無斑晶質 安山岩	片脚欠損	3-21 20070200
3-50-689 06000010	X16 区画	打製石器 石鏃	18.7	14.0	3.0	0.6	黒曜岩	1/2 欠損	3-21 20070201
3-50-690 06000030	-	打製石器 石鏃	25.8	15.0	3.4	1.2	無斑晶質 安山岩	先端一部欠損	3-21 20070202
3-50-691 06000007	X15 区画	打製石器 石鏃	21.8	19.2	5.2	2.2	無斑晶質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070203
3-50-692 06000020	Y16 区画	打製石器 石鏃	28.7	15.6	3.9	1.6	無斑晶質安山岩	先端部欠損	3-21 20070204
3-50-693 06000021	Y15 区画	打製石器 石鏃	26.6	17.3	5.5	2.6	無斑晶質 安山岩	基部欠損	3-21 20070205
3-50-694 06000001	X15 区画	打製石器 石鏃	25.4	19.7	5.0	2.2	無斑晶質安山岩	先端部欠損	3-21 20070206
3-50-695 06000025	-	打製石器 石鏃	29.3	18.9	4.6	2.0	無斑晶質安山岩	片基部欠損	3-21 20070207
3-50-696 06000004	X15 区画	打製石器 石鏃	31.0	17.9	4.0	2.4	無斑晶質安山岩	先端部基部欠損	3-21 20070208
3-50-697 06000008	X15 区画	打製石器 石鏃	30.2	23.5	4.9	3.2	無斑晶質 安山岩	完形	3-21 20070209
3-50-698 06000035	-	打製石器 石鏃	34.3	21.8	6.7	4.0	無斑晶質 安山岩	完形	3-21 20070210
3-50-699 06000034	-	打製石器 石鏃	40.0	24.0	4.9	4.0	無斑晶質 安山岩	完形 中央に擦痕あり	3-21 20070211
3-50-700 06000015	X16 区画	打製石器 石鏃	35.5	20.5	4.4	2.6	無斑晶質 安山岩	-	3-21 20070212
3-50-701 06000006	X15 区画	打製石器 石鏃	34.7	19.4	4.7	2.4	無斑晶質安山岩	側縁部欠損	3-21 20070213
3-50-702 06000019	Z15 区画	打製石器 石鏃	35.5	24.9	6.0	4.2	無斑晶質安山岩	基部欠損	3-21 20070214
3-50-703 06000002	X15 区画	打製石器 石鏃	33.7	22.0	7.0	4.6	無斑晶質 安山岩	先端部と側縁の一部欠損	3-21 20070215
3-50-704 06000024	-	打製石器 石鏃	37.4	22.1	4.4	3.0	無斑晶質 安山岩	基部端欠損	3-21 20070216
3-50-705 06000023	-	打製石器 石鏃	41.8	26.3	5.7	5.0	無斑晶質 安山岩	基部 3/4 欠損	3-21 20070217

表3-6 3区縄文時代の遺構外出土石器

	1		10	3 – 0	プ 区が电	~FGT 007&	11円プト山1上	. — ни	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	長さ	寸法 mm 幅	厚さ	重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
3-50-706 06000026	-	打製石器	31.8	27.3	8.2	7.4	無斑晶質安山岩	先端部欠損	3-21 20070218
3-50-707	X16 区画	石鏃 打製石器	33.0	24.5	6.0	4.2	黒曜岩	基部端欠損	3-21
06000009 3-50-708	X15 区画	石鏃 打製石器	27.0	27.8	4.0	3.0	無斑晶質	 	20070219 3-21
06000005 3-50-709	X15 区画	石鏃未製品 打製石器	33.4	25.4	4.5	3.4	安山岩 無斑晶質	先端部欠損	20070220 3-21
06000003 3-50-710		石鏃未製品 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070221 3-21
06000042 3-51-711	X16 区画	石鏃未製品 打製石器	33.0	27.9	8.5	5.6	安山岩 無斑晶質	完形	20070222 3-21
06000028 3-51-712	-	石鏃か削器 打製石器	26.5	20.5	7.0	4.0	安山岩無斑晶質	-	20070223
06000029	-	石鏃か削器	27.9	19.8	5.2	3.0	安山岩	完形	20070224
3-51-713 06000027	-	打製石器 石鏃か削器	33.1	26.1	6.8	5.8	無斑晶質 安山岩	-	3-21 20070225
3-51-714 06000032	-	打製石器 石鏃か削器	42.9	27.0	7.5	9.2	無斑晶質 安山岩	-	3-21 20070226
3-51-715 06000031	-	打製石器 石鏃か削器	36.9	30.5	9.4	11.0	無斑晶質 安山岩	-	3-21 20070227
3-51-716 06000033	-	打製石器 石鏃か削器	36.2	26.8	7.9	7.6	無斑晶質 安山岩	-	3-21 20070228
3-51-717 06000051	-	打製石器 石鏃か削器	25.4	47.2	9.0	10.8	無斑晶質安山岩	-	3-21 20070229
3-51-718	Z14 区画	打製石器	22.3	23.7	7.6	3.4	無斑晶質	片側欠損	3-21
06000045 3-51-719	X15 区画	削器 打製石器	27.8	35.0	10.9	8.8	安山岩 無斑晶質	 	20070230 3-21
06000041 3-51-720	_	削器 打製石器	29.5	33.8	9.0	8.2	安山岩 無斑晶質	一部欠損	20070231 3-21
06000052 3-51-721	V1C EZ eti	削器 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070232 3-21
06000050 3-51-722	X16 区画	削器 打製石器	26.7	34.7	6.8	6.8	安山岩 無斑晶質	完形	20070233 3-21
06000046 3-51-723	Z14 区画	削器 打製石器	27.0	32.6	7.2	6.2	安山岩無斑晶質	片側欠損	20070234 3-21
06000048	Y16 区画	削器	35.5	30.3	7.9	8.2	安山岩	完形	20070235
3-51-724 06000049	Y15 区画	打製石器 削器	37.0	49.0	12.4	12.6	無斑晶質安山岩	片側欠損	3-21 20070236
3-51-725 06000047	Z15 区画	打製石器 削器	55.7	79.4	21.7	79.6	無斑晶質 安山岩	完形	3-21 20070237
3-51-726 06000043	Y14 区画	打製石器 削器	67.3	90.4	17.3	92.2	無斑晶質 安山岩	完形	3-21 20070238
3-51-727 06000044	Z14 区画	打製石器 石匙	49.5	26.6	5.4	7.2	無斑晶質 安山岩	先端部欠損	3-21 20070239
3-52-728 06000057	Y15 区画	打製石器 石核	26.0	26.7	12.3	6.0	黒曜岩	-	3-21 20070240
3-52-729 06000058	X16 区画	打製石器 石核	32.0	23.7	13.6	8.8	黒曜岩	-	3-21 20070241
3-52-730	Y15 区画	打製石器	42.7	28.5	24.0	25.2	黒曜岩	-	3-21
06000059 3-52-731	Z15 区画	石核 打製石器	28.7	13.3	3.8	0.8	黒曜岩	 	3-21
06000054 3-52-732	-	剥片 打製石器	38.8	19.7	5.9	3.2	無斑晶質	完形	20070243 3-21
06000056 3-52-733	V16 57 mi	剥片 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070244 3-21
06000053 3-52-734	Y16 区画	剥片 打製石器	32.3	26.5	8.0	4.6	安山岩 無斑晶質	完形	20070245 3-21
06000055 3-52-735	Z16 区画	剥片 磨製石器	71.7	99.5	44.3	242.0	安山岩	完形	20070246 3-21
06000040	表採	石斧	109.0	68.0	11.6	92.4	蛇紋岩	基部欠損	20070247
3-52-736 06000036	X15 区画	礫石器 磨石?	122.0	36.2	23.4	162.0	砂岩	完形	3-21 20070248
3-52-737 06000038	Y15 区画	礫石器 磨石	111.8	84.4	29.5	361.4	花崗岩	一部欠損	3-21 20070249
3-52-738 06000037	Y14 区画	礫石器 磨石	121.8	93.0	59.7	950.0	花崗岩	一部欠損	3-21 20070250
3-52-739 06000039	Y15 区画	礫石器 磨石	124.9	90.1	28.4	550.0	花崗岩	ごく一部欠損	3-21 20070251
		H				1	1	I.	

3 中世~近世の遺構と遺物

1) 1区中世〜近世の遺構と遺物

掘立柱建物 (図3-56~61)

掘立柱建物として報告するのは以下の 8 棟で、全て整理作業の段階で認定したものである。これらの掘立柱建物は、1 区西半部中央の南寄りに集中して分布する。このうち SB1023・1024・1025・1026 の 4 棟は平面的に重複あるいは間近に接しており同時並存が考えられないことから、掘立柱建物に関しては少なくとも 4 段階の変遷が想定される。建物の主軸方位は南北棟で N31° \sim 43° E と北東 - 南西方向から北北東 - 南南西方向に集中しており、東西棟もこれにほぼ直交する。全体として主軸方向は揃っていると言えるが、強い企画性を見出すよりは、地形的な条件に合わせたものと考えるほうが実態に近いと思われる。

調査時には掘立柱建物を構成する柱穴も他の小穴と同様に遺物の出土したもののみ一連番号を付けていたが、報告に際して各々の掘立柱建物ごとに英大文字による番号を北東隅から時計回りに PA、PB、PC…の要領で付けた。柱穴の規模は比較的小さなものが多く、いずれも平面は円形基調である。柱穴が他の主要遺構と重複する例はなく、遺構の時期を決定するのは、柱穴から出土した僅かな量の遺物である。

SB1023 (図3-56)

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N38°E にとる南北棟の側柱建物である。SB1025・SB1026と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。東側に主軸が並行する SB1024、南側に SX1010 がきわめて近接して位置する。梁行2間(4.5 m)×桁行3間(6.4 m)で、南側に庇が付く。庇の幅は 2.2 mで、庇を含めた規模は 4.5 m× 8.6 mになる。庇とした部分を1間と見れば 2×4 間の建物と考えられる。床面積は真々で身舎が 28.8 m²、底まで含めると 38.7 m²である。梁行柱間は $2.0 \sim 2.5$ m、桁行柱間は $2.0 \sim 2.6$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.3 \sim 0.8$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗・小皿、竜泉窯系青磁碗 II 類、白磁皿 IX 類、褐釉系陶器壺か瓶、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1023 出土遺物(図3-71)

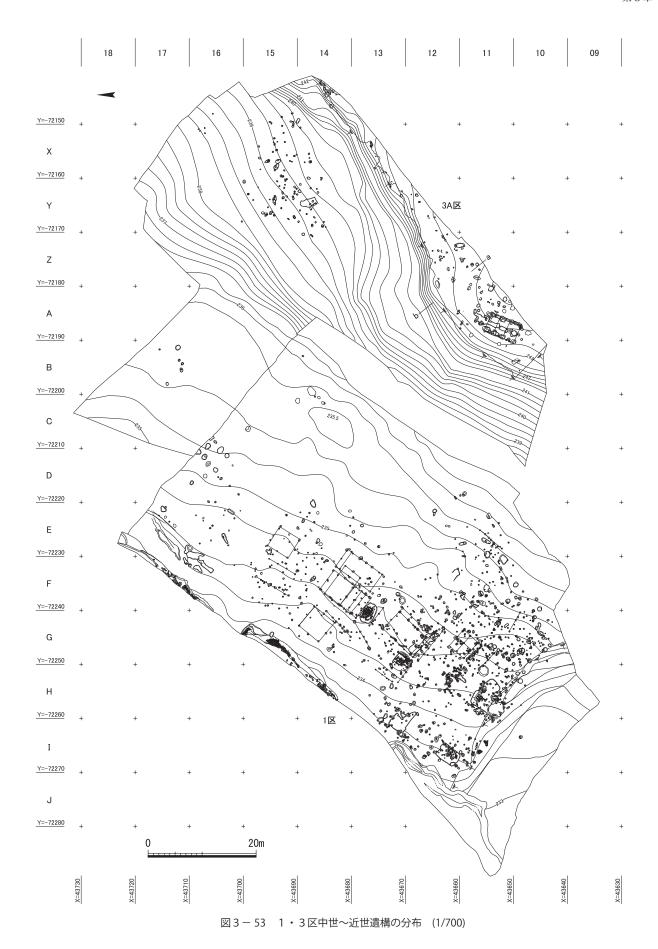
740 は白磁皿IX類の口縁部、741 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ類の体部である。

SB1024 (図3 − 57)

1 区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N35° E にとる南北棟の側柱建物である。SB1025 と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。主軸が並行する SB1023 と直交する SB1026 が西側にきわめて近接して位置する。梁行1間(3.8 m)×桁行3間(7.1 m)で、北側に庇が付く。庇の幅は 0.8 m(おおむね 1/3 間)で、庇を含めた規模は 3.8 m× 7.9 mになる。床面積は真々で身舎が 27.0 mで、庇部分まで含めると 30.0 mである。梁行柱間は 3.8 mで2間分あり、桁行柱間は 2.3 ~ 2.5 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ~ 0.5 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗 1 ないし 11 類が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SB1025 (図3-58)

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N53°W にとる東西棟の側柱建物である。SB1023・SB1024と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。主軸が並行する SB1026 が南側にきわめて近接して位置する。梁行2間 $(3.6\ m)$ ×桁行3間 $(6.5\ m)$ で、床面積は真々で $23.4\ m$ である。梁行柱間は $1.8\ m$ 、桁行柱間は $2.0\sim2.2\ m$ で、建物を構成する柱穴は径 $0.3\sim0.5\ m$ の円形基調である。遺物は土師器杯、褐釉系陶器、滑石製石鍋が破片で出土した。



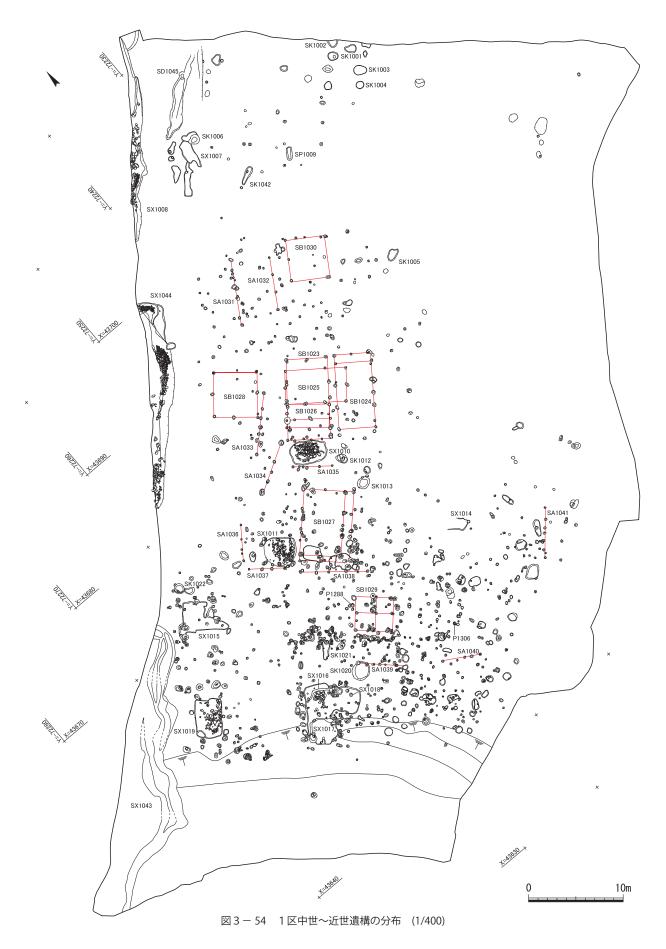




図3-55 1区中世〜近世遺構の分布詳細 (1/250)

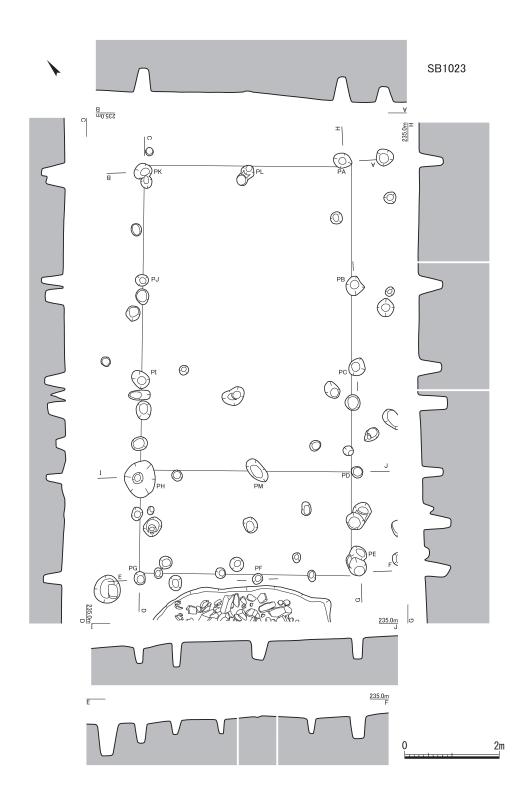


図 3 - 56 1 区中世の掘立柱建物 1 (1/80)

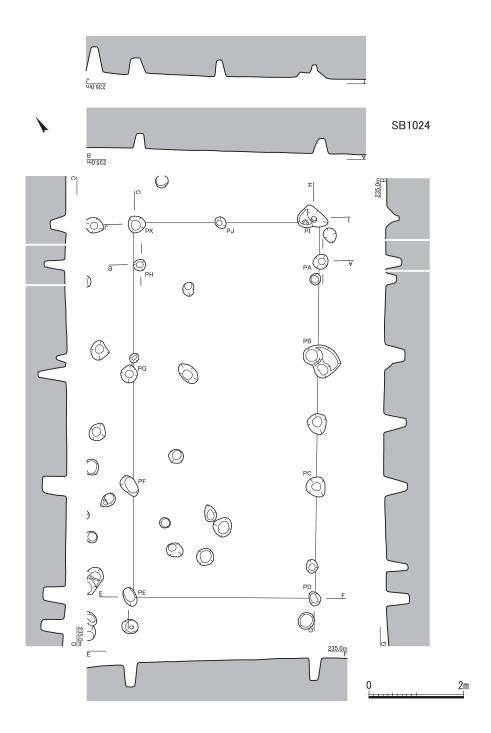


図 3 - 57 1 区中世の掘立柱建物 2 (1/80)

SB1025 出土遺物 (図3-71)

742・743は土師器杯の底部で、いずれも糸切り離しである。

SB1026 (図3-58)

1区西半部中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N50°W にとる東西棟の側柱建物である。SB1023と平面分布で重なるが、柱穴は重複しない。北側に主軸が並行する SB1025、東側に直交する SB1024 がきわめて近接して位置する。梁行1間(2.4 m)×桁行2間(4.6 m)で、床面積は真々で 11.0㎡である。梁行柱間は $2.2\sim2.4$ m、桁行柱間は $2.0\sim2.5$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.2\sim0.4$ mの円形基調である。遺物は土師器杯、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗 I 類、同安窯系青磁碗、褐釉系陶器が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SB1027 (図3-59)

1区西半部中央の南寄りに位置する掘立柱建物で、主軸を N43° E にとる南北棟の側柱建物である。南側に近接して主軸が直交する SA1038 が位置し、南西側には SX1011 が位置する。梁行 2間(4.4 m)×桁行 3間(7.0 m)の身舎の東と南に庇が付き、庇の幅は $0.7 \sim 0.8$ m(おおむね 1/3 間)で、庇を含めた規模は 5.2 m× 7.6 mになる。床面積は真々で身舎の部分が 30.8m、庇まで含めると 39.5mである。梁行柱間は $2.1 \sim 2.3$ m、桁行柱間は $2.2 \sim 2.4$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.3 \sim 0.6$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢、竜泉窯系青磁碗 \mathbb{I} b c 類、白磁皿 \mathbb{I} \mathbb{X} 複釉系陶器、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1027 出土遺物 (図3-71)

 $744 \sim 749$ は土師器杯で底部の判るものはいずれも糸切離しである。 $750 \cdot 751$ は瓦器碗の底部、752 は白磁皿IX類の口縁部、753 は滑石製石鍋の底部である。

SB1028 (図3 − 60)

1 区西半部中央の西寄りに位置する掘立柱建物で、主軸を N41°E にとる南北棟の側柱建物である。梁行 2 間 (4.6 m) ×桁行 2 間 (4.7 m) で、床面積は 21.6 m である。梁行柱間は $2.1\sim2.5$ m、桁行柱間は $2.2\sim2.5$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.2\sim0.4$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗 II 類が破片で出土した。 SB1028 出土遺物(図 3-71)

754 は竜泉窯系青磁碗 Ⅱ b c 類の体部破片である。

SB1029 (図3-60)

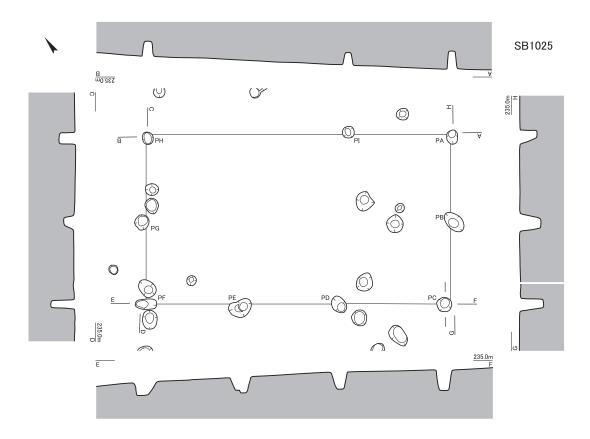
1区西半部南側に位置する掘立柱建物で、主軸を N46°W にとる東西棟の総柱建物である。梁行 2 間(3.5 m)×桁行 2 間(4.1 m)で、床面積は 14.4㎡である。梁行柱間は $1.7 \sim 1.9$ m、桁行柱間は $0.2 \sim 0.4$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.2 \sim 0.5$ mの円形基調である。遺物は土師器杯、須恵器系陶器捏鉢・甕、白磁碗か皿、滑石製石鍋が破片で出土した。

SB1029 出土遺物 (図3-71)

755 は土師器杯で、底部糸切離しである。

SB1030 (図3-61)

1 区西半部中央の北寄りに位置する掘立柱建物で、主軸を N31° E にとる南北棟の側柱建物である。梁行 2 間 (4.1 m) ×桁行 2 間 (4.4 m) で、床面積は 18.0㎡である。梁行柱間は $2.0 \sim 2.1$ m、桁行柱間は $2.1 \sim 2.3$ mで、建物を構成する柱穴は径 $0.2 \sim 0.3$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗が破片で出土した。



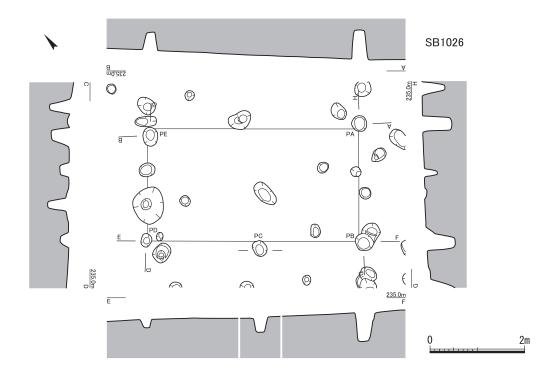


図3-58 1区中世の掘立柱建物3 (1/80)

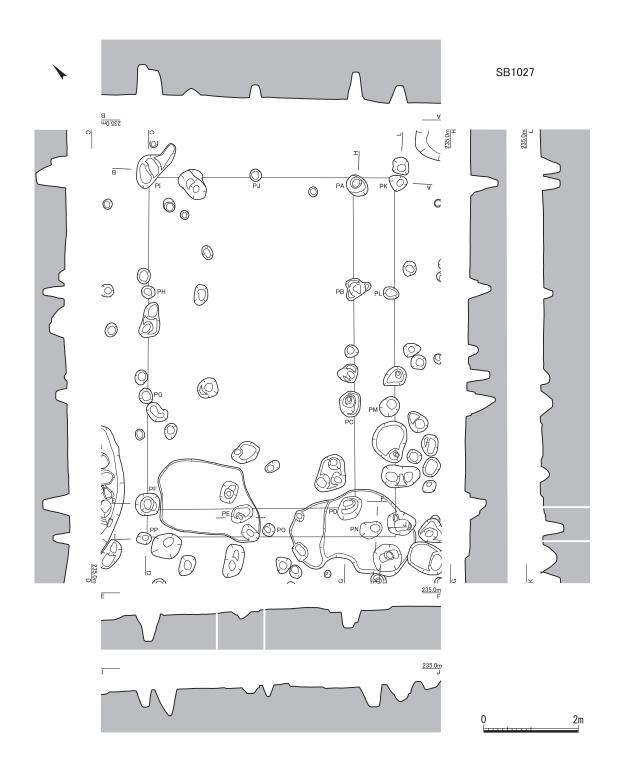


図 3 - 59 1 区中世の掘立柱建物 4 (1/80)

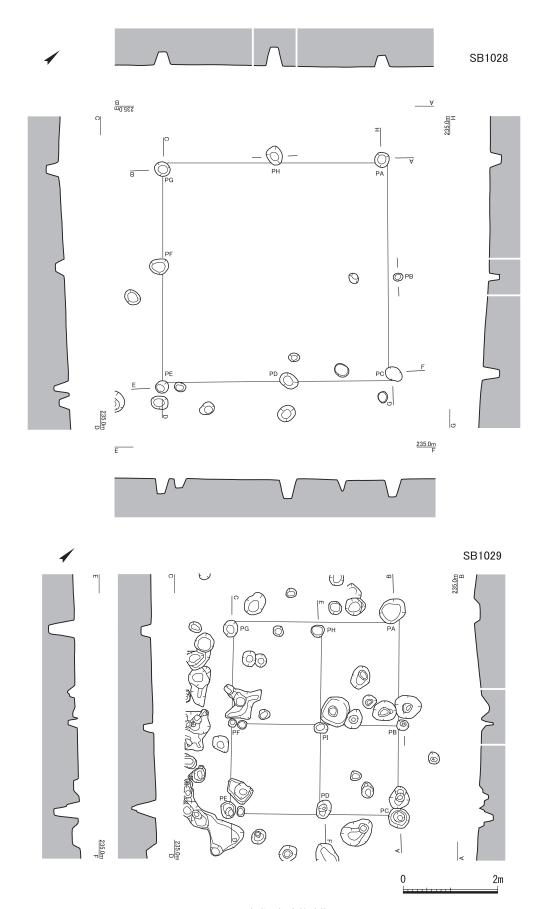


図 3 - 60 1 区中世の掘立柱建物 5 (1/80)

SB1030 出土遺物 (図3-71)

756 は土師器杯の口縁部で、体部が直線的に立ち上がる。

柵列 (図3−61~63)

柵列として報告するのは以下の 11 条で、掘立柱建物と同様に整理作業の段階で認定したものである。おおむね掘立柱建物と同様な分布を示し、やや離れた位置にあるものも 1 区の中世遺構集中部の範囲にある。

SA1031 (図3 − 61)

1 区西半部中央の北寄りに位置する柵列で、柱穴が N31° E の南北方向に列をなす。東側に 4 m程の間隔をおいて SA1032 が並行する。柱間は $2.0\sim2.1$ mで、柱 穴は径 $0.2\sim0.5$ mの円形基調である。遺物は土師器杯が破片で出土した。

SA1031 出土遺物(図 3 - 71)

757 は土師器杯の口縁部で、体部が直線的に立ち上がる。

SA1032 (図3 − 61)

1 区西半部中央の北寄りに位置する柵列で、柱穴が N30° E の南北方向に列をなす。西側に SA1031 が並行する。柱間は $1.9 \,\mathrm{m}$ で、柱穴は径 $0.2 \sim 0.3 \,\mathrm{m}$ の円形基調である。遺物は土師器小皿、竜泉窯系青磁碗 I 類、白磁碗か皿、鉄滓が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1033 (図3 − 62)

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N47° E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 $0.2\sim0.5$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、竜泉窯系青磁碗 I 類、同安窯系青磁碗が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1034 (図3 − 62)

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N59°E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 $0.3\sim0.6$ mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗が破片で出土した。

SA1034 出土遺物(図3-71)

758 は瓦器碗の口縁部で、口縁部に重ね焼による異色部がある。

SA1035 (図3-62)

1 区西半部中央に位置する柵列で、柱穴が N52° W の東西方向に列をなす。柱間は 1.4 mで、柱穴は径 $0.2 \sim 0.3$ mの円形基調である。遺物は土師器杯が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SA1036 (図3 - 62)

1 区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴が N36° E の南北方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 \sim 0.3 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

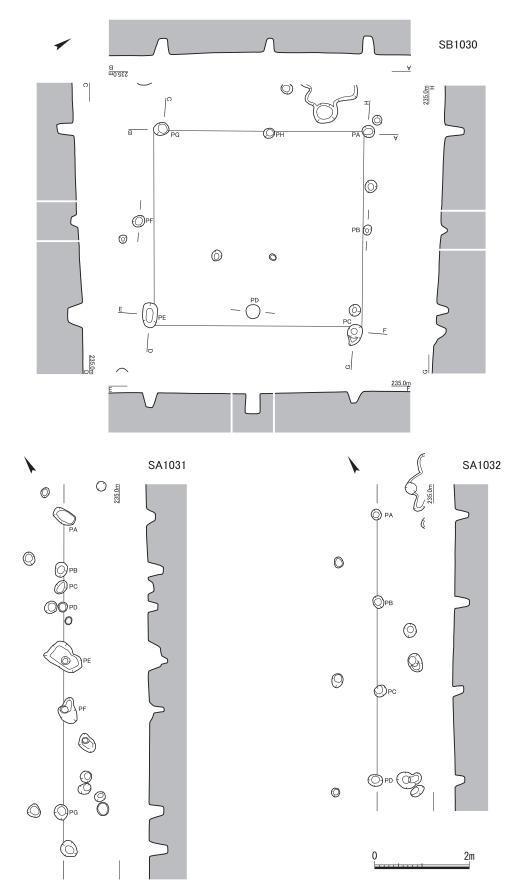


図3-61 1区中世の掘立柱建物6・柵列1 (1/80)

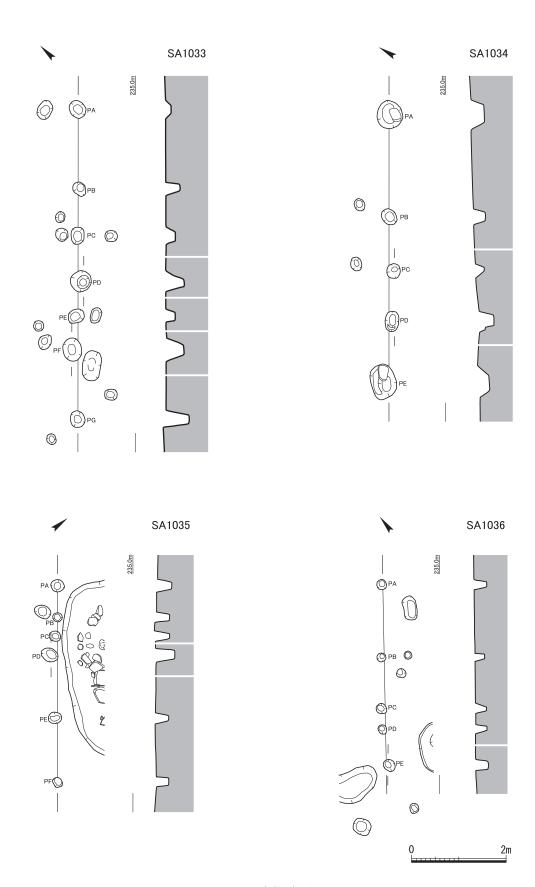


図3-62 1区中世の柵列2 (1/80)

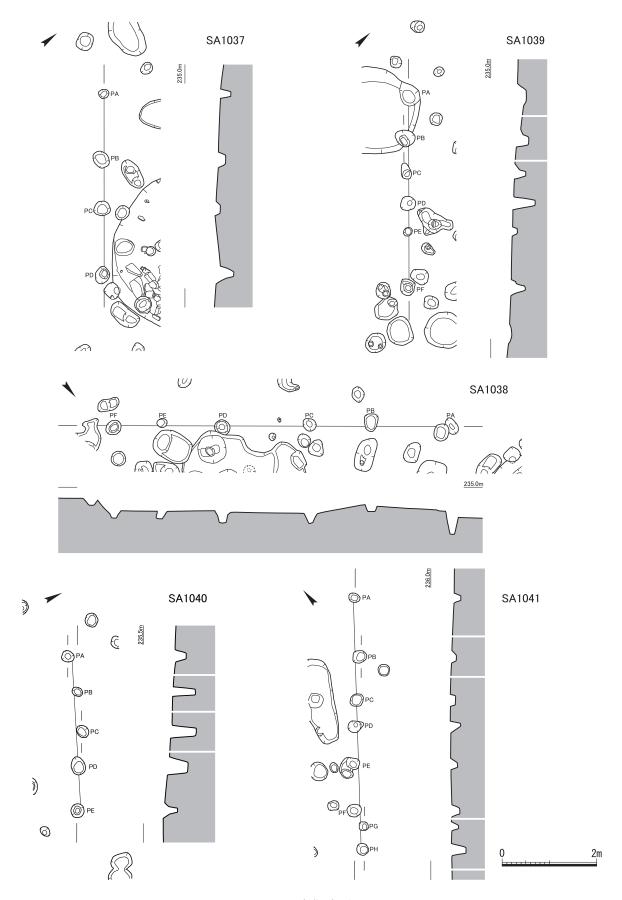


図3-63 1区中世の柵列3 (1/80)

SA1037 (図3 − 63)

1区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴がN51°Wの東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径0.2 ~ 0.3 mの円形基調である。 遺物は出土しなかった。

SA1038 (図3 − 63)

1区西半部中央の南寄りに位置する柵列で、柱穴がN51°Wの東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径0.2 ~ 0.3 mの円形基調である。 遺物は出土しなかった。

SA1039 ($\boxtimes 3 - 63$)

1 区西半部南側に位置する柵列で、柱穴が N47° W の東西方向に列をなす。SK1020 と重複し、これより新である。 柱間は不揃いで、柱穴は径 $0.2 \sim 0.4 \text{ m}$ の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1040 (図3 − 63)

1 区南東部に位置する柵列で、柱穴が N68° W の東西方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 $0.2\sim0.3$ mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA1041 (図3 − 63)

1 区南東部に位置する柵列で、柱穴が N40° E の方向に列をなす。柱間は不揃いで、柱穴は径 $0.2 \sim 0.3$ mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

土坑墓(図3-64)

土坑墓として報告するのは SP1009 の 1 基である。建物群などの遺構が集中して分布する区域より北側に単独で位置する。

SP1009 (図3 − 64)

1区西半部北側に単独で位置する土坑墓である。主軸は N35°E で、長軸 1.50 m、短軸 0.59 mの隅丸長方形で、深さ $0.10\sim0.22$ mである。南西端から完形の竜泉窯系青磁碗が出土し、土坑墓と考えられる。青磁碗の出土位置を平面及び標高の数値記録から遺構図と重ねると、遺構の底面あたりに据えられた状態になるが、平面的な位置は遺構の外形線からはみ出した格好になっており、土坑墓の外形は実測図よりも一回り大きかったようである。

SP1009 出土遺物(図 3 - 71)

759 は竜泉窯系青磁碗 II b 類で、土圧のためか出土時にはヒビが生じていたが、完形の状態で埋置されていたものと見られる。

土坑 (図3-64・68)

土坑として報告する12基は、1区北端中央部に数基がまとまっている他は散在的な分布で、出土遺物の量も全体に少なく、人為的な掘り込みかどうか判断しにくいものもある。

$SK1001 \ (\boxtimes 3-64)$

1区北端中央部に位置し、長軸 1.28 m、短軸 0.90 m、深さ 0.19 mで、平面は不整な卵形である。土師器杯、瓦器碗、滑石が破片で出土したが、小片であり図示していない。

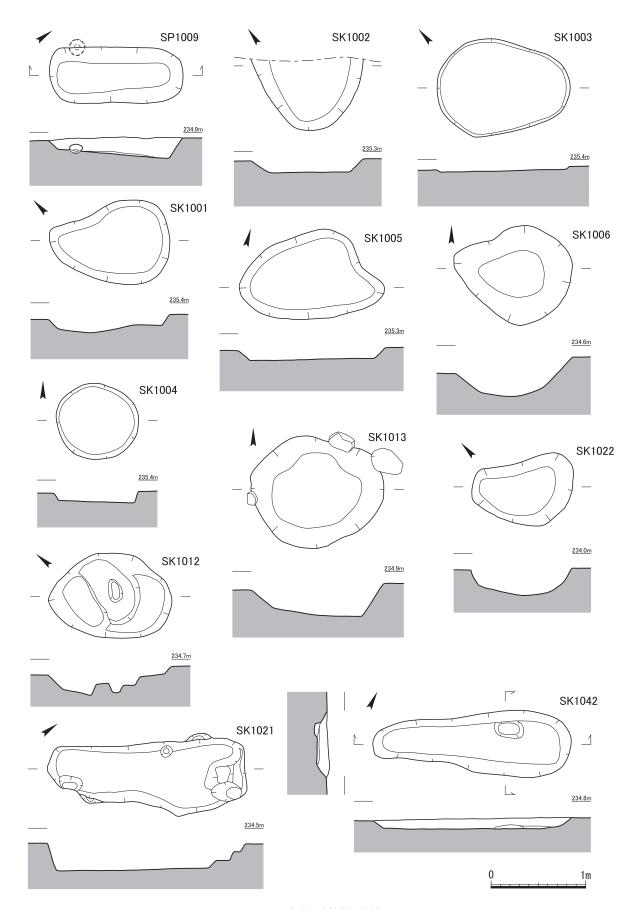


図 3 - 64 1 区中世の土坑墓・土坑 1 (1/40)

SK1002 (図3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 0.75 m以上、短軸 1.18 m以上、深さ 0.14 mで、平面は楕円形のようである。 鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1003 (図3 − 64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 1.41 m、短軸 1.04 m、深さ 0.04 mで、平面は卵形である。底部糸切の土師器 杯が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1004 (図3 − 64)

1 区北端中央部に位置し、径 $0.86\sim0.87~\mathrm{m}$ 、深さ $0.39~\mathrm{m}$ で、平面は円形である。土師器杯と竜泉窯系青磁碗 I 4 類が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1005 (図3-64)

1 区北端中央部に位置し、長軸 1.53 m、短軸 0.94 m、深さ 0.12 mで平面は不整形である。土師器鍋 II a 類、土師器杯・小皿、鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1006 (図3 − 64)

1 区北西端部に位置し、長軸 1.25 m、短軸 1.04 m、深さ 0.39 mで、平面は不整な卵形である。土師器杯か小皿・鍋Ⅱ a 類と砥石が出土した。

SK1006 出土遺物 (図3-71)

760 は砥石である。

SK1012 (図3-64)

1区西半部中央に位置し、長軸 129 m、短軸 0.90 m、深さ 0.21 mで、平面は不整な楕円形で、底面には段差や小穴がある。土師器杯と瓦器碗が破片で出土したが、小片であり図示していない。

SK1013 (図3 − 64)

1 区西半部中央に位置し、長軸 1.41 m、短軸 1.18 m、深さ 0.32 mで、平面は不整な楕円形である。遺物は出土しなかった。

SK1020 (図3 - 68)

1区南側中央に位置し、長軸 2.08 m、短軸 1.85 m、深さ 0.21 mの不整な楕円形である。SA1039 と重複し、これより古である。埋土中から種実遺体がまとまって出土したが人工遺物は出土しなかった。

SK1021 (図3-64)

1 区南側中央に位置し、長軸 2.09 m、短軸 0.78 m、深さ 0.29 mの細長い土坑である。土師器杯と鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SK1022 (図3 − 64)

1区中央部南側の西端に位置し、長軸 1.06 m、短軸 0.72 m、深さ 0.28 mで平面は不整な卵形である。土師器

小皿が出土したが、小片であり図示していない。

SK1042 (図3-64)

1区西半部北側に位置し、長軸 2.09 m、短軸 0.71 m、深さ 0.11 mで、主軸を N64° E にとる。底面が平坦で 細長い土坑である。その形状と東側に SP1009 が近接することから概要報告時に土坑墓とされているが、遺物は 出土しておらず、棺の痕跡等といった土層の特殊所見もないため、可能性の域を出ない。

竪穴遺構(図3-65~67)

楕円形ないし隅丸長方形基調の大型土坑で底面が平坦な6基を竪穴遺構として報告する。1区の西半部中央から南側に分布し、掘立柱建物よりやや南側に中心がある。小穴を伴うSX1017・1018は、竪穴建物の可能性があるものの、やや規格性に乏しく確証がない。SX1010・1011・1016・1019の底面には大小の礫が集積されており、SX1011では2段に積んだ状況が明確に観察された。これらの竪穴遺構が全て同類のものであるかを含め、その性格・用途・機能については特定できていない。

SX1010 (図3 − 65)

1区西半部中央に位置し、長軸 4.01 m、短軸 2.49 m、深さ 0.27 mで平面は不整な長楕円形である。底面は平坦で、中央部を中心に大小の礫が集積されている。礫は被熱による黒化・赤化の認められるものもあるが、炉のような顕著な焼成面は確認されていない。土師器杯・小皿、瓦器碗、褐釉系陶器有耳壺、同安窯系青磁碗、滑石が出土したが、小片であり図示していない。

SX1011 (図3-65)

1区西半部中央南寄りに位置し、長軸 3.40 m、短軸 3.06 m、深さ 0.19 mで、平面は不整な長楕円形である。底面中央部を中心に大小の礫が集積され、東側の壁際には礫を 2 段に積んでいる。礫は被熱による黒化・赤化の認められるものがあり、底面中央部に炭化物を含む赤褐色砂質土が堆積していたが、炉のような顕著な焼成面は確認されていない。底面には小穴が数基あるが、柱のような規則的な配置ではない。土師器杯・小皿、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗 II b c 類・小碗 I 類、鉄滓が出土した。

SX1011 出土遺物 (図 3 - 71)

761 は底面から出土した土師器小皿で、底部糸切である。762 は竜泉窯系青磁小碗 I 類で、口縁は輪花とする。

SX1016 (図3 − 66)

1 区南端中央部に位置し、短軸 3.83 m、短軸 3.04 m、深さ 0.19 mで、平面は隅丸長方形である。SX1017・SX1018 と重複し、これより新である。北側の底面が一段高くなっており、そこから下がった中央部付近に礫が集中する。埋土はにぶい黄褐色砂質土で、焼土・炭化物粒を多く含んでいた。土師器杯・鍋Ⅱ類、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢・甕、竜泉窯系青磁碗Ⅰ類、同安窯系青磁碗、白磁碗、褐釉系陶器瓶が出土した。

SX1016 出土遺物(図3-71)

765 は東播系の須恵器系陶器捏鉢の底部である。

SX1017 (図3 − 67)

1 区南端中央部に位置し、長軸 3.11 m、短軸 2.70 m、深さ 0.25 mで、平面は隅丸長方形である。SX1016 と一部重複し、これより古である。埋土は暗灰黄色砂質土で、炭化物・焼土粒を多量に含んでいた。また南側が部分

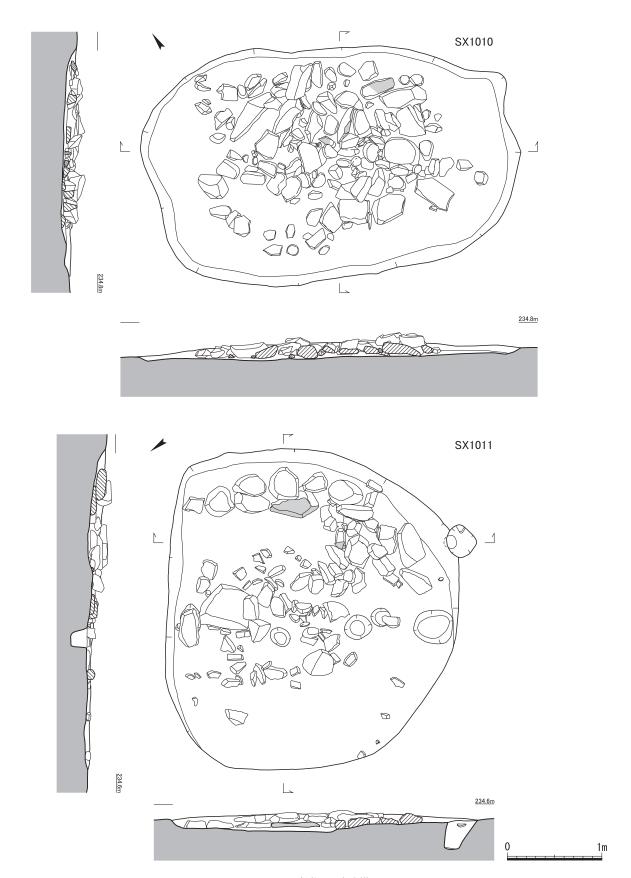
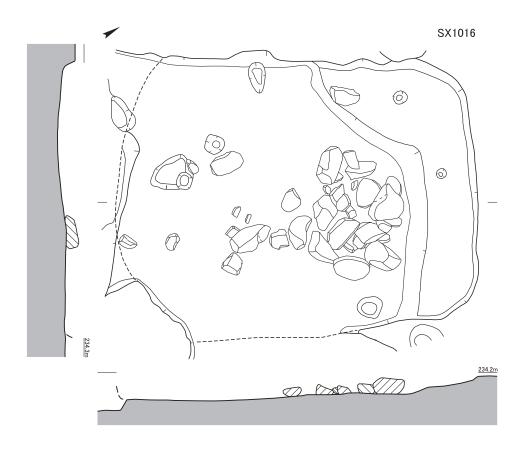


図3-65 1区中世の竪穴遺構1 (1/40)



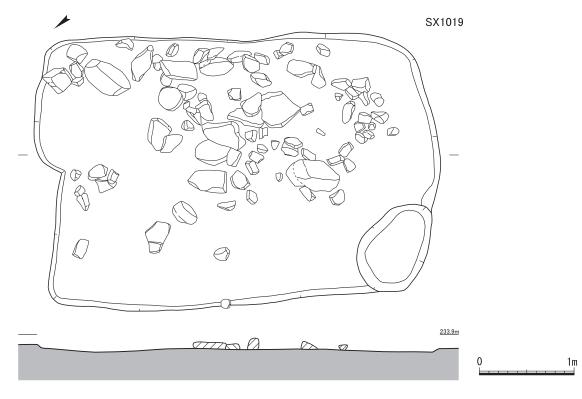


図3-66 1区中世の竪穴遺構2 (1/40)

的に焼けていたとされる。四隅に小穴があり、竪穴建物の可能性がある。土師器杯・小皿、須恵器系陶器捏鉢、同安窯系青磁皿、滑石製石鍋が破片で出土した。

SX1016・SX1017 出土遺物 (図3-71)

766 は土師器杯の底部で、SX1016 と SX1017 から出土した破片が接合した。

SX1018 (図3-67)

1 区南端中央部に位置し、長軸 3.17 m、短軸 2.71 m、深さ 0.23 mで、平面は隅丸長方形である。SX1016 と一部重複し、これより古である。埋土は黄褐色砂質土で、炭化物を含んでいた。底面に小穴があり、竪穴建物の可能性がある。土師器杯、東播系須恵器捏鉢、同安窯系青磁、滑石製石鍋が破片で出土した。

SX1018 内小穴出土遺物(図 3 - 73)

814 は SX1018 内で検出した P1201 から出土した滑石製石鍋で、SX1018 に伴う遺物の可能性がある。

SX1019 (図3-66)

1 区南西端に位置し、長軸 4.26 m、短軸 2.88 m、深さ 0.08 mで、平面長方形である。底面に大小の礫が集積される。遺物は土師器杯・小皿・鍋Ⅱ a・Ⅱ b 類、瓦器碗・鍋・捏鉢、竜泉窯系青磁碗 I ないしⅡ類、須恵器系陶器捏鉢、滑石製石鍋、鉄滓が出土した。

SX1019 出土遺物 (図 3 - 71)

767 は瓦器鍋と考えられるものである。在地系の通有のものとは異質であり、搬入品の可能性も考えたが類例がない。器壁は非常に厚く、手取りも重い。口縁下に断面三角形・台形のおおぶりの突帯を貼り付け、器面内外をヘラミガキする。外面には煤が付着するうえ体部下半に被熱による剥落・変色が観察されることから鍋として用いられたものと考えられる。煮炊具でこのように器面内外をヘラミガキする在地系土器はないが、全体の形状や質感までもが滑石製石鍋に似ており、おそらく石鍋の模倣品であろう。768 は土師器鍋 II b 類、769 は瓦器捏鉢の口縁部である。

その他の遺構(図3-68~70)

SX1007 (図3 − 68)

1 区北西端に位置し、長軸 3.35 m、短軸 1.28 m、深さ 0.04 mの浅く不整形な遺構である。同安窯系青磁碗と 鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

SX1014 (図3 - 68)

1 区東半部中央の南寄りに位置し、長軸 2.06 m以上、短軸 1.28 m、深さ 0.41 mの不整形な遺構である。遺物は出土しなかった。

SX1015 (図3-68)

1 区南側西端部に位置し、長軸 3.54 m、短軸 2.19 m、深さ 0.12 mの不整形な遺構である。土師器杯・鍋Ⅲ a 類、瓦器茶釜、竜泉窯系青磁碗 I・Ⅱ b c 類、鉄滓が出土した。

SX1015 出土遺物 (図 3 - 71)

763 は土師器杯の底部である。内面に螺旋状の沈線を施す。

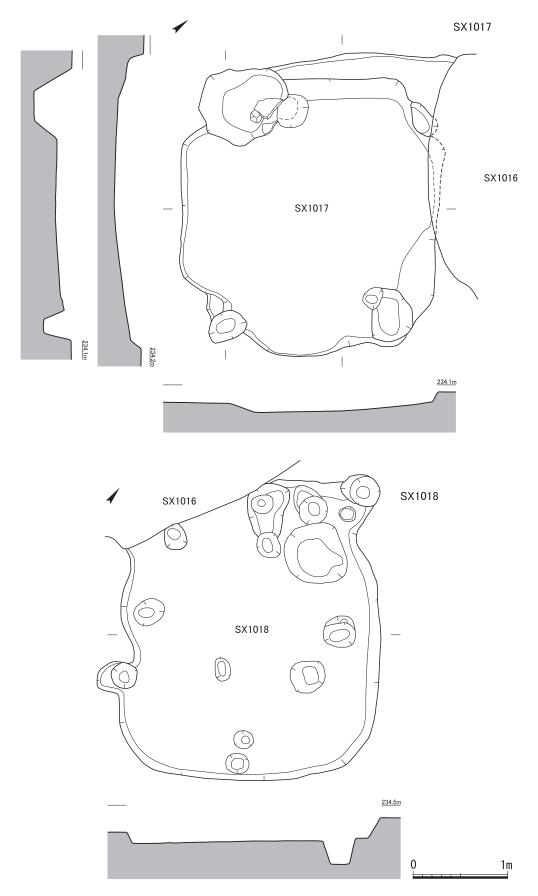


図3-67 1区中世の竪穴遺構3 (1/40)

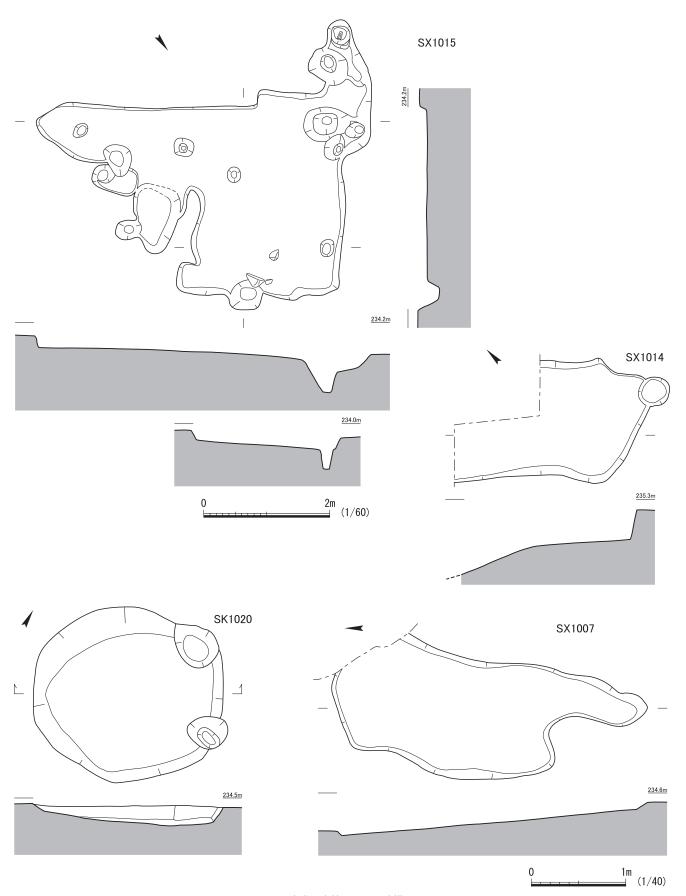


図3-68 1区中世の土坑2・不明遺構 (1/60、1/40)

SD1045 (図3-69)

1 区北西端に位置し、延長 7.4 m以上、幅 1.3 m、深さ 0.3 mの南西—北東方向の溝である。 SD1045 出土遺物(図 3 - 71)

770 は竜泉窯系青磁碗 I 類、771 は東播系須恵器系陶器捏鉢の底部である。

$SX1008 \cdot SX1043 \cdot SX1044$ (⊠ 3 − 69 · 70)

1区の西辺を区切る一連の段落ちで、北側から SX1008・SX1043・SX1044 とした。西側に向かって段をなす 斜面から落ち際にかけて大小の礫が集積されており、特に SX1044 の中央部分には石垣状のしっかりした石積み がなされている。礫の集積や石積みは法面の崩壊防止を意図して築かれたものと考えられ、護岸状遺構と報告する。 この護岸状遺構が造られた時期は、出土遺物から見る限り近世初期頃であり、畠か水田に伴って造成されたものと 考えられるが、これより西側にあたる 3 B 区の調査所見では、嘉瀬川の氾濫によると思われる砂層が厚く堆積し、集落関連の遺構が確認されていないことから、中世集落の西限もおおよそこの位置に相当すると考えられる。

埋土中からは土師器杯・小皿・擂鉢・茶釜、瓦器碗・鍋・擂鉢・茶釜・火鉢、須恵器系陶器捏鉢、竜泉窯系青磁碗 I 4 類・Ⅱ a 類・Ⅱ b c 類、同安窯系青磁碗、白磁碗Ⅳ類、肥前陶器皿・火入、漳州窯系青花盤、黄釉陶器盤、鉄滓が出土した。中世前期から近世初期までのもので、量はさほど多くない。

小穴出土遺物(図3-73)

図 3-73 には各小穴から出土した主な遺物を図示した。いずれの小穴から出土したかは図中と表に記載している。

803~805は土師器小皿、806~809は土師器杯で、確認できるものは全て底部糸切である。

810 は瓦器碗である。内外面のヘラミガキは簡略化が進み、外面体部下半には糸切痕が観察される。高台はやや雑に貼り付けられ、中心軸から少しずれている。

811 は東播系須恵器捏鉢の底部である。812・813 は土師器鍋で徳永 II b 類。814 は滑石製石鍋である。815~821 は中国白磁、822~824 は中国青磁である。815 は白磁皿 II 類、819 は白磁碗 V~III類、820 は白磁碗 VI 類と思われる。821 は内底環状釉剥ぎの白磁碗 II 類である。822 は櫛描文を施す青磁碗で、釉の発色や文様全体の印象は同安窯系と同じであるが、内面胴部上半に施された櫛描圏線は一般的な同安窯系青磁碗には見られないものであり、竜泉・同安窯系 0 類としておきたい。823 は竜泉窯系碗 I 2 類、824 は竜泉窯系碗 II b c 類である。

825 は滑石製石鍋再加工品で、鈕状の突起を持つバレン状製品である。826 は砥石である。

827~829 は P1306 から 3 枚まとまって出土した銅銭である。827 は真書の天聖元寳で、銭径 2.24~ 2.33cm、内径 2.01~2.02cm、銭厚 0.17cm、量目 2.8 g。828 は篆書の元豊通寳で、銭径 2.51~2.52cm、内径 2.05~2.13cm、銭厚 0.15cm、量目 2.9 g。829 は行書の元□通寳(元豊通寳か)で、銭径 2.44~ 2.45cm、内径 1.94~ 1.95cm、銭厚 0.15cm、量目 1.3 g + α 。 P1306 周辺では掘立柱建物が確認されていないが、地鎮め等の祭祀行為に伴うものの可能性がある。

遺構に伴わない遺物(図3-74~77)

 $830\sim835$ は土師器小皿、 $836\sim846$ は土師器杯で、確認できるものは全て底部糸切である。 $830\sim834$ の小皿は口径に対して器高が小さく扁平な印象が強いが、835 の小皿は口径が小さく器高が大きい。杯では口径の大きい 836、口径がやや小さく体部が直線的に立ち上がる $837\sim840$ 、底径が小さく器高が大きい $845\cdot846$ などがあり、時期差を示すものと見られる。

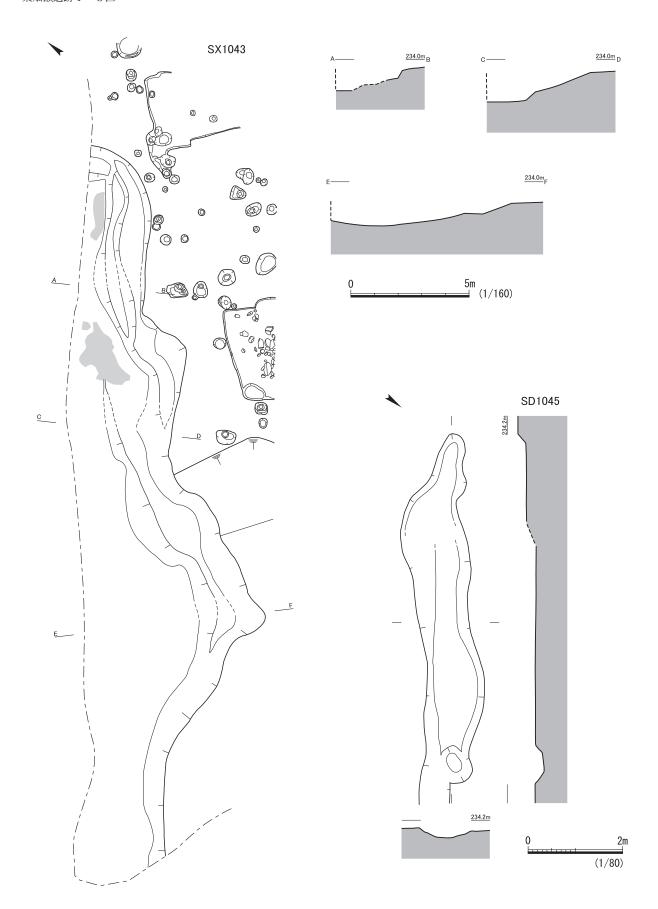
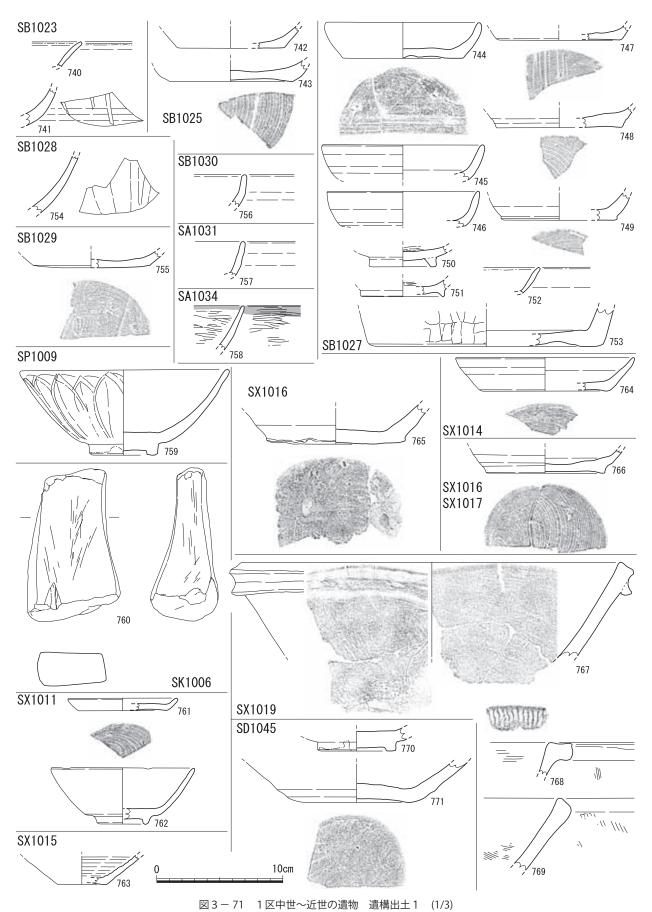


図3-69 1区中世の溝・近世の護岸状遺構1 (1/160、1/80)



図 3 - 70 1 区近世の護岸状遺構 2 (1/80)



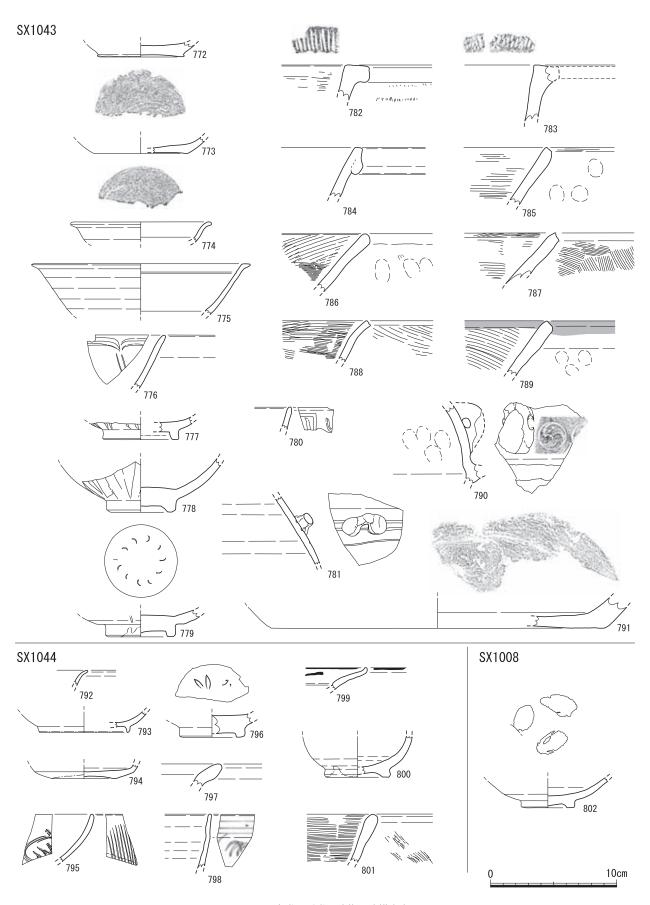


図3-72 1区中世~近世の遺物 遺構出土2 (1/3)

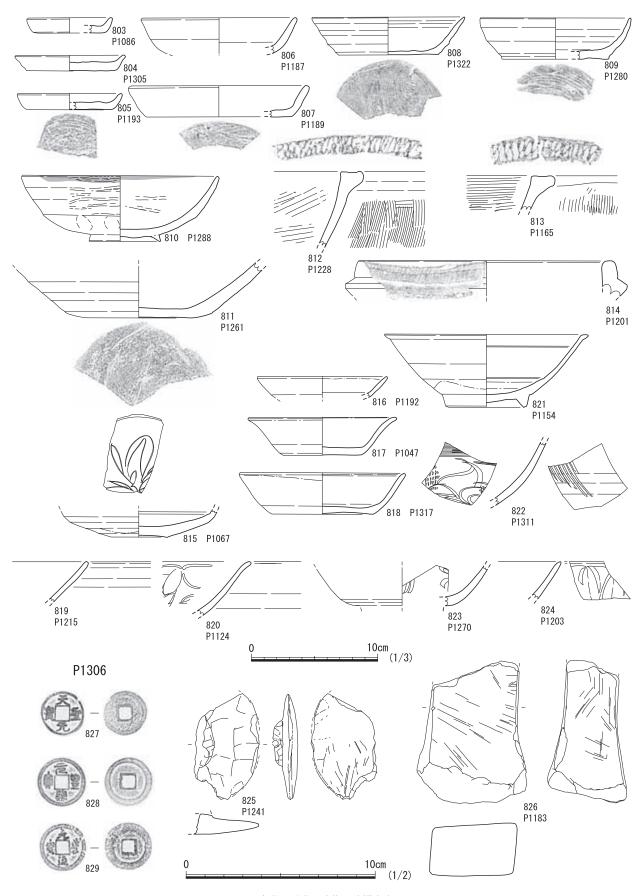


図3-73 1区中世~近世の遺物 遺構出土3 (1/3、1/2)

 $847 \sim 852$ は瓦器碗である。847 は口縁部内外に重ね焼による異色部があり、849 は内面にコテ当て痕を留める等、いずれも通有のものである。

853~857 は中国白磁皿、858~865 は中国白磁碗である。853 は無高台の白磁皿、854・855 は口禿の白磁皿IX類、856 は森田 D群の陶胎の皿、857 は 16 世紀代の森田 E 群の端反皿である。858 は玉縁口縁の碗IV類、859・860 は碗V~VII類の口縁部、861・865 は碗VII類、862~864 は口禿の碗IX類である。

866 は型作りの白磁合子身、867 は型作りの白磁小壺である。

868 は福建省産の薄胎褐釉陶器(田中 2001) とされる小壺である。

891 は高麗の青磁碗と思われる。892 は 15 ~ 16 世紀代の朝鮮灰青沙器皿で、内底と高台畳付に砂目が残る。

893 は漳州窯系青花碗である。陶胎で呉須もにじんでいる。

894~898は須恵器系陶器の捏鉢で、いずれも東播諸窯の製品と考えられるが、型式にはやや幅がある。

899~901は在地系土器捏鉢、902は在地系土器擂鉢である。

903・904 は中国南部あたりの産と思われる陶器である。903 は黒褐釉の壺かと思われる底部で、外面底部近くに目跡がある。904 は壺かと思われる底部で、遺存部分には釉がかかっていない。外底は無調整である。

905 は須恵器系陶器の甕で、器壁を非常に薄く作っている。焼成はやや軟質である。

906~909 は土師器鍋Ⅱ b 類で、特徴の判る口縁部を図示した。

910 は浅い器形の瓦器鍋で、口縁部内面に×形をヘラで刻む。

911~920は滑石製石鍋で、確認できるものは鍔をめぐらせる形態のものに限られる。

921・922 は滑石製石鍋の再加工品で、921 は底部破片を再加工途中のものである。

923 は中央部がやや膨らむ円柱状に近い土錘である。

924・925 は砥石である。

 $926 \sim 945$ は近世の陶磁器で、中世遺構面より上位の堆積土や撹乱部から出土したものである。926 や 933 のような初期伊万里もあるが、全体に $18 \sim 19$ 世紀のものが多い。上記した中世後期の遺物と共に、1 区の屋敷地が廃絶した後の資料である。

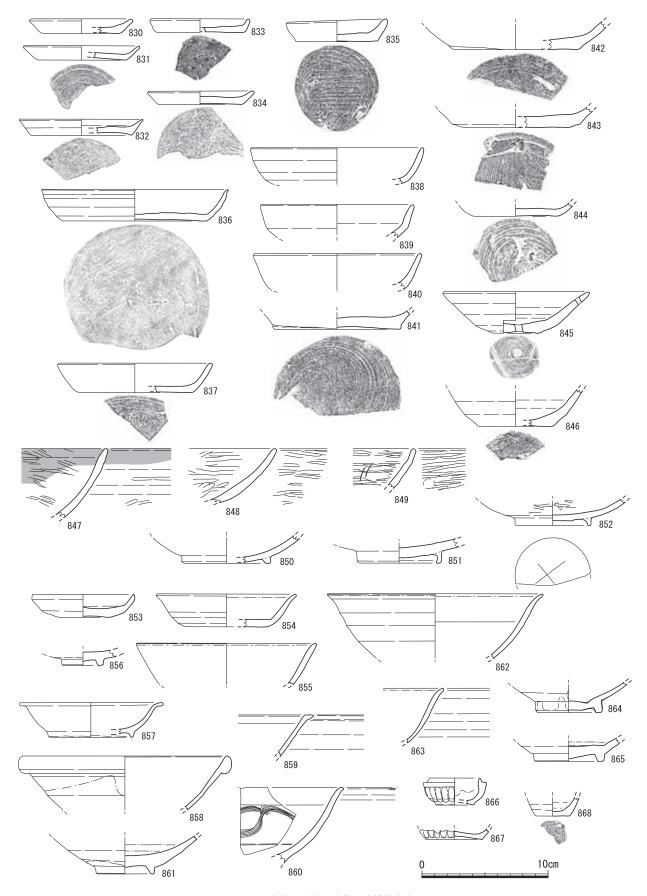


図 3 - 74 1 区中世~近世の遺物 遺構外出土 1 (1/3)

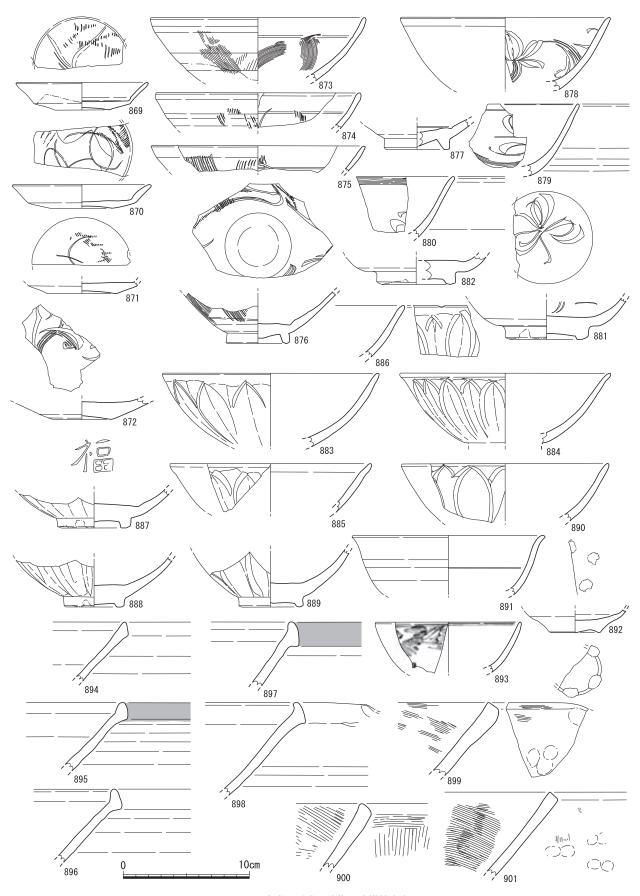
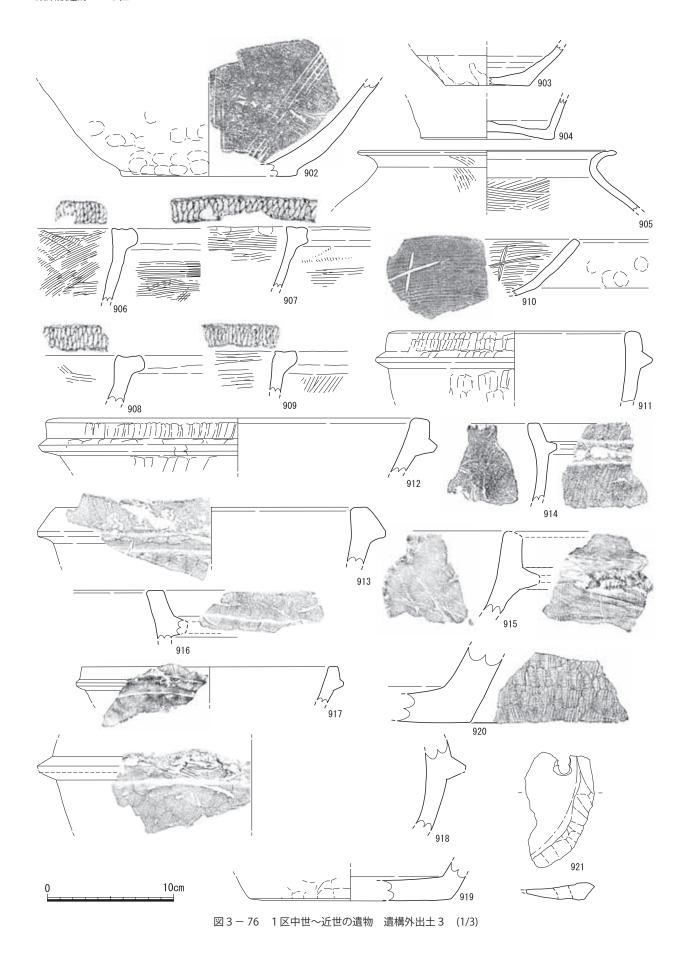


図3-75 1区中世〜近世の遺物 遺構外出土2 (1/3)



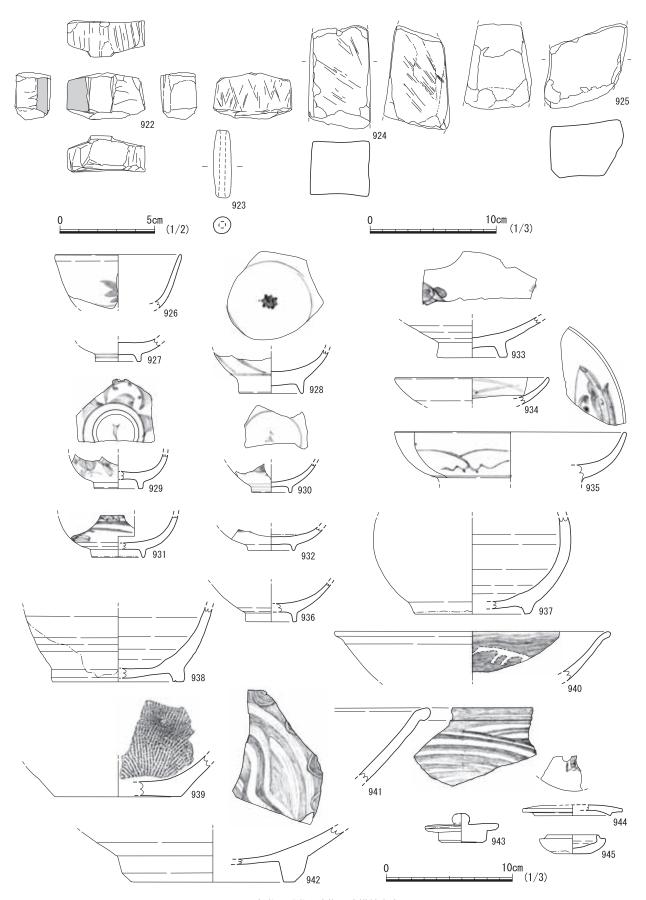


図3-77 1区中世~近世の遺物 遺構外出土4 (1/2、1/3)

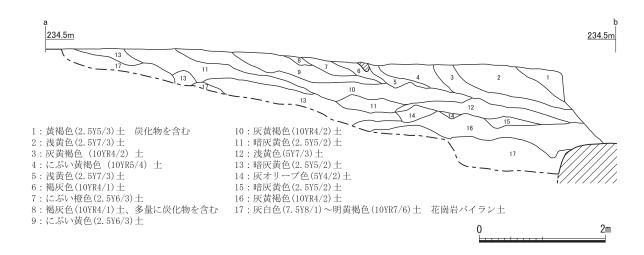


図3-78 3区八龍社跡の整地層 (1/60)

2) 3区八龍社跡の遺構と遺物

八龍社跡としたのは、東畑瀬遺跡 3 A 区南東端の山際に造成された長さ約 25 m、幅 $8 \sim 11$ mの狭小な平坦面で、北東側に東畑瀬集落からの小路が取り付いている(図 3-53)。この平坦面は斜面を切り盛りして造成したようである(図 3-78)。明確な遺構として検出できたのは、南側中央の掘立柱建物 1 棟に留まる。

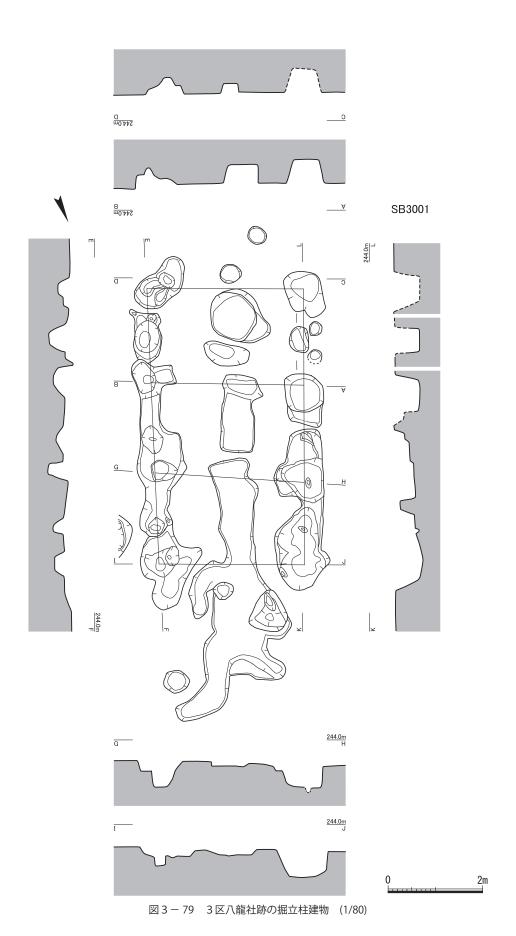
この平坦地上と斜面の堆積土中からは中世前期から近世までの遺物が出土したが、主体を成すのは土師器杯・小皿である。これらの土師器杯・小皿は、中世前期から近世までの長期間にわたるもので、完形に近い個体も多く、中世後期から近世初期と見られる資料の量がもっとも多い。土師器杯・小皿以外では、17世紀中頃以降の近世陶磁がややまとまってある他、中世後期から近世初期の瓦器鍋・火鉢・茶釜、近世の土師器焙烙や瓦器風炉・火入等が出土しているが、17世紀前半以前の陶磁器はほとんど無く、通常の集落遺跡と比較すると組成が著しく偏っている。

掘立柱建物 SB3001 (図 3 - 79)

八龍社跡で唯一確認された建物で、主軸を N20° E にとる掘立柱建物である。梁行 1 間($3.1 \sim 3.3$ m)×桁行 3 間(5.9 m)の南北棟で、床面積は真々で 18.9㎡である。梁行柱間は $3.1 \sim 3.3$ m、桁行柱間は $1.7 \sim 2.1$ mで、東辺の柱筋は 2°ほど主軸とずれている。建物を構成する柱穴は独立するものもあるが、各々が浅い掘り込みで繋がる布掘のような構造となっている。また、中央には主軸方向に浅く細長い溝状の掘りこみがあって北側は建物の外に伸びており、排水を意図したものかもしれない。東側と南側はすぐ山際となっており、建物の正面は東畑瀬集落からの小路(参道か)に向いていたと考えるのが素直である。柱穴からは遺物が出土しておらず、建物の時期が周辺から出土した遺物の時間幅のどこにあたるのかは特定できない。

八龍社跡の出土遺物 (図3-80~3-82)

 $946 \sim 1026$ (図 3-80)は、土師器杯・小皿で、大部分は八龍社跡南西端部の斜面に堆積した土層から出土したものである。全形を復元できるものを中心に図示したが、他にも多くの個体が出土していて、八龍社跡の特徴と言える。中世前期から近世までのかなり時間幅のある資料であるが、層位的に新旧関係を確認できるような状態では出土していないため、遺物そのものの特徴をもって分類・記述する。底部の切り離しは原則として回転糸切りで、回転箆切りを施すものは 1 例もない。974 のみは、静止糸切りが確認できるが、偶発的な資料と考えられる。



135

946 ~ 972 は小皿と分類したものである。946 は中世前期に遡る資料で、口径が大きく器高は小さい。底部 糸切で板状圧痕を留める。947 ~ 953 は中世後期~近世初期と思われる器高が大きい資料で、形態の違いから 947・948、949・950、951 ~ 953 の 3 群に分けられる。957・958 は非常に小型で器壁の厚い一群で、近世の ものと思われる。959 ~ 972 は扁平で器壁が薄い 17 世紀後半以降と思われるもので、油煤の付いた灯明皿とし て用いられたものが多い。

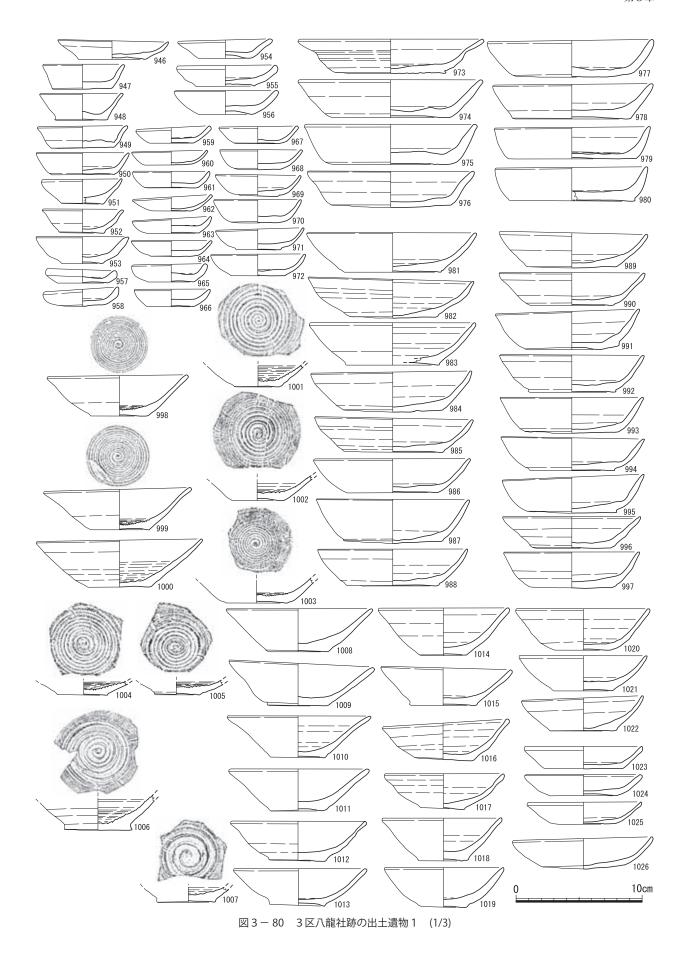
 $973\sim1026$ は杯と分類したものである。 $973\sim980$ は中世前期の資料で、 $973\sim977$ が平安末期~鎌倉前期、 $978\sim980$ が鎌倉後期頃であろう。 $981\sim1022$ は中世後期~近世初期と思われる資料で、 $981\sim997$ は南北朝期~室町期、 $998\sim1022$ は戦国期~江戸初期と推定する。 $998\sim1007$ は戦国期の特徴ある一群で、内底に螺旋状沈線を施すものである。同様な資料は佐賀平野を中心に分布する。 $1023\sim1026$ は近世の資料で、 $1023\sim1025$ は杯というよりも皿に近い扁平な形態である。1026 は底部切り離しの後にへう削りによる調整を施したものである。

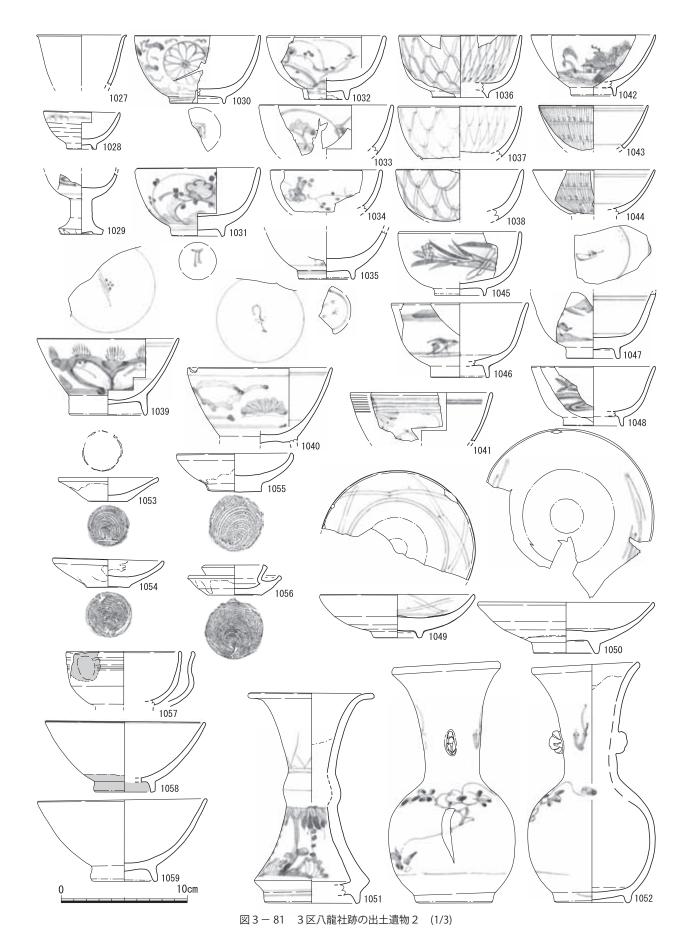
 $1027\sim1062$ (図 $3-81\cdot82$)は近世陶磁で、17 世紀中頃~19 世紀後半のものであるが、17 世紀前半以前の資料を欠く。 $1027\sim1052$ は肥前磁器、 $1053\sim1062$ は陶器で、福岡陶器の可能性がある 1057 を除き肥前陶器である。

1027 は白磁杯、1028 は粗製の染付小碗、1029 は染付仏飯具である。1030~1038 は体部が半球形をなす染付丸形碗である。1036~1038 は外面二重網目文で、1036・1037 が内面一重網目文、1038 が内面無文で新相を示す。1039~1041 は広東形碗で、1042~1044 は小広東形碗である。1045~1048 は 19 世紀前半~幕末頃の丸形碗・端反形碗である。1049・1050 は見込み蛇の目釉剥ぎの皿で、波佐見系の粗製染付である。1051~1052 は仏花瓶と考えられる染付瓶で、1051 は尊形、1052 は頸部に耳が付き口縁部がラッパ状に開くものである。1053~1056 は灯火具で、皿形のものと受け皿と一体のものとがある。1057 は黄色味の強い明るい鉄釉を施し、口縁部の一部を窪ませたところに褐色系の鉄釉を重ねた碗で、福岡陶器の可能性がある。1058~1059 は呉器手の碗で、1058 は底部外面から高台内に鉄錆を塗る。1060 は刷毛目手の火入(線香立)、1061 は土瓶の蓋、1062 は鉄絵を施す土瓶である。

1063~1075は瓦器・土師器の中大型品で、中世後期~近世初期のものと近世のものとがある。

 $1063\sim1065$ は中世後期〜近世初期の鍋で、 $1063\cdot1064$ は鍋IV a 類、1065 は鍋V類である。 $1066\sim1068$ は近世の焙烙で、1068 は取手部分の破片である。 $1069\sim1070$ は中世後期〜近世初期の茶釜、 $1071\sim1072$ は中世後期〜近世初期の火鉢で、1071 は浅鉢形、1072 は深鉢形である。1073 は近世の風炉かと思われる資料で、体部と高台は破片が直接接合せず図上で復元している。外面口縁下に原体を回転させた印刻文がある。 $1074\cdot1075$ は近世の線香立ての類かと思われる箱形製品である。





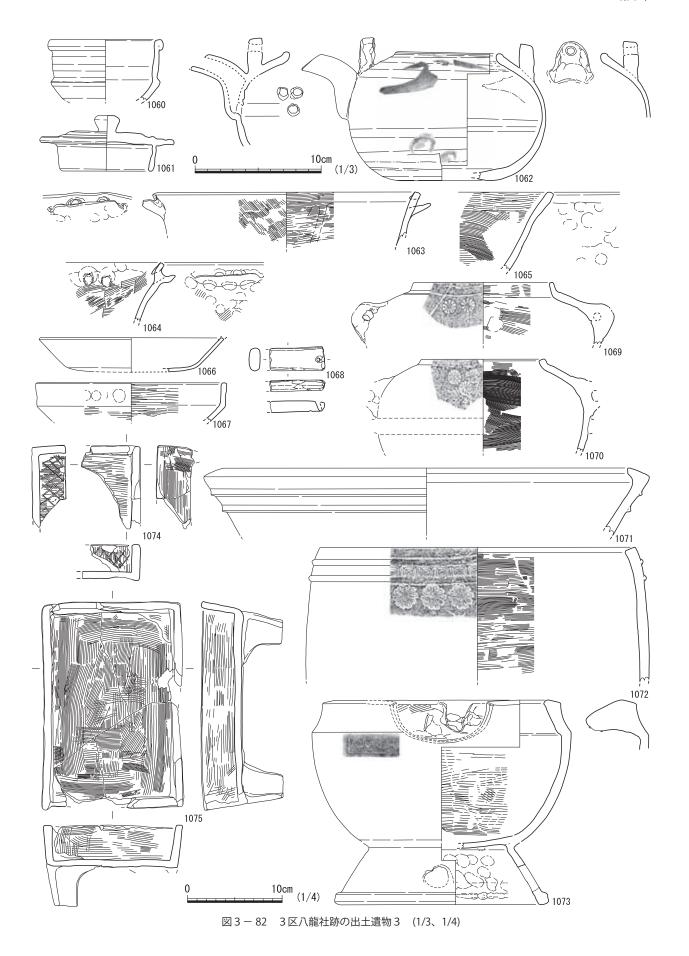


表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

				10 3	_ /	1 区中世 9 近世の山工連	1/J	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cr 底径	n 器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-71-740	SB1023	白磁	- -	- 匹任	-	釉調:明緑灰	IX類	3-26
05002359 3-71-741	PK SB1023	青磁				胎土:灰白 釉調:灰オリーブ		20070998 3-26
05002358	PK	碗	-	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系Ⅱ類	20070999
3-71-742 05002015	SB1025 PE	土師器 杯	-	8.5*	-	外:浅黄橙 内:浅黄橙	底部糸切	-
3-71-743 05000940	SB1025	土師器	-	9.8*	-	外:灰白 内:灰白	底部糸切、板状圧痕	3-26
3-71-744	PH SB1027	杯 土師器	12.1*	9.6	2.8	外:浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	20071000 3-26
04002593 3-71-745	PD SB1027	杯 土師器		3.0	2.0	内:浅黄橙 外:にぶい黄橙		20071001 3-26
05002356	PB	杯	12.6*	-	-	内:にぶい橙	口径は不確実	20071002
3-71-746 05002355	SB1027 PC	土師器 杯	12.0*	-	-	外:浅黄橙 内:浅黄橙	口径は不確実	3-26 20071003
3-71-747 05002024	SB1027 PB	土師器 杯	-	9.6*	-	外: にぶい黄橙 内: にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071004
3-71-748	SB1027	土師器	-	10.0*	-	外:にぶい黄橙	底部糸切	3-26
05002022 3-71-749	PB SB1027	杯 土師器		0.2*		内:にぶい黄橙 外:灰黄褐		20071005 3-26
05002023 3-71-750	PC SB1027	杯 瓦器	-	9.2*	-	内:にぶい黄橙 外:灰白	底部糸切	20071006 3-26
05000944	PB	碗	-	5.3*	-	内:灰白	-	20071007
3-71-751 05002020	SB1027 PB	瓦器 碗	-	6.7*	-	外:灰 内:灰	-	-
3-71-752	SB1027	白磁	-	-	-	釉調:明緑灰	IX類	3-26
05002360 3-71-753	PC SB1027	滑石製品	_	18.5*	_	胎土:灰白	外面煤付着	20071008 3-26
04002706 3-71-754	PJ SB1028	石鍋 青磁		16.5		釉調:灰オリーブ		20071009 3-26
05002357	PF	碗	-	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系Ⅱ bc 類	20071010
3-71-755 05002014	SB1029 PG	土師器 杯	-	9.3*	-	外:浅黄橙 内:浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-26 20071011
3-71-756 05002016	SB1030 PC	土師器 杯	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	-
3-71-757	SA1031	土師器	=	-	=	外:にぶい黄橙	_	-
05002017 3-71-758	PG SA1034	杯 瓦器				内: にぶい黄橙 外: 灰白		
05002021 3-71-759	PA	碗 青磁	-	-	-	内:灰白 和調:オリーブ黄	-	3-26
04002650	SP1009	碗	16.5	5.4	6.8	露胎:灰白	竜泉窯系Ⅱ b 類、完形	20071012
3-71-760 04002699	SK1006	石製品 砥石	長 12.1	幅 7.4	厚 5.4	-	重量 454.2 g、3面使用	3-26 20071013
3-71-761	SX1011	土師器	8.5*	7.0*	1.0	外:にぶい橙	遺構底面出土、底部糸切	-
05000923 3-71-762	SX1011	小皿 青磁	11.3*	4.1*	4.5	内:にぶい橙 胎土:灰白	竜泉窯系 I 1 b 類、輪花	3-26
04002640 3-71-763		碗 土師器	11.5		4.0	釉調:明緑灰 外:灰白		20071014 3-26
05000922	SX1015	杯	-	3.8*	-	内:灰自	内底螺旋状沈線、底部糸切	20071015
3-71-764 05000919	SX1014	上師器 杯	14.1*	10.0*	2.6	外:灰黄褐 内:灰黄褐	底部糸切、径不確実	3-26 20071016
3-71-765 05000931	SX1016	須恵器系陶器 捏鉢	-	11.0*	-	外:淡黄 内:淡黄	東播系、底部糸切、内面摩滅	3-26 20071017
3-71-766	SX1016	土師器	-	9.5	-	外:浅黄橙	底部糸切	-
05000921 3-71-767	SX1017	杯 瓦器	00.04			内:浅黄橙 外:オリーブ黒		3-26
04002619 3-71-768	SX1019	鍋 土師器	30.0*	-	-	内:暗灰 外:にぶい黄橙	器面へラミガキ、石鍋模倣か	20071018
05000936	SX1019	鍋	-	-	-	内:にぶい黄橙	徳永Ⅱ b類	-
3-71-769 05000924	SX1019	瓦器 捏鉢	-	-	-	外:灰白 内:灰白	-	3-26 20071019
3-71-770 05000918	SD1045	青磁碗	-	6.2	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	竜泉窯系Ⅰ類かⅡ類	3-26 20071020
3-71-771	SD1045	須恵器系陶器	_	8.6*	_	外:灰黄	東播系、底部糸切、内面摩滅	3-26
04002588 3-72-772		捏鉢 土師器				内:灰黄 外:にぶい橙		20071021 3-26
05000928	SX1043	杯	-	7.0*	-	内:にぶい橙	底部糸切	20071022
3-72-773 05000929	SX1043	土師器 杯	-	7.4*	_	外:浅黄橙 内:浅黄橙	底部糸切	3-26 20071023

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

				10,5	_ /	1 区中世"。近世仍出土退	TVJ	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cr 底径	n 器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-72-774	SX1043	白磁か	11.1*	<u></u> <u> 上</u>	谷向	釉調:灰	被熱か	3-26
05000914 3-72-775		白磁				胎土:灰白 釉調:灰白	West	3-26
05000916	SX1043	碗	17.3*	-	-	胎土:灰自	V類	20071025
3-72-776 05000915	SX1043	青磁碗	-	-	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	竜泉窯系 I 4類	3-26 20071026
3-72-777	SX1043	青磁	-	6.0*	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	竜泉窯系	3-26
05000913 3-72-778	SX1043	杯 青磁	_	5.5	_	- 加二・灰日 - 釉調:灰オリーブ	竜泉窯系Ⅱ b類	3-26
05000911 3-72-779		碗 青磁				胎土:灰白 釉調:にぶい黄		20071028 3-26
05000912	SX1043	碗	-	5.5	-	胎土:淡黄	竜泉窯系Ⅱc類	20071029
3-72-780 06000068	SX1043	青磁碗	-	-	-	釉調:オリーブ灰 胎部:灰白	雷文	3-26 20071030
3-72-781	SX1043	褐釉系陶器	-	-	-	釉調:灰オリーブ	四耳壺か、波状沈線文	3-26
05000917 3-72-782	CV1040	耳壺 土師器				胎土:明褐 外:灰黄褐	(生子, 耳 李章	20071031
05000937	SX1043	鍋工作品	-	-	-	内:褐灰 外:黄灰	徳永Ⅱa類	2.20
3-72-783 05000932	SX1043	土師器 鍋	-	-	-	内:黄灰	徳永Ⅱ b類、内外面煤付着	3-26 20071032
3-72-784 05000935	SX1043	土師器 鍋	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	徳永Ⅲ a類	-
3-72-785	SX1043	土師器	_	-	_	外:浅黄橙	_	3-26
05000926 3-72-786		鍋か 瓦器				内:にぶい黄橙 外:にぶい褐		20071033 3-26
05000933	SX1043	鍋	-	-	-	内:灰黄褐	-	20071034
3-72-787 05000927	SX1043	瓦器 鍋	-	-	-	外: 黄灰 内: 灰	-	3-26 20071035
3-72-788	SX1043	瓦器	-	-	-	外:灰褐	外面煤付着	3-26
05000934 3-72-789	CV1042	鍋 須恵器系陶器				内:灰黄褐 外:黄灰	株・毎小支か	20071036 3-26
05000925 3-72-790	SX1043	捏鉢 土師器	-	-	-	内:黄灰	樺・亀山系か	20071037 3-26
05000938	SX1043	茶釜	-	-	-	にぶい黄橙、黒褐	印花巴文	20071038
3-72-791 04002645	SX1043	滑石製品 石鍋	-	26.3*	=	-	-	3-26 20071039
3-72-792	SX1044	白磁	-	-	-	灰白	-	3-26
06000065 3-72-793	CV1044	白磁		7.0*		正共	木田P野	3-26
06000061 3-72-794	SX1044	Ⅲ 青磁	-	7.0*	-	灰黄 釉調:緑灰	森田E群	20071041 3-26
06000060	SX1044		-	4.8*	-	露胎:灰黄	同安窯系 I 1 類	20071042
3-72-795 06000067	SX1044	青磁碗	-	-	-	灰黄	同安窯系 I 1 b 類	3-26 20071043
3-72-796	SX1044	青磁	-	5.2*	-	釉調:灰オリーブ	竜泉窯系Ⅱc類か	3-26
05000878 3-72-797		碗 青磁		3.2		胎土:灰白 釉調:灰オリーブ		3-26
06000063	SX1044	盤	-	-	-	露胎:灰	竜泉窯系	20071045
3-72-798 06000066	SX1044	染付 碗	-	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、1610~1640年代、天目形	3-26 20071046
3-72-799 06000064	SX1044	陶器 Ⅲ	-	-	-	灰オリーブ	肥前、皮鯨、鉄絵	3-26 20071047
3-72-800	SX1044	陶器	_	5.2*	_	釉調:灰黄褐	肥前、1590~1630年代	3-26
05000877 3-72-801	3/1044	碗 瓦器		5.2		胎土:灰黄、にぶい橙 器面:黒	元明、1030 年代	20071048 3-26
06000062	SX1044	鍋か	-	-	-	胎土:明黄褐	-	20071049
3-72-802 04002596	SX1008	陶器皿	-	4.2	-	釉調:灰白 胎土:淡黄	肥前、砂目、1610~1630年代	3-26 20071050
3-73-803	F13 区画 P1006	土師器	6.6*	5.8*	1.5	外:にぶい橙	底部切り離し不明	-
05002019 3-73-804	P1096 F11 区画	小皿 土師器	8.8	7.2	1.3	内:にぶい橙 外:にぶい橙	 底部糸切、板状圧痕	3-26
04002590 3-73-805	P1305 H13 区画	小皿 土師器			1.0	内:にぶい橙 外:橙		20071051 3-26
04002591	P1193	小皿	8.0*	6.8*	1.3	内:橙	底部糸切、板状圧痕	20071052
3-73-806 05000943	G12 区画 P1187	土師器 杯	12.0*	-	-	外:浅黄橙 内:浅黄橙	-	3-26 20071053
3-73-807	G12 区画	土師器	13.8*	11.6*	2.5	外:にぶい黄橙	底部糸切	3-26
04002592	P1189	杯				内:浅黄橙		20071054

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

				100	_ /	1 区中世"。近世仍出土退。	עליו	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	/7	寸法 cr		色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-73-808	D15 区画	土師器	口径	底径	器高	外:浅黄	Haller de la	3-26
04002641	P1322	杯	12.2*	8.0*	3.0	内:浅黄	底部糸切、板状圧痕	20071055
3-73-809 04002610	G11 区画 P1280	土師器 杯	12.0*	8.4*	3.3	外:にぶい黄橙 内:にぶい橙	底部糸切	3-26 20071056
3-73-810	G12 区画	瓦器	15.6	5.7	5.3	外:灰自	外面体部下半に糸切痕	3-27
04002615 3-73-811	P1288 G11 区画	碗 須恵器系陶器				内:灰、灰白 外:灰黄		20071057 3-27
04002589	P1261	捏鉢	-	9.4*	-	内:灰黄	東播系、底部糸切、内面摩滅	20071058
3-73-812 04002616	G11 区画 P1228	土師器 鍋	-	-	-	外:にぶい褐 内:暗褐	徳永Ⅱb類	3-27 20071059
3-73-813	G12 区画	土師器	-	-	-	外:橙	徳永Ⅱb類	3-27
05000939 3-73-814	P1165 H11 区画	鍋 滑石製品				内:淡黄	1.1 1.1.4.1 1.3.4.	20071060 3-27
04002649	P1201	石鍋	20.0*	-	-		外面煤付着	20071061
3-73-815 04002602	G13 区画 P1067	白磁皿	-	4.4*	-	釉調:灰白 胎土:灰白	VⅢ類	3-27 20071062
3-73-816	G12 区画	自磁	10.2*	-	-	釉調:明緑灰	IX類	3-27
04002600 3-73-817	P1192 F14 区画	白磁		0.01		胎土:灰白 釉調:灰	The state of the s	20071063 3-27
04002594	P1047	<u> </u>	11.6*	6.2*	3.0	胎土:灰白	IX 1 d類	20071064
3-73-818 04002597	H12 区画 P1317	自磁皿	13.2*	8.0*	3.3	釉調:明緑灰 胎土:灰白	IX 1 類	3-27 20071065
3-73-819	H11区画	白磁	-	-	-	釉調:灰白	V∼₩類	3-27
04002603 3-73-820	P1215 G14 区画	碗 白磁				胎土:灰白 釉調:灰白	T T THE WEST	20071066 3-27
04002601	P1124	碗	-	-	-	胎土:灰白	Ⅴ~Ⅷ類	20071067
3-73-821 04002598	G11 区画 P1154	白磁碗	16.2*	6.5	5.8	釉調:灰白 胎土:灰白	V Ⅲ 1 類	3-27 20071068
3-73-822	G11 区画	青磁	-	-	-	釉調:オリーブ黄	竜泉・同安窯系 0 類か	3-27
04002599 3-73-823	P1311 H13 区画	碗 青磁				胎土:灰白 釉調:灰オリーブ	TO POST A WILL	20071069 3-27
04002674	P1270	碗	-	-	-	胎土:灰白	竜泉窯系 [4 類	20071070
3-73-824 04002673	H11区画 P1203	青磁 碗	-	-	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	竜泉窯系Ⅱbc類	3-27 20071071
3-73-825	H10 区画	滑石製品	5.6	3.4	1.1	-	-	3-27 20071072
04002605 3-73-826	P1241 G12 区画	石製品	F 7.6	幅 5.8	厚 4.2		重量 199.1 g、3面使用	3-27
04002700 3-73-827	P1183 G11 区画	砥石 銭貨	長 7.6	幅 3.8	厚 4.2	-	里里 199.1 g、 3 回使用	20071073 3-27
06002273	P1306	銅銭	-	-	-	-	天聖元寶、真書	20071074
3-73-828 06002274	G11 区画 P1306	銭貨 銅銭	-	-	-	-	元豊通寳、篆書	3-27 20071075
3-73-829	G11 区画	銭貨				_	元□通寳(元豊通寳か)、行書	3-27
06002303 3-74-830	P1306	銅銭 土師器	-	-	-	外:灰黄褐		20071076 3-27
05000893	G17 区画	小皿	8.2*	6.0*	1.2	内:にぶい黄橙	底部糸切	20071077
3-74-831 04002613	F11 区画	土師器 小皿	9.2*	7.0*	1.1	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	底部糸切	3-27 20071078
3-74-832	G13 区画	土師器	9.8*	8.0*	1.3	橙、褐	底部糸切	3-27
06000069 3-74-833		小皿 土師器			1.0	外:にぶい橙		20071079 3-27
05000906	表採	小皿	7.9*	6.7*	1.1	内:にぶい橙	底部糸切	20071080
3-74-834 04002689	G13 区画	土師器 小皿	8.5	6.7	1.1	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-27 20071081
3-74-835	G12 区画	土師器	8.1	6.5	1.7	外:にぶい橙	底部糸切、板状圧痕	3-27
05000895 3-74-836		小皿 土師器				内:にぶい橙 外:にぶい橙		20071082 3-27
04002624	F10 区画	杯	14.8*	11.4	2.5	内:にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	20071083
3-74-837 04002687	G11 区画	土師器 杯	12.3*	9.2*	2.3	外:浅黄橙 内:浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-27 20071084
3-74-838	G17 区画	土師器	13.8*	_	_	外:淡黄	_	3-27
05000903 3-74-839		杯 土師器				内:淡黄 外:にぶい橙	-	20071085 3-27
05000894	G12 区画	杯	12.2*	-	-	内:にぶい黄橙	-	20071086
3-74-840 04002685	H11 区画	土師器 杯	13.4*	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	3-27 20071087
3-74-841	_	土師器	_	10.0*	_	外:灰自	底部糸切、板状圧痕	3-27
05000889		杯		10.0		内:灰白	FEMILY 17 TATIVALLING	20071088

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

				10,5	_ /	1 区中世"。近世仍出土退	TVJ	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cr 底径	n 器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-74-842	表採	土師器	<u>口往</u>	10.0*	谷 同	外:にぶい橙	底部糸切	3-27
05000901 3-74-843		析 土師器				内:にぶい橙 外:にぶい橙		20071089 3-27
05000887	F12 区画	杯	-	10.0*	-	内:にぶい橙	底部糸切	20071090
3-74-844 04002688	F12 区画	上師器 杯	-	6.8*	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	底部糸切	3-27 20071091
3-74-845 04002609	J11 区画 表採	土師器杯	11.7*	3.6*	3.3	外:浅黄橙 内:浅黄橙	底部糸切、底部と口縁部に穿孔	3-27 20071092
3-74-846	- 表体 G14 区画	土師器	<u> </u>	5.9*	_	外:浅黄橙	底部糸切	3-27
05000892 3-74-847	G14 C M	杯 瓦器		3.9		内:浅黄橙 外:灰白	医印光引	20071093 3-27
05000897	G12 区画	碗	-	-	=	内:灰白	-	20071094
3-74-848 04002682	F11 区画	瓦器 碗	-	-	-	外:灰黄 内:灰黄	-	3-27 20071095
3-74-849	表採	瓦器	-	-	-	外:灰白	内面コテ当て痕	-
05000905 3-74-850	+45	碗 瓦器		7.1*		内:灰白 外:灰白	÷ /, 4, 1= 10 10 mm	
05000899 3-74-851	表採	碗	-	7.1*	-	内:灰白	高台内に板状圧痕	
05000902	表採	瓦器 碗	-	6.8*	-	外:灰白 内:灰白	内面へラミガキ	3-27 20071096
3-74-852 04002690	G15 区画	瓦器 碗	-	6.0*	-	外:灰白 内:黄灰	高台内に線描記号	3-27 20071097
3-74-853	表採	白磁	8.0*	4.0*	1.8	釉調:灰自	中国、底部露胎	3-27
04002595 3-74-854		白磁				胎土:にぶい黄橙、灰白 釉調:灰白		20071098 3-27
04002661	表採	Ш	11.2*	6.6*	2.6	胎土:灰自	IX 1 類	20071099
3-74-855 04002681	G13 区画	白磁皿	14.3*	-	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	IX類	-
3-74-856 05000879	表採	白磁皿	-	3.3	-	釉調:灰白 胎土:灰白	森田D群、陶胎	-
3-74-857	表採	自磁	11.4*	6.4*	2.8	釉調:灰白	森田E群	_
05000875 3-74-858		自磁		0.4	2.0	胎士:灰白 釉調:灰白		3-27
04002672	表採	碗	16.3*	-	-	胎土:灰自	IV類	20071100
3-74-859 05000870	表採	自磁碗	-	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	V∼Ⅷ類	-
3-74-860 04002638	表採	白磁碗	-	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	V~WI類	3-27 20071101
3-74-861	表採	自磁	_	4.6	_	釉調:灰白	VII 1 類	3-27
05000860 3-74-862		碗 白磁		4.0		胎士:灰白 釉調:明緑灰		20071102 3-27
04002629	表採	碗	17.0*	-	-	胎土:自	IX類	20071103
3-74-863 04002630	表採	白磁碗碗	-	-	-	釉調:灰白 胎土:白	IX類	-
3-74-864	表採	白磁	-	5.4	-	釉調:灰白	IX 2 a類	3-27
04002655 3-74-865	G12 区画	碗 白磁		5.5	_	胎士:灰白 釉調:灰白	V II 類	3-27 3-27
05000863 3-74-866	G1Z IZ IZ	碗 青白磁				胎土:灰白 釉調:明緑灰	VIIIXX	20071105 3-27
05000881	G12 区画	合子身	4.0*	3.0*	2.1	胎土:灰白	-	20071106
3-74-867 04002684	F11 区画	白磁小壺	-	4.5*	-	釉調:灰白 胎土:灰白	-	3-27 20071107
3-74-868	F14 区画	陶器	-	2.7*	-	釉調:黒	底部糸切、内面露胎、茶入	3-27
04002695 3-75-869	C12 区画	小壺 青磁	10.6*	4.3	2.2	胎土:赤灰 釉調:明オリーブ灰	同少农区	20071108 3-27
04002621 3-75-870	G13 区画	青磁	10.6	4.5	2.2	胎土:灰黄 釉調:オリーブ灰	同安窯系	20071109 3-27
04002637	表採	Ш	11.1*	4.8	1.9	胎土:灰	同安窯系	20071110
3-75-871 05000866	表採	青磁皿	-	5.4	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	同安窯系	3-27 20071111
3-75-872	H10 区画	青磁	-	4.6*	-	釉調:オリーブ灰	竜泉窯系、底部露胎	3-27
05000867 3-75-873		青磁	17.0*			胎土:灰白 釉調:灰	同字变灭	3-27 3-27
04002679 3-75-874	F11 区画	碗 青磁	17.2*	_	-	胎土:灰白 釉調:灰白	同安窯系	20071113 3-27
05000871	表採	碗	16.4*	-	-	胎土:灰自	同安窯系	20071114
3-75-875 04002636	表採	青磁碗	17.0*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	同安窯系	3-27 20071115
L 0 1002000	<u> </u>	1/6				MHT : N/H		1 200/1110

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

						1 区中世, 《灯电》/山工退	1175	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cr	n 器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-75-876 04002642	H12 区画	青磁	-	5.0	-	釉調:灰自 胎土:灰白	同安窯系	3-28
3-75-877	表採	碗 青磁	-	5.2*	_	釉調:灰自	同安窯系	20071116 3-27
05000862 3-75-878		- 碗 青磁	10.5%			胎土:灰白 釉調:灰オリーブ		20071117 3-28
04002678 3-75-879	H13 区画	碗 青磁	16.7*	-	-	胎土:灰 釉調:オリーブ灰	竜泉窯系 I 2 類	20071118 3-28
04002660	表採	碗	-	-	-	胎土:灰自	竜泉窯系 I 2類	20071119
3-75-880 04002680	F11 区画	青磁碗	-	-	-	釉調:明オリーブ灰 胎土:灰白	竜泉窯系 I 4類	3-28 20071120
3-75-881 04002651	表採	青磁碗	-	6.6	-	釉調:緑灰 胎土:灰白	竜泉窯系 I 4類	3-28 20071121
3-75-882 05000861	G12 区画	青磁碗	-	6.3*	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	竜泉窯系Ⅰ類	3-28 20071122
3-75-883	表採	青磁	17.1*	-	-	釉調:オリーブ	竜泉窯系Ⅱ b c 類	3-28
04002633 3-75-884		- 碗 青磁			_	胎土:灰白 釉調:オリーブ灰		20071123 3-28
04002658 3-75-885	表採	碗 青磁	16.8*	-	-	胎土:灰白 釉調:明緑灰	竜泉窯系Ⅱbc類	20071124 3-28
05000876	G12 区画	碗	16.0*	-	-	胎土:灰自	竜泉窯系Ⅱ b c 類	20071125
3-75-886 05000872	G12 区画 表採	青磁碗	-	-	-	釉調:オリーブ灰 胎土:灰	竜泉窯系Ⅱ b c 類、口縁部輪花	3-28 20071126
3-75-887 04002656	表採	青磁碗	-	5.8	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	竜泉窯系Ⅱc類	3-28 20071127
3-75-888 04002657	表採	青磁碗	-	4.8	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰黄	竜泉窯系Ⅱ b類	3-28 20071128
3-75-889 04002632	表採	青磁碗	-	5.2	-	釉調:オリーブ黄 胎土:灰白	竜泉窯系Ⅱ b類	3-28 20071129
3-75-890 04002634	表採	青磁碗	16.4*	-	-	釉調:オリーブ黄 胎土:灰黄	竜泉窯系Ⅱ a 類	3-28 20071130
3-75-891 04002659	表採	青磁碗	15.4*	-	_	油温: 水気 釉調: オリーブ灰 胎土: 灰	高麗か	3-28 20071131
3-75-892 04002662	表採	陶器	-	4.1	-	和調:灰 胎土:灰	朝鮮王朝、灰青沙器、砂目	3-28 20071132
3-75-893 04002666	表採	青花碗	11.5*	-	-	加工·灰 釉調:灰白 胎土:灰白	漳州窯	3-28 20071133
3-75-894 04002683	G11 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰白	東播系	3-28 20071134
3-75-895	表採	須恵器系陶器	-	-	-	外:灰	東播系	3-28
04002617 3-75-896	H12 区画	捏鉢 須恵器系陶器				内: 灰 外: にぶい黄橙	東播系	20071135 3-28
05000885 3-75-897		捏鉢 須恵器系陶器				内:灰黄		20071136 3-28
04002668	表採	捏鉢	-	-	-	灰	東播系	20071137
3-75-898 04002669	表採	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	東播系、やや焼成不良	-
3-75-899 05000884	G14 区画	瓦器 捏鉢	-	-	-	外:灰 内:灰	-	3-28 20071138
3-75-900 05000891	G17 区画	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外:灰白 内:灰白	やや焼成不良	3-28 20071139
3-75-901 04002691	F11 区画	瓦器 捏鉢	-	-	-	外:灰黄 内:灰黄	-	3-28 20071140
3-76-902 04002696	H13 区画	瓦器 擂鉢	-	14.0*	-	外:灰白 内:灰白	内面摩滅	3-28 20071141
3-76-903 04002692	H13 区画	褐釉系陶器	-	6.7*	-	和調:黒 胎土:褐灰	体部と底部の境に目跡	3-28
3-76-904	G17 区画	壺か 陶器	-	10.7*	-	外:灰	-	3-28
05000898 3-76-905	F11 区画	壺か 須恵器系陶器	20.7*	-	_	内:灰 外:黄灰	_	20071143 3-28
04002618 3-76-906	E16 区画	要 土師器		-	_	内: 灰黄 にぶい褐	徳永Ⅱ b類	20071144 3-28
04002694 3-76-907		鍋 土師器				外:灰褐		20071145 3-28
05000908 3-76-908	G10 区画	鍋 土師器	-	-	-	内:にぶい橙 外:褐灰	徳永Ⅱb類	20071146 3-28
05000888	G17 区画	鍋	-	-	-	内:にぶい黄橙	徳永Ⅱb類	20071147
3-76-909 04002693	F11 区画	土師器 鍋	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	徳永Ⅱ b類	3-28 20071148

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

				100	_ /	1 区中世" 处世仍山工退1	<i>'</i> /J	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種		寸法 cr	n 器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-76-910	-	瓦器	口径 -	広任		外:灰白、灰	徳永VI類、内面にヘラ記号	3-28
05000890 3-76-911	丰松	鍋 滑石製品	10.0*	-		内:灰白、灰	1003 1000 1 3 M2 3	3-28
04002702 3-76-912	表採	石鍋 滑石製品	19.9*	-	-	-	-	20071150 3-28
04002701	表採	石鍋	30.4*	-	-	-	-	20071151
3-76-913 04002626	H12 区画	滑石製品 石鍋	24.6*	-	-	-	外面煤付着	3-28 20071152
3-76-914 04002647	F11 区画	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	3-28 20071153
3-76-915 04002703	H12 区画	滑石製品石鍋	-	-	-	-	再加工途中	3-28 20071154
3-76-916	表採	滑石製品	_	-	-	-	_	3-28
04002627 3-76-917	表採	石鍋 滑石製品	20.4*	_	_	_		20071155 3-28
04002646 3-76-918		石鍋 滑石製品	20.4				-	20071156 3-28
04002648	表採	石鍋	-	-	-	-	-	20071157
3-76-919 04002704	I13 区画	滑石製品 石鍋	-	16.0*	=	-	外面煤付着	3-28 20071158
3-76-920 04002643	G12 区画	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	外面煤付着	3-29 20071159
3-76-921 04002707	表採	滑石製品	-	-	=	-	未製品か、穿孔あり、煤付着	3-28 20071160
3-77-922	H11 区画	石製品	長 2.5	幅 4.1	厚 1.8	-	石鍋転用品、煤付着、重量 31.2 g	3-29
04002708 3-77-923	G12 区画	土製品	長36	径 0.9	_	にぶい橙	完形	20071161 3-29
05000907 3-77-924		垂 石製品			E F O	133.1 III.		20071162 3-29
04002697 3-77-925	表採	砥石 石製品	長 8.2	幅 5.3	厚 5.0	-	重量 311.1 g、表裏 2 面使用	20071163 3-29
04002698	H12 区画	砥石	長 6.8	幅 6.6	厚 5.3		重量 273.4 g、3 面使用	20071164
3-77-926 05000874	-	染付 碗	10.0*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、1620~1660年代	3-29 20071165
3-77-927 04002663	表採	染付 碗	-	3.6	-	釉調:明オリーブ灰 胎土:灰白	肥前、波佐見、18 C後半	3-29 20071166
3-77-928 04002631	表採	染付 碗	-	5.1*	-	釉調:明緑灰 胎土:白	肥前、18 C第 4 四半期	3-29 20071167
3-77-929	表採	染付	-	3.8	-	釉調:明緑灰	肥前、内底蛇の目釉剥、18 C 後半	3-29
05000865 3-77-930	表採	碗 染付	_	3.2	-	胎土:灰白 釉調:灰白	肥前、1770~1810年代	20071168 3-29
04002676 3-77-931		小碗 染付				胎土:灰白 釉調:明緑灰		20071169 3-29
05000868 3-77-932	表採	碗 染付	-	4.3*	-	胎土:灰白 釉調:明緑灰	肥前、18 C末~幕末 肥前、1820~1860 年代、	20071170 3-29
04002677	表採	小碗	-	3.9*	-	胎土:灰白	アルミナ塗布	20071171
3-77-933 04002652	表採	染付 Ⅲ	-	5.6*	=	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、1630~1650年代	3-29 20071172
3-77-934 04002675	表採	染付 皿	12.0*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18 C後半	3-29 20071173
3-77-935 04002664	表採	染付 皿	18.5*	-	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	肥前、18 C後半	3-29 20071174
3-77-936	表採	陶器	-	4.1*	=	釉調:灰黄	肥前、18 C 前半	3-29
04002665 3-77-937	表採	碗 白磁		9.1*		胎土:灰白 釉調:明緑灰	肥前、18 C 前半か	20071175 3-29
04002628 3-77-938		瓶 陶器				胎土:灰白 釉調:黒褐		20071176 3-29
04002654	表採	瓶	-	10.6*	-	胎土:にぶい橙	肥前、17 C末~ 18 C前半	20071177
3-77-939 04002670	表採	陶器 擂鉢	-	9.8*	=	化粧土:灰赤 胎土:橙	肥前、底部糸切、18 ~ 19 C	3-29 20071178
3-77-940 04002653	表採	陶器 鉢	21.6*	-		釉調:浅黄橙 胎土:橙	肥前、二彩手、18 C前~中葉	3-29 20071179
3-77-941 04002667	表採	陶器 鉢	-	-	-	釉調:灰白 胎土:明赤褐	肥前、18 C代	3-29 20071180
3-77-942	表採	陶器	-	14.2*	-	釉調:灰自	肥前、二彩手、18 C代	3-29
04002671 3-77-943	H12 区画	大皿 陶器	径 5.9	-	2.3	胎土:にぶい赤褐 釉調:オリーブ黄	 肥前、18 C代、小壺の蓋か	3-29
04002620		蓋	5.5			胎土:にぶい黄橙	and the state of t	20071182

表3-7 1区中世〜近世の出土遺物

挿図 - 番号	田土 位置			寸法 cn	n	色調	備考	写真図版
登録番号	HILEE	器種	口径	底径	器高	Zav-9	VID 3	写真登録番号
3-77-944	表採	染付	6.0*		0.9	釉調:灰黄	肥前系、「圓」字あり烏犀圓か	3-29
04002622	衣沐	蓋	0.0	_	0.9	胎土:灰黄	肥削糸、「園」子のり局座園が	20071183
3-77-945	表採	白磁	4.0*	2.8*	1.5	釉調:灰白	肥前系	3-29
05000880	衣沐	合子身	4.0	2.0	1.5	胎土:灰白	加削术	20071184

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-80-946 05001822	-	土師器 小皿	8.8	5.4	1.5	にぶい橙	底部糸切、板状圧痕	3-29 20071185
3-80-947 05001856	-	土師器 小皿	6.5	4.8	2.0	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071186
3-80-948 05001858	-	土師器 小皿	6.7	4.2	2.2	にぶい橙	底部糸切	3-29 20071187
3-80-949 05001857	-	土師器 小皿	7.2*	5.1*	1.8	橙	底部糸切	3-29 20071188
3-80-950 05001827	-	土師器 小皿	7.4*	5.0*	1.8	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071189
3-80-951 05001853	-	土師器 小皿	6.4	3.4	2.0	浅黄橙	底部糸切	3-29 20071190
3-80-952 05001855	-	土師器 小皿	6.5	3.7	1.9	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071191
3-80-953 05001854	-	土師器 小皿	7.4*	3.3*	2.2	灰黄	底部糸切	3-29 20071192
3-80-954 05001828	-	土師器 小皿	7.5	4.4	1.6	にぶい黄橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071193
3-80-955 05001826	-	土師器 小皿	8.0	4.7	1.7	にぶい橙	底部糸切	3-29 20071194
3-80-956 05001824	-	土師器	8.3*	4.4*	1.9	浅黄橙	底部糸切	3-29 20071195
3-80-957 05001838	-	土師器 小皿	5.7	4.1	1.2	外:にぶい黄橙 内:にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071196
3-80-958 05001832	-	土師器 小皿	6.1	3.6	1.3	にぶい橙	底部糸切	3-29 20071197
3-80-959 05001837	-	上師器	6.0	3.5	1.3	浅黄橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071198
3-80-960 05001835	-	土師器	6.1	4.0	1.2	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071199
3-80-961 05001847	-	土師器 小皿	6.2*	4.2*	1.4	浅黄橙	底部糸切	3-29 20071200
3-80-962 05001841	-	土師器	6.4	3.3	1.3	浅黄橙、灰黄	底部糸切、油煤付着	3-29 20071201
3-80-963 05001843	-	土師器	6.4	4.2	1.3	浅黄橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071202
3-80-964 05001839	-	土師器	6.4*	3.4	1.3	橙	底部糸切	3-29 20071203
3-80-965 05001834	-	土師器 小皿	6.1	3.7	1.4	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071204
3-80-966 05001836	-	土師器 小皿	6.1*	3.9	1.4	にぶい黄橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071205
3-80-967 05001833	-	土師器 小皿	6.4	3.6	1.4	淡黄	底部糸切	3-29 20071206
3-80-968 05001831	-	土師器 小皿	6.6	3.7	1.6	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071207
3-80-969 05001840	-	土師器 小皿	6.9*	3.1	1.7	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	底部糸切	3-29 20071208
3-80-970 05001830	-	土師器 小皿	6.9*	4.5	1.8	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	3-29 20071209
3-80-971 05001852	-	土師器 小皿	7.1	3.6	1.8	外:にぶい橙 内:橙	底部糸切	3-29 20071210
3-80-972 05001829	-	土師器 小皿	7.6*	4.3	1.7	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	底部糸切	3-29 20071211
3-80-973 05001883	-	土師器 杯	14.8*	8.8	2.7	にぶい橙、浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-29 20071212

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

				10 3	- 0	3 位八龍社跡の山上退れ	<i>U</i> J	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-80-974	-	土師器	14.7*	9.4*	3.0	外:にぶい橙、浅黄	底部糸切(静止糸切)	3-29
05001863 3-80-975	_	杯 土師器	13.8*	10.4*	3.2	内:にぶい橙 浅黄橙	 	20071213
05001862 3-80-976	_	杯 土師器	13.3*	9.6*	2.9	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-29
05001866 3-80-977		杯 土師器				, ,,,		20071214 3-29
05001875 3-80-978	-	杯 土師器	13.3	9.5	2.9	にぶい橙、黒褐	底部糸切	20071215 3-29
05001882 3-80-979	-	杯 土師器	12.8	9.4	2.8	浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	20071216
05001876	-	杯	12.4	10.2	2.6	にぶい橙	底部糸切	20071217
3-80-980 05001877	-	土師器 杯	12.2	10.0	2.8	にぶい橙	底部糸切	3-29 20071218
3-80-981 05001881	-	土師器 杯	13.5*	7.7	3.1	橙	底部糸切、板状圧痕	3-29 20071219
3-80-982 05001874	-	土師器 杯	13.2	7.2	3.1	外:浅黄橙 内:にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-29 20071220
3-80-983 05001945	-	土師器	13.2	7.4	3.4	外:にぶい黄橙 内:にぶい橙	底部糸切	3-29 20071221
3-80-984	_	土師器	12.8*	8.0*	3.2	浅黄橙	 底部糸切	3-29
05001865 3-80-985	_	杯 土師器	12.6	7.9	2.7	外:浅黄橙、灰黄褐	底部糸切	3-29
05001873 3-80-986		杯 土師器	12.5		2.7	内:浅黄橙 にぶい橙	底部糸切	20071223 3-29
05001958 3-80-987	-	杯 土師器		7.3				20071224 3-29
05001870 3-80-988	-	杯 土師器	12.2*	7.9	3.5	浅黄橙	底部糸切	20071225 3-29
05001868	-	杯	12.0*	7.4	2.9	浅黄橙	底部糸切	20071226
3-80-989 05001905	-	土師器 杯	11.8*	7.1	2.8	橙	底部糸切	3-29 20071227
3-80-990 05001913	-	土師器 杯	11.6*	6.6	2.6	外:橙、浅黄橙 内:橙	底部糸切	3-29 20071228
3-80-991 05001871	-	土師器 杯	11.5*	7.6	3.1	外:浅黄橙 内:浅黄橙、浅黄	底部糸切、板状圧痕	3-30 20071229
3-80-992 05001906	-	土師器 杯	11.5*	6.9	3.0	浅黄橙、にぶい黄橙	底部糸切	3-30 20071230
3-80-993 05001907	-	土師器 杯	11.4*	7.5	2.9	橙	底部糸切、板状圧痕	3-30 20071231
3-80-994 05001909	-	土師器	11.4	6.7	2.7	外:にぶい橙 内:浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-30 20071232
3-80-995	-	土師器	11.3	7.2	2.9	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	3-30
05001915 3-80-996	_	杯 土師器	11.0*	6.3	2.5	にぶい黄橙	 底部糸切	20071233 3-30
05001910 3-80-997		杯 土師器	10.8	6.9	2.9	外:浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	20071234 3-30
05001908 3-80-998	-	杯 土師器				内:橙、浅黄橙		20071235 3-30
05001878 3-80-999	-	杯 土師器	11.3	4.6	3.2	浅黄橙、淡黄 外:浅黄橙、淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	20071236 3-30
05001879	-	杯 土師器	11.8	4.8	3.3	内:淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	20071237
05001880	-	杯	13.2	5.0	3.8	浅黄橙、淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071238
3-80-1001 05001927	-	土師器 杯	-	3.8	-	淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071239
3-80-1002 05001926	-	土師器 杯	-	4.2	-	淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071240
3-80-1003 05001929	-	土師器 杯	-	4.9*	-	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071241
3-80-1004 05001928	-	土師器杯	=	4.0	-	浅黄橙	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071242
3-80-1005 05001930	-	土師器杯	-	3.7	-	淡黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071243
3-80-1006	-	土師器	-	5.4	-	浅黄	 底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30
05001925 3-80-1007	_	杯 土師器	_	4.7	_	浅黄	底部糸切、内底螺旋状沈線	3-30 20071244
05001934		杯		7.1		1450		20071245

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

				100	- 0	3 区八龍社跡♡7山土退む	<i>T</i> J	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-80-1008	-	土師器	11.7*	5.1	3.4		 底部糸切	3-30
05001895 3-80-1009		杯 土師器	11.0	4.0				20071246 3-30
05001897	-	杯	11.6	4.9	3.4	淡黄	底部糸切	20071247
3-80-1010 05001890	-	土師器 杯	11.5*	4.4	3.3	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071248
3-80-1011 05001904	-	土師器 杯	11.2*	4.5	3.4	にぶい黄橙	底部糸切	3-30 20071249
3-80-1012	-	土師器	10.8*	4.5	3.2	外:にぶい黄橙	底部糸切	3-30
05001898 3-80-1013		杯 土師器	10.6*	4.4	3.0	内:浅黄橙 外:浅黄橙	 	20071250 3-30
05001889 3-80-1014	-	杯 土師器	10.6	4.4	3.0	内:淡黄		20071251 3-30
05001887	-	杯	10.5*	3.9	3.8	浅黄橙	底部糸切	20071252
3-80-1015 05001902	-	土師器 杯	10.5	5.4	3.0	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071253
3-80-1016 05001888	-	土師器 杯	10.2	4.8	2.9	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071254
3-80-1017	_	土師器	9.6*	3.6	2.8	にぶい橙	 底部糸切	3-30
05001892 3-80-1018		杯 土師器						20071255 3-30
05001900	-	杯	9.5*	4.0	3.4	にぶい黄橙	底部糸切	20071256
3-80-1019 05001891	-	土師器 杯	9.5*	3.9	3.2	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071257
3-80-1020 05001894	-	土師器 杯	10.7*	4.6	3.3	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071258
3-80-1021	-	土師器	10.2*	4.7	2.8	浅黄橙	底部糸切	3-30
05001825 3-80-1022		杯 土師器						20071259 3-30
05001914 3-80-1023	-	杯 土師器	9.7*	5.4	2.6	にぶい黄橙	底部糸切	20071260 3-30
05001823	-	杯	9.4	6.3	1.8	淡黄	底部糸切	20071261
3-80-1024 05001820	-	土師器 杯	9.3*	5.4*	1.7	浅黄橙	底部糸切	3-30 20071262
3-80-1025 05001821	-	土師器 杯	9.1	5.4	1.8	外:にぶい黄橙 内:浅黄橙	底部糸切	3-30 20071263
3-80-1026	_	土師器	11.2	6.6	2.4	外:浅黄橙、黄灰	底部ヘラケズリ	3-30
05001916 3-81-1027		杯 白磁		0.0	2.1	内:にぶい黄橙 釉調:灰白		20071264 3-30
05001993	-	小杯 染付	7.2*	-	-	胎土:灰自	肥前、17C 後半~ 18C 前半	20071265
3-81-1028 05001999	-	小杯	6.1	2.4	3.0	釉調:明オリーブ灰 胎土:灰白	肥前、18C 中葉~後半	3-30 20071266
3-81-1029 05001979	-	染付 仏飯具	-	3.3	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18C後半	3-30 20071267
3-81-1030	-	染付	10.1*	4.4*	5.4	釉調:灰	 肥前、吉田か、18C 前半	3-30
05002000 3-81-1031		碗 染付	10.0	4.3	5.4	胎土:灰白 釉調:明オリーブ灰	 肥前、18C 前半	20071268 3-30
05002006 3-81-1032	-	碗 染付	10.0		3.4	胎土:灰白 釉調:灰白		20071269 3-30
05001975	-	小碗	9.6*	3.5*	5.1	胎土:灰自	肥前、18C後半	20071270
3-81-1033 05001995	-	染付 碗	10.7*	-	-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	肥前、18C 前半	3-30 20071271
3-81-1034 05001976	-	染付 小碗	9.0*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18C 第 2 四半期~後半	3-30 20071272
3-81-1035	_	染付	_	4.4*	_	釉調:灰白	 肥前、18C 第 2 ~ 3 四半期	3-30
05001977 3-81-1036		碗 染付				胎土:灰白 釉調:灰白		20071273 3-30
05002003	-	碗	9.8*	4.6*	5.0	胎土:灰自	肥前、18C 後半	20071274
3-81-1037 05001978	-	染付 碗	9.9*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18C後半	3-30 20071275
3-81-1038 05001997	-	染付 碗	10.2*	-	-	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18C後半	3-30 20071276
3-81-1039	-	染付	11.3*	6.2	6.1	釉調:灰自	 肥前、塩田か、19C 前半	3-30
05001981 3-81-1040		碗 染付				胎土:灰白 釉調:灰白		20071277 3-30
05001982 3-81-1041	-	碗 染付	11.6	_	_	胎土:灰白 釉調:灰白	肥前、19C 前半	20071278 3-30
05001998	-	碗	11.3*	-	-	胎土:灰白	肥前、1780 年代~ 19C 前半	20071279

表3-8 3区八龍社跡の出土遺物

				10	- 0	3 △八龍社跡♡7山上退1	<i>T</i>	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
3-81-1042	-	染付	9.9*	3.6*	4.9	釉調:灰白	肥前、1770~1810年代	3-30
05001974 3-81-1043	_	- 碗 染付	8.7*	_	_	胎土:灰白 釉調:灰白	肥前、1770~ 1810 年代	20071280 3-30
05001980 3-81-1044	_	碗 染付				胎土:灰白 釉調:灰白	1770 1810 4 10	20071281 3-30
05001996	-	碗	9.8*	-	-	胎土:灰自	肥前、1770~ 1810 年代	20071282
3-81-1045 05001992	-	染付 碗	9.9*	4.0	5.1	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、18C 末~幕末	3-31 20071283
3-81-1046	-	染付 碗	10.9*	4.7*	6.0	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、塩田か、1820 ~ 60 年代	3-31 20071284
05001972 3-81-1047		染付	_	4.3*	_	和調:明オリーブ灰	 肥前、波佐見、1820 ~ 60 年代	3-31
05001973 3-81-1048	-	碗 染付				胎土:灰白 釉調:灰白		20071285 3-31
05001994	-	碗	9.9*	4.8*	4.8	胎土:灰白	肥前、1820~60年代	20071286
3-81-1049 05001971	-	染付 皿	12.4*	3.8*	3.5	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、波佐見、18C 後半	3-31 20071287
3-81-1050 05002001	-	染付 皿	14.1*	4.1*	5.2	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、波佐見、17C 後半~ 18C	3-31 20071288
3-81-1051	-	染付	10.0*	7.6*	16.7	釉調:明オリーブ灰	肥前、17C 後半~ 18C 前半	3-31
05002005 3-81-1052		瓶 染付				胎土:灰白 釉調:灰白		20071289 3-31
05002004 3-81-1053	-	瓶 陶器	8.6	6.1	19.0	胎土:灰白 釉調:褐	肥前、有田か、17C後半	20071290 3-31
05001985	-	灯火具	8.0	3.1	1.9	胎土:にぶい赤褐	肥前、18C~幕末	20071291
3-81-1054 05001986	-	陶器 灯火具	8.9	3.4	2.3	制調:黒褐 胎土:オリーブ黒	肥前、18C 初	3-31 20071292
3-81-1055	-	陶器	9.3	4.3	3.1	釉調:にぶい黄	肥前、18C 代	3-31
05002002 3-81-1056		灯火具 陶器	5.2	4.4	2.4	胎土:明赤褐 釉調:にぶい赤褐	 肥前、18C 代	20071293 3-31
05001984 3-81-1057	-	灯火具 陶器		4.4	2.4	胎土:明赤褐 釉調:黒褐、明黄褐		20071294 3-31
05001987	-	碗	9.2*	-	-	胎土:灰黄	福岡か、17C末~18C前半	20071295
3-81-1058 05001990	-	陶器 碗	12.8	4.9	5.6	釉調:明黄褐、暗褐 胎土:淡黄	肥前、椎の峯か、17C 後半	3-31 20071296
3-81-1059 05001989	-	陶器 碗	13.5	5.2	6.5	釉調:灰白 胎土:灰白	肥前、17C 末~ 18C 前半	3-31 20071297
3-82-1060	-	陶器	9.2*	=	-	釉調:淡黄、褐	肥前、17C 後半~ 18C 前半	3-31
05001988 3-82-1061		火入 陶器	7.4		4.5	胎土:明赤褐 釉調:暗赤褐	肥前、18C~19C初	20071298 3-31
05001983 3-82-1062	-	土瓶蓋 陶器	7.4	-	4.5	胎土:浅黄 釉調:浅黄、黄褐	月2日月、180~1907月	20071299 3-31
05001991	-	土瓶	8.6	7.2	11.4	胎土:灰褐	肥前、18C 代	20071300
3-82-1063 05001969	-	瓦器 鍋	28.3*	-	-	外:にぶい黄褐 内:黄灰、暗灰黄	徳永IV a 類	3-31 20071301
3-82-1064	-	瓦器 鍋	-	-	-	灰	徳永IV a 類	3-31
05001968 3-82-1065	_	瓦器	_	_	_	外:黒褐	徳永V類	20071302
05001967 3-82-1066		鍋 土師器				内:灰黄、灰 外:にぶい黄橙、黒	NAV A NAV	3-31
05001965	-	焙烙	19.6*	13.5*	-	内:にぶい褐、黒褐	-	20071303
3-82-1067 05001966	-	土師器 焙烙	20.3*	-	-	外:灰黄褐 内:褐灰、灰黄褐	-	3-31 20071304
3-82-1068 05001970	-	土師器 焙烙	-	-	-	にぶい黄橙	把手	3-31 20071305
3-82-1069	-	瓦器	14.7*	=	-	外:にぶい橙	-	3-31
05001962 3-82-1070		茶釜 瓦器				内:にぶい黄橙		20071306 3-31
05001963 3-82-1071	-	茶釜 瓦器	13.0*	-	-	にぶい黄橙	-	20071307 3-31
05001961	-	火鉢	47.1*	-	-	灰黄	-	20071308
3-82-1072 05001964	-	瓦器 火鉢	33.5*	-	-	外:にぶい黄橙 内:灰黄	-	3-31 20071309
3-82-1073	-	瓦器	25.2*	22.6*	推	外:灰、暗灰	-	3-31
05002012 3-82-1074		風炉 瓦器	_		21.7	内:灰黄、灰、暗灰 オリーブ黒		20071310 3-31
05002009 3-82-1075	-	火入 瓦器	長	幅		外:オリーブ黒	-	20071311 3-31
05002008	-	火入	21.8	15.1	8.6	内:灰	-	20071312

4 まとめ

東畑瀬遺跡1・3区では縄文時代〜弥生時代と中世〜近世の遺構・遺物を調査した。以下、今次調査でも特に重要な成果である1区の縄文時代後期末〜弥生時代、1区の中世前期屋敷地、3区の中世〜近世神社について簡単にまとめておきたい。

1) 1区の縄文時代後期末~弥生時代について

1区で主体を占める縄文土器について時代順に概観すると、まず後期末(御領式~広田式並行)には遺構として SX1134 があり、包含層からこの時期の精製深鉢が出土しており、分離できなかったが、浅鉢・粗製深鉢も存在すると考えられる。ただ、遺物量は少なく、短期間の集落であったと推測される。

晩期初頭~前葉(古閑式~黒川式古段階並行)のものは出土していない。

晩期中葉(黒川式新段階並行)は、遺構・遺物がもっとも多く確認されており、1区で主体を占める時期である。水ノ江和同氏の編年(水ノ江1997)を参照すると、北部九州2期のもの(浅鉢A2類新)が多いが、3期のものもみられ、細分できる可能性がある。特徴的な遺物としてSX1131出土孔列文土器(144)があり、図示していないが包含層からも別に数点出土しているが、対照的に組織痕文土器は出土していない。また、68の浅鉢は北部九州的なものではなく、他地域の系統を引く可能性がある。

さて、晩期中葉の SK1133 から刻目突帯をもつ土器 (99) が出土している。口縁部がわずかに残存するだけであるため、詳細は不明であるが、突帯の貼り付け方は通有の突帯文とは異なるようで、刻目もやや大きく、古い特徴をもつ可能性がある。ただ、浅鉢は突帯文期直前のものではなく、また一括性に欠ける資料でもあるので、混入の可能性が高いと判断したい。なお、時期によって分布域が異なり、出土状況から細かな時期差を抽出できる可能性があり、今後さらに整理・分析を進めていきたい。

石器については、組成が同時代の平野部や海岸部と大きく異なっている。打製石鏃を主とする剥片石器とその製作に伴う資料が大多数を占める一方、石斧・磨石等の磨製石器・礫石器が極端に少なく、磨製穂摘具を初めとする 大陸系磨製石器がまったく存在しないなど、狩猟具に著しく偏っている。

このように、東畑瀬遺跡1区の縄文時代後期末~弥生時代前期の集落は、確実な竪穴住居がほとんど確認されていないことや石器組成の点などからみて、定住生活を営んでいた場所というよりは一時的な居住地であったものと推測される。

2) 1区の中世前期屋敷地について

中世前期の屋敷地が確認された 1 区一帯の畠地は、約 110×25 m、およそ 1 町× 1/4 町に相当する規模である。 検出された建物の主軸もおおむねこの区域の方向と合っていて、屋敷地が廃絶した後も大幅な地形の改変は行われていないようである。 遺構の広がりや地形の状況からして、東畑瀬遺跡 1 区では中世前期の屋敷地主要部をほぼ完掘したものと考えられるが、屋敷地を囲繞する区画溝や連続した柵列などは確認されなかった。

1 区から出土した遺物の年代は、平安時代末~鎌倉時代初期の 12 世紀後半頃から鎌倉時代末~南北朝初期の 14 世紀前半までに集中し、それ以外の資料は僅かである。主な遺構から出土した遺物も中世後期の SX1015 と近世の護岸状遺構を除いてこの時期のものであり、鎌倉時代とその前後に営まれた屋敷地であることが判る。

掘立柱建物から出土した遺物は大きく2つの時期に分離でき、SB1025・1026からは平安時代末期~鎌倉時代前期、SB1023・1027・1028・1030からは鎌倉時代後期~南北朝時代初期とみられる遺物が出土している。掘立柱建物には桁行3間以上のもの(大)と桁行2間以下のもの(小)とがあり、主軸方向が判断しやすい桁行3間以上の建物で見ると、平安時代末期~鎌倉時代前期には東西棟であったものが、鎌倉時代後期~南北朝時代初期には南北棟へと変化したようである。土坑墓SP1009は掘立柱建物の配置が大きく変わった鎌倉時代後期~南北朝時代初期と同時期とみられるので、これが屋敷の創始あるいは中興に関わる人物を葬った屋敷墓であるとすると、屋敷地の構造変化は主体者の交替に起因するものと推測できる。

鎌倉時代前後の畑瀬地区は肥前安富荘に含まれていたとみなされるので、東畑瀬1区における屋敷地の盛衰は、宮武(1991)で示された肥前安富荘の領有形態の変遷と連動する可能性がある。「畑瀬」の史料上の初見でもある暦応2(1339)年4月25日石志定阿譲状案(石志家文書)によれば、松浦党一族である石志定阿が嫡子である煕に「安富庄内畑瀬村、同村内火桶」等の田地屋敷を、庶子の披に「安富庄畑瀬村内上於副河」を譲り与えている。これにより安富荘畑瀬村が現在の富士町畑瀬から上小副川までの範囲に及んでいたことが判るが、畑瀬村の中枢となる区域はその名が示す「畑瀬」の地であったろう。現在までの調査所見による限り、鎌倉時代前後に営まれた屋敷地は東畑瀬遺跡1区と西畑瀬遺跡4・5区一帯にあり、どちらも鎌倉後期~南北朝初期に盛期があるようである。石志氏は安富荘畑瀬村を「恩賞之地」として獲得しており、元寇恩賞地もしくは鎌倉幕府滅亡後の動乱に際して配分されたものと思われるので、畑瀬地区との関わりはまさに鎌倉後期~南北朝初期に始まるとみてよい。石志氏が拝領した恩賞地に東畑瀬1区が含まれていたと断定することはできないが、鎌倉後期~南北朝初期における東畑瀬遺跡・西畑瀬遺跡の屋敷地が松浦党一族の所領経営と関わるものである可能性は高いものと考えられる。

3) 3区の中世〜近世神社について

地元での言い伝えによれば、3 A 区南東部の平場は八龍社という神社の跡であるとされていた。嘉瀬川ダム建設に伴う民俗調査での聞き取りによると「東畑瀬には元々はお宮が二つあって、一つは現在の豊福さん、もう一つはハチリョウサン(八龍さん)と呼ばれるものであった。現在、ミヤバタケと呼ばれている畑の所にあった。お宮が合祀されたので畑にしていた。」という(嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会 2000)。安永3(1774)年に宗源院住職が書き上げた差出(『寺社差出 曹洞宗由緒』所収)には宗源院管下として「八龍神」が記され、江戸時代後期と推定される『佐賀郡佐賀山内図』の畑瀬村には今回の調査区のあたりに「八龍社」の社殿と集落から社に向かう路が描かれている。以上から、八龍社の社殿は遅くとも18世紀後半には存在し、明治から大正頃のある時点で豊福宮と合祀され解体されたもののようである。

出土遺物については、1)中世前期から近世までの長期間におよぶ、2)土師器杯・小皿が中心で、特に中世の陶磁器類は欠如する、3)仏花瓶と思われる陶磁器や線香立ての類かと思われる箱形の瓦器等、神仏に供える器がある、などの特徴がある。こうした遺物の様相から、中世前期から通常の居住空間ではなく神仏に関わる場として使われていたものと判断できるが、近世後期に存在した八龍社の起源を果たしてそこまで遡らせることができるかは判らない。

調査着手前の八龍社跡は、既に耕作が放棄され竹林の一部と化した状態であったため、遺構面の撹乱が著しく各時代の出土遺物が混在していた。また、掘立柱建物の柱穴内から遺物が出土しなかったため、今回の発掘調査で確認された掘立柱建物が、いつの段階の社殿であるかは断定が困難である。ただ、土師器杯・小皿の中でもっとも多いのが中世後期~近世初期とみられる一群であることと、建物の構造が掘立柱である点を考慮すると、中世後期~

近世初期の社殿であった可能性が強い。神埼市横武城跡でも、現存していた神社(乙龍社)の下層遺構として掘立 柱建物が検出され、中世後期を主とする大量の土師器杯・小皿が出土している(神埼町教委 1997)。時代相としても八龍社跡に近く、遺構・遺物の様相が類似する事例として挙げておきたい。

第3章 参考・引用文献

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会(2000)『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会

神埼町教育委員会(1997)『横武城跡』神埼町文化財調査報告書第 57 集

九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』

佐賀県教育委員会(1999)「寺ヶ里遺跡 2 区の遺構と遺物」『戦場古墳群』佐賀県文化財調査報告書第 140 集

田中克子 (2001)「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁 (その一) 博多出土の薄胎施釉陶器 (茶入)」『博多研究会誌』第9号 博多研究会

太宰府市教育委員会(2000)『大宰府条坊跡XV―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集

橘 昌信(1984)「縄文時代晩期の石器―西北九州における石器研究―」『史学論叢』15号

徳永貞紹(1990)「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究VI』 日本中世土器研究会

富士町史編さん委員会(2000)『富士町史』上巻・下巻 富士町

三日月町教育委員会(1996)『石木中高遺跡』三日月町文化財調査報告書第7集

宮武正登編(1991)「肥前國安富荘関係史料集」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会

宮武正登(1991)「本村遺跡をめぐる中世世界―安富荘内村落としての位置付け―」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集 佐賀県教育委員会

森田 勉 (1982) 「 $14 \sim 16$ 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会

水ノ江和同(1997)「北部九州の縄紋後・晩期土器―三万田式から刻目突帯文土器の直前まで―」『縄文時代』第8号 縄文時代文化研究会

第4章 大野遺跡2・3区

第4章 大野遺跡2・3区

1 大野遺跡2・3区の概要

大野遺跡は、佐賀市富士町大字大野字一本松および大字下無津呂字一本松に所在する(図 4 – 1)。

大野地区は、嘉瀬川支流神水川の中流域左岸に位置し、東側の山塊と西側を南流する神水川との間に開けた河岸 段丘から山麓部の斜面にかけて集落と耕地が展開している。

今回の調査区のすぐ背後にある臨済宗金福寺は正応3(1290)年創建と伝え、川を挟んだ対岸にあたる中原地区の薬師堂には平安時代後期の作とみられる薬師如来像(佐賀県重要文化財)が安置されている。また、近年の調査により大野遺跡や対岸の中原遺跡・フルタ遺跡で中世集落遺構の存在が明らかになり、大野・中原地区が中世以降における地域の中核的な区域であったことが判明しつつある。藩政期の大野地区は小城鍋島家(小城支藩)領の山内郷に属しており、江戸時代後期には山内支配のための代官所が大野地区にあった。大野代官所跡には支藩の代官所には似つかわしくない規模・構造の石垣が現存するが、代官所設置の経緯や時期などについては不明な点が多い。大野遺跡では、これまでに嘉瀬川ダム建設事業に伴い1~4区の発掘調査を実施し、縄文時代の集落跡、中世〜近世の集落跡・建物群などを確認している。これまでの調査所見によると、中世の集落は主として神水川に近い河岸段丘上に展開し、中世後期〜近世にかけて居住域の中心が山麓部に移行したもののようである。

大野遺跡 2・3 区は、2 区が大字大野、3 区が大字下無津呂の範囲にあり、遺跡の北端部にあたる。調査年度が違うため区分しているが、位置的にも遺跡の内容においても一連のまとまった調査区である。神水川に接する河岸段丘上の標高 $300 \sim 303 \text{ m}$ の区域で、背後には一段高い段丘面があるものの、山裾に張り付いた狭小な場所にある(図 4-2)。検出した遺構・遺物は、厚さ 50cm 前後の無遺物層を挟んで上層と下層に分けられる。

下層からは縄文時代後期の集落跡が見つかった。遺構は、竪穴住居 1 棟、地床炉の可能性がある焼土遺構 21 基、土坑 5 基、集石 1 基、炭化物集中 2 箇所があり、3 区を中心として 2 区北東端部までの狭い範囲に集中している(図 4 - 3)。遺物の出土状況(図 4 - 5 ・ 6)や周囲の地形を考慮すると、今回の調査により小規模な集落跡をほぼ全掘したものと考えられる。遺構と遺物包含層の層位関係は図 4 - 7 に示すように安定しており、後世の土地利用による影響はあまりない。5 層~ 10 層が縄文時代の遺物包含層にあたるが、その間に自然災害などの要因によりごく短期間に形成されたとみられる遺物を含まない花崗岩風化土(7 層)が部分的に堆積している。出土土器は、後期後葉の三万田式単純に近い様相を示しており、集落の存続期間は短かったと考えられる。石器は、削器などの刃器類を主体として石鏃や磨石・石皿などがあるが、器種はやや限られていて出土量も多くない。

上層の主体となるのは近世初期と考えられる企画的な建物群で、軸を揃えた大型の掘立柱建物 4 棟と柵列 2 条などからなり、遺構の分布は 2 区北半部から 3 区に集中している(図 $4-31\cdot32$)。少量ではあるが遺構内から出土した遺物は 16 世紀~ 17 世紀初頭のもので、建替えも認められないことから、ごく短期間に使用された建物群であることがうかがえるが、その規模や強い企画性を考えると通常の集落・民家とは考えられず、何らかの政治的意図によって設置された役所的な施設であろう。

上層では近世初期の建物群の他に古墳時代の土坑や中世前期の土坑などを検出し、水田の造成土や撹乱などから 弥生土器や高麗青磁、近世後期の土器・陶磁器も出土した。特に弥生時代~古墳時代の資料は、春振山間部におけ る当該期の様相を知る手がかりとして重要である。

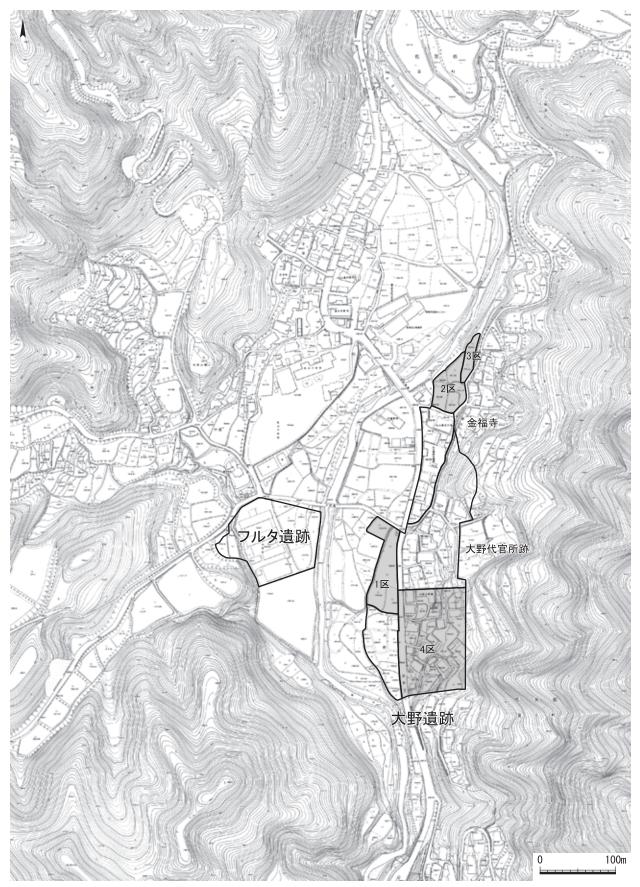


図4-1 大野遺跡周辺の地形 (1/5,000)

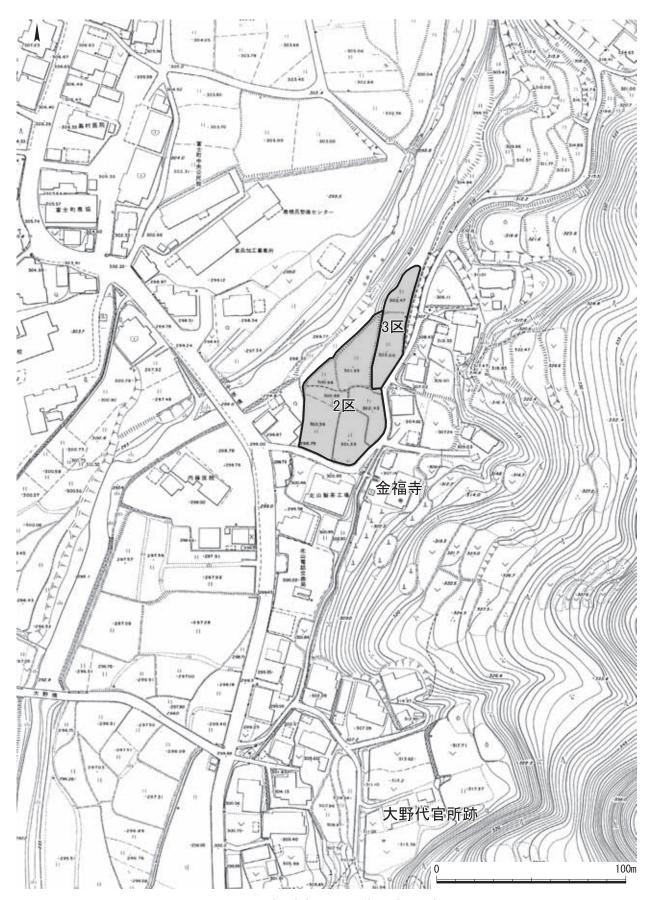


図4-2 大野遺跡2・3区の位置 (1/2,000)

2 縄文時代の遺構と遺物

1) 縄文時代の遺構と遺構出土遺物

大野遺跡 2・3 区で検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居 1 棟、土坑 5 基、地床炉かと思われる焼土遺構 21 基、集石 1 基、炭化物集中 2 箇所である。縄文時代後期後葉の三万田式期に営まれた集落跡の居住域をほぼ完掘したと考えられるが、石器には同時期としては明らかに欠落する器種があり、当該期における集落の一つのありかたを示すに過ぎない。

竪穴住居(図4-8)

竪穴住居としたのは SH3020 の 1 棟のみである。

SH3020 (図4-8)

3区のA2・A3・Z2・Z3区画に位置する。長軸 4.60 m、短軸 3.18 mで、平面はやや東西に長い楕円形である。深さは 0.08 m前後と浅く、壁面は緩やかに立ち上がる。明確な硬化面や主柱穴は検出できなかったが、中央には屋内炉と考えられる長軸 0.60 mの焼土を含む浅い掘りこみがあり、竪穴住居として報告する。埋土は炭化物を多く含むやや粘性の強い黒褐色砂質土である。埋土中から縄文時代後期後葉の土器が多数、削器・剥片少量、両端抉入石器 1 点が出土した。また、今回の報告には間に合わなかったが、埋土を洗浄して抽出した炭化物の中に種実の可能性があるものがあり、同定・分析を依頼中である。

SH3020 出土遺物 (図 4 - 13 ~ 15)

 $1 \sim 41$ は縄文土器である。 $1 \cdot 2$ は、外傾して大きく開きながら立ち上がる精製の浅鉢形土器(以下、○○形 土器は○○と略す)で、口縁部が内側に強く屈曲して逆く字形をなす。器面調整はヘラミガキで、口縁部外面に3 条の並行沈線文を巡らせる。 1 は並行沈線文に加えて縦長の凹点文を屈曲部に施す。 3 は、口縁部を緩く屈曲させ る無文の精製浅鉢である。器面調整は丁寧なナデで、口縁端部は面取りする。 4 は、胴部で屈曲した後、口縁部が 短く外反して開く精製浅鉢である。胴部の屈曲部上位に2条の並行沈線文を巡らせ、器面調整はヘラミガキである。 5・6は、底部から僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がる無文の精製浅鉢で、器面調整はヘラミガキであ る。7は胴部で屈曲し、頸部が外傾気味に上方に立ち上がり、口縁部で内折する精製の鉢である。器面調整はヘラ ミガキで、胴部屈曲部の上位に3条の並行沈線文を巡らせ、その間に羽状細沈線文を施す。口縁部外面の内折部に も2条の並行沈線文と羽状細線文を施し、円形の凹点文と細長い凹点文を縦列に配して、並行沈線文を区切ってい る。SX3019 出土の破片と接合した。8・9は、丸い胴部の上で強く括れ、頸部は開きながら立ち上がり、口縁部 が短く内折する精製の鉢である。器面調整はヘラミガキで、口縁は4単位と思われる山形口縁である。8は、口縁 部外面の内折部に横走沈線文を巡らせるが、胴部は無文である。9は、胴部上位に Χ 字状文で区画される横走沈 線文を巡らせ、更に左下がりの羽状細沈線文を無文部と交互に加える。口縁部外面の内折部にも3条の並行沈線を 施し、山形口縁の頂部には並行沈線文を区切る縦方向の短い沈線文を配す。また、口縁部内面にも1条の並行沈線 文を施している。 $10\sim29$ は粗製深鉢で、器面調整は条痕ないし粗いナデ調整である。 $30\sim41$ は底部で、 $30\sim20$ 32 は器面調整がナデで精製浅鉢か鉢の底部、33 ~ 41 は器面調整が条痕か粗いナデで粗製深鉢の底部と思われる ものである。

 $42 \sim 48$ は石器である。 $42 \sim 44$ は黒曜岩製の微細剥離痕ある剥片、 $45 \sim 47$ は無斑晶質安山岩製の削器である。 48 は両端抉入石器で、一方の端部を欠失する。両側縁がほぼ並行し、抉りを入れた端部から括れずに続く。横断面は半レンズ状で、図示した左側の面は曲面であるが、その裏面は平坦に作る。曲面をなす側の面には両方の側縁に並行する段があり、研磨による仕上げの途上で折損した未製品である可能性を示している。

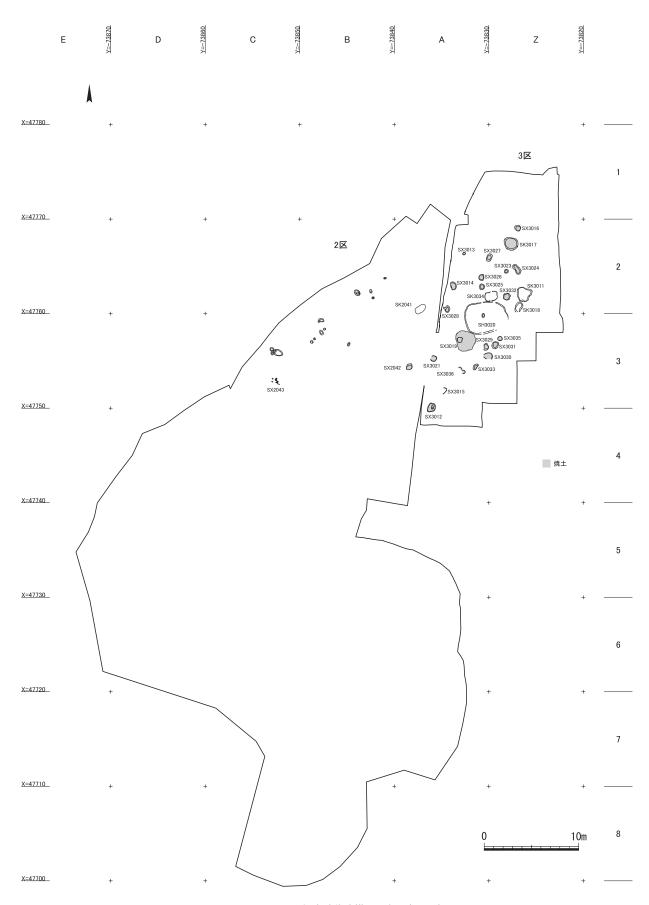
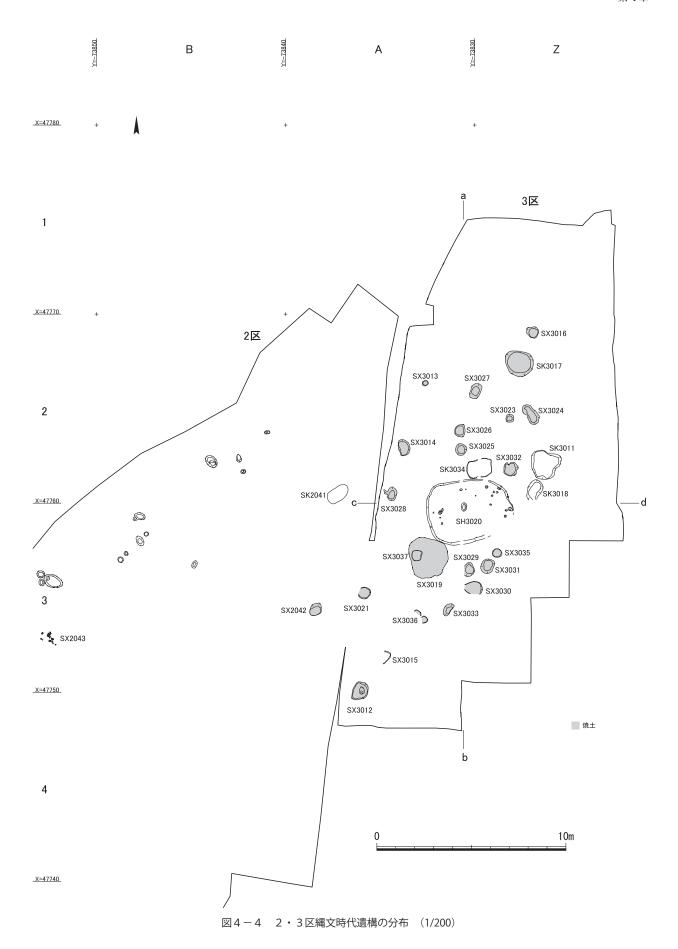
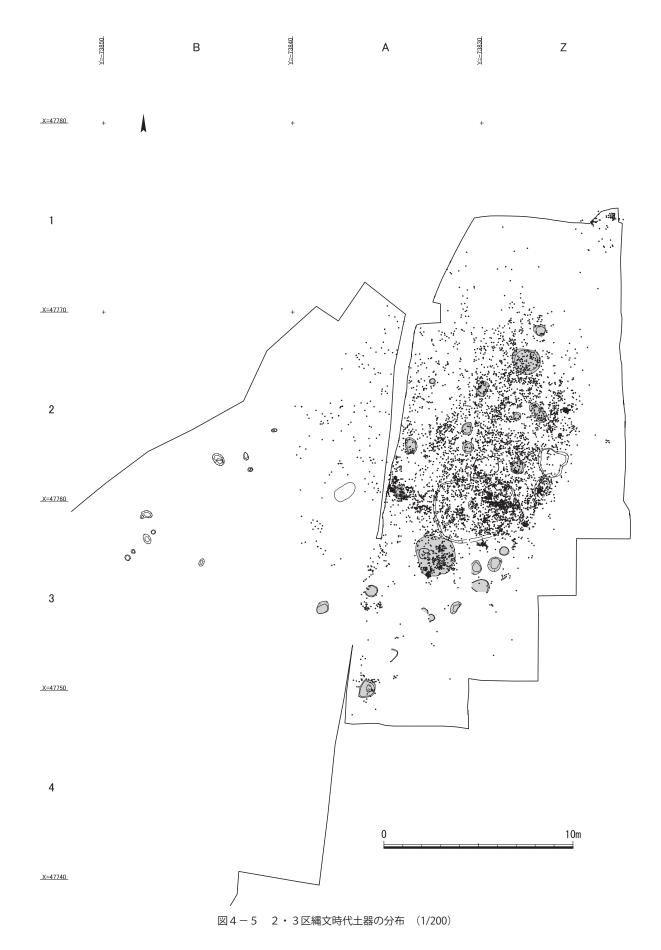
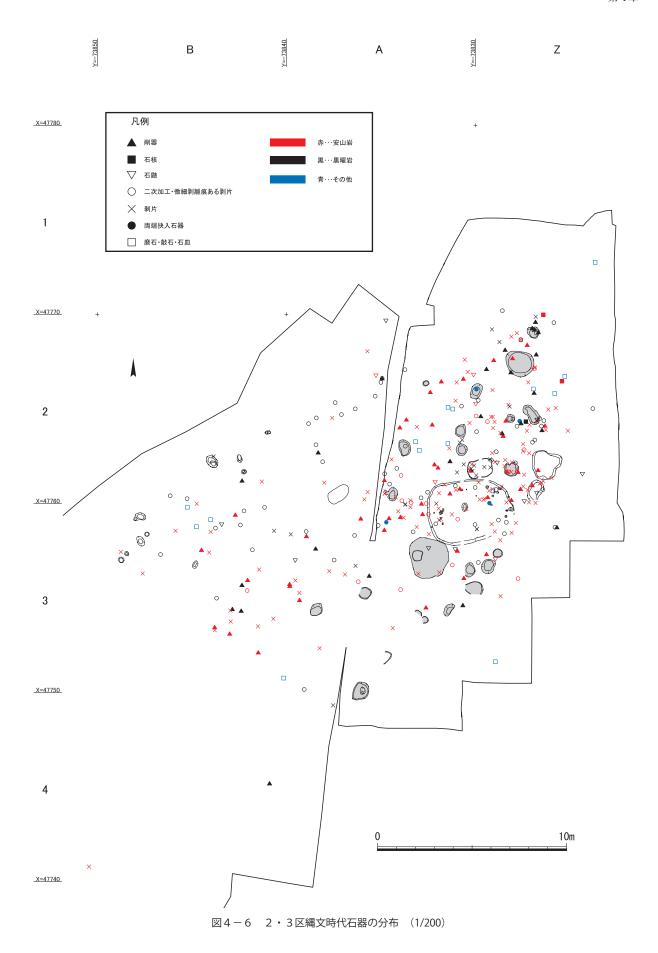
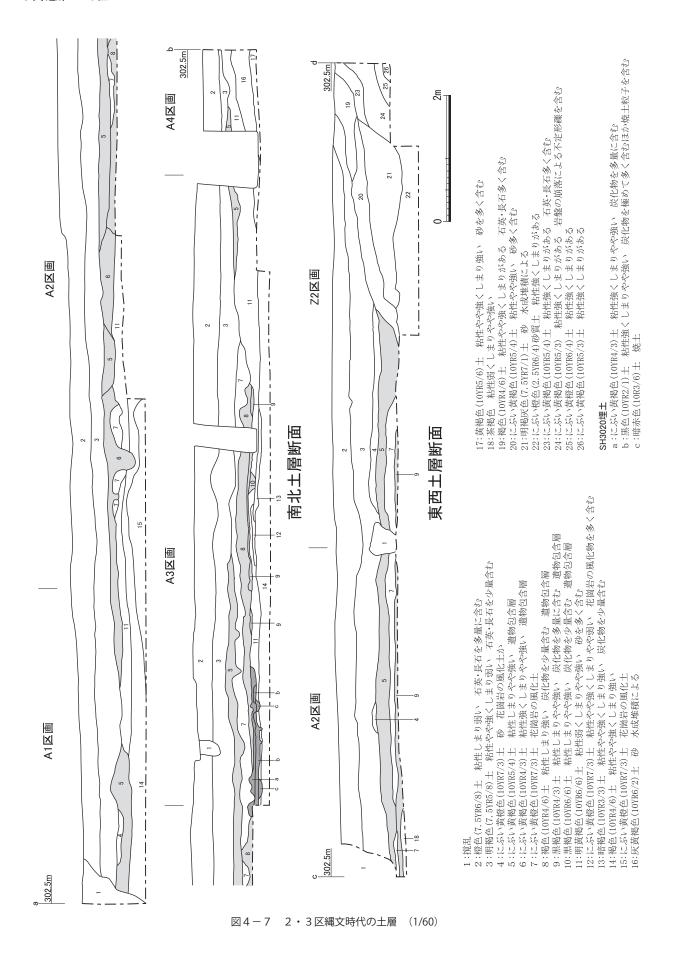


図4-3 2・3区縄文時代遺構の分布 (1/400)









162

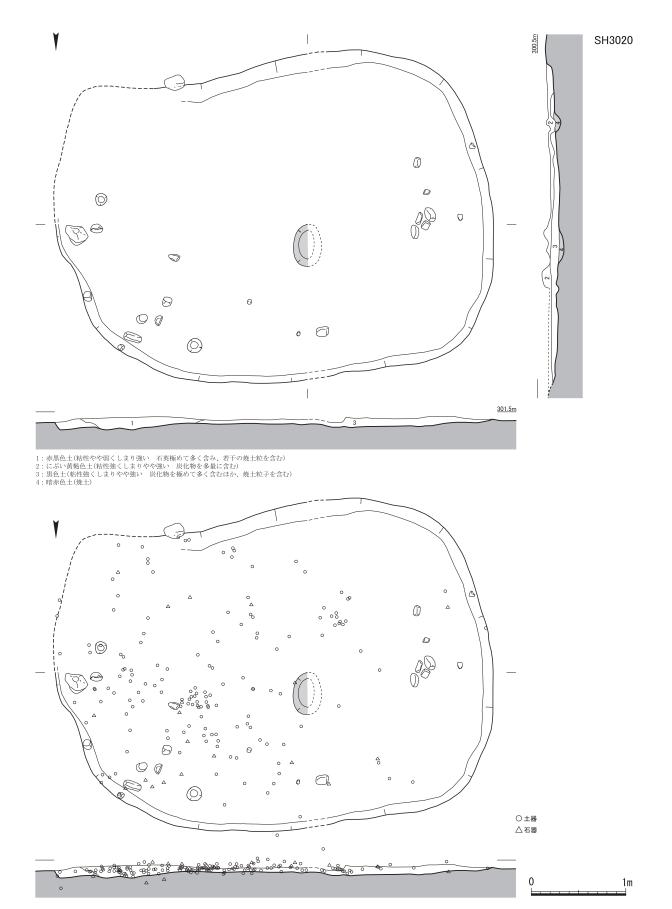


図4-8 2・3区縄文時代の竪穴住居 (1/40)

土坑 (図4-9)

土坑としたのは5基である。掘り込みのしっかりしたものと浅いものがある。埋土中には量の多寡はあれ炭化物を含むが、まとまった焼土がみられないことで焼土遺構としたものと区別している。

SK2041 (図4-9)

2 区北東端部の $A2 \cdot A3$ 区画に位置する。長軸 1.24 m、短軸 0.72 m、深さ 0.18 mで、平面は長楕円形である。下部は明瞭な面をなさず緩やかに立ち上がる。埋土中にやや浮いた状態で礫があり、更に上部で縄文土器片が散らばっていたが、この遺構に明確に伴う遺物はなかった。

SK3011 (図4-9)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 1.54 m、短軸 1.51m、深さ 0.13 m前後で、平面は不整円形である。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は炭化物を多量に含む粘性の強い灰黄褐色の砂質土である。縄文土器の小破片少量と剥片が出土したが、小片であり図示していない。

SK3017 (図4-9)

3区のZ2区画に位置する。長軸 1.46 m、短軸 1.35 m、深さ 0.07 m前後で、平面は不整楕円形である。壁面は緩やかに立ち上がり、埋土は灰黄褐色砂質土で炭化物を少量含む。遺物は出土しなかった。

SK3018 (図4-9)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 1.14 m、短軸 0.73 m、深さ 0.12 mで、平面は不整長楕円形である。埋土は 2 層に分けられ、上層の灰黄褐色砂質土は粘性が強く炭化物を多量に含む。遺物は、上層から縄文土器片・剥片が 少量出土したのみである。

SK3018 出土遺物 (図4-15)

49 は無文の精製浅鉢で、器面調整はヘラミガキである。底部から僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がるボウル形である。50・51 は粗製深鉢の口縁部である。52 は黒曜岩製の微細剥離痕ある剥片である。

SK3034 (図4-9)

3区のA2・Z2区画に位置する。長軸 1.32 m、短軸 0.92 m、深さ 0.07 mで、平面は不整隅丸方形である。壁面は東側と西側で明確に立ち上がるが、北側と南側では不明瞭である。埋土は灰黄褐色砂質土で炭化物を多量に含む。縄文土器が少量出土した。

SK3034 出土遺物 (図4-15)

53 は粗製深鉢の口縁部である。

焼土遺構 (図4-10~12)

焼土遺構としたのは浅い掘り込みに焼土が堆積した 21 基であり、熱による硬化のみられるものもあった。焼土の状況は個々の遺構により異なり、個別遺構図中に埋土の所見として記載している。地床炉の可能性が高いと考えられ、今回の調査で検出した縄文時代遺構の大部分を占める。竪穴住居の残骸でもないようで、大野遺跡 2・3 区において頻繁に設営された屋外炉とみなされる。

SX2042 (図4-10)

2区北東端部のA3区画に位置する。長軸0.62 m、短軸0.60 m、深さ0.08 mで、平面は不整楕円形である。

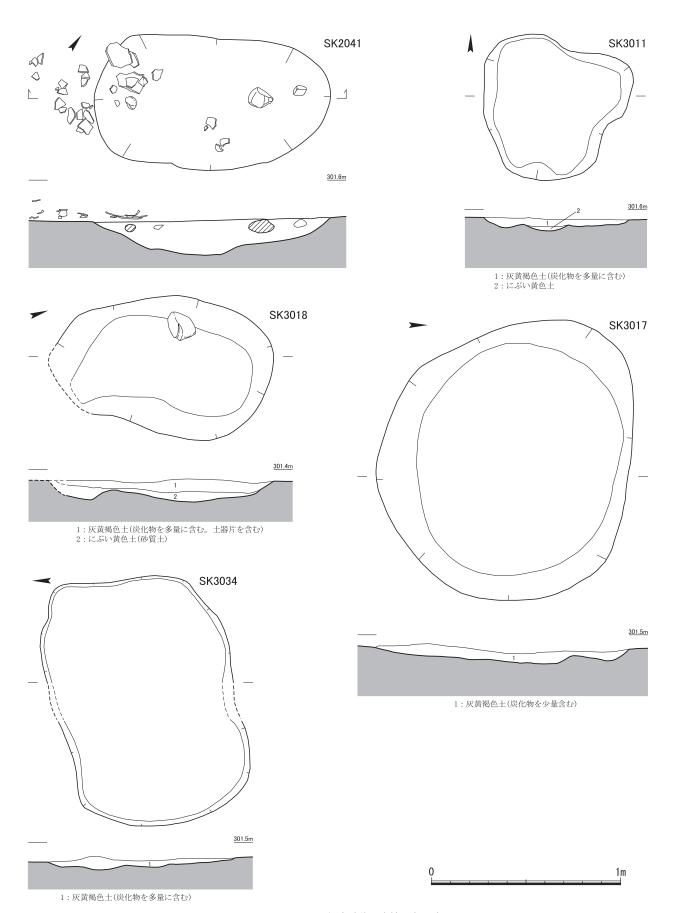


図4-9 2・3区縄文時代の土坑 (1/20)

大野遺跡 2 · 3区

浅い皿状の掘り込みに焼土を含む層があり、掘り込みを覆うように礫がまとまっていた。また、縄文土器や石器類の破片が礫とともに少量散在していたが、この遺構に伴うものかどうか判らない。

SX3012 (図4 − 10)

3区のA2・A3区画に位置し、縄文時代遺構分布の南端にあたる。長軸 0.90 m、短軸 0.80 m、深さ 0.25 mで、平面は不整な卵形である。埋土の第2層が被熱により硬化した状態であった。遺物は縄文土器小破片が1層から出土したのみで、小片であり図示していない。

SX3013 (図4 − 10)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 0.33 m、短軸 0.29 m、深さ 0.02 mで、平面は楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3014 (図4 − 10)

3区のA2区画に位置する。長軸 $0.85\,\mathrm{m}$ 、短軸 $0.63\,\mathrm{m}$ 、深さ $0.20\,\mathrm{m}$ で、平面は不整な長楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3016 (図4 − 10)

3区の Z2 区画に位置し、縄文時代遺構分布の北端にあたる。長軸 0.65 m、短軸 0.60 m、深さ 0.10 mで、平面は不整楕円形である。内部には焼土が厚く堆積していた。遺物は出土しなかった。

SX3021 (図4-10)

3区のA3区画に位置する。長軸 $0.64~\mathrm{m}$ 、短軸 $0.64~\mathrm{m}$ 、深さ $0.06~\mathrm{m}$ で、平面は不整円形である。内部には強く焼けた焼土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

SX3023 (図4 − 10)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 0.42 m、短軸 0.40 m、深さ 0.09 mで、平面は不整隅丸方形である。遺物は 出土しなかった。

SX3024 (図4 − 10)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 1.16 m、短軸 0.46 mで、平面は不整長楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3025 (図4-11)

3区の A2 区画に位置する。長軸 0.62m、短軸 0.56m、深さ 0.13m で、平面は円形である。 遺物は出土しなかった。

SX3026 (図4-11)

3区のA2区画に位置する。長軸 0.68m、短軸 0.56m、深さ 0.20m で、平面は不整円形である。検出面にある 礫には赤化など被熱の痕跡は認められなかった。遺物は出土しなかった。

SX3027 (図4 − 11)

3 区の A2・Z2 区画に位置する。長軸 0.83m、短軸 0.53m、深さ 0.05m で、平面は不整楕円形である。検出面

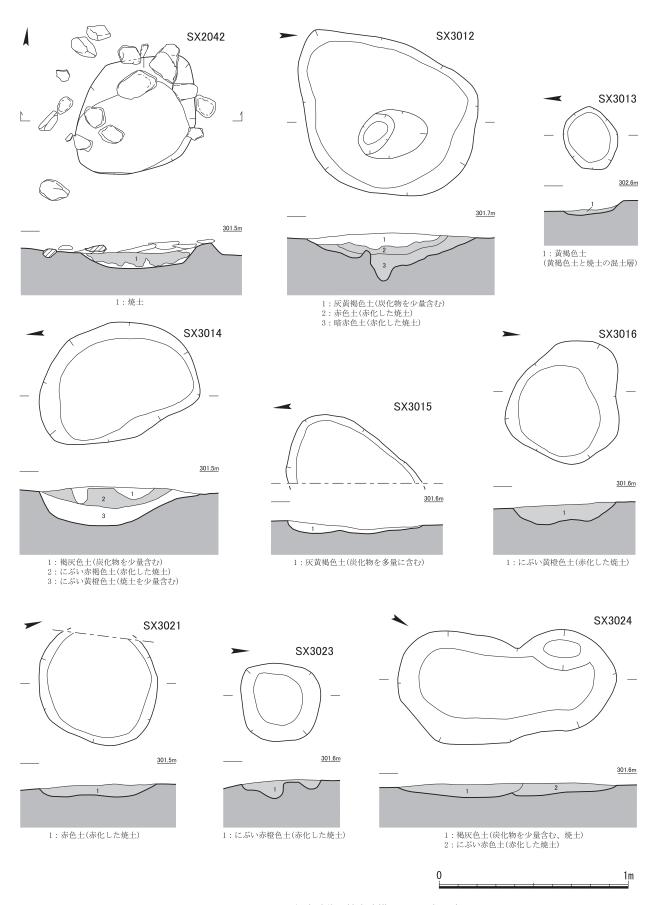


図4-10 2・3区縄文時代の焼土遺構ほか1 (1/20)

にある礫には赤化など被熱の痕跡は認められなかった。遺物は完形の両端抉入石器が出土した。

SX3027 出土遺物 (図4-15)

57 は両端抉入石器である。全体に丁寧な研磨により仕上げられているが、両面とも真っ平らではなく、やや起伏のある面となっている。両端の抉りはやや浅く、端部の角もあまり強調されていないが、両端から中央に向かって両側縁が膨らみ中央部付近で幅が最大となる。片側の端部近くに主軸に直行する帯状の異色部が2条ほど観察され、使用時の緊縛痕が被熱などの要因で残されたものの可能性がある。

SX3028 (図4-11)

3区のA2区画に位置する。長軸 0.73m、短軸 0.70m、深さ 0.10 mほどで、平面は不整な楕円形である。強く焼けた焼土が堆積していた。遺物は縄文土器片少量と剥片が出土した。

SX3028 出土遺物 (図4-15)

54 は精製鉢の口縁部で、山形口縁の外面端部近くに2条の並行沈線文を巡らせる。器面調整はヘラミガキである。 55・56 は粗製深鉢の口縁部である。

SX3029 (図4 − 11)

3区の A3 区画に位置する。長軸 0.75m、短軸 0.52m 以上、深さ 0.07m で、平面は不整楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3030 (図4-11)

3区のA3・Z3区画に位置する。長軸 0.97m 以上、短軸 0.67m 以上、深さ 0.05m で、平面は卵形である。遺物は出土しなかった。

SX3031 (図4 − 11)

3区の Z3 区画に位置する。長軸 0.78m、短軸 0.65m、深さ 0.06m で、平面は不整な卵形である。遺物は出土しなかった。

SX3032 (図4 − 11)

3区の Z2 区画に位置する。長軸 0.75m、短軸 0.70m、深さ 0.12m で、平面は不整な円形である。埋土下層は強く焼けた焼土で、上層は炭化物を多量に含む暗赤灰色土であった。遺物は出土しなかった。

SX3033 (図4-11)

3区の A3 区画に位置する。長軸 0.72m、短軸 0.37、深さ 0.04m で、平面は不整な長楕円形である。遺物は出土しなかった。

SX3035 (図4 − 12)

3区の Z3 区画に位置する。長軸 0.52m、短軸 0.40m、深さ 0.07m で、平面は円形である。 遺物は出土しなかった。

SX3036 A • SX3036B (図4 − 12)

3区のA2区画に位置し、中世の柱穴で壊されている。埋土は炭化物を多量に含み1cm程の焼土塊を含むなどほぼ同様であるが、隣接する別々の遺構である可能性があるためSX3036A・SX3036Bとして報告する。SX3036

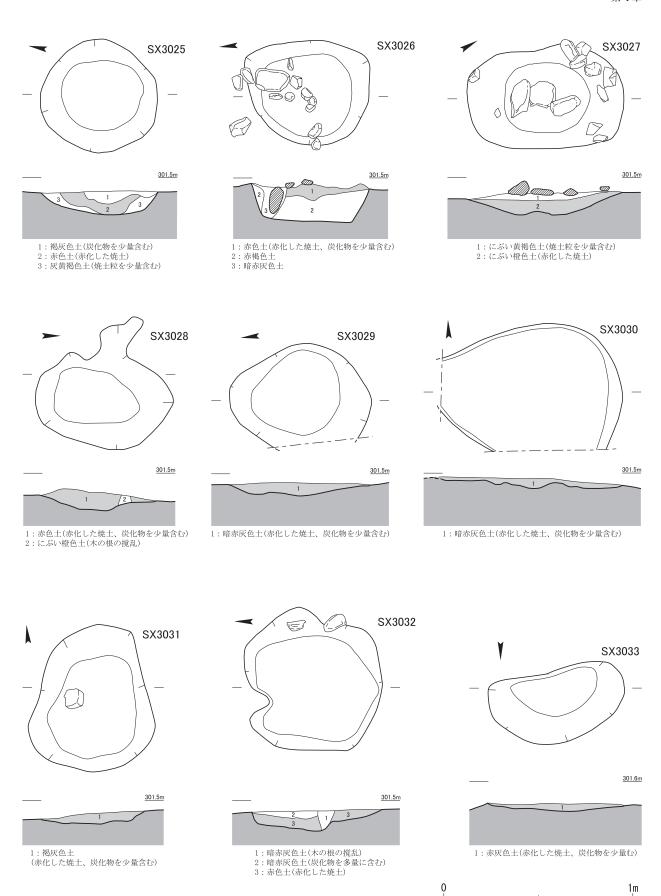


図4-11 2・3区縄文時代の焼土遺構ほか2 (1/20)

A は長軸 0.44 m、短軸 0.17 m以上、深さ 0.04 m、SX3036B は長軸 0.31 m以上、短軸 0.37 m、深さ 0.05 mで、 平面は円形ないし楕円形と思われる。遺物は出土しなかった。

SX3037 (図4 − 12)

3 区 A3 区画に位置する。炭化物集中 SX3019 の下部で検出した。長軸 5.40 m、短軸 5.15 m、深さ 0.05 mで、平面は不整な隅丸方形である。遺物は出土しなかった。

集石 (図4-12)

1基のみ検出した。調査時の記録に礫の状態に関する記載がないため、焼礫集積遺構の類であるかどうかは判断できない。

SX2043 (図4 − 12)

C3 区画に位置する。東西 0.85 m、南北 0.69 mの範囲に拳大ほどの礫が 20 数個まとまるもので、掘り込みなどは確認されなかった。遺物は出土しなかった。

炭化物集中(図4-10・12)

焼土は含まないが多量の炭化物を含む層が広がる2箇所を炭化物集中として報告する。

SX3015 (図4-10)

3区のA3区画に位置する。長軸0.70 m以上、短軸0.35 m以上、深さ0.03 mで、掘り込みが浅いため調査時に遺構の西側を検出できなかった。炭化物を多量に含むが、焼土は確認していない。遺物は出土しなかった。

SX3019 (図4 − 12)

3区のA2区画に位置し、SH3020の南西に接する。長軸 2.19m、短軸 2.05m の不整円形の範囲に炭化物を多量に含んだ赤灰色土が土器を伴い薄く堆積するもので、明確な掘り込みは認められなかった。縄文土器片と剥片が出土し、SH3020 出土土器と接合するもの(図 4-13-7)もあった。

SX3019 出土遺物 (図4-16)

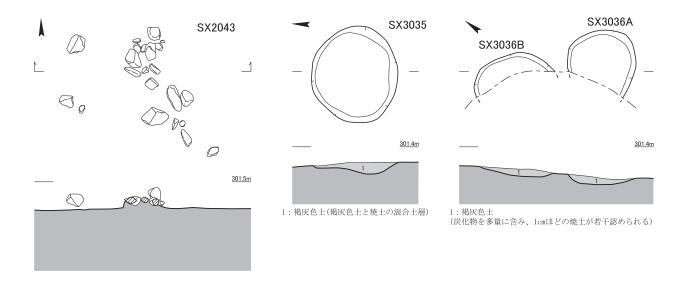
58・59 は精製鉢の口縁部である。頸部から外傾して立ち上がった後、口縁部で短く内折する。器面調整はヘラミガキで、口縁部外面に2条の並行沈線文を巡らせる。59 は文様帯下端の屈折部に縦長の凹点文を加えている。60~64 は粗製深鉢である。65 は黒曜岩の石鏃で、凹基である。

2) 縄文時代の遺構外出土遺物

縄文土器 (図4-16~25)

66~77 は、底部から大きく外傾して開き、口縁部が逆く字形に屈曲する精製浅鉢で、器面調整は丁寧なヘラミガキである。口縁部外面に3条の並行沈線文を巡らせる。並行沈線文の間に羽状細沈線文を施すものや、縦方向の短沈線文や縦列の円形凹点文で並行沈線文を区切るものがある。69・71~73・75 には赤色顔料の痕跡が観察される。

78~89 は、屈曲する胴部で屈曲して文様帯を巡らせた後、再び屈曲して頸部から口縁部へと外傾ないし外反 しながら立ち上がる精製浅鉢である。大きさや器形はさまざまでおそらく数種に分けられるが、一括して説明する。 器面調整は丁寧なヘラミガキである。胴部の屈曲部上位に3条程度の並行沈線文を巡らせた文様帯があり、並行沈



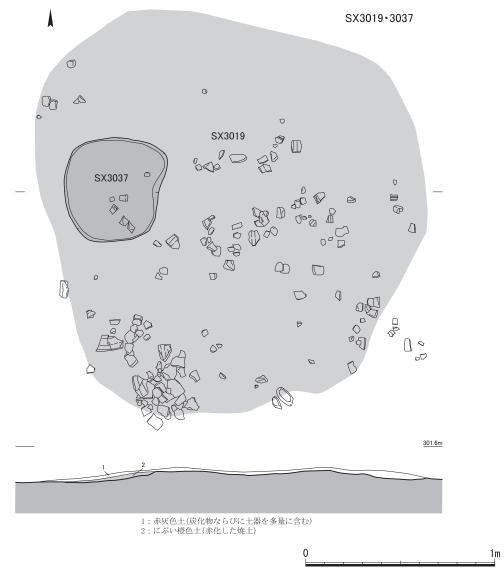


図4-12 2・3区縄文時代の焼土遺構ほか3 (1/20)

線文の間に羽状細沈線文を加えるものや貝圧文で区切るものがある。口縁部外面は無文であるが、口縁部内面に $1\sim2$ 条の並行沈線文を巡らせるものがある。79 と 89、81 と 86、84 と 85 はそれぞれ同一個体である。78・83・84・86 には赤色顔料の痕跡が観察される。

90~102は、やや内湾気味に大きく開きながら立ち上がり、口縁部が短く内湾ないし内折する無文の精製土器で、数は少ないが山形口縁のものもある。浅鉢として図示したが、鉢を含む可能性がある。器面調整はヘラミガキによるものとナデによるものとがある。

 $103 \sim 107$ は、底部から直線的ないし僅かに内湾気味に大きく開きながら立ち上がるボウル形の無文浅鉢である。器面調整はヘラミガキによるものとナデによるものとがある。

108 は、ボウル形に近い器形であるが、胴部がやや膨らみ口縁部が僅かに外反する無文浅鉢である。器面調整はヘラミガキである。

109 は、胴部で屈曲して口縁部が短く外反する小型の精製浅鉢で、78~89 に比べて頸部が短く、屈曲部上位の文様帯は横走沈線文1条のみである。器面調整はヘラミガキである。

110~112 は、丸みを帯びる胴部から強く屈曲して口縁部が外方に立ち上がる精製の鉢である。胴部最大径より上位に文様帯があり、並行沈線文とその間を埋める羽状細沈線文が施される。口縁部が遺存する112 は短く内折する口縁部外面に1条の横走沈線文を巡らせる。110と112は同一個体である。

113~117 は、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる精製浅鉢として図示したものであるが、いずれも破片資料であるため、底部が単純にすぼまるもの以外に胴部が膨らむ浅鉢ないし鉢を含んでいる可能性がある。器面調整は丁寧なヘラミガキであるが、文様は少なく、口縁部内面に横走沈線文を1条巡らせるものがある程度である。

118~125 は、丸みを帯びる胴部の上位で緩く括れた後、頸部が僅かに内湾しながら外傾して立ち上がり、口縁部で短く内湾ないし内折する無文の精製鉢である。山形口縁のものが多く、平口縁と見られるものは少ない。器面調整はヘラミガキないしナデである。

 $126 \sim 223$ は粗製の深鉢である。器面調整は貝殻条痕によるものや板ないし箆状工具の擦過痕を留めるもの、粗いナデを加えるものなどがある。口縁部が外反し、口縁下で緩く括れて胴部がやや張るものと、胴部から口縁部にかけて直線的ないし僅かに内湾気味に立ち上がる砲弾形のものの2種がある。これらの粗製深鉢には基本的に文様は施されず、器形も単純なものであるが、なかには山形口縁に作るもの(126)や口縁端部上面に刻みを施すもの(219 \sim 223)もある。129 と 133、142 と 222、145 と 146、166 と 168、195 と 199、173 と 201、206・207・210・217、224 \sim 226 はそれぞれ同一個体である。

224~226は同一個体と思われる粗製深鉢で、緩く括れた頸部に横長の突起を貼り付けるものである。

227・228 は、破片のため不明瞭だが、時期の降る可能性のある資料である。227 は狭い口縁部文様帯がほぼ直立し、やや太い沈線文を施す精製土器で、口縁部下で括れる頸部をもつ。山形突起ないし山形口縁の頂部にあたり狭い文様帯に沈線文が巡るが、凹点文や頂部の切り込みは見られない。228 は狭い口縁部文様帯が外反しながら立ち上がり、口縁部下で屈折する精製土器で、幅広で稜線を接する浅い平行凹線文と横長の楕円形凹点文を施す。

 $229 \sim 280$ は底部破片である。229 は、器面調整がヘラミガキの丸平底であり、精製浅鉢の底部と思われる。 $230 \sim 237$ は、器面調整がヘラミガキないしナデの平底であり、精製浅鉢ないし鉢の底部と思われる。 $238 \sim 280$ は、平底で器面調整が条痕ないし粗いナデの平底であり、粗製深鉢の底部と思われる。

石器 (図4-25~30)

大野遺跡 2・3 区で出土した石器類は、既述した遺構出土分も合わせて、総数で 322 点である。このうち剥片石器とその石核・剥片が 303 点とほとんどを占め、磨製石器・礫石器は 19 点と少ない。当該期の遺跡に多い扁

平打製石斧は出土しておらず、嘉瀬川に面していながら石錘もない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 17点(うち黒曜岩 11点、無斑晶質安山岩 6点)、削器・掻器が 71点(うち黒曜岩 25点、無斑晶質安山岩 46点)、微細剥離痕ある剥片・二次加工剥片が 77点(うち黒曜岩 61点、無斑晶質安山岩 16点)、剥片が 135点(うち黒曜岩 29点、無斑晶質安山岩 106点)、石核が 3点(うち黒曜岩 1点、無斑晶質安山岩 2点)であり、剥片石器類に占める剥片の割合が 4割強とやや低く、削器や加工度の弱い刃器の類が 5割近くにのぼる。剥片石器に用いられた石材は腰岳産の黒曜岩が 4割、多久・小城産の無斑晶質安山岩が 6割とほぼ拮抗する。鈴桶型石刃技法(小畑 2002)による石刃とこれを素材にした石器が定量存在し、可能性に留まる無斑晶質安山岩 1 例を除き黒曜岩が選択されている。

磨製石器・礫石器は、両端抉入石器と呼ばれる磨製石器が4点、磨石が12点、石皿が3点ある。

打製石器 (図4-25~30)

 $281 \sim 293$ は石鏃である。平面形も大きさもまちまちだが、凹基のものがほとんどである。 $285 \cdot 288$ は石刃素材のいわゆる剥片鏃である。290 は表裏両面の中央に摩滅痕があり、部分的に研磨された可能性がある。293 は製作途中に放棄された未製品であろう。294 は両面調整の尖頭部をもつ破片で、削器の可能性もある。

 $295 \sim 329$ は削器・掻器・二次加工ある剥片の類である。 $296 \sim 310 \cdot 312 \sim 314$ は黒曜岩の石刃ないしそれに類する縦長剥片を素材とするものである。311 は黒曜岩の残核を利用した掻器である。 $315 \sim 316 \cdot 318 \sim 319$ は無斑晶質安山岩の縦長剥片を素材としたもの、 $317 \cdot 320 \sim 329$ は無斑晶質安山岩の幅広・横長剥片などを素材としたものである。刃部の加工の程度はさまざまで、連続する調整剥離による丁寧な作出がなされたものから製品かどうか疑わしいものまである。

 $330 \sim 360$ は黒曜岩の石刃ないしそれに類する縦長剥片に微細剥離痕の見られるものである。 $361 \sim 363$ は無斑晶質安山岩の微細剥離痕ある剥片。364 は黒曜岩の石刃。 $365 \cdot 366$ は黒曜岩と無斑晶質安山岩の石核である。

磨製石器・礫石器(図4-30)

367・368 は両端抉入石器で、367 は中ほどで折れたものが接合している。368 は折損品である。いずれも全面研磨で仕上げられ作りは丁寧である。石材は鑑定を経ていないが、礫石器に用いられる花崗岩とは全く異なり、目の細かい堆積岩かと思われる。367 は図では判りにくいが両端とも抉りの中央部が僅かに盛り上がって稜をなし、2つの弧が連続するような細部形状である。368 は片方の端部が折れた欠損品で、端部の両角が張り出すように広がり、抉りもやや深い。

369~371 は磨石、372 は石皿で、いずれも花崗岩と思われる。

SH3020

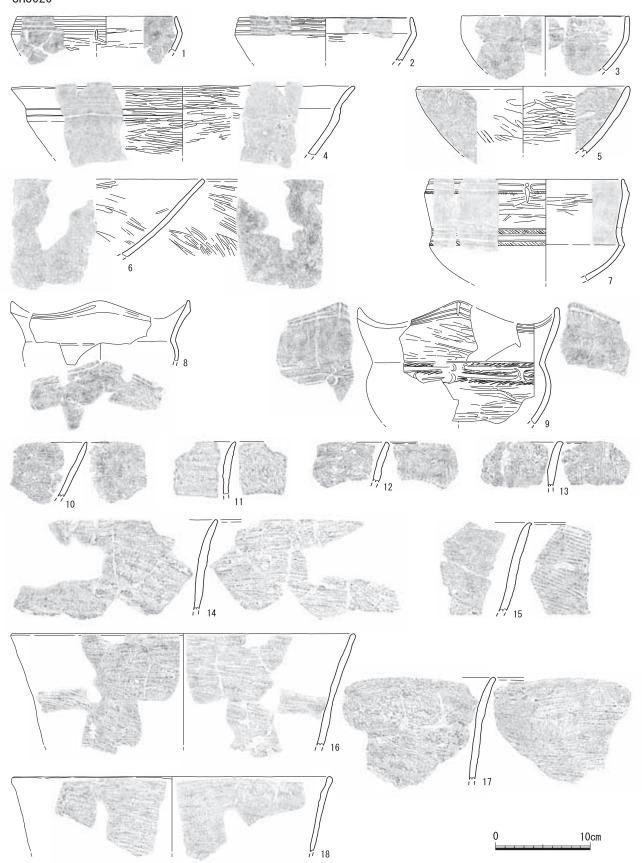


図4-13 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土1 (1/4)

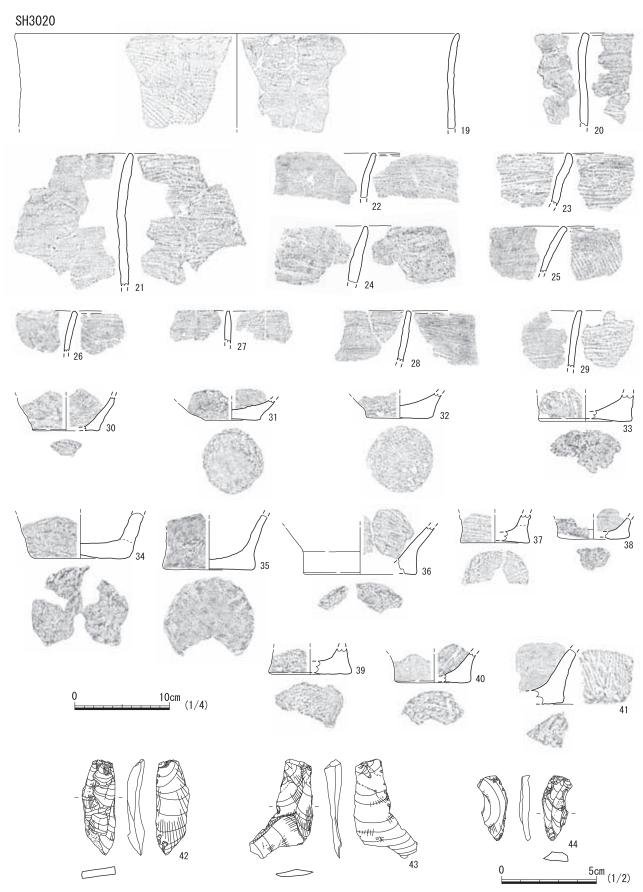


図4-14 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土2 (1/4、1/2)

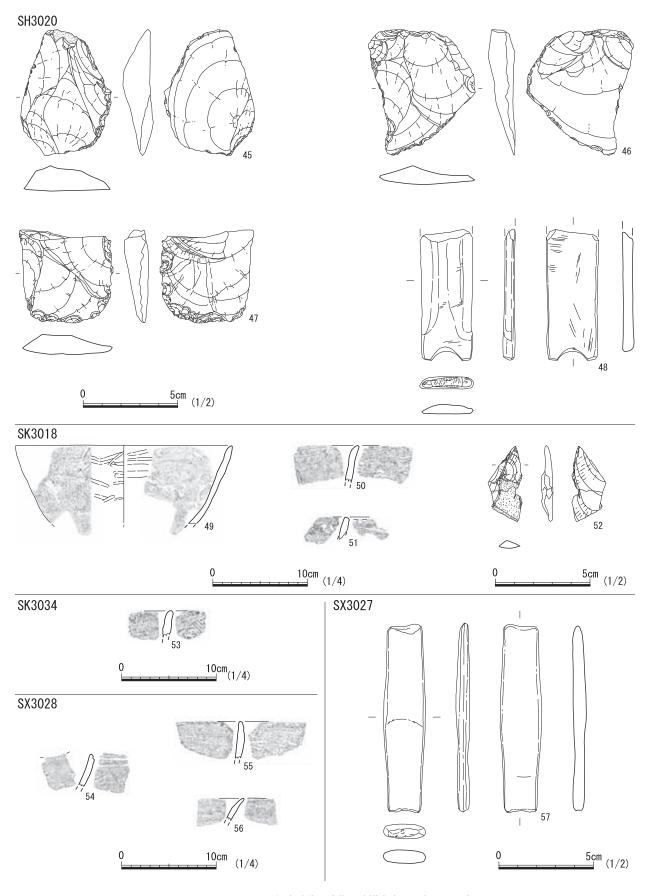


図4-15 2・3区縄文時代の遺物 遺構出土3 (1/2、1/4)

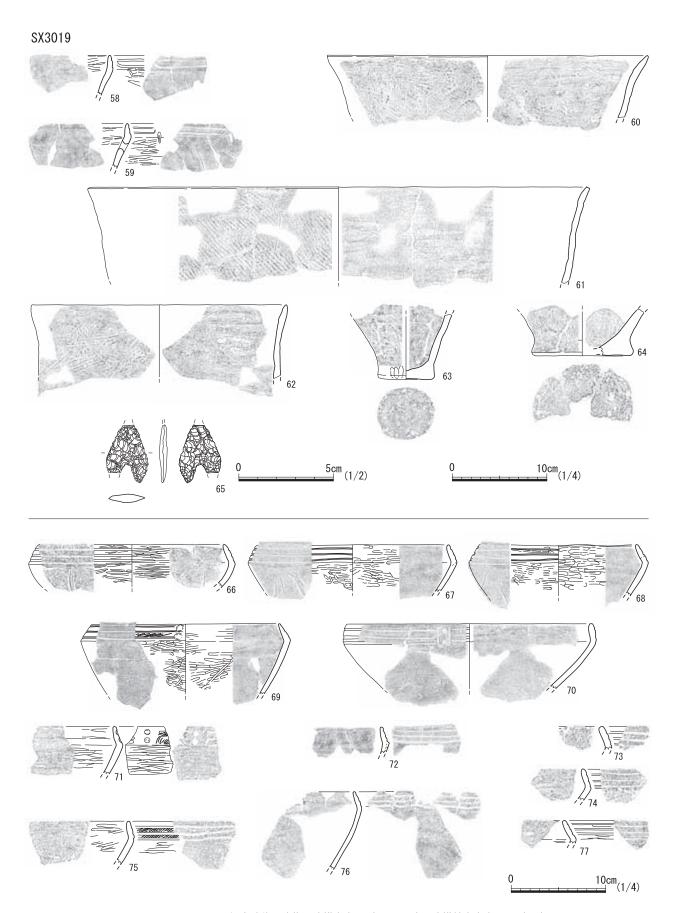


図 4 - 16 2・3 区縄文時代の遺物 遺構出土 4 (1/4、1/2)・遺構外出土土器 1 (1/4)

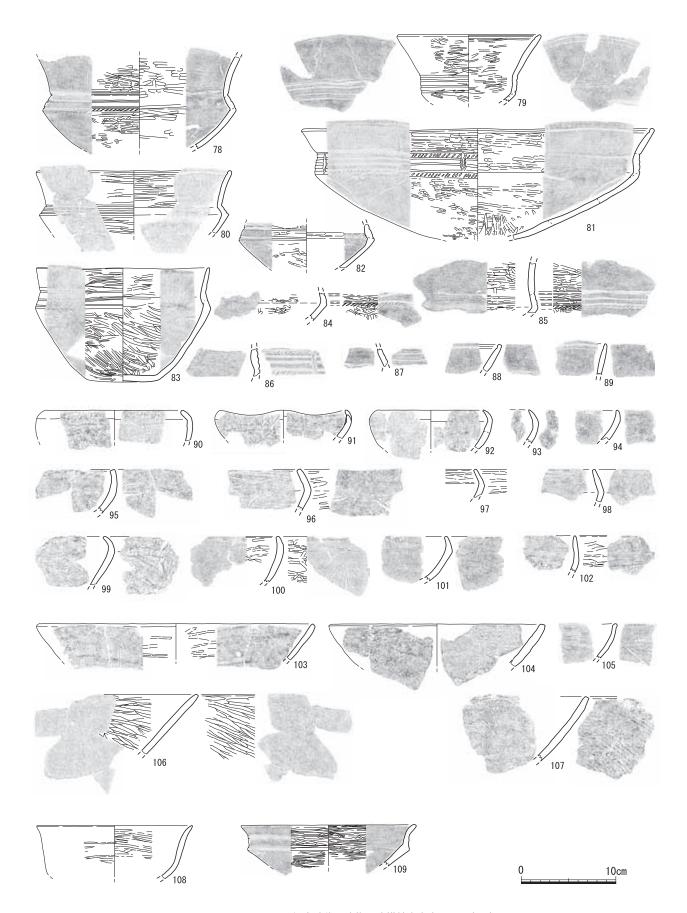


図4-17 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器2 (1/4)

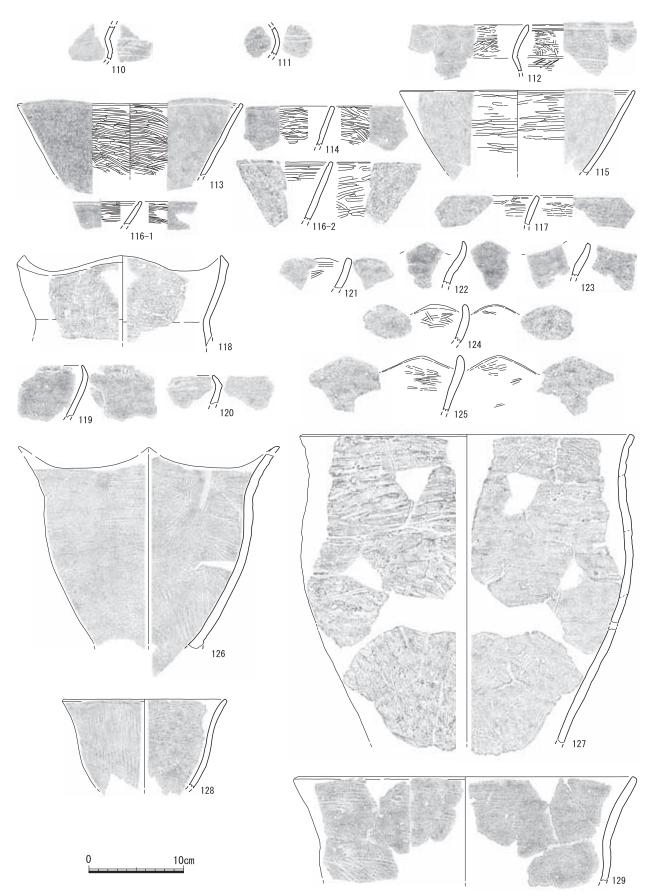


図4-18 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器3 (1/4)



図4-19 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器4 (1/4)

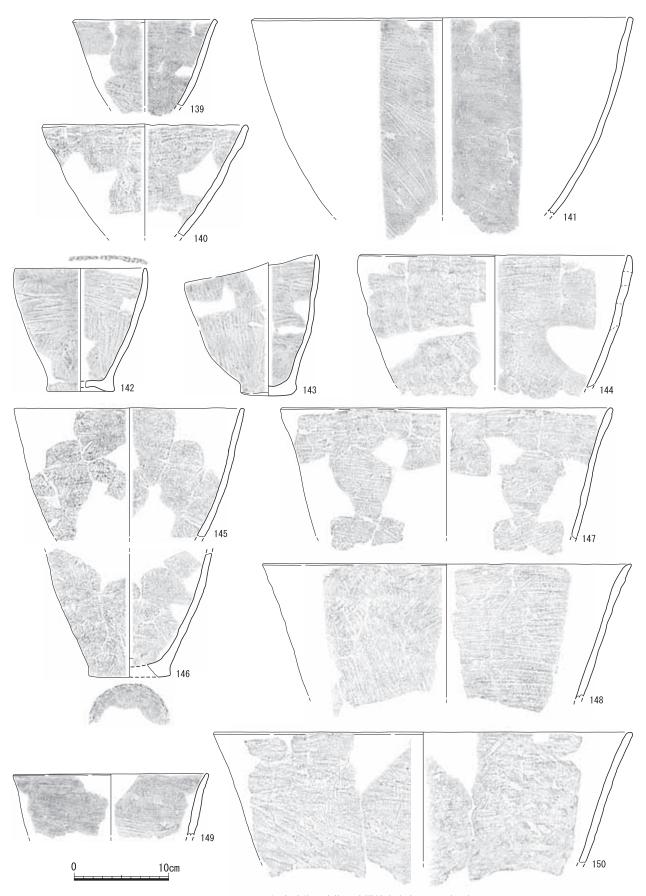
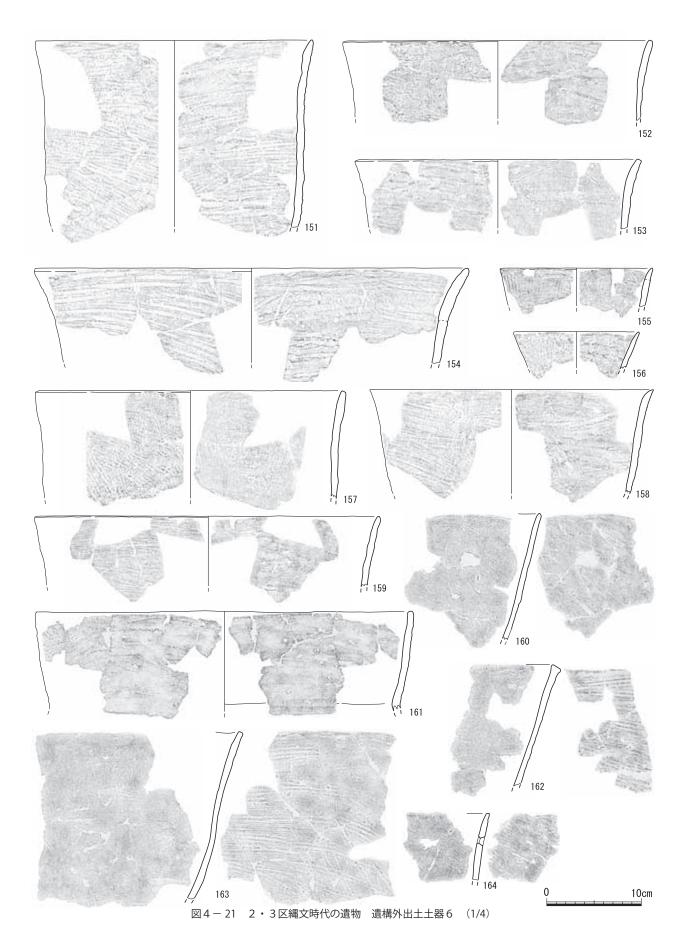
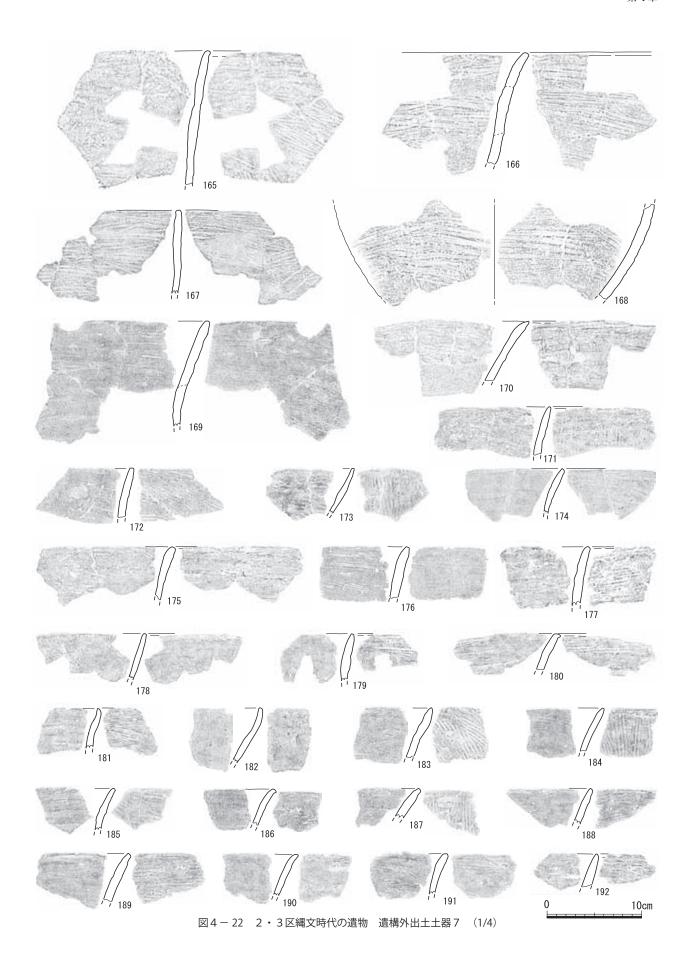


図 4 - 20 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 5 (1/4)





183

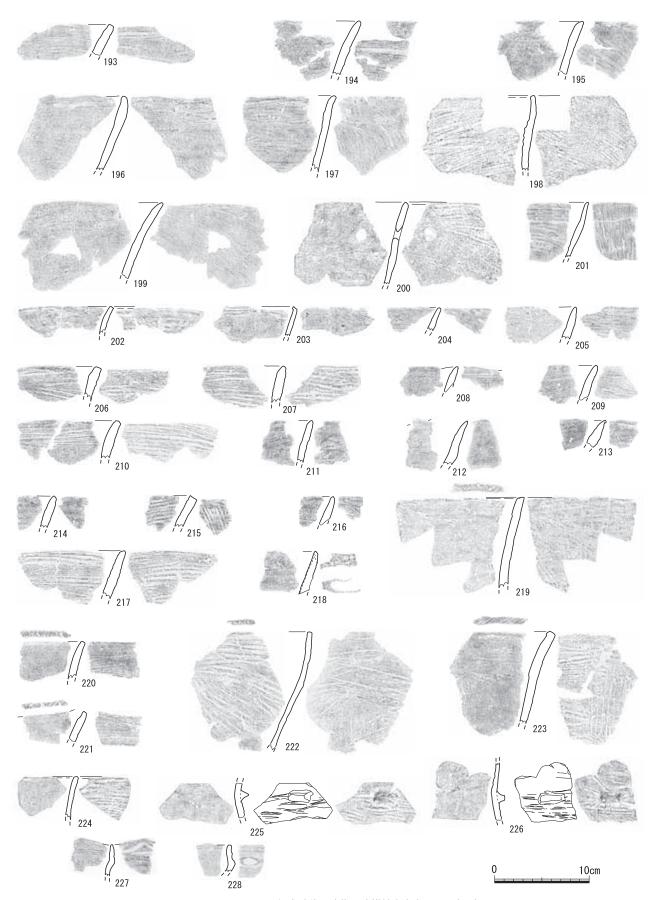


図4-23 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器8 (1/4)

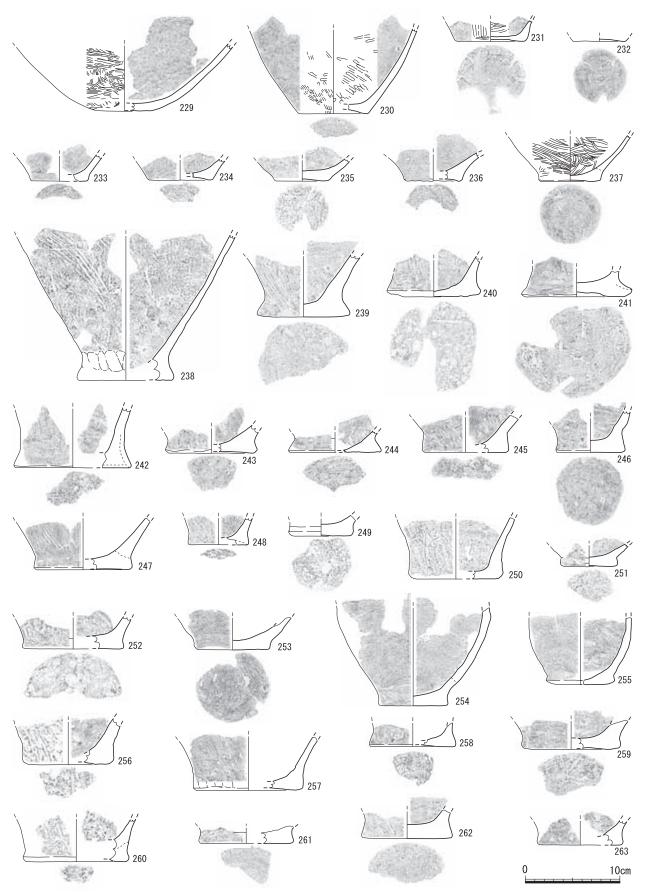


図4-24 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土土器9 (1/4)

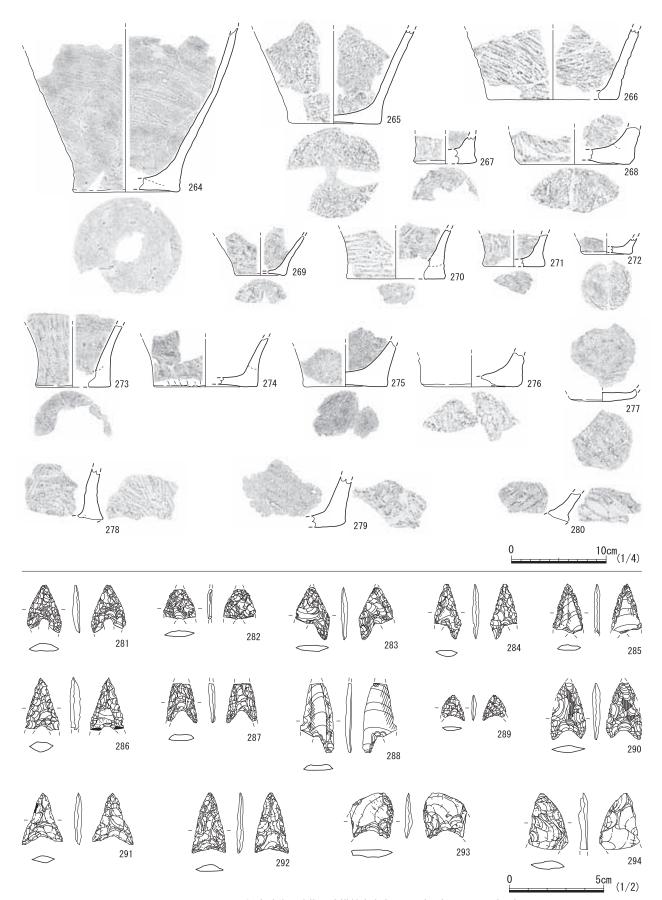


図 4 - 25 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土土器 10 (1/4)・石器 1 (1/2)

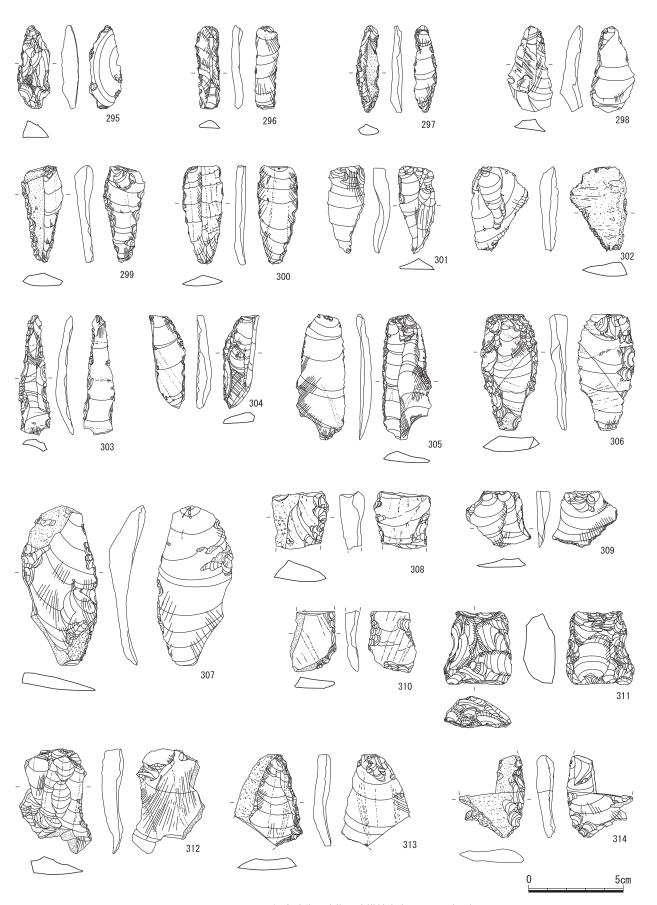


図 4 - 26 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 2 (1/2)

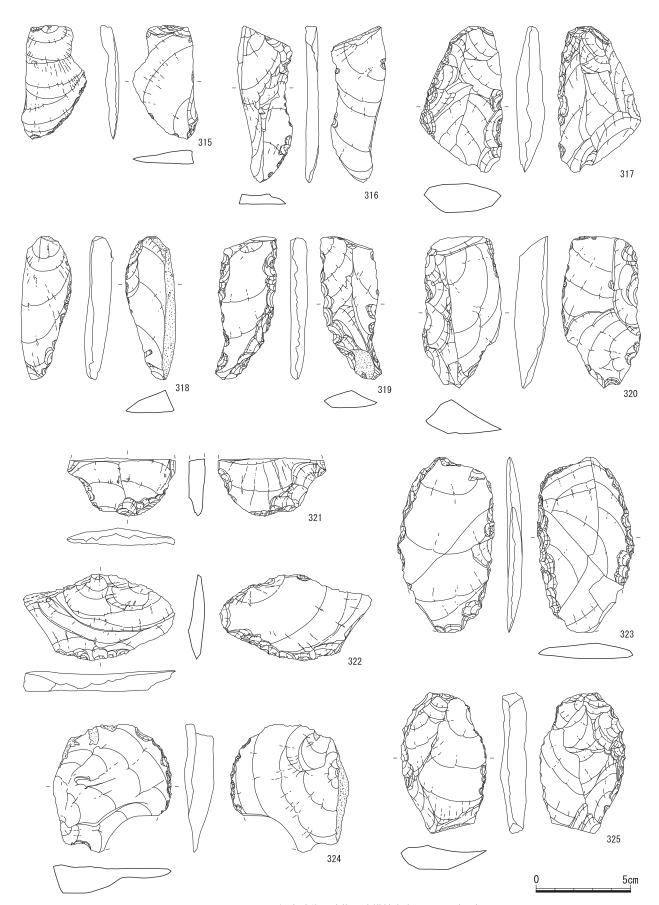


図 4 - 27 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 3 (1/2)

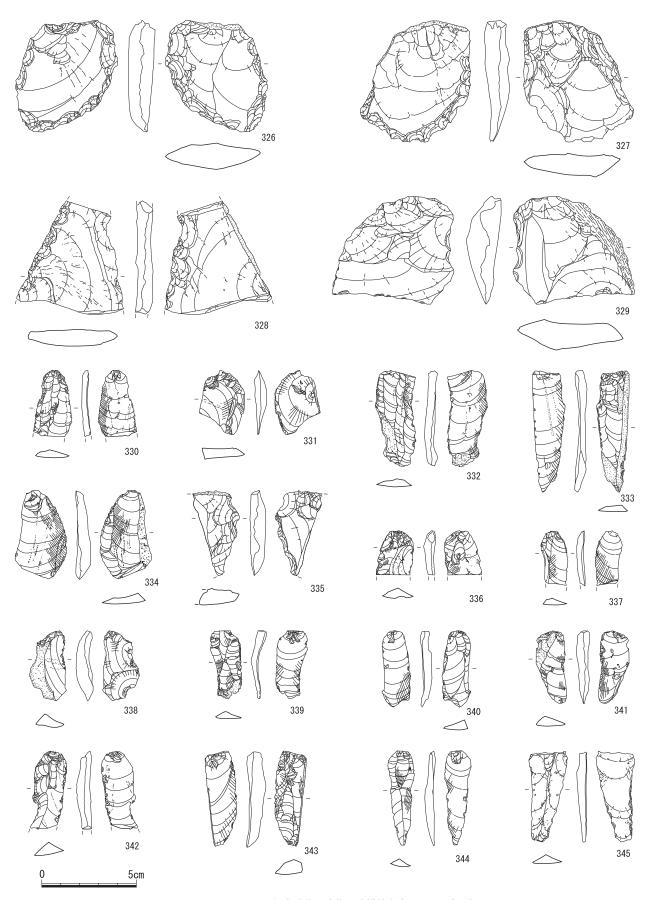


図4-28 2・3区縄文時代の遺物 遺構外出土石器4 (1/2)

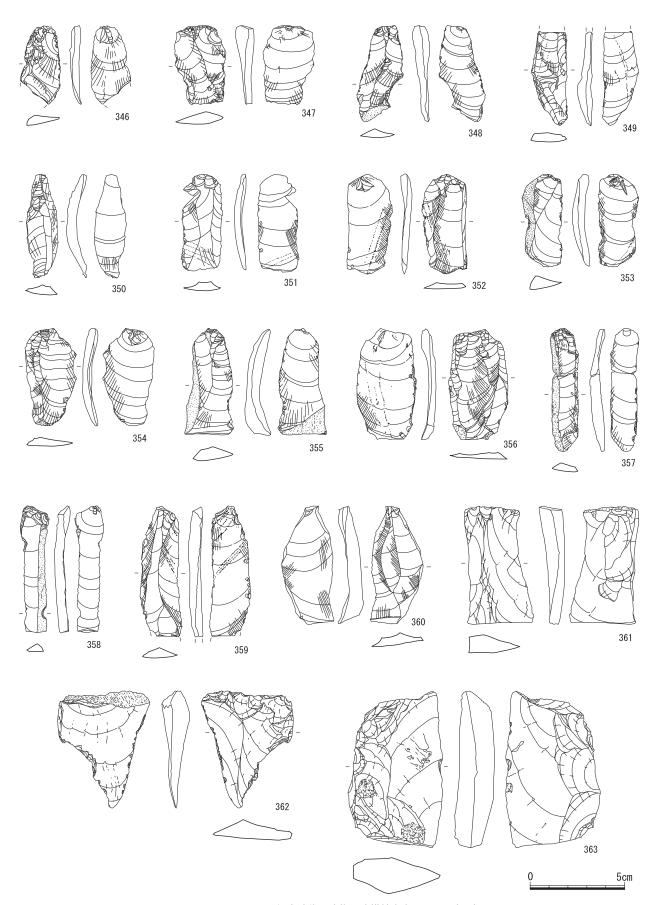


図 4 - 29 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 5 (1/2)

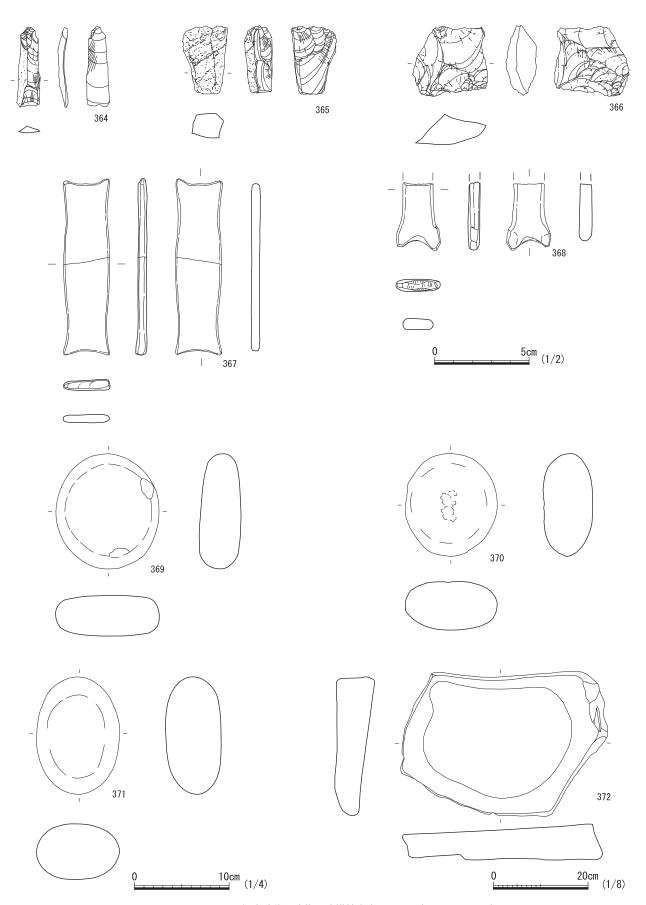


図 4 - 30 2・3 区縄文時代の遺物 遺構外出土石器 6 (1/2、1/4、1/8)

表4-1 2・3区縄文時代の遺構出土土器

			表4-	- 1 2	2 • 3[区縄文時代の遺構出土土	器	
挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm	ı	色調	備考	写真図版
登録番号		器種	口径	底径	器高		C- HIU	写真登録番号
4-13-1	SH3020	縄文土器	16.9	_	-	外:にぶい黄橙	-	4-5
05000532 4-13-2	A3 区画 SH3020	浅鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:灰黄褐		20070764 4-5
05000396	A3 区画		18.4*	-	-	内:灰黄褐	内外面に煤付着	20070765
4-13-3		縄文土器				外:黒褐		4-5
05000534	SH3020	浅鉢	17.7	-	-	内:灰黄褐	-	20070766
4-13-4	SH3020	縄文土器	36.3		_	外:にぶい黄橙・にぶい褐	_	4-5
05000544	A2•Z2•Z3 区画	浅鉢	30.5			内:にぶい黄橙・にぶい褐	_	20070767
4-13-5	SH3020	縄文土器	22.6*	-	-	外:橙	-	4-5
05000477 4-13-6	A2•Z2 区画	浅鉢 縄文土器				内:橙 外:橙		20071338 4-5
05000535	SH3020	浅鉢	-	-	-	内:灰黄褐	-	20071339
4-13-7	SX3019	縄文土器	20.0			外:灰黄褐		4-5
05000543	SH3020	鉢	20.6	-	-	内:灰黄褐	-	20071340
4-13-8	SH3020	縄文土器	18.9*	_	_	外:明褐	_	4-5
05000533		鉢				内:明褐		20071341
4-13-9 05000531	SH3020 A3 区画	縄文土器 鉢	21.2	-	-	外:にぶい黄橙 内:黒褐	-	4-5 20070768
4-13-10		縄文土器				外: にぶい褐		4-5
05000536	SH3020	深鉢	-	-	-	内:にぶい褐	-	20070769
4-13-11	SH3020	縄文土器	_			外:明褐		4-5
05000524	3113020	深鉢	-	-	-	内:明褐	-	20070770
4-13-12	SH3020	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄橙	-	4-5
05000538 4-13-13		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:灰褐		20070771 4-5
05000473	SH3020	深鉢	-	-	-	7r · 次個 内 : 橙	-	20070772
4-13-14	SH3020	縄文土器				外:にぶい赤褐		4-5
05000407	Z2•Z3 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070773
4-13-15	SH3020	縄文土器	_	_	_	外:暗赤褐	_	4-5
05000541	0110020	深鉢				内:褐		20070774
4-13-16 05000405	SH3020	縄文土器 深鉢	36.4*	-	-	外:暗褐 内:にぶい赤褐	-	4-5 20070775
4-13-17		縄文土器				外:赤褐		4-5
05000409	SH3020	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070776
4-14-18	SH3020	縄文土器	34.0*			外:にぶい褐		4-5
05000408	Z3 区画	深鉢	34.0	-	-	内:にぶい橙	-	20070777
4-14-19	SH3020	縄文土器	47.0*	-	-	外:橙	-	4-5
05000484 4-14-20		深鉢 縄文土器				内:橙 外:灰黄褐		20070778 4-5
05000518	SH3020	深鉢	-	-	-	ハ・灰黄褐 内:にぶい橙	-	20070779
4-14-21	STIOOOO	縄文土器				外:橙		4-5
05000517	SH3020	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070780
4-14-22	SH3020	縄文土器	_	_	_	外:褐	_	4-5
05000475	0110020	深鉢				内:褐		20070781
4-14-23 05000539	SH3020	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:にぶい黄褐	-	4-5 20070782
4-14-24		縄文土器				外:にぶい橙		4-5
05000476	SH3020	深鉢	-	-	-	内:にぶい橙	-	20070783
4-14-25	SH3020	縄文土器				外:橙		4-5
05000540	3113020	深鉢	_		_	内:橙	-	20070784
4-14-26	SH3020	縄文土器	-	_	-	外:にぶい褐	-	4-5
05000474 4-14-27		深鉢 縄文土器				内:浅黄橙 外:橙		20070785 4-5
05000522	SH3020	神又工品 深鉢	-	-	-	クト・恒 内:橙	-	20070786
4-14-28	CHOOSS	縄文土器				外:黒褐		4-5
05000537	SH3020	深鉢	_	_	_	内:明赤褐	-	20070787
4-14-29	SH3020	縄文土器	-		-	外:黒褐		4-5
05000519		深鉢				内:黒褐		20070788
4-14-30 05000511	SH3020	縄文土器	-	7.2*	-	外:橙 内:橙	-	4-5 20070789
4-14-31	_	縄文土器				外:橙	1 111110	4-5
05000506	SH3020		-	6.1	-	内:にぶい褐	内面煤付着	20070790
4-14-32	guanan 2 manan	縄文土器	_	7.0		外:にぶい黄橙		4-5
05000507	SH3020	-	-	1.0	-	内:にぶい黄橙	-	20070791
4-14-33	SH3020	縄文土器	-	9.9*	-	外:にぶい橙	_	4-5
05000513 4-14-34	SH3020	縄文土器				内:にぶい橙 外:橙		20070792 4-5
05000514	SH3020 Z3 区画	神义上帝	-	10.5*	-	外·恒 内:橙	-	20070793
		<u> </u>	1			1 - 1-44	l	

表4-1 2・3区縄文時代の遺構出土土器

			1	121				
挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm		色調	備考	写真図版
登録番号		器種	口径	底径	器高			写真登録番号
4-14-35	SH3020	縄文土器	_	9.8	_	外:にぶい黄橙	_	4-5
05000523	Z1·Z2 区画	-		0.0		内:にぶい黄橙		20070794
4-14-36	SH3020	縄文土器	_	12.0*	_	外:橙	_	4-5
05000515	3113020	-		12.0		内:橙		20070795
4-14-37	SH3020	縄文土器	_	7.3*		外:赤褐		4-5
05000512	3113020	-	_	1.5	_	内:赤褐	_	20070796
4-14-38	SH3020	縄文土器	_	7.7*		外:黄橙		4-5
05000516	3113020	-	_	1.1	_	内:黒褐	_	20070797
4-14-39	SH3020	縄文土器	_	8.8*		外:橙		4-5
05000510	3113020	-	-	0.0	-	内:橙	-	20070798
4-14-40	SH3020	縄文土器	_	8.1*		外:にぶい黄橙		4-5
05000508	303020	-	-	0.1	-	内:にぶい黄橙	-	20070799
4-14-41	SH3020	縄文土器	_			外:橙		4-5
05000509	SH3020	-	-	-	-	内:橙	-	20070800
4-15-49	SK3018	縄文土器	22.9			外:暗褐		4-5
05000413	SK3018	浅鉢	22.9	-	-	内:褐	-	20070801
4-15-50	CVOOLO	縄文土器				外:橙		4-5
05000528	SK3018	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070802
4-15-51	OVOCAO	縄文土器				外:橙		4-5
05000530	SK3018	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070803
4-15-53	07/0004	縄文土器				外:橙		4-5
05000529	SK3034	深鉢	-	-	-	内:橙	-	20070804
4-15-54	GVGGGG	縄文土器				外:橙		4-5
05000525	SX3028	鉢	-	-	-	内:橙	-	20070805
4-15-55	6770000	縄文土器				外:にぶい黄橙		4-5
05000526	SX3028	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070806
4-15-56	0710000	縄文土器				外: 黄橙		4-5
05000527	SX3028	深鉢	-	-	-	内:黄橙	-	20070807
4-16-58		縄文土器				外:にぶい黄橙	the Date of the State of the St	4-5
05000471	SX3019	鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	焼成後穿孔あり	20070808
4-16-59		縄文土器				外:にぶい黄橙	赤色顔料塗布	4-5
05000472	SX3019	鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	焼成後穿孔あり	20070809
4-16-60		縄文土器				外:黒褐		4-5
05000410	SX3019	深鉢	34.0*	-	-	内: 黄灰	外面煤付着	20070810
4-16-61	A2·A3 区画	縄文土器				外:にぶい褐		4-5
05000412	SX3019	深鉢	53.1*	-	-	内:褐灰	-	20070811
4-16-62		縄文土器				外:黒褐		4-5
05000411	SX3019	深鉢	26.8*	-	-	内:灰褐	外面煤付着	20070812
4-16-63		縄文土器				外:にぶい褐		4-5
05000501	SX3019	深鉢	-	6.0	-	内:にぶい褐	-	20070813
4-16-64	A3 区画	縄文土器				外:浅黄橙		4-5
05000503	SX3019 · SH3020	- PEX_LHB	-	10.8*	-	内:黄灰	-	20070814
20000000	100000	1	1			11 2400		

表4-2 2・3区縄文時代の遺構出土石器

挿図-番号	出土位置	種別		寸法 mm		重量	石材	備考	写真図版
登録番号		器種	長さ	幅	厚さ	g		, ·	写真登録番号
4-14-42 05000024	SH3020	打製石器 M F	50.4	18.8	8.0	6.8	黒曜岩	-	4-10 20070252
4-14-43 05000026	SH3020	打製石器 M F	53.8	34.7	8.0	5.2	黒曜岩	-	4-10 20070253
4-14-44 05000037	SH3020	打製石器 MF	33.7	14.5	4.7	1.8	黒曜岩	-	4-10 20070254
4-15-45 05000056	SH3020	打製石器 削器	66.5	49.0	14.3	38.6	無斑晶質 安山岩	-	4-10 20070255
4-15-46 05000057	SH3020	打製石器 削器	65.7	52.0	13.1	34.8	無斑晶質 安山岩	-	4-10 20070256
4-15-47 05000050	SH3020	打製石器 削器	49.5	49.1	12.2	29.6	無斑晶質 安山岩	-	4-10 20070257
4-15-48 05000385	SH3020	磨製石器 両端抉入石器	69.3	27.8	6.1	19.2	-	-	4-10 20070258
4-15-52 05000011	SK3018	打製石器 RF	39.1	20.6	5.5	3.2	黒曜岩	-	4-10 20070259
4-15-57 05000383	SX3027	磨製石器 両端抉入石器	99.6	22.1	6.8	23.5	-	-	4-10 20070260
4-16-65 05000038	SX3019	打製石器 石鏃	31.2	21.5	4.3	2.0	黒曜岩	-	4-10 20070261

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

			表4-	3 2	• 5 🗠	(縄又時代の遺構外出土)	上位	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-16-66 05000395	A2•Z2 区画	縄文土器 浅鉢	19.8*	-	-	外:褐灰・にぶい黄橙 内:褐灰・にぶい黄橙	-	4-5 20070815
4-16-67	A3 区画	縄文土器	20.4*	-	_	外:にぶい黄褐	_	4-5
01004547 4-16-68		浅鉢 縄文土器				内:黒褐 外:灰黄褐		20070816 4-5
01004546	A3 区画	浅鉢	16.8*	-	-	内:黄灰	-	20070817
4-16-69 02002143	B4 区画	縄文土器 浅鉢	20.0*	-	-	外:黒 内:黒	赤色顔料塗布	4-5 20070818
4-16-70 02002169	B3 区画	縄文土器 浅鉢	26.0*	-	-	外:橙 内:橙	-	4-5 20070819
4-16-71	Z2 区画	縄文土器				外: にぶい褐	赤色顔料塗布 外面煤付着	4-6
05000397 4-16-72		浅鉢 縄文土器	-			内:黄灰 外:黒褐		20070820 4-6
01004550	B2 区画	浅鉢	-	-	-	内:褐灰	赤色顔料塗布	20070821
4-16-73 05000401	Z2 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	赤色顔料塗布 外面煤付着	4-6 20070822
4-16-74	Z2 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄橙	_	4-6
05000399 4-16-75		浅鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい褐	+7 6510134- 41 7 44 1 34	20070823 4-6
05000398	Z2 区画	浅鉢	-	-	-	内:黄灰	赤色顔料塗布 外面煤付着	20070824
4-16-76 05000542	SH3020	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:暗褐 内:褐灰	-	4-6 20070825
4-16-77 05000400	Z2 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:灰黄褐	-	4-6 20070826
4-17-78	B4 区画	縄文土器				外:黒褐	赤色顔料塗布	4-6
02002144 4-17-79		浅鉢 縄文土器		_		内:明赤褐 外:にぶい黄橙	77	20070827 4-6
02002161	B3 区画	浅鉢	15.2*	-	-	内:にぶい黄橙	89 と同一個体	20070828
4-17-80 05000545	A2·Z2·Z3 区画 SH3020	縄文土器 浅鉢	20.7	-	-	外:橙 灰褐 内:橙 灰褐	-	4-6 20070829
4-17-81	A3·B3·B4 区画	縄文土器	37.4	-	-	外:黒褐	86 と同一個体	4-6
01004545 4-17-82	DO F	浅鉢 縄文土器				内:黒褐 外:にぶい褐		20070830 4-6
02002166	B3 区画	浅鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070831
4-17-83 01004544	A3 区画	縄文土器 浅鉢	18.4*	7.4*	12.1	外:にぶい橙 内:にぶい黄橙	外面赤色顔料塗布	4-6 20070832
4-17-84 02002164	B3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:灰褐 内:にぶい赤褐	赤色顔料塗布 85 と同一個体	4-6 20070833
4-17-85	B3 区画	縄文土器	_	_	_	外:黒褐	84 と同一個体	4-6
02002165 4-17-86		浅鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:暗赤褐	赤色顔料塗布	20070834 4-6
01004549	B3 区画	浅鉢	-	-	-	内:明赤褐	81 と同一個体	20070835
4-17-87 01004583	B3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい黄橙 内:淡黄	-	4-6 20070836
4-17-88	A3 区画	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐	_	4-6
02002102 4-17-89	540000	浅鉢 縄文土器				内:明褐 外:にぶい橙	70 1/2 /2/4	20070837 4-6
01004585	SA2036	浅鉢	-	-	-	内:橙	79 と同一個体	20070838
4-17-90 05000451	Z1 区画	縄文土器 浅鉢	14.4*	-		外:褐 内:褐	-	4-6 20070839
4-17-91 05000452	Z1 区画	縄文土器 浅鉢	13.6*	-	-	外:にぶい赤褐 内:にぶい赤褐	-	4-6 20070840
4-17-92	Z1 区画	縄文土器	11.3*	_	_	外:明赤褐	_	4-6
05000453 4-17-93		浅鉢 縄文土器				内:明赤褐 外:赤褐		20070841
02002104	A2 区画	浅鉢	-	-	-	内:赤褐	-	20070842
4-17-94 02002091	B3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:黒褐	-	4-6 20070843
4-17-95	A2•Z2 区画	縄文土器	-	-	-	外:にぶい黄橙	-	4-6
05000457 4-17-96	V 5 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	浅鉢 縄文土器				内: にぶい橙 外: にぶい褐		20070844 4-6
05000458 4-17-97	A2 区画	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:褐灰 外:灰褐	-	20070845 4-6
05000521	SH3020	浅鉢	-	-	-	内:灰褐	-	20070846
4-17-98 05000456	A2 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:にぶい褐 内:にぶい褐	-	4-6 20070847
4-17-99	A2 区画	縄文土器	_	_	_	外:明赤褐	-	4-6
05000455	.10	浅鉢				内:明赤褐		20070848

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

			衣4-	5 2) D	M	上位	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-17-100 01004690	B3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:黒褐	-	4-6 20070849
4-17-101 01004689	A2 区画	縄文土器	-	-	-	外:赤褐 内:赤褐	-	4-6 20070850
4-17-102	Z2 区画	縄文土器	_	-	-	外:にぶい褐	_	4-6
05000448 4-17-103	Z2 区画	浅鉢 縄文土器	29.5*			内: にぶい褐 外: にぶい黄橙		20070851 4-6
05000449 4-17-104		浅鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		20070852 4-6
05000500 4-17-105	Z1·Z2 区画	浅鉢 縄文土器	22.9*	-	-	内:にぶい黄橙 外:灰黄	-	20070853 4-6
02002092	C12 区画表採	浅鉢	-	-	-	内: 黄灰 外: にぶい褐	-	20070854
4-17-106 05000547	A3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	内:褐灰・にぶい橙	-	20070855
4-17-107 05000467	A3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	4-6 20070856
4-17-108 05000491	Z2 区画	縄文土器 浅鉢	16.5	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	4-6 20070857
4-17-109 01004589	B4 区画	縄文土器 浅鉢	18.6*	-	-	外:にぶい褐 内:にぶい褐	-	4-6 20070858
4-18-110 01004692	B3 区画	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐 内:橙	112 と同一個体	4-6 20070859
4-18-111	B3 区画	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐	_	4-6
01004581 4-18-112	B3 区画	鉢 縄文土器	_	_		内:褐 外:明赤褐	110と同一個体	20070860 4-6
01004691 4-18-113		鉢 縄文土器	24.0*			内: 黒褐 外: 黒	110 Cly J Balti	20070861 4-6
01004543 4-18-114	A3 区画	浅鉢 縄文土器	24.0	-	-	内:黒褐 外:暗赤褐	-	20070862 4-6
01004579 4-18-115	A3 区画 Z2 区画	浅鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい橙 外:灰黄褐	-	20070863
05000546	SX3011	浅鉢	24.9	-	-	内:灰黄褐	-	20070864
4-18-116 01004578	A2·A3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:褐灰 内:黒褐	-	4-6 20070865
4-18-117 05000450	Z3 区画	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	4-6 20070866
4-18-118 05000423	Z1 区画	縄文土器 鉢	21.0*	-	-	外:明赤褐 内:にぶい赤褐	-	4-6 20070867
4-18-119 01004693	B3 区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	-	4-6 20070868
4-18-120 01004591	B2 区画	縄文土器	-	-	-	外:橙 内:黄橙	-	4-6 20070869
4-18-121	Z2 区画	縄文土器	_	-	-	外:明赤褐	_	4-6
05000447 4-18-122	B3 区画	鉢 縄文土器		_		内:にぶい赤褐 外:極暗褐	_	20070870 4-6
02002099 4-18-123		針 縄文土器		-		内:暗褐 外:明赤褐	-	20070871 4-6
02002105 4-18-124	B3 区画	鉢 縄文土器	-	-	-	内:褐 外:にぶい赤褐	-	20070872 4-6
05000445 4-18-125	Z2 区画	鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい赤褐 外:明赤褐	-	20070873
05000446	Z2 区画	鉢	-	-	-	内:明赤褐	-	20070874
4-18-126 02002173	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:暗褐	-	4-6 20070875
4-18-127 05000485	Z2 区画	縄文土器 深鉢	35.4*	-	-	外:橙 内:橙	-	4-7 20070876
4-18-128 02002139	A2 区画	縄文土器 深鉢	17.4*	-	-	外:褐 内:にぶい褐	-	4-6 20070877
4-18-129 02002146	A3 区画	縄文土器 深鉢	36.2*	-	-	外:明赤褐 内:赤褐	133 と同一個体	4-6 20070878
4-19-130	Z2 区画	縄文土器	45.6*	-	-	外:褐	外面煤付着	4-6
05000403 4-19-131	Z3 区画	深鉢 縄文土器	18.6*	_	_	内:浅黄 外:にぶい赤褐	_	20070879 4-6
05000483 4-19-132	SH3020	深鉢 縄文土器				内:にぶい赤褐 外:黒		20070880 4-7
02002106 4-19-133	A2 区画	深鉢 縄文土器	36.0*	-	-	内:にぶい黄橙 外:橙	-	20070881
02002148	A3 区画	深鉢	-	-	-	内:橙	129 と同一個体	20070882

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

			衣4-	J Z) D	・ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	— HF	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-19-134 01004555	B3•B4 区画	縄文土器 深鉢	32.4*	9.0*	-	外:明褐 内:黄橙	-	4-7 20070883
4-19-135	A3•B3 区画	縄文土器	32.0*	_	-	外:褐	-	4-7
02002149 4-19-136	B2 区画	深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:橙		20070884 4-7
02002152 4-19-137		深鉢 縄文土器	_	_	_	内:明黄褐 外:にぶい褐	-	20070885 4-7
05000417	Z2 区画	深鉢	-	-	-	内:灰褐	-	20070886
4-19-138 02002155	A3•B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	-	4-7 20070887
4-20-139 01004590	A3·B3 区画	縄文土器 深鉢	15.4*	-	-	外:橙 内:にぶい橙	-	4-6 20070888
4-20-140 05000389	Z3 区画 SH3020	縄文土器 深鉢	21.5*	-	-	外:灰黄 内:灰黄褐	-	4-7 20070889
4-20-141	A3·B3 区画	縄文土器	40.3*	_	-	外:黒褐・明赤褐	-	4-7
02002150 4-20-142		深鉢 縄文土器		7.0*	10.1	内:黒褐 外:明赤褐	222 k = 1 /#/+	20070890 4-7
02002159 4-20-143	B3 区画	深鉢 縄文土器	13.9*	7.2*	13.1	内:橙 外:明赤褐	222 と同一個体	20070891
02002160	B3 区画	深鉢	-	6.0	15.0	内:にぶい赤褐	-	20070892
4-20-144 05000414	A3 区画	縄文土器 深鉢	28.7*	-	-	外:にぶい褐 内:にぶい褐	外面煤付着	4-7 20070893
4-20-145 05000387	A2 区画	縄文土器 深鉢	24.3*	-	-	外:にぶい黄橙 内:灰黄褐	外面煤付着 146と同一個体	4-8 20070894
4-20-146	A2 区画	縄文土器	-	8.6*	-	外:にぶい黄橙	外面煤付着	4-8
05000388 4-20-147	SX3014 Z2 区画	深鉢 縄文土器	34.8*			内:灰黄褐 外:暗赤褐	145 と同一個体	20070895 4-8
05000486 4-20-148		深鉢 縄文土器		_	_	内:暗赤褐 外:にぶい赤褐	-	20070896 4-8
05000418	A3 区画	深鉢	39.0*	-	-	内:にぶい赤褐	-	20070897
4-20-149 02002162	B3 区画	縄文土器 深鉢	20.6*	-	-	外:暗赤褐 内:明赤褐	-	4-7 20070898
4-20-150 05000489	Z2 区画	縄文土器 深鉢	44.3*	-	-	外:暗褐 内:暗褐	-	4-8 20070899
4-21-151 05000488	Z2 区画	縄文土器 深鉢	29.4*	-	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	4-8 20070900
4-21-152	A2 区画	縄文土器	32.8*	_	-	外:黒褐	外面煤付着	4-8
05000478 4-21-153	Z2 区画	深鉢 縄文土器	30.4*	_	_	内:黒褐 外:にぶい黄橙	_	20070901 4-7
05000419 4-21-154		深鉢 縄文土器				内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙		20070902 4-8
05000487 4-21-155	Z2 区画 	深鉢 縄文土器	46.0*	-	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい橙	-	20070903 4-8
05000495	Z2 区画	深鉢	16.2*	-	-	内:にぶい橙	-	20070904
4-21-156 05000492	Z2 区画	縄文土器 深鉢	13.3*	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	4-8 20070905
4-21-157 05000415	A3•Z2 区画	縄文土器 深鉢	32.8*	-	-	外:褐 内:にぶい黄橙	-	4-8 20070906
4-21-158	Z2•Z3 区画	縄文土器	30.0*	_	-	外:褐	-	4-8
05000416 4-21-159	SH3020	深鉢 縄文土器	36.4*			内:にぶい黄褐 外:褐		20070907 4-8
05000406 4-21-160		深鉢 縄文土器	30.4	-	-	内:にぶい黄橙 外:橙	-	20070908
02002168	B3 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070909
4-21-161 05000960	A2 区画	縄文土器 深鉢	39.7*	-	-	外:灰褐・黒褐 内:褐灰	-	4-8 20070910
4-21-162 02002172	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	-	4-8 20070911
4-21-163 02002170	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外: 黒褐 内: 黒褐	-	4-8 20070912
4-21-164	B3 区画	縄文土器	-	_	-	外:橙	-	4-8
02002088 4-22-165		深鉢 縄文土器				内: 橙 外:にぶい黄橙		20070913
05000490 4-22-166	Z2 区画	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	-	20070914
05000393	Z2 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	168と同一個体	20070915
4-22-167 05000959	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:灰褐・褐灰 内:褐灰・にぶい黄橙	-	4-9 20070916

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

4.22.16 1.25 1				衣4-		ع د	祖义时1000周押外山土	- 	
4.22 18 22 12 12 12 13 15 15 15 15 15 15 15		出土位置		口径			色調	備考	写真図版 写真登録番号
42216 43-83 区面 報文上報 外:初示稿 20070918 422170 62-63 区面 報文上報 外:日 20070918 422170 62-63 区面 報文上報 外:日 20070918 429 49 6000016 422171 422172 422172 422173 422173 422173 422173 422173 422173 422174 422173 422174 422174 422174 422175 422174 422175		Z2 区画		-	-	-		166 と同一個体	
4-2-170 A2-AS 周 数文上語 外: 도의·생 外面保付養 2007/8919	4-22-169	A3•B3 区画	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐	-	4-9
595000422 5H3020		A2·A3 区画							
595000461 AZ K	05000422		深鉢	-	-	-	内:にぶい褐	外面煤付着	20070919
Decompose		A2 区画		-	-	-		-	
4.22.172 D.3 区面 一説大器 内.5 田原松 日.5 田原松 内.5 田原松 日.5 田		B2 区画		-	-	-		-	
4.2-174	4-22-173	B3 区画	縄文土器	-	-	-	外:明褐	201 と同一個体	-
101001688	4-22-174	B3 区画	縄文土器	_	_	_	外:橙	_	
505000421									
O-2002114 A3 A3 A3 A3 A3 A3 A3 A	05000421	A2 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	20070923
50000463		A3 区画		-	-	-		-	I
4.22.178		A2 区画		-	-	-		-	
50000462		A O EZ esti							
DSD00468		AZ 区間	_	-	-	-		-	
SSO00470 ACK ACK 液体		A2 区画		-	-	-		-	
4-22-181 A2 区画 第文上器 所法 下		A2 区画		-	-	-		-	I
OSDO00465 A2 区面 深鉢									
Pace Pace	05000465	A2 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	
O2002116 B3 区間 深鉢		B3 区画		-	-	-	7 7 1	-	-
4-22.184 02002101 A2 区画 縄文土器 深鉢 内:橙 内:橙 20070931 4-22.185 02002123 B2 区画 縄文土器 深鉢 内:暗褐 内:暗褐 4-22.186 02002108 B3 区画 縄文土器 深鉢 内:暗褐 内:暗褐 4-22.187 02002109 C3 区画 縄文土器 網文土器 (深鉢 外:后木砂 内:福 (深鉢 内:褐 大:石、砂 村、にぶい横 4-22.188 02002126 A4 区画 深鉢 横文土器 (深鉢 内:尾ぶい横 4-22.190 02002116 A3 区画 (深鉢 内:にぶい横 4-22.191 02002117 C3 区画 (深鉢 内:にぶい横 4-22.191 02002117 C3 区画 (深鉢 内:にぶい横 4-22.191 02002118 A2 区画 (深鉢 内:にぶい横 4-23.193 02002124 A2 区画 (深鉢 内:信 (水) 4.9 (20070932 4-23.194 02002125 A2 区画 (深鉢 内:にぶい黄橙 20070933 4-23.196 02002118 A2 区画 (深鉢 内:にぶい黄橙 199 と同一僧体 4-23.196 02002115 A2 区画 (深鉢 内:黒褐 (大:黒褐 199 と同一僧体 4-23.197 02002115 A3 区画 (深鉢 内:黒褐 (外:黒褐 195 と同一僧体 4-23.198 020020140 大:黒褐 (外: 殿社 195 と同一僧体 4-23.199 02002140 B4 区画 (深鉢 内:黒褐 (外: 殿社 195 と同一僧体 4-23.199 02002140 B4 区画 (水) 内:黒褐 (外: 殿社		B3 区画		-	-	-		-	
4-22-185 O2002123 B2 区画 縄文土器 探渉 内:暗褐 内:暗褐 ク:中褐 八字 中部 八字 日刷 一字 日刷 一字 八字 日刷 一字 八字 日刷 八字 八字 八字 日刷 八字 八字 八字 日刷 八字 八字 八字 八字 八字 八字 八字 八	4-22-184	A2 区画	縄文土器	_	-	-	外:橙一部に明赤褐	-	4-9
02002128		B2 区面							20070931
O2002108			_						
C2002109 C3 区画 深鉢 下 内:掲		B3	深鉢	-	-	-		-	-
O2002153 A3 区画 深鉢 内:黒褐 円・黒褐 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日		C3 区画		-	-	-		-	-
4-22-189		A3 区画		-	-	-		-	-
4-22-190	4-22-189	A4 区画	縄文土器	-	-	-	外:明赤褐	-	-
O2002119 PS Ca Pa Pa Pa Pa Pa Pa Pa									
Page	02002119	B3 区画	深鉢	-	-	-	内:にぶい褐	-	-
O5000464 A2 区画 深鉢 一 内:橙 20070932		C3 区画		-	-	-		-	-
4-23-193 B2 区画 縄文土器 次鉢 一		A2 区画		-	-	-		-	
4-23-194 02002131 A2 区画 縄文土器 深鉢	4-23-193	B2 区画	縄文土器	_	-	-	外:暗褐	-	4-9
A-23-195 B4 区画 縄文土器 次鉢 内:暗赤褐 199 と同一個体		1.2 区画	+						20070933
O2002125 B4 区画 深鉢 「				-	-	-		-	-
O2002118	02002125	B4 区画	深鉢	-	-	-	内:黒褐	199 と同一個体	-
O2002115 A3 区画 深鉢 内: 黒褐 20070935 4-23-198 05000494 Z2 区画 縄文土器 深鉢 外: 黒褐 内: 黒褐 4-9 20070936 4-23-199 02002140 B4 区画 縄文土器 深鉢 外: 暗褐 内: 黒褐 195 と同一個体 20070937 4-23-200 4-23-200 72 区画 縄文土器 縄文土器 外: 灰褐 外: 灰褐		A2 区画		-	-	-		-	
4-23-198 05000494 Z2 区画 縄文土器 深鉢 小:黒褐 内:黒褐 4-9 20070936 4-23-199 02002140 B4 区画 深鉢 縄文土器 深鉢 小: 黒褐 内:黒褐 195 と同一個体 り:黒褐 4-9 20070937 4-23-200 72 区画 現文土器 72 区画 縄文土器 4-9 外: 灰褐 72 区画 外: 灰褐 72 区画 外: 灰褐 72 区画 外: 灰褐 74-9		A3 区画		-	-	-		-	
4-23-199 02002140 B4 区画 縄文土器 深鉢	4-23-198	Z2 区画	縄文土器	-	-	-	外: 黒褐	-	4-9
02002140 深峰 内:無億 20070937 4-23-200 72 区面 縄文土器 外: 灰褐 从面模付着 4-9	4-23-199	B4 区画	縄文土器				外:暗褐	195 と同一個体	
		四公 4位		-	_	_			
	05000460	Z2 区画	深鉢	-	-	-	内:灰褐	外面煤付着	20070938
4-23-201 02002156 B3 区画 縄文土器 深鉢		B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙 内:橙	173と同一個体	-

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

			表4-	3 2	• 5 🗵	、縄又時代の	- 上 台	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-23-202 05000469	A2•Z2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	-
4-23-203 01004694	A3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:赤 内:赤褐	-	-
4-23-204 02002120	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:明赤褐	-	-
4-23-205	B3 区画	縄文土器	-	-	-	外:赤褐 内:にぶい褐	-	-
02002127 4-23-206	A3 区画	深鉢 縄文土器	_	_	_	外:暗赤褐	217・207・210 と同一個体	4-9
02002135 4-23-207	A3 区画	深鉢 縄文土器				内:黒褐 外:暗赤褐	217・210・206 と同一個体	20070939 4-9
02002130 4-23-208		深鉢 縄文土器	-	-	-	内:暗赤褐 外:黒褐	217-210-200 2 同 個体	20070940
02002134 4-23-209	B4 区画	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:黒褐 外:橙	-	-
02002121	B3 区画	深鉢	-	-	-	内:明赤褐 外:暗赤褐	-	4-9
4-23-210 02002132	A3 区画	深鉢	-	-	-	内:暗赤褐	217・207・206 と同一個体	20070941
4-23-211 02002095	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:明褐 内:明褐	-	-
4-23-212 02002090	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:暗赤褐 内:黒褐	-	-
4-23-213 02002096	C3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外: にぶい橙 内: にぶい橙	-	-
4-23-214 02002133	B3 区画	縄文土器深鉢	-	-	-	外:赤褐 内:赤褐	-	-
4-23-215	A3 区画	縄文土器	_	-	_	外:黒	-	
02002128 4-23-216	B3 区画	深鉢 縄文土器		_		内:黒 外:明赤褐	_	
02002136 4-23-217		深鉢 縄文土器		-		内:にぶい褐 外:極暗赤褐	007 010 000 1:12 /12/1.	4-9
02002129 4-23-218	A3 区画	深鉢 縄文土器	-	-	-	内:暗赤褐 外:オリーブ灰	207・210・206 と同一個体	20070942
02002098	A2 区画	深鉢	-	-	-	内:極暗褐	-	- 4.0
4-23-219 05000496	Z2 区画	深鉢	-	-	-	外:明赤褐 内:明赤褐	-	4-9 20070943
4-23-220 02002111	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:明赤褐	-	4-9 20070944
4-23-221 02002110	B4 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:暗赤褐 内:にぶい赤褐	-	-
4-23-222 02002158	B3 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:橙・にぶい黄橙 内:橙・黒褐	142と同一個体	4-9 20070945
4-23-223 02002113	A2 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外:黒褐 内:黒褐	-	4-9 20070946
4-23-224	A1 区画	縄文土器	-	-	-	外:橙	外面煤付着	4-9
05000481 4-23-225	A1 区画	深鉢 縄文土器	_	_		内:橙 外:橙	224 ~ 226 同一個体 外面煤付着	20070947 4-9
05000480 4-23-226		深鉢 縄文土器				内:橙 外:橙	224 ~ 226 同一個体 外面煤付着	20070948
05000479 4-23-227	A1 区画	深鉢 縄文土器	-	-		内:橙 外:にぶい黄橙	224~226 同一個体	20070949
01004587 4-23-228	B4 区画	鉢 縄文土器	-	-	-	内:にぶい黄橙 外:灰褐	-	20070950
01004582	B4 区画	鉢	-	-	-	内:黒褐	-	20070951
4-24-229 05000961	A2 区画	縄文土器	-	6.0*	-	外:にぶい赤褐 内:灰褐	-	-
4-24-230 01004548	B3 区画	縄文土器	-	7.2*	-	外:明黄褐 内:黒褐	-	-
4-24-231 05000425	A3 区画	縄文土器	-	7.2	-	外:橙 内:にぶい褐	-	4-9 20070952
4-24-232 01004553	B4 区画	縄文土器	-	5.5	-	外: にぶい橙 内: -	-	-
4-24-233	B3 区画	縄文土器	-	6.0*	-	外:橙	-	-
01004567 4-24-234	Z2 区画	縄文土器	-	6.8*	-	内: 黒褐 外: にぶい黄橙	_	-
05000437 4-24-235	A2 区画	縄文土器	_	5.6	_	内:褐灰 外:橙		4-9
05000426	지수 [스펜	-		J.0	_	内:にぶい黄橙		20070953

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

			12、4 -	<i>J Z</i>	J [2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<u> — тр</u>	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-24-236 01004552	C4 区画	縄文土器	-	5.5*	-	外:にぶい赤褐 内:黒褐	底部に穿孔	4-9 20070954
4-24-237 01004551	A3·B3 区画	縄文土器	-	6.6	-	外:橙 内:明褐	-	4-9 20070955
4-24-238 05000390	A3 区画	縄文土器	-	10.3*	-	外:にぶい橙 内:黒褐	-	4-9 20070956
4-24-239 01004554	A2 区画	縄文土器	-	9.8	-	外:橙 内:にぶい黄橙	-	4-9 20070957
4-24-240 05000502	SX3019 SX3028	縄文土器	-	9.9	-	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	-	4-9 20070958
4-24-241 01004560	A3 区画	縄文土器	-	11.7	-	外: 橙 内: にぶい赤褐	-	4-9 20070959
4-24-242	A3 区画	縄文土器	-	12.4*	-	外:浅黄橙	-	4-9
01004559 4-24-243	B4 区画	縄文土器	-	9.8*	-	内:褐灰 外:橙	-	20070960
01004562	Z1 区画	縄文土器	-	9.8*	-	内:橙 外:橙	_	4-9
05000431 4-24-245	A2 区画	縄文土器	-	9.2*	-	内:橙 外:橙	_	20070961
01004576 4-24-246	A3 区画	縄文土器	-	7.4	_	内:橙 外:にぶい黄橙	_	4-9
01004564 4-24-247	A3 区画	縄文土器	_	10.4*	_	内:にぶい黄橙 外:橙	_	20070962 4-9
02002145 4-24-248	B3 区画	縄文土器	_	6.4*	_	内:橙 外:にぶい橙		20070963
01004571 4-24-249	A2 区画	縄文土器	_	6.4	_	内:灰褐 外:橙	内面底部に煤付着	
05000432 4-24-250	A3 区画	縄文土器	_	10.0*	_	内:- 外:明赤褐	- 1 1144/24/11 1 - 7/11 1 3 - 1	4-9
05000424 4-24-251	Z2 区画	縄文土器	_	6.0*	_	内:明赤褐 外:橙		20070964
05000440 4-24-252	A3·Z3 区画	縄文土器	_	10.8*	_	内:橙 外:橙		4-9
05000505 4-24-253	SH3020 B3 区画	縄文土器		8.1*		内:橙 外:橙		20070965 4-9
02002154 4-24-254	B3 区画	縄文土器	_	7.3		内: 黒 外: 赤褐		20070966 4-9
02002157 4-24-255		縄文土器	_		-	内:暗褐 外:明赤褐	-	20070967 4-9
02002167 4-24-256	B3 区画	縄文土器	-	7.3	-	内:褐 外:橙	-	20070968
05000429 4-24-257	Z2 区画	- 縄文土器	-	9.6*	-	内:にぶい黄橙 外:明赤褐	-	4-9
02002141 4-24-258	B4 区画	縄文土器	-	11.6*	-	内:黒褐 外:にぶい黄橙	-	20070969
05000436 4-24-259	Z2 区画	- 縄文土器	-	9.1*	-	内:にぶい黄橙 外:明黄褐	-	-
01004565 4-24-260	A2 区画	縄文土器	-	10.5	-	内:黒褐 外:明赤褐	-	-
05000442 4-24-261	Z3 区画	縄文土器	-	11.2*	-	内:明赤褐 外:橙	-	-
05000441 4-24-262	Z2 区画	縄文土器	-	10.0*	-	内:-	-	-
01004556 4-24-263	A3 区画	縄文土器	-	9.4*	-	内: にぶい黄橙 外: にぶい褐	-	-
01004574	A2 区画	縄文土器	-	9.1*	-	内: 橙 外: にぶい黄橙	-	4-9
02002171	B3 区画	深鉢	-	11.4	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	-	20070970
05000391	Z2 区画	深鉢	-	9.8*	-	内:にぶい黄橙 外:にぶい黄橙	-	20070971
05000392 4-24-267	A3 区画	縄文土器	-	13.5*	-	内:灰黄 外:にぶい赤褐	-	20070972
05000433	A2•Z2 区画	縄文土器	-	6.6*	-	内:明赤褐 外:橙	-	20070973
4-24-268 05000427 4-24-269	Z2 区画	縄文土器	-	11.8*	-	外・恒 内:橙 外:にぶい赤褐	-	4-9
05000438	Z2 区画	- 地义上岙	-	5.5*	-	外・にぶい赤褐 内:にぶい赤褐	-	20070974

表4-3 2・3区縄文時代の遺構外出土土器

挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm		色調	備考	写真図版
登録番号	HILLE	器種	口径	底径	器高		NB 3	写真登録番号
4-24-270	A2 区画	縄文土器	_	10.3*	_	外:明赤褐		4-9
05000428	AZ 区間	-	-	10.5	-	内:黒褐	-	20070975
4-24-271	A2 区画	縄文土器	_	6.6*	_	外:明赤褐		4-9
05000434	AZ 区間	-	-	0.0	-	内:明赤褐	-	20070976
4-24-272	A3 区画	縄文土器	_	5.4	_	外:明赤褐色		4-9
05000435	AS IZIM	-	-	J.4	-	内:明赤褐色	-	20070977
4-25-273	A2 区画	縄文土器	_	8.0	_	外: 黄橙		4-9
01004568	AZ 区間	-	-	8.0	-	内:褐灰	-	20070978
4-25-274	B4 区画	縄文土器	_	11.1*	_	外:橙		4-9
02002142	D4 区四	-	-	11.1	-	内:黒褐	-	20070979
4-25-275	B3 区画	縄文土器	_	8.6*	_	外:明赤褐		4-9
01004561	DO C回	-	-	0.0	-	内:赤褐	-	20070980
4-25-276	Z3 区画	縄文土器	_	10.6	_	外:橙		
05000504	SK3018	-	-	10.6	-	内:橙	-	-
4-25-277	Z1 区画	縄文土器	_	6.6*	_	外:明黄褐		
05000430	乙工区間	-	-	0.0	-	内:にぶい黄橙	-	-
4-25-278	B3 区画	縄文土器				外:橙		4-9
01004569	DO C回	-	-	-	-	内:黒褐	-	20070981
4-25-279	B3 区画	縄文土器				外:橙		
01004577	DO 区間	-	-	-	-	内:にぶい黄橙	-	-
4-25-280	Do 区画	縄文土器				外:にぶい橙		
01004572	B3 区画	-	-	-	-	内:黒褐	-	-

表4-4 2・3区縄文時代の遺構外出土石器

写真図版 写真登録番号 4-10 20070262
4-10 20070262
4-10
20070263
4-10 20070264
4-10 20070265
4-10 20070266
4-10
20070267 4-10
20070268 4-10
20070269
4-10 20070270
4-10 20070271
4-10
20070272 4-10
20070273 4-10
20070274
4-10 20070275
4-10 20070276
4-10
20070277 4-10
20070278
4-10 20070279
4-10 20070280
4-10 20070281
4-10
20070282 4-10
20070283
4-10 20070284
4-10 20070285
4-10 20070286
4-10
20070287 4-10
20070288
4-10 20070289
4-10 20070290
4-10 20070291
4-10
20070292 4-10
20070293 4-10
20070294
4-10 20070295

表4-4 2・3区縄文時代の遺構外出土石器

			1文4		- J <u>C</u>	伸入内100	ノ返作が山	1—————————————————————————————————————	
挿図-番号 登録番号	出土位置	種別 器種	長さ	寸法 mm 幅	厚さ	重量 g	石材	備考	写真図版 写真登録番号
4-27-315	A2 区画	打製石器	60.6	32.2	6.9	13.0	無斑晶質	-	4-10
05000054 4-27-316	A2 区画	削器 打製石器	82.1	28.4	6.0	15.8	安山岩 無斑晶質		20070296 4-10
05000062 4-27-317	AZ Z	削器 打製石器	02.1	20.4	0.0	13.6	安山岩 無斑晶質	-	20070297 4-10
05000058	A3 区画	削器	74.8	45.4	14.8	44.8	安山岩	-	20070298
4-27-318 05000061	Z2 区画	打製石器 削器	75.4	25.6	12.6	21.8	無斑晶質 安山岩	-	4-10 20070299
4-27-319	A2 区画	打製石器	77.0	30.4	9.1	21.4	無斑晶質	-	4-10
05000060 4-27-320		削器 打製石器	00.5	20.0	17.5		安山岩 無斑晶質		20070300 4-10
05000067 4-27-321	Z2 区画	削器 打製石器	80.5	39.8	17.5	45.6	安山岩 無斑晶質	-	20070301 4-10
03000822	B3 区画	削器	30.9	57.0	9.2	15.0	安山岩	-	20070302
4-27-322 03000821	A3 区画	打製石器 削器	45.5	80.0	11.0	33.6	無斑晶質 安山岩	-	4-10 20070303
4-27-323	A2 区画	打製石器	91.9	49.4	7.9	42.4	無斑晶質	-	4-10
05000063 4-27-324	Z2 区画	削器 打製石器	66.4	63.1	16.0	44.8	安山岩 無斑晶質		20070304 4-10
05000053 4-27-325		削器 打製石器					安山岩 無斑晶質	-	20070306 4-10
05000059	Z2 区画	削器	73.8	45.0	12.7	40.8	安山岩	-	20070305
4-28-326 05000066	A2 区画	打製石器 削器	58.1	55.5	12.3	41.2	無斑晶質 安山岩	-	4-11 20070307
4-28-327 05000051	A2 区画	打製石器 削器	66.7	56.2	12.0	46.6	無斑晶質 安山岩	-	4-11 20070308
4-28-328	A3 区画	打製石器	60.7	57.2	8.3	32.4	無斑晶質	_	4-11
05000052 4-28-329		削器 打製石器					安山岩 無斑晶質		20070309 4-11
05000064	A3 区画	削器	57.1	61.2	15.6	52.6	安山岩	-	20070310
4-28-330 05000018	A2 区画	打製石器 RF	34.4	19.8	3.6	2.6	黒曜岩	-	4-11 20070311
4-28-331 05000036	Z2 区画	打製石器 RF	34.9	25.7	5.9	3.6	黒曜岩	-	4-11 20070312
4-28-332 03000813	B2 区画	打製石器 RF	50.2	21.0	6.6	5.4	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070313
4-28-333 05000009	A2 区画	打製石器 R F	64.2	17.2	6.0	5.6	黒曜岩	-	4-11 20070314
4-28-334 03000817	B3 区画	打製石器 RF	46.5	27.0	7.5	6.8	黒曜岩	使用痕あり	4-11 20070315
4-28-335 05000065	Z2 区画	打製石器 R F	44.8	24.2	7.9	7.8	無斑晶質 安山岩	-	4-11 20070316
4-28-336	Z2 区画	打製石器	24.2	18.2	6.0	2.2	黒曜岩	-	4-11
05000019 4-28-337	A2 区画	M F 打製石器	28.4	14.3	4.5	1.2	黒曜岩	使用痕あり	20070317 4-11
03000816 4-28-338		M F 打製石器						K/IIIKW 7	20070318 4-11
05000035	Z2 区画	M F	36.8	19.2	8.3	4.0	黒曜岩	-	20070319
4-28-339 05000029	Z2 区画	打製石器 M F	36.1	16.4	4.5	2.2	黒曜岩	-	4-11 20070320
4-28-340 05000022	Z2 区画	打製石器 MF	40.1	15.6	4.2	2.8	黒曜岩	-	4-11 20070321
4-28-341 05000020	Z2 区画	打製石器 M F	38.6	16.2	5.9	3.4	黒曜岩	-	4-11 20070322
4-28-342 05000030	Z1 区画	打製石器 M F	42.0	17.9	5.7	4.4	黒曜岩	-	4-11 20070323
4-28-343	A2 区画	打製石器	50.3	14.8	8.2	7.2	黒曜岩	-	4-11
05000012 4-28-344	A2 区画	M F 打製石器	49.9	14.2	5.0	2.1	黒曜岩	使用痕あり	20070324 4-11
03000815 4-28-345		M F 打製石器					無斑晶質	(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)(火川)	20070325 4-11
05000049 4-29-346	Z2 区画	M F 打製石器	48.3	20.0	4.5	4.2	安山岩	-	20070326
05000016	A3 区画	M F	41.2	21.4	6.1	3.8	黒曜岩	-	20070327
4-29-347 05000021	A3 区画	打製石器 M F	43.6	27.8	10.9	7.4	黒曜岩	-	4-11 20070328
4-29-348 05000013	Z2 区画	打製石器 M F	52.9	21.3	8.1	6.2	黒曜岩	-	4-11 20070329
00000013	1	141 1	l	I.		1	L	l .	1 20010020

表4-4 2・3区縄文時代の遺構外出土石器

			衣4			神 文 内 1 い	ж		
挿図一番号	出土位置	種別		寸法 mm		重量	石材	備考	写真図版
登録番号	山工亚国	器種	長さ	幅	厚さ	g	11111		写真登録番号
4-29-349	50 HT	打製石器					m ess ()		4-11
05000023	Z2 区画	M F	51.2	19.2	6.5	5.4	黒曜岩	-	20070330
4-29-350		打製石器					mesuli	Merry de la la	4-11
05000950	A2 区画	M F	55.1	16.9	5.6	4.5	黒曜岩	使用痕あり	20070331
4-29-351	P. P. P. P.	打製石器		0.4			mesuli		4-11
05000952	B3 区画	M F	51.5	21.5	4.3	5.5	黒曜岩	-	20070332
4-29-352	P. P. P. P.	打製石器					magaili	Merry de la la	4-11
03000820	B3 区画	M F	52.6	23.7	5.6	4.9	黒曜岩	使用痕あり	20070333
4-29-353		打製石器					en en il		4-11
05000017	Z2 区画	M F	49.4	21.1	6.5	6.0	黒曜岩	-	20070334
4-29-354		打製石器					en en il		4-11
05000025	Z2 区画	M F	52.0	26.8	4.8	5.8	黒曜岩	-	20070335
4-29-355		打製石器							4-11
05000027	Z3 区画	M F	56.0	26.1	10.8	10.6	黒曜岩	-	20070336
4-29-356		打製石器					po em il i	them (L.Y.)	4-11
03000814	A3 区画	M F	58.5	31.3	7.6	9.1	黒曜岩	使用痕あり	20070337
4-29-357		打製石器					po em ti		4-11
05000028	Z2 区画	M F	64.5	14.8	4.3	4.8	黒曜岩	-	20070338
4-29-358		打製石器					po em ti	11+1-	4-11
05000014	Z3 区画	M F	67.1	14.9	5.0	4.6	黒曜岩	被熱?	20070339
4-29-359		打製石器					po em ti	thems (L. Y.)	4-11
03000818	A3 区画	M F	68.6	21.7	7.6	9.2	黒曜岩	使用痕あり	20070340
4-29-360	P. P. P. P.	打製石器					DD #321 [1		4-11
05000951	B3 区画	M F	62.4	27.2	9.3	12.2	黒曜岩	-	20070341
4-29-361	50 PT	打製石器					無斑晶質		4-11
05000068	Z2 区画	M F	61.5	35.5	12.0	25.8	安山岩	-	20070342
4-29-362	70 DE	打製石器	00.4	40.7	110	01.0	無斑晶質		4-11
05000055	Z2 区画	M F	62.4	48.7	11.0	21.0	安山岩	-	20070343
4-29-363	10 5 =	打製石器	00.7	40.0	100	00.0	無斑晶質		4-11
05000069	A2 区画	M F	82.7	49.9	19.0	86.8	安山岩	-	20070344
4-30-364	+: 149	打製石器	40.4	100	- 1		DD #33 LLJ		4-11
05000945	表採	剥片	42.4	12.0	5.4	1.5	黒曜岩	-	20070345
4-30-365	70 E/=	打製石器	25.0	22.0	10.5	10.0	田畑山		4-11
05000946	Z2 区画	石核	35.8	23.0	13.5	12.6	黒曜岩	-	20070346
4-30-366	70 F.E	打製石器	000	00.0	100	01.1	無斑晶質		4-11
05000947	Z3 区画	石核	36.8	39.6	16.0	21.1	安山岩	-	20070347
4-30-367	70 H	磨製石器	00.0	040	5.0	20.1			4-11
05000384	Z2 区画	両端抉入石器	93.0	24.3	5.8	20.1	-	-	20070348
4-30-368	10 EZ=	磨製石器	20.2	20.0	C 4	7.0			4-11
05000386	A3 区画	両端抉入石器	36.3	23.3	6.4	7.3	-	-	20070349
4-30-369	DO EZ esti	礫石器	101.0	100.0	42.5	070.0			4-11
03000825	B3 区画	磨石	121.8	108.9	43.5	979.8	-	-	20070350
4-30-370	Do 区画	礫石器	100.0	07.4	E1.7	757.1			4-11
03000827	B3 区画	敲石	108.8	97.4	51.7	757.1			20070351
4-30-371	B3 区画	礫石器	123.7	87.7	57.8	965.1			4-11
03000826	四〇 CO	磨石	123.1	01.1	37.8	903.1		<u>-</u>	20070352
4-30-372	B3 区画	礫石器	438.0	307.5	81.0	16000.0	花崗岩		4-11
05000958	D3 区間	石皿	436.0	307.3	01.0	10000.0	16 両右		20070353

3 弥生時代~近世の遺構と遺物

1) 弥生時代~古墳時代の遺構と遺物

遺構としては古墳時代の土坑 1 基が確認され、遺物は弥生土器・土師器がごく少量出土しているだけであるが(図 4-33)、これらの資料は脊振山間部での当該時期の様相を知る上で貴重である。

SK3010 は3区北部に位置しており、検出面の標高は約301.8 mで、近世の遺構面より0.2 mほど低い。長軸1.25 m、短軸0.9 mの不整な隅丸長方形で、遺構の深さは0.3 mである。検出面付近と底面付近から土師器が出土した。373 はSK3010 から出土した土師器小甕で、内面はヘラケズリ、外面は調整不明である。374 は検出面から出土した弥生土器甕底部で、内面はハケメをナデ消しておらず、底面に何らかの圧痕がみられる。

2) 中世~近世の遺構と遺物

遺構としては中世の土坑1基、近世の掘立柱建物4棟、柵列2条などが確認されたが、ほとんどの遺構が2区北 半部と3区に位置している。調査区東側は山裾が迫り、西側には神水川が流れていることから、同時期の遺跡の広 がりは3区東側の民家までの狭い範囲に限られるものと推測される。

SK2007 (図4-34)

2区東部に位置しており、検出面の標高は約301.4 mである。長軸0.95 m、短軸0.55 mの不整な隅丸長方形で、深さは0.06 mである。埋土中から土師器小皿、周辺から土坑に伴う可能性がある土師器小皿・杯が出土しているが、出土状況の記録類がほとんどないため、遺構の性格は不明である。出土土師器から13世紀中頃と考えられる。

SK2007 出土遺物(図4-40)

 $375 \sim 380$ は土師器小皿で、底部糸切り離しである。歪みが大きいものがあるが、口径 $7.8 \sim 9.4$ cm、器高 $1.4 \sim 1.8$ cm である。381 は土師器杯で、底部糸切り離しである。

SD2022 (図4 − 34)

2区南部に位置しており、検出面の標高は299.3~300.5 mである。走行はやや蛇行しているが、ほぼ東西方向で、約32 m確認され、最大幅は3.0 m、深さ0.8 mである。断面は立ち上がりが緩やかなU字形の部分が多く、平面など全体の形状や土層からみて人為的なものではない。長軸の西側延長上は谷地形となっており、自然流路と推測される。遺物は土師器杯・竜泉窯系青磁碗・白磁片などが出土しており、遺物や周辺の状況などから近世には埋没していたと考えられる

SD2022 出土遺物 (図 4 - 40)

382・383 は土師器杯で、383 は底部糸切り離しである。384 は竜泉窯系青磁碗Ⅲ-2 C 類である。

SB2034 (図4 − 35)

2区北側に位置しており、検出面の標高は $301.1 \sim 301.6$ mである。発掘作業時には 1 間× 6 間の掘立柱建物で、すぐ東側に平行して 10 間の SA2035 が存在すると考えられていたが、SB2034 東辺と SA2035 の柱穴の配置がほぼ対応することと、SA2035 の主軸が SB2034 の南辺に対応する部分でやや変化することから、SB2034 を東面に庇が付く掘立柱建物、SA2035 を 4 間の柵列として報告することにする。なお、この周辺の遺構配置は柱穴などの個別図を平板図にはめ込み、全体を図化しているので、正確性をやや欠いている。

SB2034 は身舎が梁間2間、桁行6間(11.8 m)で東面に1間の庇が付く掘立柱建物で、主軸をN26°Eにとる南北棟である。梁行は南辺 4.25 m、北辺 3.65 mで、平面がやや不整形になる。桁行の柱間は6 R 5 寸と推定される。



図 4-31 2・3 区古墳時代~近世遺構の分布 (1/400)

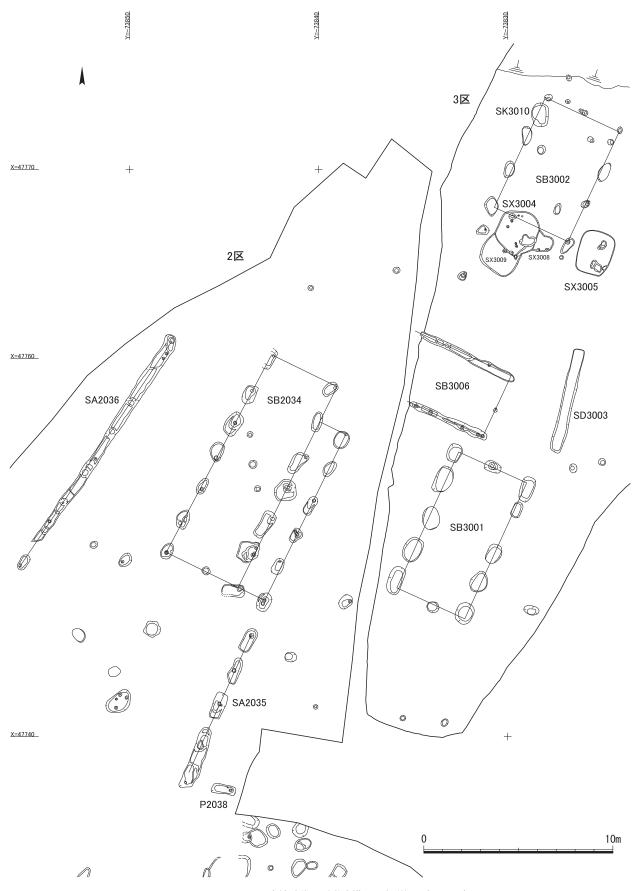


図 4 - 32 2・3 区古墳時代~近世遺構の分布詳細 (1/200)

柱穴は不整形のものが大部分であるが、隅丸長方形または楕円形基調と推定され、長軸 $0.9 \sim 1.5 \text{ m}$ と大型である。ただ、埋土の認識が難しかったためか、掘方はやや不正確で、PA に対応する庇の柱穴を検出できなかった可能性がある。確認できた柱痕跡は径約 15 cm である。遺物は瓦器釜・土師器杯が出土した。

SB2034 出土遺物 (図4-40)

385 は瓦器茶釜、386 は土師器杯で、底部糸切り離しか。387・388 は土師器杯で、同一個体の可能性が高い。 底面ケズリで、糸切り痕を残さない。精選された胎土で、器壁は薄く、焼成も良好である。

SB3001 (図4-36)

3区南部に位置しており、検出面の標高は約302.4 mである。梁間2間 (3.95 m)、桁行5間 (7.9 m) の掘立柱建物で、主軸をN24.5° E にとる南北棟である。柱間は梁行、桁行とも6尺5寸と推定されるが、PAとPBの間隔は狭い。PB は他の柱穴と比べやや小規模で浅く、上屋構造と関係する可能性がある。柱穴は隅丸長方形基調と考えられ、長軸 $1.0\sim1.5$ mと大型である。柱痕跡は確認できていない。遺物は明青花、肥前陶器が出土した。SB3001 出土遺物(図4-40)

389 は景徳鎮窯系青花皿もしくは碗である。390 は肥前陶器で、碗か。鉄釉の上に灰釉を流しかけている。

SB3002 (図4-37)

3 区北部に位置しており、検出面の標高は 301.8 \sim 302.3 mである。梁間 2 間 (4.3 m)、桁行 3 間 (6.4 m) の掘立柱建物と考えられ、主軸を N25.5° E にとる南北棟である。柱間は梁行、桁行とも 7 尺と推定される。柱穴は楕円形または円形基調で、径 $0.4 \sim 1.1$ mであるが、北辺の柱穴は小規模で、庇の可能性がある。また、南辺近くに位置する SX3004 は SB3002 に関連する可能性がある。遺物は土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

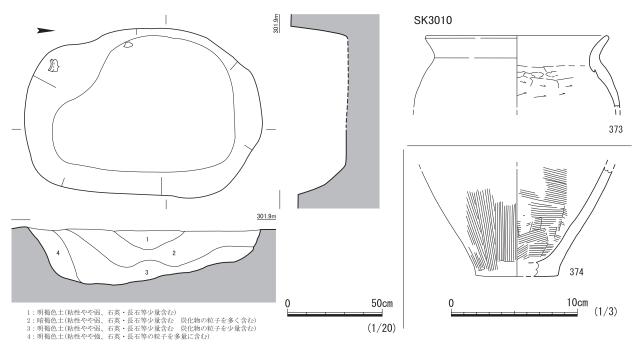
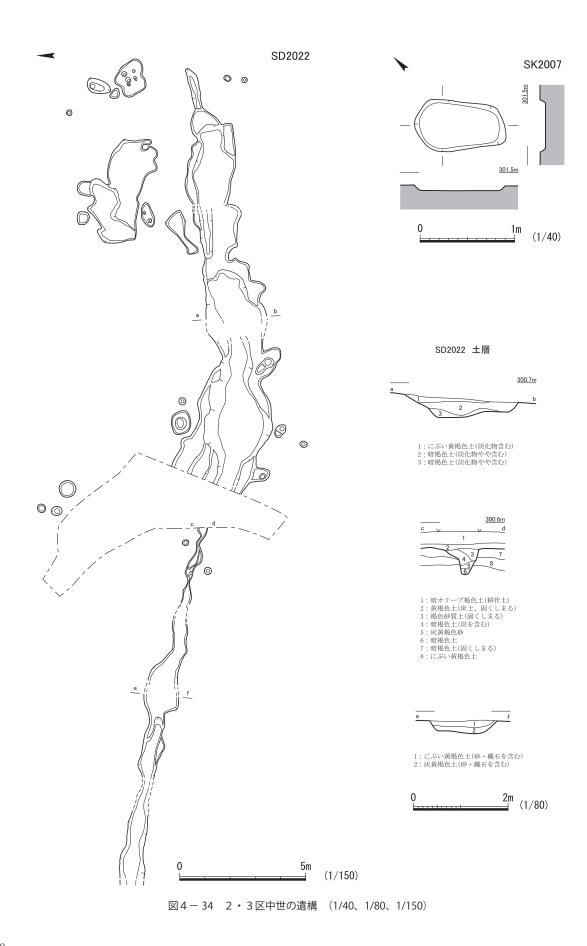


図4-33 2・3区弥生~古墳時代の遺構(1/20)・遺物(1/3)



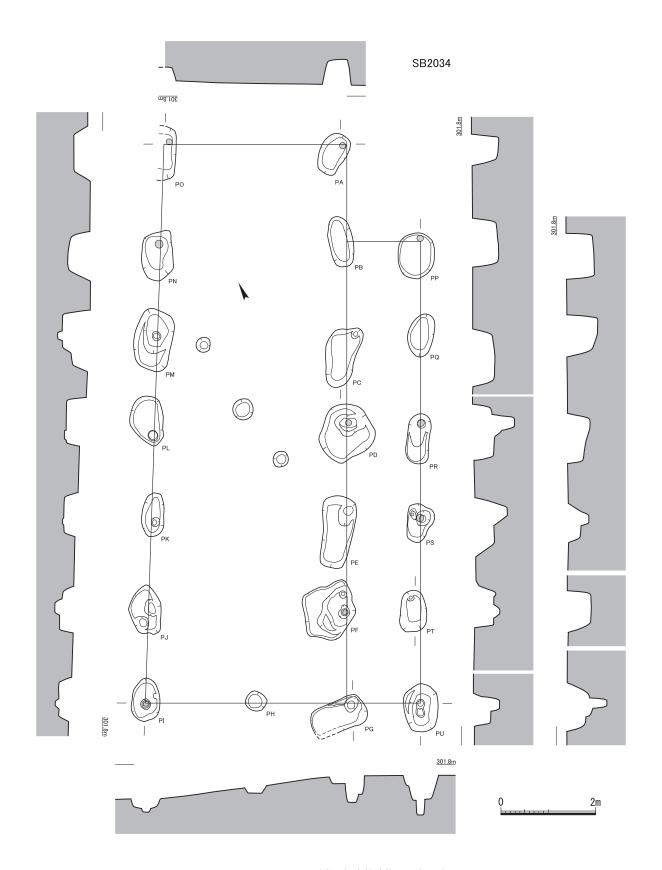


図4-35 2・3区近世の掘立柱建物1 (1/80)

SB3006 (図4-37)

3区中央部やや西寄りに位置しており、検出面の標高は $302.3 \sim 302.5 \text{ m}$ である。幅 0.4 mの 2条の溝が平行しており、柱痕跡などは確認されていないが、形状などから布掘りの掘立柱建物と考えられる。梁間 2 間 (3.54 m)、桁行は 5.2 m以上で、主軸を 8.65 m にとる東西棟である。遺物は外耳をもつ瓦器鍋、土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

SA2035 (図4-38)

2区中央部やや北寄りに位置しており、検出面の標高は $301.3 \sim 301.6$ mである。SB2034 の項で述べたように、整理段階で 4間の柵列と判断した。主軸は N24°E で、SB2034 の庇に連続するように配置されている。PA で径 15cm の柱痕跡が確認され、柱穴の形状から柱間は 6 尺 5 寸の可能性がある。柱穴は隅丸長方形基調で、長軸約 1.4 mと大型である。ただ、前述したように埋土の認識が難しかったためか掘方にはやや疑問が残る。また、PD 東側 に同様の柱穴(P2038)が検出されており、関連するかもしれない。遺物は白磁皿が出土した。

SA2035 出土遺物 (図4-40)

391 は白磁皿で、高台内は露胎である。

SA2036 (図4-38)

2区北部に位置しており、検出面の標高は $300.5\sim301.1~\text{m}$ である。幅 $0.4\sim0.7~\text{m}$ の溝状の遺構で、ほぼ一定の間隔で柱穴状に掘り込まれた部分が検出されていることから、溝南西の柱穴を含めて布掘りの柵列で、目隠し塀と推定される。主軸は N34.5° E で、他の掘立柱建物や柵列とやや方位が異なり、地形に沿って建てられたものと考えられる。断面の形状から 7 間の柵列で、柱間は 6 尺 5 寸ないし 6 尺と推定されるが、 1 ヶ所 8 尺 5 寸ほどと広い部分がある。遺物は出土していない。

SX3004 (図4-39)

3区北部に位置しており、検出面の標高は約302.3 mである。長軸 2.3 m、短軸 2.2 mのやや不整な隅丸方形で、深さ0.1 mである。埋土には炭化物が多く含まれ、炭化物には竹などが認められた。炭化物上面から完形の土師器杯がふせた状態で出土している。前述のようにSB3002 と関連する可能性がある。なお、SX3004 より古い時期の浅い土坑が2基(SX3008・3009) 検出されているが、時期・性格などは不明である。

SX3004 出土遺物(図 4 - 40)

392 は土師器小皿で、底部糸切り離しである。油煤が付着しており、灯明皿と考えられる。

SX3005 (図4-39)

3区北部に位置しており、検出面の標高は約302.4 mである。長軸2.3 m、短軸1.8 mのやや不整な隅丸長方形で、深さ0.1 mである。SX3004と同様埋土に炭化物が多く含まれ、集中する部分もある。遺物は土師器片が出土したが、細片のため図示していない。

SD3003 (図4-39)

3区中央部に位置しており、検出面の標高は約 302.5 mである。長さ 5.7 m、幅 0.65 m、深さ 0.15 mで、主軸は N14° E である。遺物は出土していないが、掘立柱建物などとは方位が異なり、2 区と 3 区の間の段落ちにほぼ平行することから、近代以降である可能性がある。

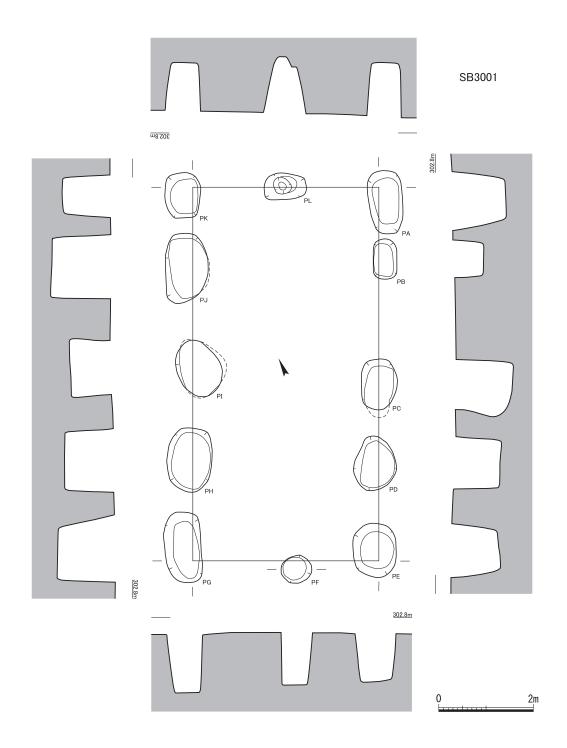


図4-36 2・3区近世の掘立柱建物2 (1/80)

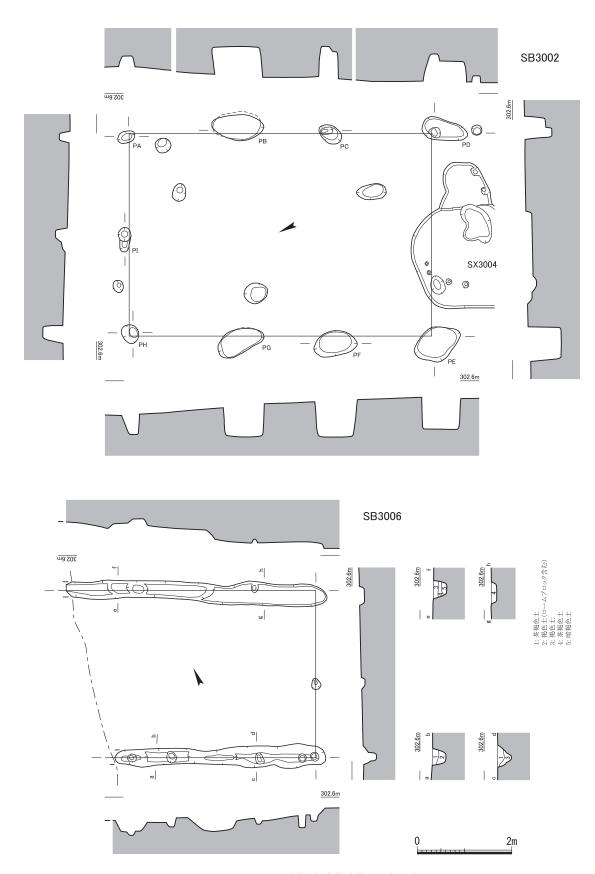


図4-37 2・3区近世の掘立柱建物3 (1/80)

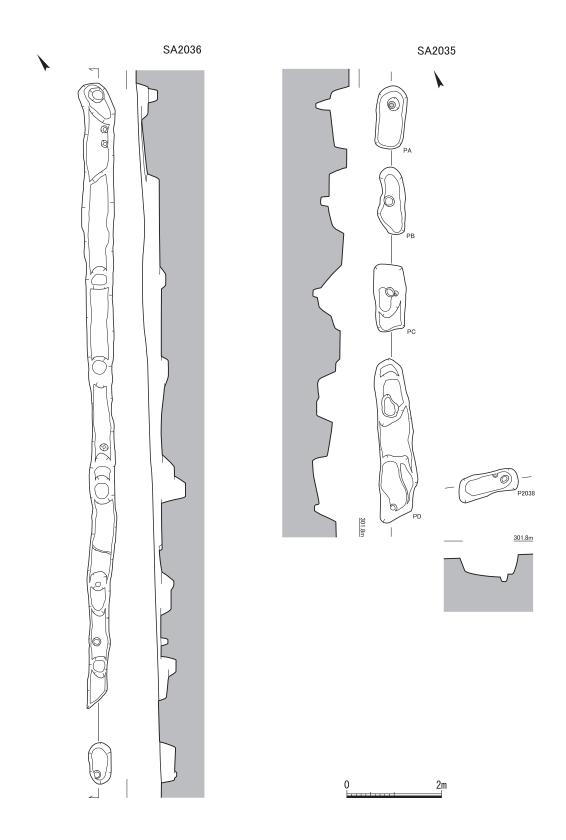
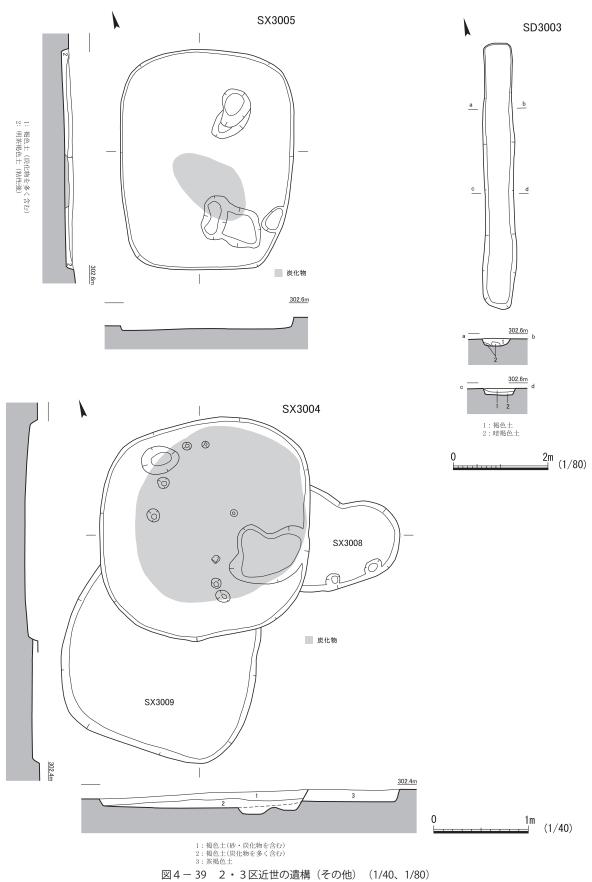


図4-38 2・3区近世の柵列 (1/80)



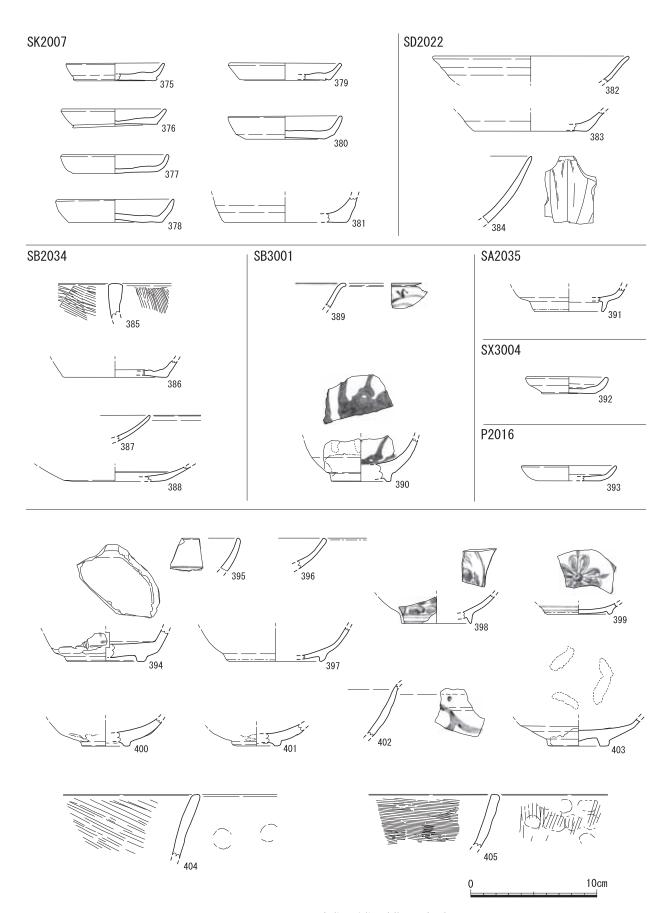


図4-40 2・3区中世〜近世の遺物1 (1/3)

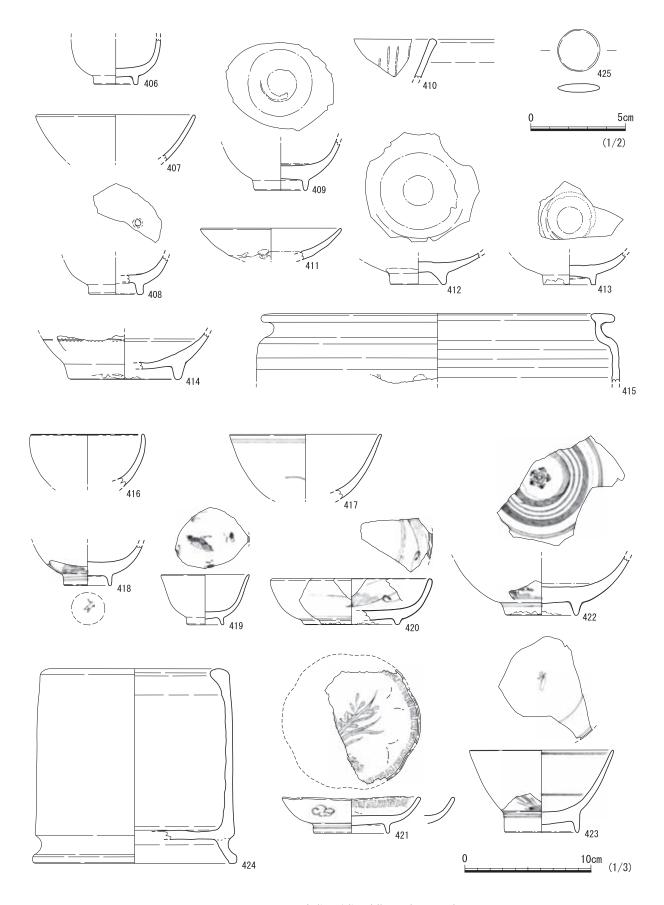


図4-41 2・3区中世~近世の遺物2 (1/2、1/3)

小穴出土遺物(図4-40)

393 は P2016 から出土した土師器小皿で、底部糸切り離しである。

遺構に伴わない遺物 (図4-40・41)

394 は高麗青磁象嵌角鉢で、全面に施釉され、高台に目跡が残る。395 は高麗青磁象嵌碗である。396 は朝鮮 陶器皿で、口縁端部を釉剥ぎしている。397は景徳鎮窯系白磁皿で、高台に砂が付着する。

398・399 は景徳鎮窯系青花皿である。399 はやや粗製で、高台と高台内中央に砂が付着する。

400・401 は岸岳窯系陶器皿で、藁灰釉を施釉する。402 は肥前陶器碗で、外面に鉄釉で文様を描く。403 は 肥前陶器皿、404・405 は瓦器鍋である。

 $406 \sim 423$ は近世の陶磁器で、水田の造成土や撹乱部などから出土しており、ほとんどが $18 \sim 19$ 世紀のもの で、近世初期の建物群廃絶後の資料である。410は福岡産の可能性がある陶器鉢で、内面に意図的に白色の縦方 向の線を施している。422 は波佐見系の可能性がある肥前色絵で、大振りの碗もしくは鉢である。見込み蛇の目 釉剥ぎ後赤絵を施しており、波佐見でも赤絵が行われた可能性を示す資料である。

424 は瓦器火鉢、425 は黒の碁石である。

白磁

Ш

4-40-391

07000997

SA2035

PD

挿図 - 番号	出土位置	種別		寸法 cm		色調	備考	写真図版
登録番号		器種	口径	底径	器高			写真登録番号
4-33-373 07001025	SK3010	土師器 小甕	14.6*	-	-	橙	-	-
4-33-374 02002186	D4 区画	弥生土器 甕	-	6.5*	-	橙	-	-
4-40-375 02002176	SK2007	土師器 小皿	7.8*	6.6*	1.4	にぶい橙	底部糸切	-
4-40-376 02002174	SK2007	土師器 小皿	8.3	6.7	1.5	にぶい橙	底部糸切	4-16 20071313
4-40-377 02002177	SK2007	土師器 小皿	8.5	6.7	1.5	にぶい褐	底部糸切	4-16 20071314
4-40-378 02002180	SK2007	土師器 小皿	9.4*	7.6	1.8	外:にぶい橙 内:橙	底部糸切、歪みが大きい	-
4-40-379 02002179	SK2007 周辺	土師器 小皿	9.0*	7.1*	1.4	にぶい橙	底部糸切	-
4-40-380 02002178	SK2007 周辺	土師器 小皿	9.0*	6.4	1.8	外:にぶい橙 内:橙	底部糸切、板状圧痕	4-16 20071315
4-40-381 02002181	SK2007 周辺	土師器 杯	-	9.7*	-	橙	底部糸切、板状圧痕	-
4-40-382 02002183	SD2022 C6 区画	土師器 杯	15.6*	-	-	橙	-	-
4-40-383 02002182	SD2022 C6 区画	土師器 杯	-	9.0*	-	淡黄	底部糸切	-
4-40-384 02002185	SD2022 D6 区画	青磁碗	-	-	-	胎土:灰白 釉調:明緑灰	竜泉窯系Ⅲ−2℃類	4-16 20071316
4-40-385 07000994	SB2034 PF	瓦器 茶釜	-	-	-	外:灰 内:淡黄	-	-
4-40-386 07000992	SB2034 PK	土師器 杯?	-	8.1*	-	にぶい黄橙	底部糸切?	-
4-40-387 07000995	SB2034 PD	土師器 杯	-	-	-	にぶい黄橙	胎土精選、388 と同一個体か	4-16 20071317
4-40-388 07000996	SB2034 PD	土師器 杯	-	6.8*	-	外:淡黄 内:灰	胎土精選、387と同一個体か	4-16 20071318
4-40-389 07001023	SB3001 PG	青花 皿 (碗 ?)	-	-	-	胎土:乳白 釉調:藍白	景徳鎮窯系、16 C	4-16 20071319
4-40-390 07001022	SB3001 PH	陶器 碗?	-	4.7*	-	胎土:灰白 釉調:灰褐	肥前?、1590~1630年代、 灰釉(オリーブ黒色)流しかけ	4-16 20071320
			-		_	1		+

胎土:灰白

釉調:灰白

5 7

中国、16C

表4-5 2・3区弥生時代~近世の遺物

4-16

20071321

表4-5 2・3区弥生時代~近世の遺物

				仅4—	<i>J</i> 2	• 3 区外王时代。近世0	7.257///	
挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	口径	寸法 cm 底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
4-40-392 07001024	SX3004	土師器 小皿	6.6	4.3	1.4	にぶい橙	底部糸切、油煤付着	4-16 20071322
4-40-393 07000993	P2016	土師器	7.6*	5.0*	1.2	にぶい橙	底部糸切	-
4-40-394 02002190	造成土	青磁象嵌角鉢	-	6.1*	-	胎土:灰 釉調:オリーブ灰	高麗、14 C後半	4-16 20071323 • 1324
4-40-395 02002187	造成土	青磁象嵌	-	-	-	胎土:灰白 釉調:オリーブ灰	高麗、14 C後半	4-16 20071325
4-40-396 07001017	Z1 区画	陶器	-	-	-	胎土:灰白 釉調:灰	朝鮮、15~16 C	4-16 20071326
4-40-397 02002192	造成土	白磁	-	6.7*	-	胎土:灰	景徳鎮窯系、16 C	4-16
4-40-398	造成土	青花	-	5.5*	-	和調:灰白 胎土:灰白	景徳鎮窯系、16 C前半~中頃	20071327 4-16
02002191 4-40-399	造成土	青花	-	4.9*	-	釉調:明緑灰 胎土:灰白	景徳鎮窯系、16 C 前半~中頃	20071328 · 1329 4-16
02002189 4-40-400	Z1 区画	陶器	_	3.8*	_	釉調:灰白 胎土:灰黄	岸岳窯系、1580~1590年代、	20071330 • 1331 4-16
07001014 4-40-401	Z1 区画	Ⅲ 陶器		3.8*		和調:明緑灰 胎土:灰白	藁灰釉 岸岳窯系、1580 ~ 1590 年代、	20071332 4-16
07001015 4-40-402		III 陶器		3.0		釉調:明緑灰 胎土:灰白	藁灰釉 	20071333 4-16
07001018 4-40-403	Z1 区画	碗 陶器	-		-	釉調:灰オリーブ 胎土:灰白	肥前、1590~1610年代、鉄絵	20071334 4-16
02002193 4-40-404	造成土	皿 瓦器	-	4.7	-	釉調:灰白 外:灰黄	肥前、1610~1650年代	20071335
07001020 4-40-405	A3 区画	鍋 瓦器	-	-	-	内:灰白 外:にぶい黄橙	徳永V類	-
07001021 4-41-406	Z1 区画	鍋陶器	-	-	-	内:にぶい黄橙・褐 胎土:灰白	徳永IV類	-
07001007	Z1 区画	小碗	-	3.5*	-	和調:浅黄・灰白 胎土:浅黄橙	肥前、18 C後半~ 19 C前半	-
07001006	Z1 区画	碗	12.7*	-	-	釉調:にぶい黄	肥前、18 C前半、口縁部に鉄釉	-
4-41-408 07001008	Z1 区画	陶器 碗	-	4.4*	-	胎土:極暗赤褐 釉調:にぶい黄褐	肥前、18 C、 見込みに足付ハマの溶着	-
4-41-409 07001010	Z1 区画	陶器 碗	-	4.1*	-	胎土:浅黄橙 釉調:淡黄	肥前、18 C前半、 見込み蛇の目釉剥	-
4-41-410 02002194	造成土	陶器 鉢?	-	-	-	胎土:淡黄 釉調:黒	福岡?、江戸後期	4-16 20071336
4-41-411 07001016	Z1 区画	陶器 皿	11.2*	-	-	胎土:灰白 釉調:暗青灰	肥前、嬉野?、18 C前半、 見込み蛇の目釉剥	-
4-41-412 07001011	Z1 区画	陶器 皿	-	4.4	-	胎土:灰白 釉調:灰白	肥前、波佐見?、18 C、 見込み蛇の目釉剥、焼成不良	-
4-41-413 07001012	Z1 区画	陶器 Ⅲ	-	4.2	-	胎土:灰白 釉調:灰	肥前?、18 C、見込み蛇の目釉剥	-
4-41-414 07001009	Z1 区画	陶器 瓶	-	8.8*	-	胎土:にぶい褐 釉調:灰白	肥前、18 C、刷毛目装飾	-
4-41-415 07001013	Z1 区画	陶器 甕	28.1*	-	-	胎土:にぶい黄橙 釉調:浅黄・灰白	福岡か肥前、19 C 下に灰釉、上に藁灰釉	-
4-41-416 07000999	Z1 区画	白磁 (染付?) 碗	9.0*	-	-	胎士:灰白 釉調:銀鼠	肥前、吉田窯?、口錆、 (17 C後半~) 18 C	-
4-41-417 02002188	造成土	染付碗	12.0*	-	-	胎土:灰白 釉調:灰白	肥前、17 C後半~ 18 C前半	-
4-41-418 07001002	Z1 区画	染付碗	-	3.8	-	胎土:灰白 釉調:藍白	肥前、高台内「大明年製」	-
4-41-419 07001000	Z1 区画	染付 小杯	7.0*	3.0	4.0	胎土:乳白 釉調:灰白~藍白	肥前、19 C初~幕末	-
4-41-420	A2 区画	染付	12.9*	7.6*	3.7	胎土:灰白	肥前、18 C後半	-
07001001 4-41-421	Z1 区画	染付	11.0*	6.0*	-	釉調:灰白 胎土:乳白 釉調:乳白	肥前、1820~1860年代 黔东士会 - 梅肃不良	-
07001005 4-41-422	Z1 区画	色絵	-	5.7*	-	釉調:乳白 胎土:白	輪花六弁、焼成不良 波佐見系?、18 C後半	4-16
07001004 4-41-423	Z1 区画	碗 (鉢?) 染付	11.4*	5.9*	6.6	釉調:藍白 胎土:白	赤絵、見込み蛇の目釉剥 肥前、19 C前半、見込み「寿」	20071337
07001003 4-41-424	Z1 •	碗 瓦器	15.0*	16.1*	15.5	釉調:明緑灰 外:黒・暗灰黄		_
07001019 4-41-425	Z2 区画 丰坪	火鉢 石製品		10.1		内:灰・暗灰黄		-
07000998	表採	碁石	径 2.3	-	厚 0.5	暗灰	-	-

4 まとめ

大野遺跡2・3区では縄文時代、弥生時代~古墳時代、中世~近世の遺構・遺物を調査した。以下、今次調査でも特に重要な成果である縄文時代後期の集落跡と近世初期の建物群について簡単にまとめておきたい。

1)縄文時代後期の集落について

大野遺跡 2・3 区下層の縄文時代集落は、後期後葉の三万田式期に形成された小規模なもので、竪穴住居 1 棟、 土坑 5 基、地床炉の可能性がある焼土遺構 21 基、集石 1 基、炭化物集中 2 箇所を検出した。

縄文土器は、器形や文様などから後期後葉の三万田式に比定できる。同様な器形での大小の違いや浅鉢が数種に分化しているなどの三万田式期の時期的特徴と、精製土器と粗製土器の差が比較的明瞭で粗製深鉢の占める割合が高く精製鉢・浅鉢は少ないなどの北部九州の地域的特徴がよく現れている。後続する鳥井原式かと思われる資料が一、二あるものの、先行する太郎迫式と判断できる資料はなく、狭義の三万田式単純に近い様相を示す土器群と評価できる(注1)。

石器は、削器や微細剥離痕ある剥片などの刃器類がもっとも多く、黒曜岩製石刃を素材とするものが一定の割合を占める。ただ、石刃やその他の素材剥片を剥ぎ取った石核の数は非常に少なく、多くが遺跡外に持ち出されたものと考えなければならない。黒曜岩製石刃は、打面が小さく細かな頭部調整を施すものが多く、打面と剥離作業面との境にスリガラス状擦痕を留めるものがあることから、この時期に盛行する鈴桶型石刃技法(小畑 2002)によるものと判断される。石鏃は刃器類に比べると少なく、両面調整の凹基のものが主体である。剥片鏃の割合は低く、その製作に伴ういわゆる「つまみ形石器」も確認できたのは1点のみである。磨石・石皿も少量で、両端抉入石器が4個体出土したことは特筆されるが、磨製石斧はみられない。後期後葉の遺跡から多く出土する扁平打製石斧は1例もなく、川に近い立地にもかかわらず石錘も確認されていない。

竪穴住居は1棟のみで埋設土器などもなく、土器の時間幅は狭く、磨製石斧や扁平打製石斧を欠き石核も持ち出されていて、土偶や石棒などの祭祀具も欠くなど、短期間に営まれた臨時的な集落の一例を示しているものと考えられる。同時期の拠点となる集落は、山間部の別の場所か山を降りた平野部・海岸部のいずれかにあったのであろう。地理的位置を考えると、大野2・3区縄文集落の母体は佐賀平野よりも唐津・前原方面が想定しやすい。

両端抉入石器は、縄文時代後期後葉~晩期中葉の遺跡で特徴的に見られる磨製石器で、佐賀県内でも鳥栖市蔵上遺跡(鳥栖市教委 2000)の8例を最多として、基山町白坂遺跡(基山町教委 1988)や伊万里市源平岩洞穴遺跡(佐賀県教委 1973)などで出土例がある。この種の石器は丁寧な研磨と破損しやすい石材の使用から祭祀具の一種として扱われることが多かったが、中間(1997)では紡織具などの実用品の可能性が示されており、先述した大野 2・3 区縄文集落の内容は実用品説を支持するものと言える。今のところ具体的な用途は判らないが、SX3027出土の57には不明瞭ながら横方向の帯状の異色部が観察され、使用時の緊縛痕の可能性がある。

2) 近世初期の建物群について

2・3区で確認された建物群は、SB2034・3001・3002・3006、SA2035の主軸がいずれも真北から約25°東に振れており、ほぼ主軸方向をそろえて企画的に配置されている。SA2036は主軸がやや異なるものの、地形に沿って建てられた影響と推測され、単独で存在したとは考えにくいので、以上の建物群は同時期とみてよいだろう。柱間については、6尺5寸を基準としているものが多いと推測されるが、SB3002は7尺と推定され、基準が異なっている可能性がある。

このような企画的な建物配置や目隠し塀があることなどから、これらの建物群は一般的な集落ではなく、役所的な性格を持っていたものと推測される。建物のうち、桁行6間のSB2034は長屋的な建物で、詰所のような性格

が考えられる。SB3002の周辺には埋土に炭化物が多く含まれているSX3004・3005が存在しており、SB3002の性格に関連がある可能性がある。

建物群の時期については、柱穴から 16 世紀代の青花・白磁、肥前陶磁 I 期の陶器が出土しており、1600 年前後の年代が推定される。遺構外出土遺物をみると、当該時期の遺物は少量、後続する肥前陶磁 II・Ⅲ期の遺物はごくわずかで、大多数はIV・V期のものである。このような傾向や建物の建て替えがみられないことから、建物群の存続時期はごく短期間であったことが推定される。

大野地区における近世の役所としては、小城支藩の大野代官所の存在がまず頭に浮かぶ。ただ、大野代官所の設置時期について文献資料では明らかではない。代官所跡の確認調査では出土遺物の大部分が19世紀代の陶磁器で(富士町教委2003)、石垣の構築技術からも江戸時代後期に整備されたことが推測される。また『富士町史』に指摘されているように、江戸時代後期の絵図でも『小城郡山内郷』には代官所が描かれていないが、『小城郡山内郷大野村見取絵図』には明記されていることからも設置時期が示唆される(注2)。

このように、2・3区の建物群と代官所を直接的に結びつけるのは時期的に難しいが、後世に代官所が置かれることは示唆的である。大野地区は観音峠を経て唐津へ、また長野峠を経て前原へ抜ける街道が通じている交通の要所であり、そのような地理的条件から江戸時代後期に代官所が設置された可能性が高い。2・3区で確認された近世初期の建物群も同様に、街道近くに設けられ短期間存続した「出先機関」と推測される。

注

- 1) 三万田式とその前後の型式との分離については、富田 (1977・1983・1987) による。なお、この時期の精製浅鉢・鉢については北部九州と中部九州の違いはほとんどないが、深鉢の割合と器面調整に関しては大きな違いがあり、極論すれば地域を異にする別々の土器様式とみることもできる。
- 2) 天保9 (1838) 年に小城支藩領内の山内郷に目代が置かれたことと関連する可能性がある。

第4章 引用・参考文献

小畑弘己 (2002)「縄文時代の石刃-鈴桶型石刃技法について」『青丘学術論集』第20集 (財)韓国文化研究振興財団

九州近世陶磁学会(2000)『九州陶磁の編年』

基山町教育委員会(1988)『白坂遺跡』基山町文化財調査報告書第 11 集

佐賀県教育委員会(1973)『金剛島遺跡・源平岩洞穴遺跡発掘調査報告書』佐賀県文化財調査報告書第23集

太宰府市教育委員会(2000)『大宰府条坊跡 X V 一陶磁器分類編一』太宰府市の文化財第49集

富田紘一(1977)「まとめ」『鳥井原遺跡発掘調査報告書』 熊本市教育委員会

富田紘一(1983・1987)「太郎迫遺跡の縄文土器(1)・(2)-太郎迫式土器の設定-」『肥後考古』第4・6号 肥後考古学会

中間研志(1997)「Ⅲ クリナラ遺跡 D 各論 3 縄文晩期石器」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告—43—』 福岡県教育委員会

富士町史編さん委員会 (2000) 『富士町史』上巻・下巻 富士町

富士町教育委員会(2003a)『富士町内遺跡発掘調査報告書 平成7年~13年度』富士町文化財調査報告書第2集

水ノ江和同(1997)「北部九州の縄紋後・晩期土器―三万田式から刻目突帯文土器の直前まで―」『縄文時代』第8号 縄文時代文化研究会

森本朝子・片山まび(2000)「博多出土の高麗・朝鮮陶磁の分類試案―生産地編年を視座として―」『博多研究会誌』第8号 博多研究会

吉留秀敏(1993)「縄文時代後期から晩期の石器技術総体の変化とその評価―早良平野を中心として―」『古文化談叢』第30集(上) 九州古文化研究会

第5章 自然科学分析

1 佐賀市東畑瀬遺跡出土の縄文晩期土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定

国立歴史民俗博物館研究部 藤尾慎一郎・小林謙一

1) 調査概要

佐賀市(旧佐賀郡富士町)に所在する東畑瀬遺跡の調査によって出土した縄文晩期後半の黒川式に比定される 土器 3 点に付着した炭化物の炭素 14 年代を測定した結果、以下のような点が明らかになった。

測定したのは黒川式に比定された粗製深鉢と鉢形土器である。いずれも口縁部や胴部外面に付着した炭化物をAMS-炭素 14 年代測定した結果、2800 ¹⁴C BP 年代の測定値が出た。較正年代に直すと前 11 世紀を中心とし、これまで九州北部で国立歴史民俗博物館(以下、歴博)が測定してきた縄文晩期後半の較正年代と整合的である。また近接する大野遺跡から出土した縄文後期後葉三万田式の測定値 1 点もあわせて報告する。

2) 調査の経緯と資料の選定

2003 年 7 月に山の寺式が伴う黒川系土器が出土しているという情報を得た藤尾は、佐賀県教育庁文化課の松尾吉高氏の案内で現地を訪れ、整理担当の秦広之氏に調査内容をうかがった後、土器に付着した炭化物の採取をおこなった。総数は 11 点に及んだが測定値が出たのはわずか 3 点である。

以下、試料を採取した土器の説明、前処理、測定方法の順に述べ、最後に得られた炭素 14 年代について考察する。

3) 測定土器の考古学的位置づけ

包含層や土坑に伴って出土した土器群は、縄文系の粗製深鉢と精製土器、そして山の寺式、弥生化した前期の突帯文系土器である。弥生前期の突帯文系土器の測定値は得られなかったが、佐賀平野では弥生前期最古段階の突帯文系土器で、板付 I 式新〜板付 II a 式に併行すると考えられる。佐賀市礫石 B 遺跡:SA22 上甕の砲弾型一条甕の直後にくるものと考えている。

縄文系土器群の位置づけだが、試料採取時には山の寺式が一緒に出土していることから、縄文晩期末~弥生早期の晩期系土器という意味で黒川式新に比定した。この呼び名はその後も最古段階の突帯文土器に伴う晩期系土器群の名称として定着することになった。

写真図版 5-1 に示したように東畑瀬で測定値が出た資料は 3 点である。以下、測定した土器の考古学的な特徴を述べる。

資料 1 (04001850、FJ154)

包含層から出土した粗製鉢である。縄文晩期末~弥生早期の黒川式新に比定した。口縁部外面に付着した炭化物 を採取した。写真中の枠線で囲んだ部分が採取箇所である。外面は貝殻条痕調整である。

資料 2 (04001848、FJ149)

縄文晩期末~弥生早期の黒川式新に比定される砲弾型粗製深鉢である。胴部外面の各所に付着した炭化物を測定した。外面は貝殻条痕調整である。

資料3 (0401849、FJ159)

縄文晩期末~弥生早期の黒川式新に比定される砲弾型粗製深鉢である。内外面とも貝殻条痕調整である。胴部中位外面に付着した炭化物を測定した。

資料4(02002149、FJ160)

東畑瀬遺跡の土器ではなく近接する大野遺跡2区出土の土器である。縄文後期後葉の三万田式に比定されている。



写真図版5-1 炭化物の採取箇所(囲んだところが拡大箇所)縮尺不同

内外面に炭化物は付着していないものの、内面の胎土にかみこまれた 3mm 大の木炭を数個採取して測定した。外面は貝殻条痕調整、内面は貝殻条痕調整のあとナデ消しが見られる。底部だけを欠失していて、胴部下半に二次焼成の痕跡も認められないので、加熱処理をおこなう器種ではない可能性もある。

4) 炭化物の処理と炭化物の状態

炭化物の前処理は、国立歴史民俗博物館でおこなっている通常の手順(注1)で、2003 年度に歴博年代測定実験室において小林が AAA 処理(酸、アルカリ、酸による化学洗浄)を行った。前処理前と前処理後に顕微鏡下で肉眼観察し、試料が良好なことを確認した(写真図版 5 - 2)。前処理後の二酸化炭素化精製及びグラファイト化は地球科学研究所を通してアメリカのベータアナリィティック社に委託した。東畑瀬遺跡 6 点、大野遺跡 1 点について行ったが、前処理後の状況で炭素量不足のものがあり、結果的に東畑瀬遺跡 3 点、大野遺跡 1 点について年代測定を行うことができた。以下に、炭化物の拡大写真と、炭化物の採取量、処理量、前処理後の回収量、精製用の燃焼量、燃焼後の二酸化炭素の炭素相当量(以上 mg 単位)および、試料の状況を検討するのに適した二酸化炭素相当量 / 燃焼量で表される炭素含有率(%)を表示する。2 (FJ149) 以外は、50%以上と良好な炭素含有率である。2 (FJ149) が含有率 39%とやや低いが、土器付着物であるため若干のミネラルの混在があったためと考えられ、年代測定用試料としては特に支障ないと考える。

試料	採取量	処理量	回収量	燃焼量	炭素相当量(CO ₂)	炭素含有率(%)
1 (FJ154)	206	81	8.9	6.3	5.09	80.8%
2 (FJ149)	62	41	2.0	1.8	0.70	38.9%
3 (FJ159)	324	146	10.5	6.2	3.38	54.5%
4 (FJ160)	13	13	2.0	1.8	1.07	59.4%

表5-1 試料重量と炭素含有率

5) 測定結果と暦年較正

年代測定は、2003 年度に地球科学研究所を通してアメリカのベータアナリィティック社に委託した(測定機関番号 Beta)。なお、別に佐賀県教育委員会でも同一試料をパレオ・ラボ社に委託した測定結果があるので、あわせて較正年代を検討する。

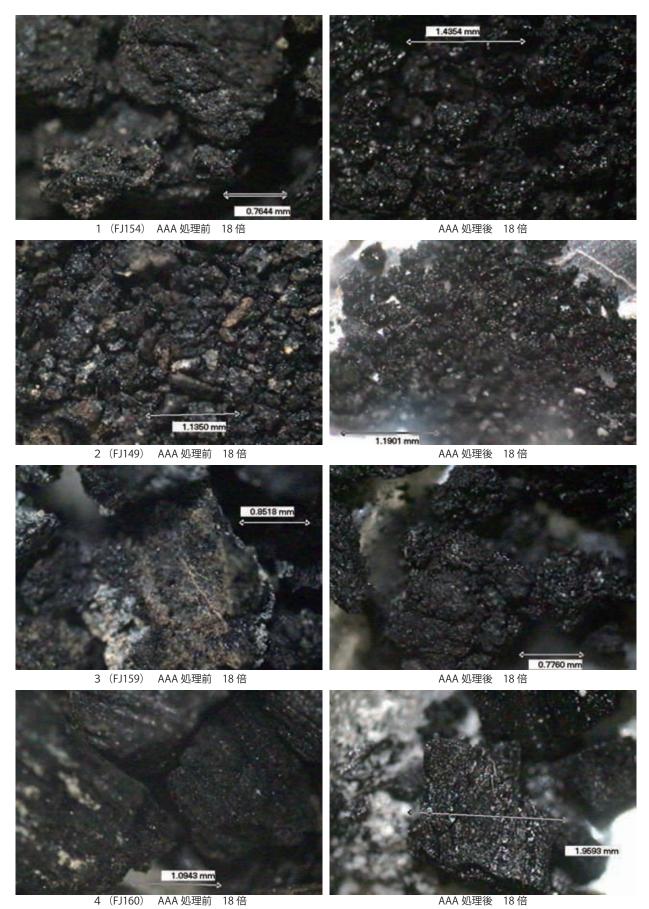
図 5-1 は、確率密度分布である。我々が測定したものと佐賀県がパレオ・ラボ社に委託したものとを比べる。試料 1 では、 2840 ± 40^{-14} C BP と 2800 ± 25^{-14} C BP という測定値であり 1 σ で重なる。試料 3 は、 2850 ± 40^{-14} C BP と 2775 ± 25^{-14} C BP という測定値であり 1 σ で重ならないが、2 σ でみれば重なるとみることができる。よって、試料 3 についてはやや誤差が大きくなる可能性があるが、測定値としては大きな齟齬はないとみることができる。したがって以下では、ベータアナリィティック社での測定値を用いる。

黒川式新段階の、試料 1 は較正年代では 1125-900cal BC、試料 2 は 1130-905cal BC、試料 3 は 1130-905cal BC の中にもっとも高い確率密度分布が認められ、ほぼ同一の測定結果とみることができる(表 5-2)。三万田式の試料 4 は 1615-1435cal BC に含まれる較正年代で、東日本でのこれまでの結果から見ると後期中葉のおわり~後葉の初めごろに相当する年代である。

6) 年代的考察

① 黒川式の編年的位置づけの見直し

佐賀県教育庁文化課では私たちが調査をおこなった後に新たに炭化物を採取して、黒川式新:7点、三万田式:



写真図版5-2 炭化物の顕微鏡写真(左が前処理前、右が前処理後)

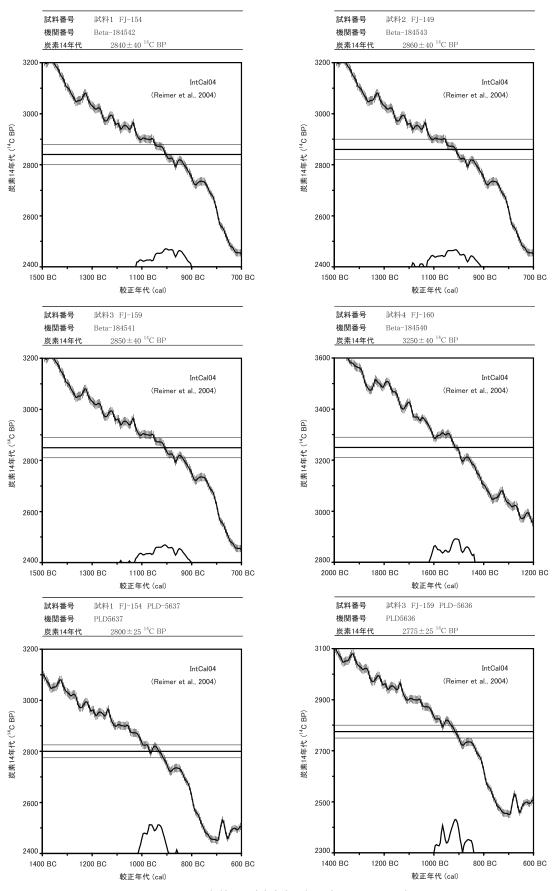


図5-1 暦年較正の確率密度分布図(IntCal04による)

2点の測定をおこなった。その結果、私たちが測定した資料1と3については、測定機関が異なる二つの測定値が 得られたので、あわせて考察することにする。

2006年12月にこの原稿の執筆打ち合わせもかねて、整理が進んだ東畑瀬出土土器群の調査に呼んでいただいたところ、土器群の考古学的位置づけについて興味深い話を2点、うかがうことができた。

まず山の寺式はわずか $2 \sim 3$ 点しか伴わず、基本的に黒川式単純の様相を示したことである。伴う壺は 3 年前 と同様わずかしかないものの、精製土器や組織痕文土器が小城市(旧三日月町)石木中高遺跡などに比べて少ない という事実がある。また打製石鏃がかなり多いこともふまえると、突帯文土器出現以前の山間部に位置する集団の 土器相という印象を強くした。

2点目に、隣接する西畑瀬遺跡の黒川式土器と東畑瀬の黒川式土器とは型式差が認められるという指摘である。 担当の徳永貞紹氏によると、西畑瀬の黒川式には、精製土器の沈線の描き方や口縁部の作りに古い特徴がみられ、 突帯文土器もまったく出土していないことを考えると、東畑瀬より古い可能性があるという。

もともと黒川式土器は精製土器を基準に $2 \sim 3$ に細別されているが、精製土器には炭化物が基本的に付着しないこともあって、炭素 14 年代と黒川式の細別との関係はわかっていなかった。西畑瀬出土土器にも炭化物が付着しているそうなので、いずれは炭素 14 年代が測定されようが、これまで歴博が測定してきた晩期土器の炭素 14 年代を総合して次のように仮定した。

山の寺式の炭素 14 年代は今のところ 2765 14 C BP が上限だが、これ以降にも数多くの縄文系土器群が存在することが知られている。福岡平野では夜日 II a 式併行期まで、島原半島にいたっては板付 I 式に併行する原山式まで存続することがわかっている(藤尾 2007)。

以上の新しい知見をふまえ炭素 14 年代が 2800 14 C BP 年代で、なおかつ山の寺式がほとんど含まれないことがわかった東畑瀬の晩期系土器群を突帯文土器に伴うグループから切り離すことにする。そしてこれまで黒川式新と呼んできた土器群の中から突帯文土器に伴う晩期系土器を分離して山の寺・夜臼 I 式に本来伴う煮炊き用土器と位置づける。これは山崎純男氏が 1980 年にすでに示している考え方である(山崎 1980)。同じ用語で紛らわしいが黒川式新とは突帯文土器出現以前のものに限定し、仮に 2800 14 C BP 年代の炭素 14 年代をもつものとするのである。

一方、付着炭化物を試料とした黒川式の上限は 2910 14 C BP 年である。同時に九州南部における晩期初頭の土器型式である入佐式土器の炭素 14 年代は 2990 14 C BP 年と 2940 14 C BP 年の二つの測定値をもっているため、 2910 14 C BP 年の黒川式は、晩期初頭に直続するといってもよい様相を呈している。そこでこれらの黒川式を黒川式古と呼んでおき、晩期前半に位置づける。なお古と新の境界がどこに来るかは今のところわからない。

したがって現状では晩期前半に位置し、2900 ¹⁴C BP 中頃以降の測定値をもつものを黒川式古、晩期後半に位置し、2800 ¹⁴C BP 年代の測定値をもつものを黒川式新として、黒川式を二大別して捉えることにする。西畑瀬遺跡の黒川式土器の炭素 14 年代が得られてから、あらためて古と新の境界について考えてみたい。

② 東畑瀬遺跡出土土器の炭素 14 年代

以上のような黒川式をめぐる考古学的な位置づけの変更をふまえて、東畑瀬の黒川式新の炭素 14 年代について 考えてみよう。

歴博、県教委測定の黒川式の炭素 14 年代には 2800 14 C BP 年代と 2700 14 C BP 年代の二者がある。パレオが測定した 04001642 が 2735 14 C BP で山の寺式の炭素 14 年代と併行するほかは、すべて山の寺式の炭素 14 年代よりも古い値を示す。山の寺式の上限がどこまで上がるのかは今のところ不明だが、東畑瀬のほとんどは黒川式新段階に位置づけてよいだろう。

歴博と県教委がともに測定したのが資料 1 と 3 である。資料 1 は中心値で 40^{-14} C BP、資料 3 は中心値で 85^{-14} C BP ずれている。資料 1 は誤差の範囲で問題ないが、 85^{-14} C BP 年ずれた資料 3 は、また 2 点しか測っていないので、

資料番号	測定機関番号	炭素 14 年代 (¹⁴ C BP)	暦年較正 calBC(2σ) (%)は確率密度		δ ¹³ C
	Beta-184542	2840 ±40	1125 cal BC- 900 cal BC	95.4%	-25.3
黒川式新段階	PLD-5637	2800 ±25	1020 cal BC- 890 cal BC 870 cal BC- 850 cal BC	93.8% 1.6%	-26.5
2 黒川式新段階	Beta-184543	2860 ±40	1190 cal BC- 1175 cal BC 1160 cal BC- 1145 cal BC 1130 cal BC- 915 cal BC	1.4% 1.7% 92.4%	-26.0
3 黒川式新段階	Beta-184541	2850 ±40	1185 cal BC- 1180 cal BC 1150 cal BC- 1145 cal BC 1130 cal BC- 905 cal BC	0.4% 0.3% 94.8%	-25.6
	PLD-5636	2775 ±25	1000 cal BC- 840 cal BC	95.4%	-26.6
4 三万田式	Beta-184540	3250 ± 40	1615 cal BC- 1435 cal BC	95.5%	-25.9

表 5 - 2 東畑瀬遺跡 (1~3)、大野遺跡 (4) 出土土器に付着した炭化物の年代 (Beta は歴博測定、PLD は佐賀県測定)

どちらの値が真の値に近いのか判断することはできない。再測定できればベストだが、どちらの値も黒川式新の測 定値の中には入っているので問題は少ないと考えている。

三万田式はパレオが測定した 0500548 も、歴博が測定した 02002149 も、3290 14 C BP と 3250 14 C BP でほぼ同じ値といえるが、九州北部にはほかにこの時期の測定例がないので、測定値が多い南関東と比較してみよう。

後期中葉~後葉の土器は加曽利 B 式~曾谷式で、これらの炭素 14 年代は加曽利 B3 式の炭素 14 年代(約 3300 ~ 3230 14 C BP)~曾谷式の炭素 14 年代(約 3230 ~ 3180 14 C BP)と整合性をもっているので妥当な測定値といえよう。

7) まとめ

東畑瀬の黒川式を新たな黒川式新として、突帯文土器出現以前に位置づけ、2800 ¹⁴C BP 年代の値をとるものと 仮定した。この見解は長崎県南島原市権現脇遺跡のレポート 〔藤尾・小林 2006〕 のなかで提唱した考え方で、レポートでは縄文晩期末(黒川式単純)としたものである。

この中で「佐賀県所在遺跡」と記したものが東畑瀬遺跡の測定値だったのだが、先述した石木中高遺跡、菜畑遺跡 9~12層の粗製深鉢もこの範囲に含まれる。

炭素 14 年代が 2700 ¹⁴C BP 年代の粗製深鉢は、山の寺式や夜臼 I 式など最古の突帯文土器とともに煮炊き用土 器群を構成するグループで、権現脇遺跡、福岡市臼佐遺跡、菜畑遺跡、平戸市里田原遺跡の粗製深鉢もこの測定値の範囲に含まれる。権現脇遺跡では I 期とした土器群に相当する。

なお 2006 年 4 月に刊行された学術創成ニューズレター№ 4 において「晩期系土器群第一群」〔藤尾 2006〕と した土器群は、今回の再考を受けて黒川式古と新に細別されることになり、晩期前半と後半にそれぞれ比定される。

本報告は1~3を藤尾、4・5は小林、6を藤尾が執筆した。なお本稿を草するにあたり、佐賀県教育庁文化課、松尾吉高氏(現吉野ヶ里公園管理センター)、森田孝志氏、徳永貞紹氏、渋谷格氏、秦広之氏(現久保田町教委嘱託)にお世話になった。また試料の前調整をおこなった歴博年代資料実験室の新免歳靖氏に記して感謝の意を表したい。この報告は、平成15年度科学研究費補助金「基盤研究(A・1)(一般)縄文弥生時代の高精度年代体系の構築」(代表今村峯雄 課題番号13308009)、および平成16年度文部科学省・科学研究費補助金学術創成研究「弥生農耕の起源と東アジアー炭素14年代測定による高精度編年体系の構築一」(研究代表者西本豊弘)の成果の一部である。

参考文献

藤尾慎一郎・小林謙一 2006:「長崎県深江町権現脇遺跡出土土器に付着した炭化物の炭素 14 年代測定」『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第 2 集,pp. 623-635

藤尾慎一郎 2006:「九州における縄文晩期から弥生前期の実年代」『ニューズレター』 № 4,pp8-9.

藤尾慎一郎2007:「土器型式を用いたウィグルマッチング」『国立歴史民俗博物館研究報告』査読中.

Reimer, Paula J., et al. 2004 IntCalO4 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 cal kyr BP Radiocarbon 46 (3), 1029-1058

注1)

(1) 前処理:酸・アルカリ・酸による化学洗浄 (AAA 処理)。

AAA 処理に先立ち、土器付着物については、アセトンに浸漬し、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(2回)。AAA 処理として、80 %、各 1 時間で、希塩酸溶液(1N-HCl)で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(1NaOH、10目 10.01N、10目以降 10.1N)でフミン酸等を除去した。アルカリ溶液による処理は、10回行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに酸処理(11N-HCl 12 時間)を行いアルカリ分を除いた後、純水により洗浄した(11回)。

- (2) 二酸化炭素化と精製:酸化銅により試料を燃焼(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。
- (3) グラファイト化: 鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

注2)

年代データの 14 C BP という表示は、西暦 1950 年を基点にして計算した 14 C 年代 (モデル年代) であることを示す。 14 C 年代を算出する際の半減期は、5,568 年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1 標準偏差、68%信頼限界)である。

AMS では、グラファイト炭素試料の 14 C/ 12 C 比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した 13 C/ 12 C 比により、 14 C/ 12 C 比に対する同位体効果を調べ補正する。 13 C/ 12 C 比は、標準体(古生物 belemnite 化石の炭酸カルシウムの 13 C/ 12 C 比)に対する千分率偏差 δ 13 C (パーミル,‰)で示され、この値を -25‰に規格化して得られる 14 C/ 12 C 比によって補正する。補正した 14 C/ 12 C 比から、 14 C 年代値(モデル年代)が得られる。加速器による測定は同位体効果補正のためであり、必ずしも 13 C/ 12 C 比を正確に反映しないこともあるが、ベータアナリティック社では分取した二酸化炭素を用い安定同位体比を質量分析計で測定しているため、正確な試料の値とみることができる。その結果は、すべて -25 \sim -26‰と、通常の陸生の植物に由来する可能性が高い結果であった。

測定値を較正曲線 IntCalO4(14 C 年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004 年版)(Reimer.P et al 2004)と比較することによって暦年代(実年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、歴博で独自に開発したプログラム RHcal(OxCal Program を応用した方法)を用いる。統計誤差は 2 標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西曆(cal BC)で示す。() 内は推定確率である。

2 東畑瀬遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ 小林紘一・丹生越子・伊藤 茂・山形秀樹・ Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・藤根 久

1) はじめに

東畑瀬遺跡 1 区より検出された土器付着物などについて、加速器質量分析法(AMS 法)による放射性炭素年代測定を行った。

2) 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表 5-3 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた 14 C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 14 C 年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-5637	遺構:SK1133 試料番号:200603 登録番号:04001850	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 胴外(口縁部付近) 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5640	遺構:SK1101 試料番号:200606	試料の種類:炭化材 試料の性状:不明 状態:dry カビ:無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5635	位置:F14 区画 試料番号:200611 登録番号:04001838	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 口縁外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5636	位置:F13 区画 試料番号:200612 登録番号:04001849	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 胴外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.5N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5638	位置:E13 区画 試料番号:200614 登録番号:04001791	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 胴外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5639	位置:F13 区画 試料番号:200615 登録番号:04001642	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 胴外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5641	位置:Z14 区画 試料番号:200622 登録番号:06002211	試料の種類: 土器付着物・外面(煤類) 試料の性状: 胴外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-5642	位置:表採 試料番号:200623 登録番号:05000548	試料の種類: 土器付着物・内面(おこげ) 試料の性状: 口縁外 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 アセトン処理 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 0.2N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo: NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH

表5-3 測定試料及び処理

3) 結果

表 5-4 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比(δ^{13} C)、同位体分別効果の補正を行った 14 C 年代、 14 C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図 5-2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

 14 C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 14 C 年代(yrBP)の算出には、 14 C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14 C 年代誤差(\pm 1 σ)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14 C 年代がその 14 C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の 14 C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14 C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14 C 濃度の変動、及び半減期の違い(14 C の半減期 5730 \pm 40 年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

 14 C 年代の暦年較正には OxCal3.10(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14 C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

加卢亚口	δ ¹³ C	¹⁴ C 年代	14C 年代を暦年代に	・較正した年代範囲	曆年較正用年代	
測定番号	(‰)	(yrBP \pm 1 σ)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲	(yrBP \pm 1 σ)	
PLD-5637	-26.48 + 0.16	2800 ± 25	995BC (4.4%) 985BC	1020BC (93.8%) 890BC	2800 ± 26	
125 0001		2000 = 20	980BC (63.8%) 915BC	870BC (1.6%) 850BC		
PLD-5640	-25.71 ± 0.15	2875 ± 25	1120BC (7.7%) 1100BC	1130BC (95.4%) 970BC	2876 ± 23	
1 25 00 10	20.77 = 0.10	2010 = 20	1090BC (60.5%) 1000BC	1100BC (00.170) 010BC	2010 = 20	
PLD-5635	-26.59 ± 0.15	2790 ± 20	975BC (68.2%) 905BC	1010BC (93.9%) 890BC	2791 ± 22	
TED 3000	20.00 ± 0.10	2700 ± 20	370BC (00.2%) 300BC	870BC (1.5%) 850BC	2,01 = 88	
PLD-5636	-26.62 ± 0.16	2775 ± 25	975BC (18.4%) 950BC	1000BC (95.4%) 840BC	2777 ± 23	
TED 3000	20.02 ± 0.10	2110 ± 20	945BC (49.8%) 895BC	1000BC (30.170) 010BC	2111 ± 25	
PLD-5638	-26.39 ± 0.15	2840 ± 25	1040BC (50.2%) 970BC	1090BC (95.4%) 910BC	2839 ± 23	
1 LD-3030	-20.33 ± 0.13	2040 ± 25	960BC (18.0%) 930BC	1030BC (33.4%) 310BC	2000 ± 20	
PLD-5639	-26.44 + 0.14	2735 ± 30	905BC (68.2%) 835BC	930BC (95.4%) 810BC	2735 ± 28	
TED GOOD	20.11 = 0.11	2700 ± 00	000BC (00.2%) 000BC	000BC (00.178) 010BC	2100 ± 20	
PLD-5641	-26.43 ± 0.15	2840 ± 25	1040BC (50.1%) 970BC	1120BC (1.1%) 1100BC	2839 ± 26	
1 LD 3041	20.40 ± 0.10	2010 ± 23	960BC (18.1%) 930BC	1090BC (94.3%) 910BC	2000 ± 20	
PLD-5642	-26.73 ± 0.14	3290 ± 20	1610BC (68.2%) 1525BC	1620BC (95.4%) 1500BC	3290 ± 22	
					0200 _ 22	

表5-4 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

4) 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い 年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

試料N. 200603のSK1133 土器付着おこげ(PLD-5637)は、1 σ 暦年代範囲において Cal BC 980 -915年(63.8%)、2 σ 暦年代範囲において Cal BC 1020-890年(93.8%)であった。同じ土坑から縄文時代晩期中葉の黒川式が多量に出土している。

試料No. 200606 の SK1101 の炭化材(PLD-5640)は、1 σ 暦年代範囲において Cal BC 1090-1000 年(60.5%)、2 σ 暦年代範囲において Cal BC 1130-970 年(95.4%)であった。黒川式期の遺構の可能性が予想されているが、縄文時代晩期中葉の年代値を示す。

試料No. 200611 の F14 区画の土器付着おこげ(PLD-5635)は、1 σ 暦年代範囲において Cal BC 975-905 年 (68.2%)、2 σ 暦年代範囲において Cal BC 1010-890 年 (93.9%) であった。縄文時代晩期中葉の黒川式と予想されている。

試料No. 200614 の E13 区画の土器付着おこげ (PLD-5638) は、 1σ 暦年代範囲において Cal BC 1040-970 年 (50.2%)、 2σ 暦年代範囲において Cal BC 1090-910 年 (95.4%) であった。縄文時代晩期中葉から後葉と予想されている。

試料 & 200615 の \$F13 区画の土器付着おこげ(PLD-5639)は、 1σ 暦年代範囲において Cal BC 905-835 年 (68.2%)、 2σ 暦年代範囲において Cal BC 930-810 年 (95.4%) であった。縄文時代晩期中葉から後葉と予想されている。

試料No. 200622 の Z14 区画の土器付着煤類(PLD-5641)は、1 σ 暦年代範囲において Cal BC 1040-970 年 (50.1%)、2 σ 暦年代範囲において Cal BC 1090-910 年 (94.3%) であった。縄文時代後期末から晩期中葉と予想されている。

試料No.200623の表採の土器付着おこげ(PLD-5642)は、 1σ 暦年代範囲において Cal BC 1610-1525年(68.2%)、 2σ 暦年代範囲において Cal BC 1620-1500年(95.4%)であった。縄文時代後期末から晩期中葉と予想されているが、縄文時代後期中頃の年代値を示す。

参考文献

 $Bronk\ Ramsey\ C.\ (1995)\ Radiocarbon\ Calibration\ and\ Analysis\ of \\ Stratigraphy:\ The\ OxCal\ Program,\ Radiocarbon,\ 37\ (2)\ ,\ 425-430.$ $Bronk\ Ramsey\ C.\ (2001)\ Development\ of\ the\ Radiocarbon\ Program\ OxCal,\ Radiocarbon,\ 43\ (2A)\ ,\ 355-363.$

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代, 3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.

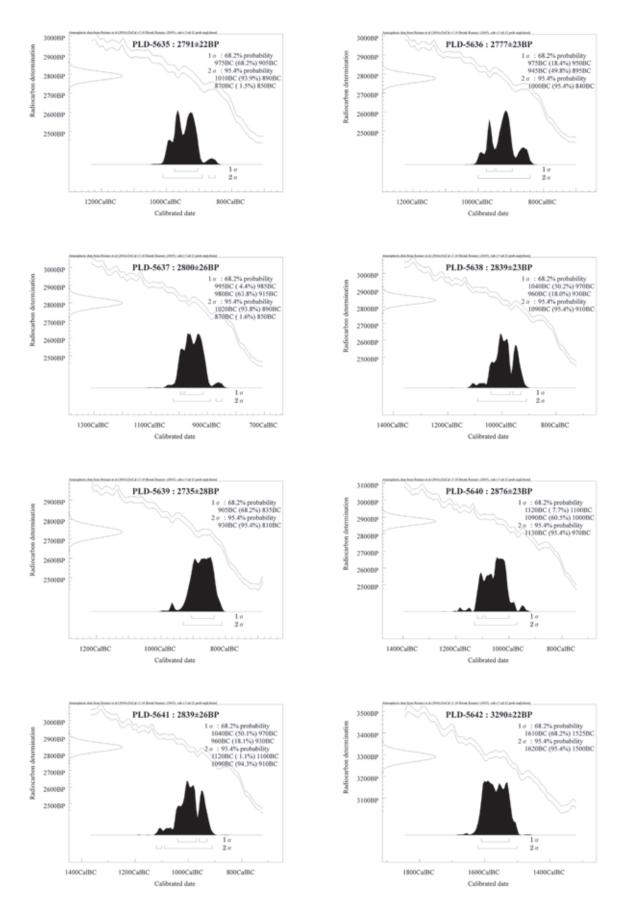


図5-2 暦年較正結果

3 大野遺跡・東畑瀬遺跡出土土器胎土の材料分析

パレオ・ラボ 藤根 久・長友純子

1) はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。

土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土 層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村、2001)。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが予想される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器が知られているが、これら3分の1程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれるが(藤根、1998;車崎ほか、1996)、これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層と予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。

土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

ここでは、大野遺跡および東畑瀬遺跡から出土した縄文前期・後期・晩期および弥生前期の各土器について、その胎土の材料を検討した。

2) 試料と方法

試料は、大野遺跡 3 区、東畑瀬遺跡 1 区および 3 区から出土した土器 13 試料である(表 5-5)。 これら試料は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

試料No.	遺跡		出土位置	遺物登録番号	時 期	部位	胎土分類
200601			Z2 区画	06002201		口縁部	大野 B
200602			A2 区画	06002202		口縁部	大野 B
200603			Z3 区画	06002209		口縁部	大野A
200604	大野遺跡3区	OON3	Z3 区画	06002204	縄文後期(三万田式)	口縁部	大野C
200605			Z2 区画	06002205		口縁部	大野C
200606			Z2 区画	06002206		口縁部	大野A
200607			Z2 区画	06002207		口縁部	大野A
200608			F13 区画	06000073	縄文晩期	口縁部	東畑瀬A
200609	東畑瀬遺跡1区	HHT1	E13 区画	06000074	縄文晩期	胴部	東畑瀬B
200610	宋川県退跡 I	нни	E16 区画	06000075	弥生前期	胴部	東畑瀬A
200611			F12 区画	06000070	縄文晩期	胴部	東畑瀬A
200612	東畑瀬遺跡3区	ННТЗ	Z14 区画	06000071	縄文前期 (曽畑式)	胴部	東畑瀬C
200613	果畑裸退跡30	ппіз	Z14 区画	06000072	縄又削州 (盲畑式)	胴部	東畑瀬A

表5-5 分析した土器試料とその詳細

- (1) 試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ 固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。
- (2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。
- (3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ 0.02mm 前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類(珪藻化石、骨針化石、胞子化石)や大型粒子などの特徴について観察・記

載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

[珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは 10 ~数百 μ m 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。「骨針化石」

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

[植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約 $10\sim 50~\mu$ m 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。 [胞子化石]

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径 $10\sim30~\mu$ m 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

「石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(雲母)は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

[長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、 火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

[雲母類]

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

[輝石類]

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。 SiO_2 %が少ない深成岩、 SiO_2 %が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼的に緑色から淡緑色を

呈し、柱状である。主として SiO_2 %が中間から少ない火山岩によく見られ、 SiO_2 %の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

「角閃石類」

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO₂%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

「ガラス質」

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス(バブル・ウォール型)や小さな泡を たくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、 非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

「斑晶質・完晶質】

斑晶質は斑晶(鉱物の結晶)状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

[凝灰岩質]

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山砕屑物などから構成され、非晶質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

[複合鉱物類]

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類(含雲母類)、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類(含輝石類)、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類(角閃石類)とした。

[複合石英類]

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約 $0.01 \,$ mm $0.01 \,$ mm $0.05 \,$ mm 0.

[砂岩質·泥岩質]

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm 以上のものを砂岩質とし、約0.06mm 未満のものを泥岩質とする。

[不透明・不明]

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定 不可能な粒子を不明とする。

3) 結果

土器胎土中の微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や 0.1mm 前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。なお、表 5-6 の微化石類および砂粒の出現頻度は、 \bigcirc が特徴的に多い、 \bigcirc が多い、 \triangle が少ない、空欄は検出されないことを示す。鉱物は、+++ が特徴的に多い、+ が少ないが含まれている、である。

No. 200601:100-750 μ m、最大粒径 1.7mm。斜長石(双晶) - ガラス付着〉斜長石(累帯) - ガラス付着〉石英・長石類〉複合石英類、斑晶質、凝灰岩質、角閃石類やや多い、ジルコン、ガラス質、単斜輝石、雲母類、珪藻化

石(沼沢湿地付着生指標種群 Stauroneis phoenicenteron、淡水種 Eunotia biareofera、Pinnularia 属、Eunotia 属、Cymbella 属、不明種多産)、骨針化石多産、胞子化石多産、植物珪酸体化石

No. 200602:130-750 μ m、最大粒径 2.2mm。斜長石(双晶)- ガラス付着〉斜長石(累帯)- ガラス付着〉石英・長石類〉複合石英類、斑晶質、凝灰岩質、角閃石類やや多い、ジルコン、ガラス質、単斜輝石、雲母類、珪藻化石(淡水種 Pinnularia 属、Eunotia 属、Cymbella 属、不明種多い)、骨針化石多産、胞子化石多い、植物珪酸体化石(ヨシ属含む)

No. 200603:170-900 μ m、最大粒径 1.7mm。石英・長石類〉複合石英類〉雲母類〉斜長石(双晶)、角閃石類 やや多い、ジルコン、ガラス質、単斜輝石、植物珪酸体化石少ない(ヨシ属含む)、空隙多い

No. 200604:170 μ m-2.4mm、最大粒径 3.7mm。複合石英類〉石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類やや多い、ジルコン、ガラス質、単斜輝石、珪藻化石(淡水種 Eunotia biareofera、Pinnularia 属、Eunotia 属、Cymbella 属、不明種多い)、胞子化石、植物珪酸体化石少ない

No. 200605:210 μ m-1.3mm、最大粒径 3.4mm。複合石英類》石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、植物珪酸体化石少ない

No. 200606:90-750 μ m、最大粒径 2.0mm。石英・長石類〉複合石英類、雲母類、斜長石(双晶)、斜長石(累帯)、 角閃石類、ジルコン、ガラス質、斜方輝石、凝灰岩質、雲母類、表面部空隙多い、黒色不透明粒子多産

No. 200607: 120-750 μ m、最大粒径 1.5mm。複合石英類〉石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、雲母類、骨針化石

No. 200608:160 μ m-1.0mm、最大粒径 3.3mm。複合石英類》石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、[ガラス質]、骨針化石

No. 200609:250 μ m-1.2mm、最大粒径 2.0mm。複合石英類〉石英・長石類〉複合石英類(微細)〉砂岩質、斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、片理複合石英類、[ガラス質]

No. 200610:120 μ m-1.5mm、最大粒径 1.7mm。複合石英類》石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類、角閃石類、ジルコン、単斜輝石、ガラス質、斜方輝石、凝灰岩質、骨針化石、植物珪酸体化石少ない

No. 200611:150 μ m-1.2mm、最大粒径 2.0mm。石英・長石類〉複合石英類〉斜長石(双晶)、角閃石類、雲母類、ジルコン、斜方輝石、凝灰岩質、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石少ない

No. 200612:180 μ m-1.1mm、最大粒径 3.1mm。雲母類》雲母複合〉石英・長石類〉複合石英類(微細)、砂岩質

No. 200613:120 μ m-1.3mm、最大粒径 2.9mm。複合石英類》石英・長石類〉斜長石(双晶)、雲母類多い、角 閃石類多い、ジルコン、単斜輝石、ガラス質、斜方輝石、砂岩質、凝灰岩質

4) 考察

i) 微化石類による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が 10 ~数 100 μ m (実際観察される珪藻化石は大きいもので 150 μ m 程度)、骨針化石が 10 ~ 100 μ m 前後である(植物珪酸体化石が 10 ~ 50 μ m 前後)。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約 3.9 μ m 以下、シルトが約 3.9 ~ 62.5 μ m、砂が 62.5 μ m ~ 2mm である(地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981)。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。

なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれているものの、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、 他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。 検討した胎土は、微化石類により、a)淡水成粘土を用いた胎土、b)水成粘土を用いた胎土、c)その他の粘土、 に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。

a) 淡水成粘土を用いた胎土 (3胎土)

この胎土中には、淡水種珪藻化石の Pinnularia 属や Cymbella 属などが含まれていた。特に、試料No. 1 やNo. 2 の胎土中には、沼沢湿地付着生指標種群 Stauroneis phoenicenteron、沼沢地など見られる Cymbella 属、Pinnularia 属が多量の破片とともに含まれていた。

b) 水成粘土を用いた胎土(4 胎土)

これらの胎土中には、不明種珪藻化石あるいは骨針化石が含まれていた。

c) その他粘土を用いた胎土(6胎土)

これら胎土あるいは粘土塊中には、水成起源を指標する珪藻化石や骨針化石は含まれていなかった。

ii)砂粒組成による分類

ここで使用した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った(表 5-6)。岩石の推定は、砂岩質あるいは複合石英類(微細)が堆積岩類、複合石英類が深成岩類、ガラス質がテフラ(火山噴出物)、斑晶質が火山岩類、凝灰岩質が凝灰岩類である。推定した起源岩石は、表 5-7の組み合わせに従って分類した。

土器胎土中の砂粒組成は、深成岩類を主体とした B 群 (6 胎土)、テフラを主体として凝灰岩類などを伴う Ge 群 (2 胎土)、その他堆積岩類を主体としてテフラなどを伴う Bg 群、凝灰岩類を主体とした E 群、堆積岩類を主体として深成岩類などを伴う Cb 群、堆積岩類を主体としてテフラなどを伴う Cg 群、堆積岩類を主体とした C 群の各 1 胎土であった。

式3 0 工品加工でグロエ及びの種グ方面																			
試料No.	粘土の特徴						砂粒の特徴						鉱物の特徴				植物珪酸 体化石		
	分類	種類	淡水種 珪藻化石	不明種 珪藻化石	骨針化石	胞子化石	分類	堆積岩類	深成岩類	火山岩類	テフラ	片岩類	凝灰岩類	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類	出現頻度	その他特徴
200601	0	淡水成	0	0	0	0	Ge		Δ	Δ	0		0	+	++	+	+	0	
200602	0	淡水成	0	0	0	0	Ge		Δ	Δ	0		0	+	++	+	+	0	
200603	_	その他					В		0		Δ			+	++	+	+++	Δ	空隙多い、ヨシ属含む
200604	0	淡水成	Δ	0		0	В		0		Δ			+	++	+	++	Δ	
200605	_	その他					В		0					+	+	+	++	Δ	大型砂粒多い
200606	-	その他					Е		Δ		Δ		0	+	+	+	+		黒色不透明粒子多産、 表面空隙多い
200607	Δ	水 成			Δ		В		0					+	+++	+	+	_	
200608	Δ	水 成			Δ		В		0		Δ			+	+++	++	+	_	
200609	_	その他					Cb	0	0			Δ		+	++	+	+	_	粗粒砂質胎土
200610	Δ	水 成			Δ		Bg		0		0		Δ	+	++	+	++	Δ	
200611	Δ	水 成			Δ		В		0				Δ	+	++	+	+	0	
200612	_	その他					С	0									+++	_	
200613	_	その他					Cg	Δ	0		0		Δ	+	+++	+	+++	_	

表5-6 土器胎土中の粘土及び砂粒の特徴

iii) 胎土材料

大野遺跡および東畑瀬遺跡の周辺地域の地質は、いずれも花崗岩類が広く分布する地域である。こうした遺跡周辺の地質学的な特徴から、ここで検討した土器は、大きくは、深成岩類を普遍的に含み、その他起源の岩石を僅かに伴うB群、Bg群、深成岩類以外の岩石を主体とするGe群、Cg群、E群、Cb群、C群に分けることができる。

				第 1 出現群									
岩石	うのケ	分類群	A	В	С	D	E	F	G				
				片岩類 深成岩類		火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ				
	a	片岩類		Ва	Ca	Da	Ea	Fa	Ga				
hoha	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb				
第2出現群	С	堆積岩類	Ac	Вс		Dc	Ec	Fc	Gc				
— 田 明 — 群	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd				
(日)	е	凝灰岩類	Ae	Ве	Се	De		Fe	Ge				
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf				
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Ef	Fg					

表5-7 胎土中の岩石片の分類と組み合わせ

ガラス質からなるテフラは、遠方から降灰することから、粘土材料とした粘土層中に含まれていることが十分考えられる。深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、在地の材料を用いて作られた土器と考えられる。一方、これ以外の岩石群である堆積岩類や凝灰岩類を主体とした砂粒組成を示す土器は、遺跡周辺の岩石組成とは言えないことから、他地域で作られた土器と考えられる。

なお、深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、試料No. 200604 の胎土のように、淡水種珪藻化石を豊富に含む胎土も見られるが、全体的に微化石類に乏しい粘土を利用していることが理解される。

5) おわりに

大野遺跡および東畑瀬遺跡の縄文および弥生土器の胎土材料について検討した。その結果、遺跡周辺の地質学的な特徴から、ここで検討した土器は、大きくは、深成岩類を普遍的に含み、その他起源の岩石を僅かに伴うB群、Bg群、深成岩類以外の岩石を主体とするGe群、Cg群、E群、Cb群、C群に分けることができた。

以上のことから、深成岩類を主体とした砂粒組成を示す胎土は、在地の材料を用いて作られた土器と考えられる。 一方、これ以外の土器は、他地域で作られた土器と考えられる。

引用文献

安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42,2,73-88.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)『増補改訂 地学事典』,平凡社,1612p.

地質調査所(1993)20万分の1地質図幅「福岡」. 地質調査所

藤根 久(1998)東海地域(伊勢-三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料. 第6回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る、108-117.

藤根 久・今村美智子(2001)第3節 土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴、「波志江中宿遺跡」、日本道路公団・伊勢崎市・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、 p.262-277.

小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27,1-20.

車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子(1996)(39)土器胎土の材料-粘土の起源を中心に-.日本考古学協会第 62 回大会研究発表要旨、153-156.

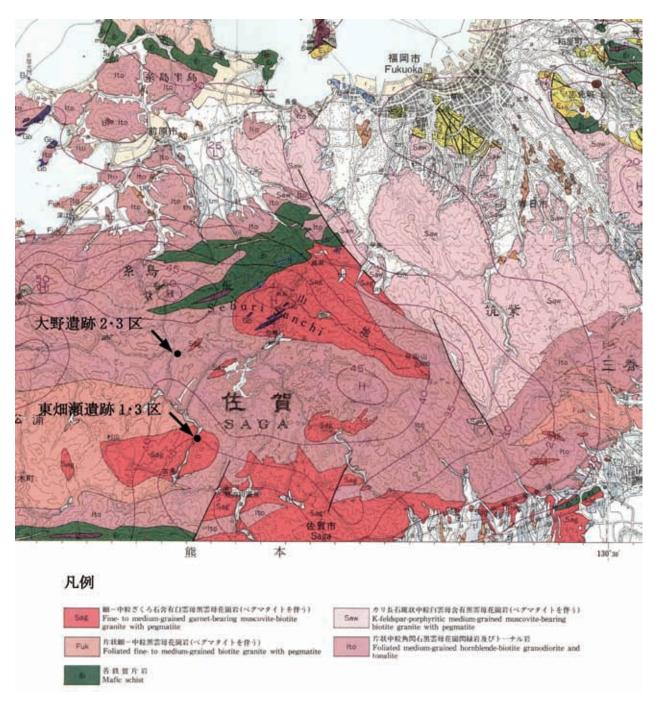
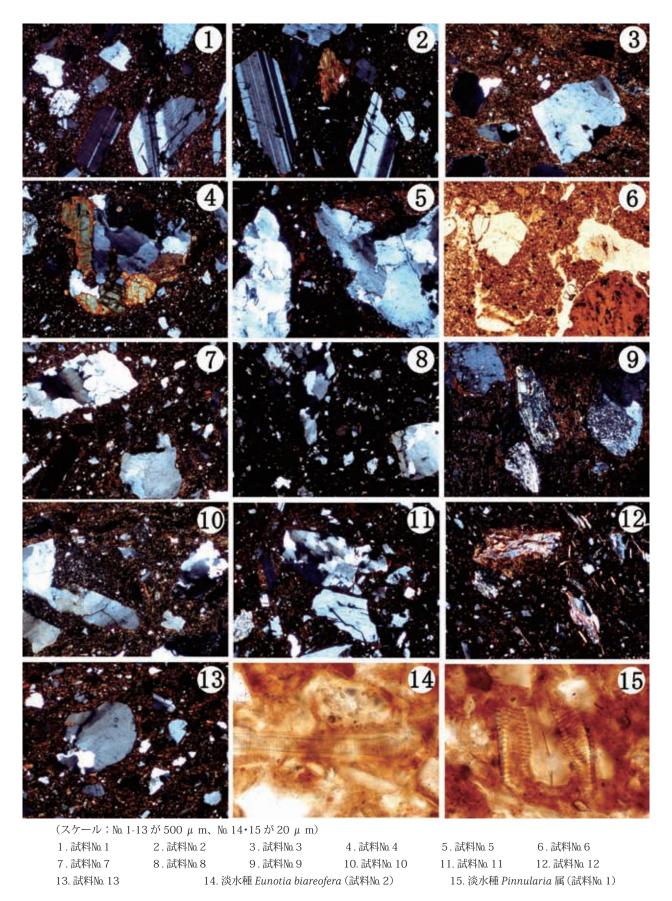


図5-3 遺跡周辺の地質図(地質調査所(1993)を編集)



写真図版5-3 土器胎土および胎土中の珪藻化石の顕微鏡写真

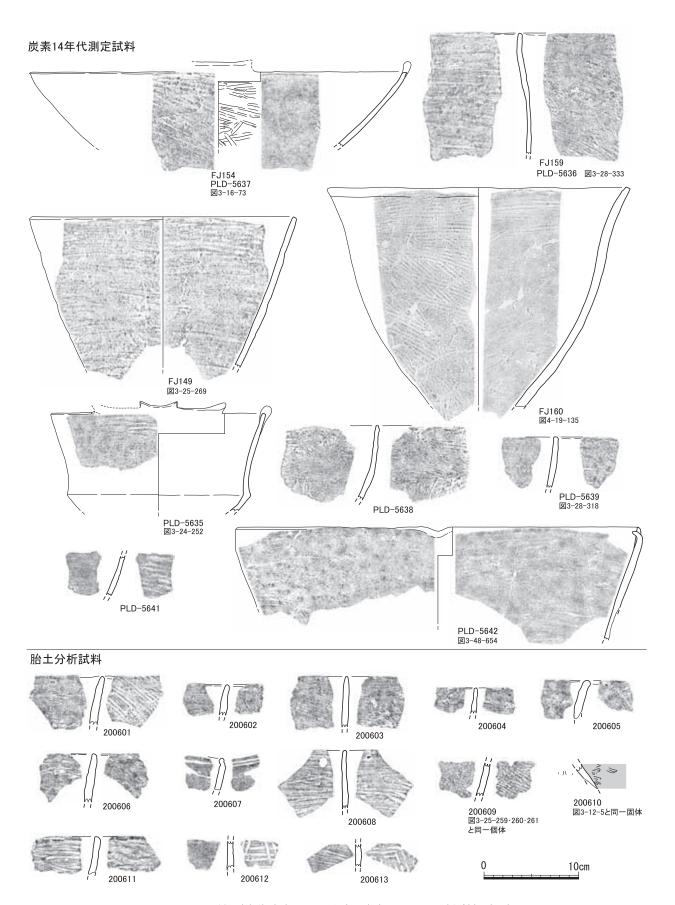


図5-4 付:東畑瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料 (1/4)



東畑瀬遺跡1・3区の縄文・弥生土器胎土分類

東畑瀬 A: 東畑瀬 1・3 区縄文・弥生土器の大部分。石英・細かい粒子の雲母をやや多く含み、白色の鉱物を少量含む。角閃石を極少量含むものもある。

東畑瀬 B: 東畑瀬 1・3 区では少量。石英・白色の鉱物を多く含み、長石・雲母を少量含む。

東畑瀬 C: 3 区の前期土器のみ。滑石を多量に含む。

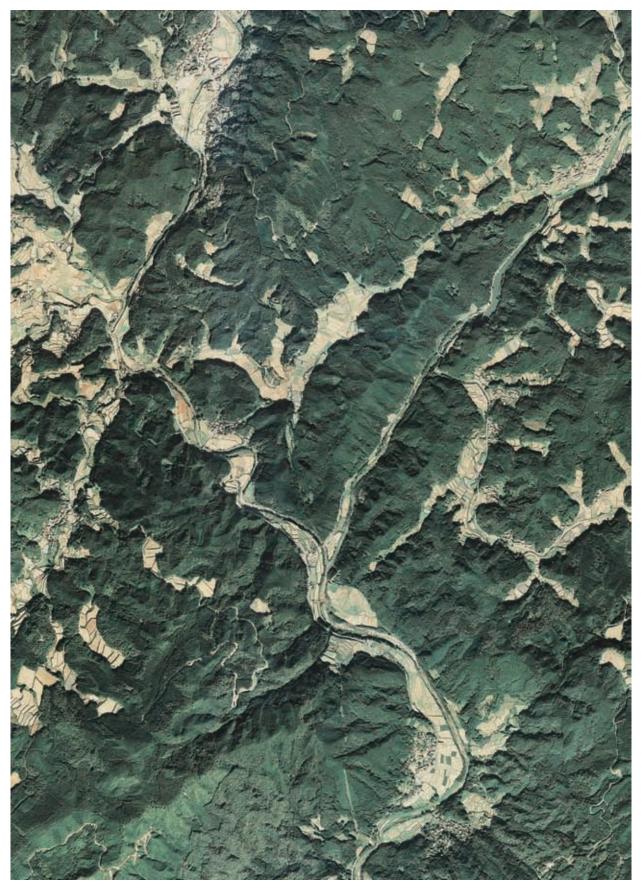
大野遺跡2・3区の縄文土器胎土分類

大野 A:大野 2・3区縄文土器の大部分。石英・長石・雲母を含む、角閃石を極少量含むものもある。

大野 B:大野 2 ・ 3 区の 1 割程度。長石を多く含み、角閃石・雲母・石英を少量含む。 大野 C:大野 2 ・ 3 区の 1 割程度。石英を多く含み、角閃石・雲母・長石を少量含む。

写真図版5-4 付:東畑瀬遺跡1・3区と大野遺跡2・3区の分析試料

写真図版



嘉瀬川ダム予定地周辺(真俯瞰合成)(平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供)



東畑瀬遺跡中心部遠景(西から)(平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供)



1区北半縄文~弥生時代調査区全景(北西から)



1区北半縄文~弥生時代調査区全景(南西から)



1区北半縄文~弥生時代調査区全景(西から)



1区 F12・13 区画縄文~弥生時代の調査状況(西から)



1区縄文~弥生時代の調査状況(南から)



1 区縄文~弥生時代の調査状況(北西から)



1区 F13 区画縄文~弥生時代の遺物出土状況(北から)



1区 F13 区画縄文~弥生時代の遺物出土状況(北から)



1区 G13 区画縄文~弥生時代の遺物出土状況(北から)



1区 F11 区画縄文~弥生時代の遺物出土状況(西から)



1区 E11区画縄文~弥生時代の遺物出土状況(北から)



SH1110 検出状況(北から)

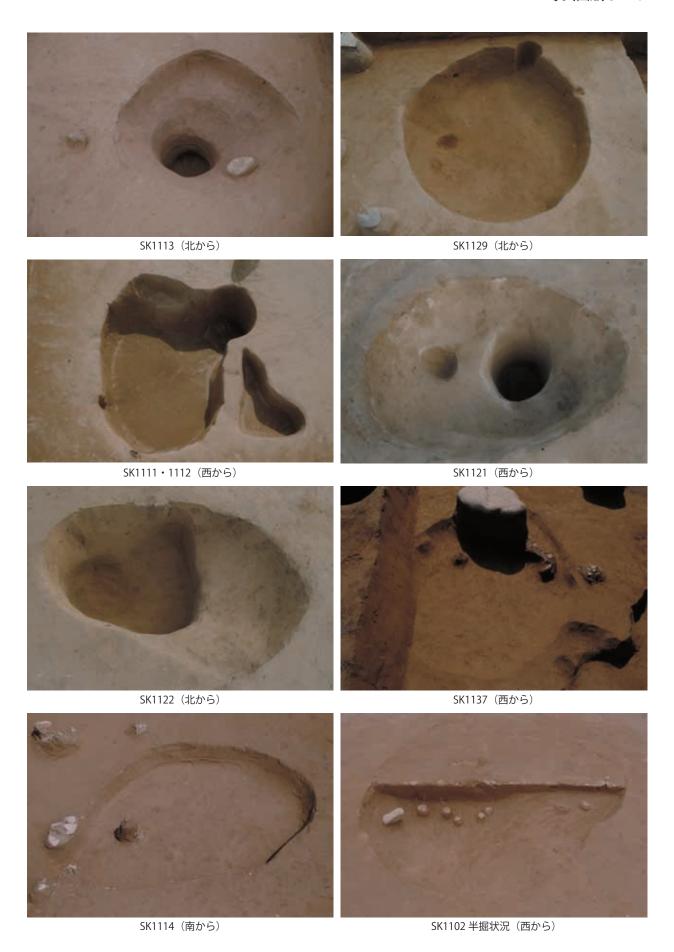


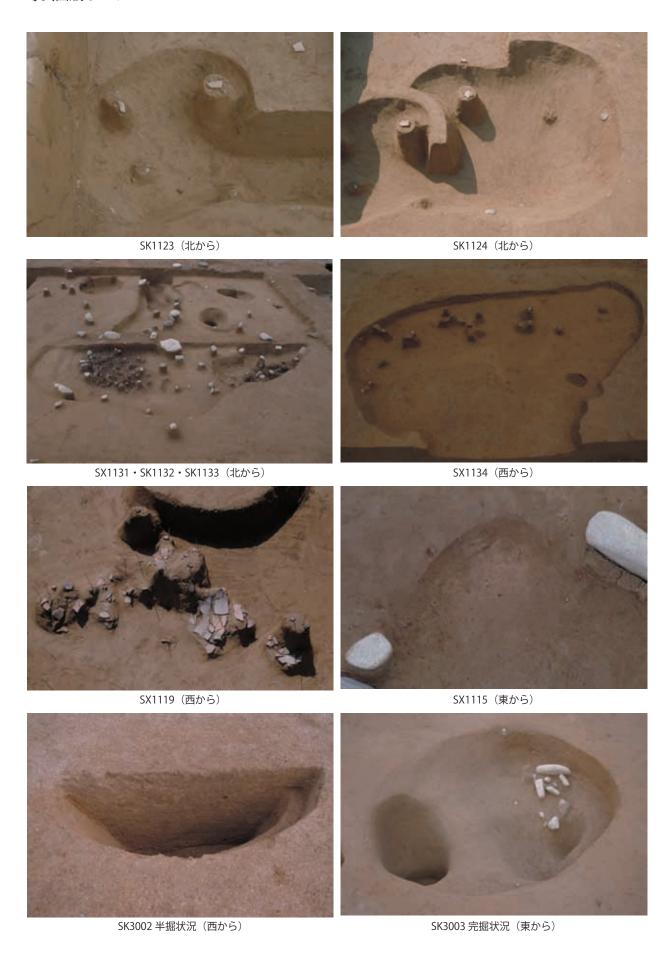
SH1110 完掘状況(北から)

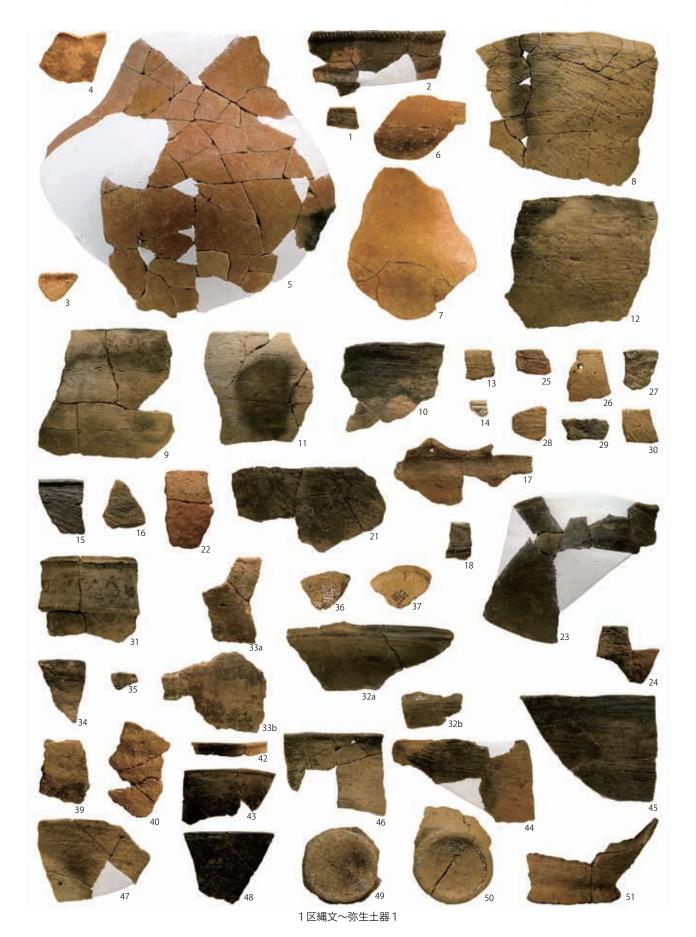


SH1110 完掘状況(西から)









255



1区縄文~弥生土器2



257

写真図版3-11

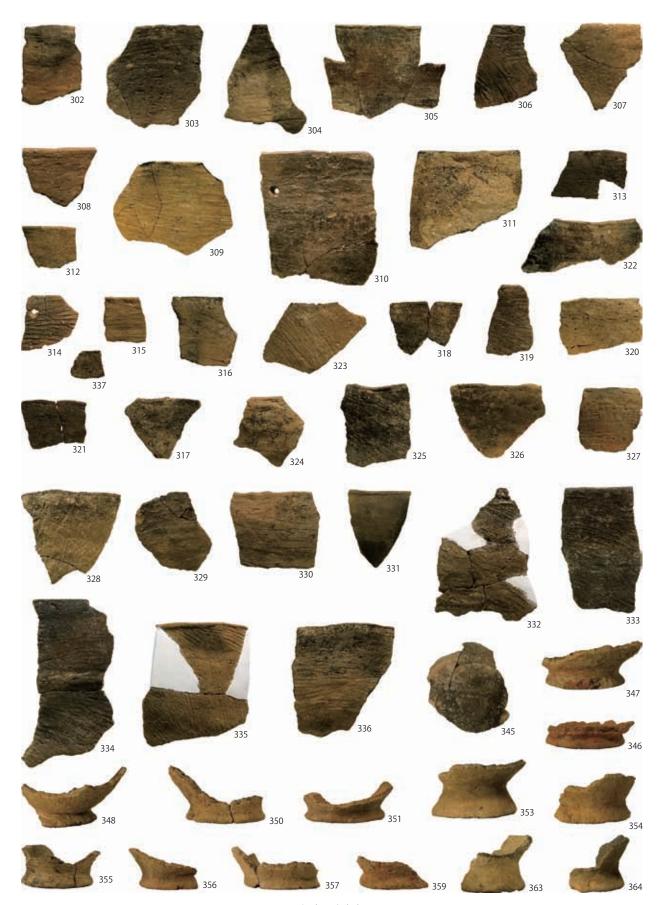


1区縄文~弥生土器4



1区縄文~弥生土器5

写真図版 3 - 13



1区縄文~弥生土器6









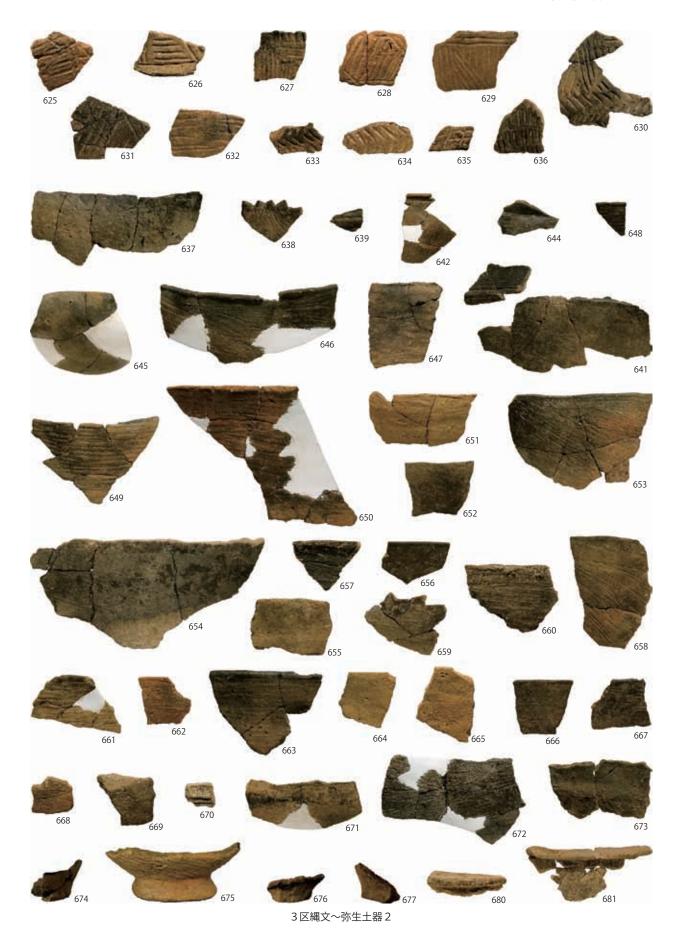
1区縄文石器3



写真図版 3 - 19



3区縄文~弥生土器1





3 区縄文石器



1 区北半中世〜近世調査区全景(北西から)



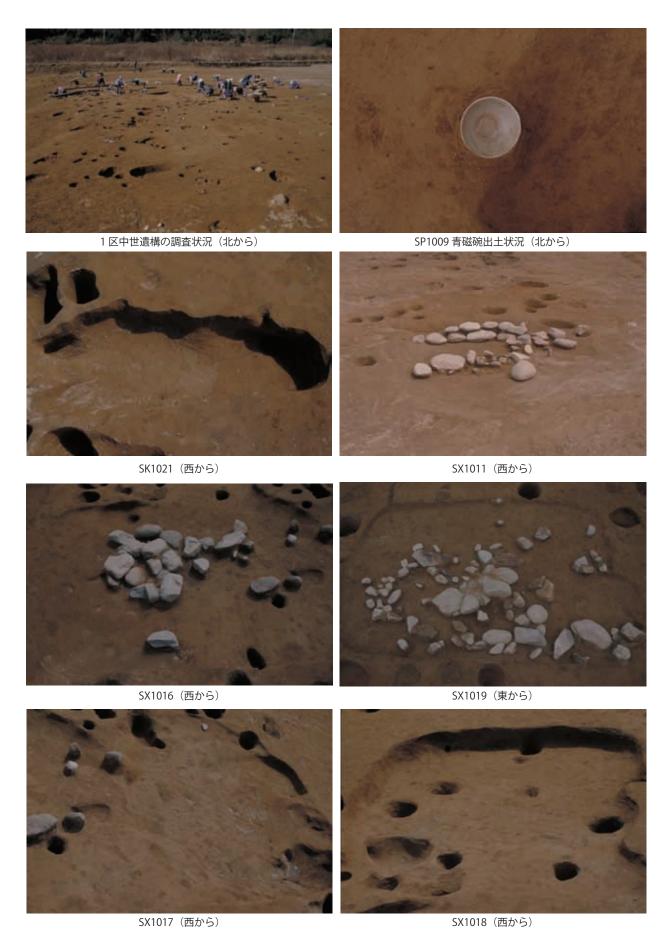
1 区南半中世〜近世調査区全景(北西から)



1 区北半中世遺構集中部(北西から)

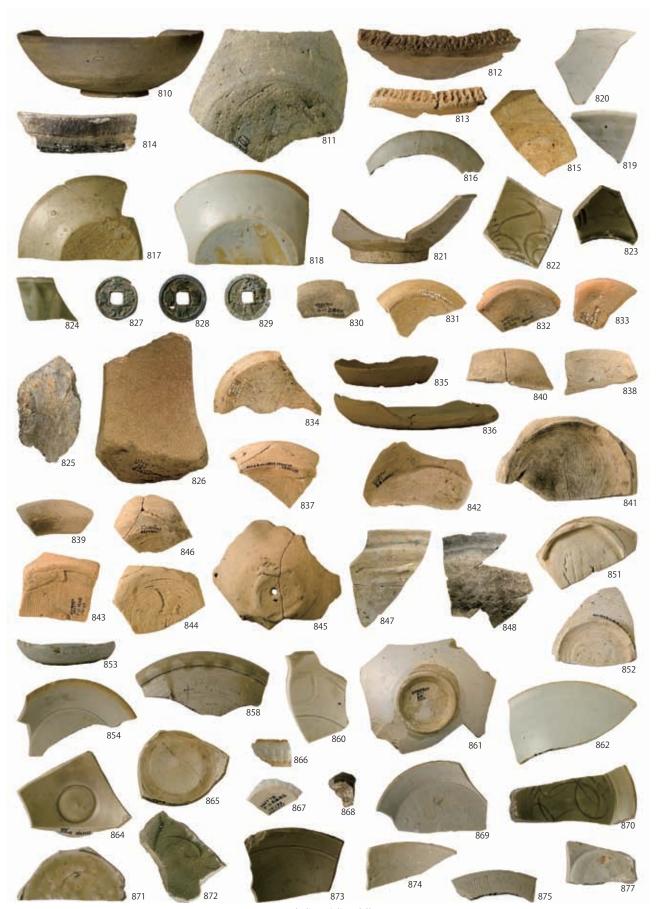


1区南半中世遺構集中部(北東から)









1区中世~近世の遺物2



1区中世〜近世の遺物3



1区中世〜近世の遺物4・3区八龍社跡中世〜近世の遺物1



3区八龍社跡中世~近世の遺物2

写真図版 3 - 31



3区八龍社跡中世~近世の遺物3



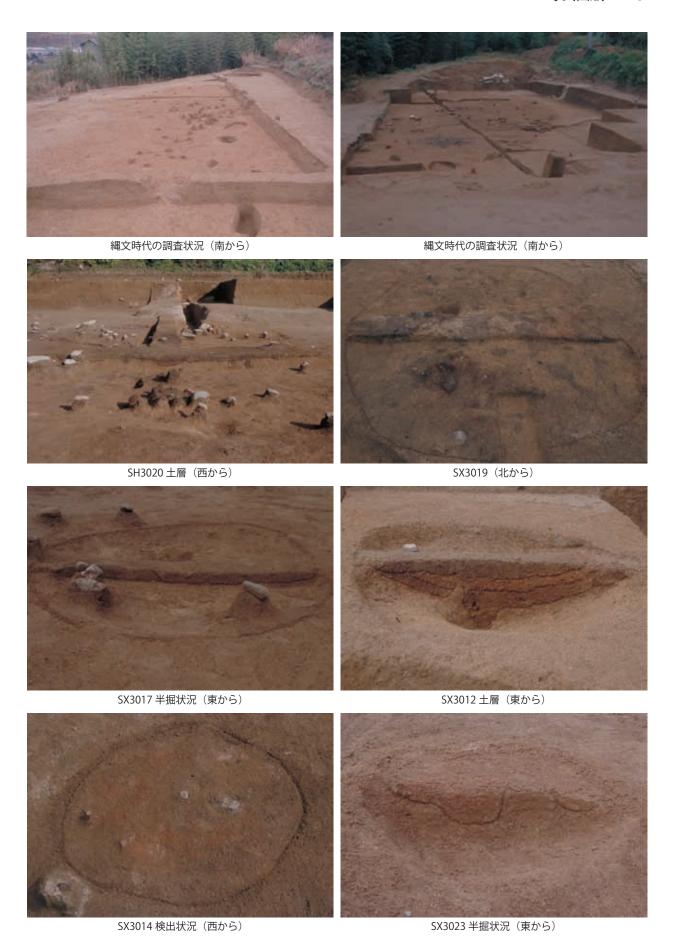
遺跡全景(平成4年10月撮影 嘉瀬川ダム工事事務所提供)



SH3020(南から)



SX3019 検出状況 (西から)







縄文土器1

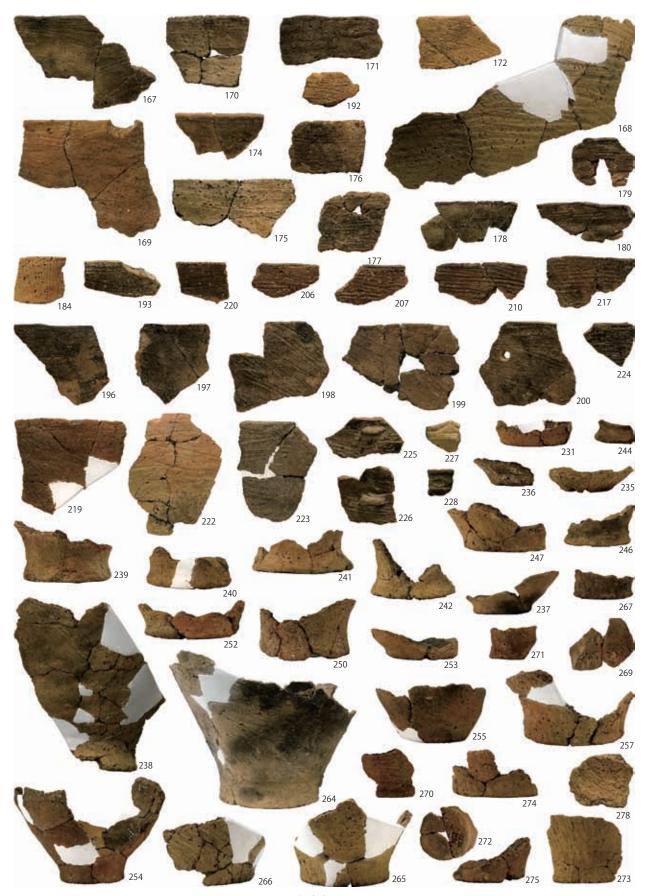




縄文土器3



縄文土器4



縄文土器5



288





SB2034 周辺(南西上空から)



3区近世全景(上空から)



SB2034 (真上から)



SB3001 (真上から)

写真図版 4 - 14



SB3002 (真上から)



SB3006 (真上から)



写真図版 4 - 16



中近世遺物

報告書抄錄

ふりがな	ひがしはたぜいせき1・おおのいせき1							
書名	東畑瀬遺跡1・大野遺跡1							
副書名	嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	1							
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第170集							
編著者名	徳永貞紹・渋谷 格・濱田美紀・秦 広之 藤尾慎一郎・小林謙一・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ・藤根 久・長友純子							
発行機関	佐賀県教育委員会							
所在地	〒 840-8570 佐賀市城内一丁目 1 番 59 号							
発行年月日	平成19 (西暦 2007) 年3月30日							
ふりがな	ふりがな		ード	北緯	東 経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	0///	0/ //	調査期間	所且田復 ㎡	調査原因
別収退跡台	PHITHE	11111111111	退购留与				111	
Offlick ぜいせき 東畑瀬遺跡	きがしなじがおおおざせきや 佐賀市富士町大字関屋	412045	-	33° 23′ 29″ (世界測地系) 33° 23′ 41″	130° 13′ 23″ (世界測地系) 130° 13′ 15″	1 ⋈ 20001201 ~ 20020725 3 ⋈ 20030704 ~ 20040317	1区 6,000 3区 12,000	嘉瀬川ダム建設
ss o we s 大野遺跡	さがしなじちょうおおあざおおの 佐賀市富士町大字大野 おおあざしも セック 大字下無津呂	412045	-	33° 25′ 41″ (世界測地系) 33° 25′ 53″	130° 12′ 21″ (世界測地系) 130° 12′ 13″	2 \overline{\text{Z}} 20000904 \$\simeq\$ 20010227 3 \overline{\text{Z}} 20030827 \$\simeq\$ 20031222	2区 2,000 3区 500	に伴う事前調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	集落	縄文~弥生		竪穴住居 1 石囲炉 1 土坑 25 不整形落ち込み 2 焼土炭化物集中 1 土器片集中 1		縄文土器 弥生土器 石器		春振山間部の 弥生時代開始期 前後の集落
東畑瀬遺跡	集落・神社	中世~近世		掘立柱建物 9 柵列 11 土坑墓 1 土坑 12 竪穴遺構 6		土師器・瓦器 須恵器系陶器 中国陶磁 朝鮮陶磁 近世陶磁 銭貨・石製品		中世安富荘関 連の屋敷地か 中世〜近世の 神社社殿
大野遺跡	集落	縄文		竪穴住居 1 焼土遺構 21 土坑 5 炭化物集中 2		縄文土器 石器		三万田式期 単純の集落 両端抉入石器
	集落	弥生~近世		土坑 2		弥生土器・土師器 中国陶磁 朝鮮陶磁 肥前陶磁		春振山間部の 古墳時代遺構
	官衙?	近世		掘立柱建物 4 柵列 2		土師器 瓦器 中国陶磁 肥前陶器		近世初期の 企画的建物群 大野代官所の 前身遺構か

佐賀県文化財調査報告書第 170 集

東畑瀬遺跡 1 · 大野遺跡 1

東畑瀬遺跡1・3区 大野遺跡2・3区

- 嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 1 -

平成19年(2007)年3月30日

発行 佐賀県教育委員会

〒 840-8570 佐賀県佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号

印刷 (株) 佐賀印刷社

〒 849-0921 佐賀県佐賀市高木瀬西 6 丁目 11 番 7 号

